

子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査報告書

平成31（2019）年 3月
扶桑町

も く じ

調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査方法、回収結果等	1
3	集計・分析にあたって	2

第1部 就学前児童保護者調査

1	子どもと家族の状況等	4
(1)	居住地区	4
(2)	子どもの年齢	4
(3)	調査の回答者	4
(4)	配偶関係	5
(5)	子育てを主に行っている人	5
2	子どもの育ちをめぐる環境	6
(1)	子どもを預かってもらえる人の有無	6
(2)	子育ての相談相手の有無	7
(3)	子育てに関する相談先	8
(4)	子育ての手助けをしてくれる人の有無	9
(5)	子育てを手助けしてくれる人	10
3	保護者の就労状況	11
(1)	母親の就労状況	11
(2)	父親の就労状況	14
(3)	フルタイムへの転換希望	17
(4)	母親の就労意向	17
4	平日の定期的な教育・保育事業	20
(1)	定期的な教育・保育事業の利用の有無	20
(2)	利用している教育・保育事業	21
(3)	幼稚園の利用状況	22
(4)	保育園の利用状況	25
(5)	事業所内保育施設の利用状況	28
(6)	定期的な教育・保育事業を利用している場所	30

(7) 定期的な教育・保育事業を利用していない理由	31
(8) 子どもが何歳になったら利用したいか	32
(9) 定期的に利用したい教育・保育事業	33
(10) 定期的な教育・保育事業を利用したい場所	34
(11) 幼稚園利用を強く希望するか	35
(12) 幼稚園や保育園の運営について	36
(13) 幼稚園や保育園を選ぶ際に重視すること	37
5 地域の子育て支援事業	38
(1) 地域子育て支援センターの利用状況	38
(2) 地域子育て支援センターの利用意向	40
(3) 子育て世代包括支援センターの利用	41
(4) その他の子育て支援事業	42
(5) (仮称)多機能児童館の利用意向	49
6 休日・長期休業期間中の定期的な教育・保育事業	50
(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業	50
(2) 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業	52
(3) 休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由	54
(4) 長期休業期間中の定期的な教育・保育事業(幼稚園利用者)	55
7 子どもが病気の際の対応	58
(1) 子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかったことの有無	58
(2) 利用できなかった時の対処法	59
(3) 病児・病後児保育施設等の利用意向	60
8 台風など災害時の対応	61
(1) 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかったことがあったか	61
(2) 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかった場合の対処法	62
(3) 台風等の休園時に幼稚園・保育園を利用したいか	63
9 不定期の教育・保育事業や一時保育等	64
(1) 不定期の教育・保育事業等の利用経験の有無	64
(2) 不定期の教育・保育事業等の利用意向	65
(3) 子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無	66
(4) 子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法	66
10 小学校就学後の放課後の過ごし方	67
(1) 低学年のうちの放課後の過ごし方	67
(2) 低学年のうちは放課後児童クラブを何時まで利用したいか	68
(3) 高学年になった時の放課後の過ごし方	69
(4) 高学年になったら放課後児童クラブを何時まで利用したいか	70

11	ファミリー・サポート・センター	71
(1)	ファミリー・サポート・センターの認知度	71
(2)	ファミリー・サポート・センターの利用状況	71
(3)	ファミリーサポートクラブの利用意向	74
12	育児休業制度	75
(1)	育児休業の取得の有無	75
(2)	育児休業を取得していない理由	76
(3)	母親の育児休業	78
(4)	父親の育児休業	82
13	扶桑町の子育て支援	84
(1)	子育て環境や支援への満足度	84
(2)	子育てに対して感じていること	85
(3)	子育ての不安や悩み	87
(4)	子育てに関する情報の入手先	89
(5)	今後必要と思われる取組	90

第2部 小学生保護者調査

1	子どもと家族の状況等	94
(1)	居住地区	94
(2)	子どもの学年	94
(3)	調査の回答者	94
(4)	配偶関係	95
(5)	子育てを主に行っている人	95
2	子どもの育ちをめぐる環境	96
(1)	子どもを預かってもらえる人の有無	96
(2)	子育ての相談相手の有無	97
(3)	子育てに関する相談先	98
(4)	子育ての手助けをしてくれる人の有無	99
(5)	子育てを手助けしてくれる人	100
3	保護者の就労状況	101
(1)	母親の就労状況	101
(2)	父親の就労状況	104
(3)	フルタイムへの転換希望	107
(4)	母親の就労意向	108
(5)	父親の就労意向	109

4	放課後の過ごし方	110
(1)	放課後を過ごしている場所	110
(2)	放課後を過ごしている平均日数	111
(3)	放課後を過ごさせたい場所	114
(4)	放課後を過ごさせたい平均日数	115
(5)	(仮称)多機能児童館の利用意向	118
5	放課後児童クラブ	120
(1)	放課後児童クラブの利用状況	120
(2)	放課後児童クラブの利用意向	122
(3)	放課後児童クラブを利用しない理由	127
6	子どもが病気の際の対応	128
(1)	子どもが病気等で学校を休んだことの有無	128
(2)	子どもが学校を休んだ時の対処法	128
(3)	病児・病後児保育施設等の利用意向	129
7	台風など災害時の対応	130
8	不定期の一時預かり等	131
(1)	不定期の一時預かり等の利用経験の有無	131
(2)	不定期の一時預かり等の利用意向	132
(3)	子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無	133
(4)	子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法	133
9	ファミリー・サポート・センター	134
(1)	ファミリー・サポート・センターの認知度	134
(2)	ファミリー・サポート・センターの利用状況	134
(3)	ファミリー・サポート・センターの利用意向	137
10	育児休業制度	138
(1)	育児休業の取得の有無	138
(2)	育児休業を取得していない理由	139
11	扶桑町の子育て支援	141
(1)	子育て環境や支援への満足度	141
(2)	子育てに対して感じていること	142
(3)	子育ての不安や悩み	144
(4)	子育てに関する情報の入手先	146
(5)	今後必要と思われる取組	147

調査の概要

I 調査の目的

この調査は、「すくすく子育て笑顔プランin Fuso（扶桑町子ども・子育て支援事業計画）」を見直し、次期の子ども・子育て支援事業計画を策定するための基礎資料を得ることを目的に、小学校6年生以下の児童をもつ保護者を対象として実施しました。

<就学前児童保護者調査>

就学前児童の保護者に対しては、保育サービスの利用状況や利用意向、病気・病後や台風などの災害時の対応、子育て支援事業の利用状況や利用意向、小学校就学後の放課後の過ごし方、仕事と子育てなどについてたずねました。

<小学生保護者調査>

小学生の保護者に対しては、放課後児童クラブの利用状況や利用意向、病気・病後や台風などの災害時の対応、仕事と子育てなどについてたずねました。

2 調査方法、回収結果等

(1) 調査方法等

区 分	就学前児童保護者調査	小学生保護者調査
調査対象者	就学前児童の保護者から無作為抽出	小学生の保護者から無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収
調査基準日	平成30（2018）年11月1日	
調査期間	平成30（2018）年11月6日～11月30日	

(2) 回収結果

区 分	就学前児童保護者調査	小学生保護者調査
配布数	1,000	1,000
回収数	582（58.2%）	518（51.8%）
有効回答数	582（58.2%）	517（51.7%）

3 集計・分析にあたって

- ① 図表中のNは回答数を示しています。
- ② 選択項目別の回答の比率は、その設問の回答数（N）を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると 100%を超えます。
- ③ 回答率（%）は、小数点第 2 位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が 100%にならない場合があります。
- ④ 調査項目によっては、過去に行った調査と比較分析を行いました。「平成 25 年」とあるのは平成 25（2013）年 11 月に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」、「平成 30 年」とあるのは今回の調査です。
- ⑤ 各調査には、次表のとおり年齢、配偶関係、母親の就労状況等について不詳があります。

区 分	子どもの 年齢・学年	配偶関係	母親の 就労状況	居住地区
就 学 前	4	2	4	1
小 学 生	—	—	9	1

- ⑥ 就学前児童の年齢については次の区分で集計しました。

平成 29（2017）年 4 月以降生まれ	0 歳
平成 28（2016）年 4 月～平成 29（2017）年 3 月生まれ	1 歳
平成 27（2015）年 4 月～平成 28（2016）年 3 月生まれ	2 歳
平成 26（2014）年 4 月～平成 27（2015）年 3 月生まれ	3 歳
平成 25（2013）年 4 月～平成 26（2014）年 3 月生まれ	4 歳
平成 24（2012）年 4 月～平成 25（2013）年 3 月生まれ	5 歳



第 1 部

就学前児童保護者調査

I 子どもと家族の状況等

(1) 居住地区

回答のあった子どもの居住地区は、「高雄」が42.4%と最も高く、次いで「柏森」が29.4%、「斎藤」が11.0%などの順となっています。

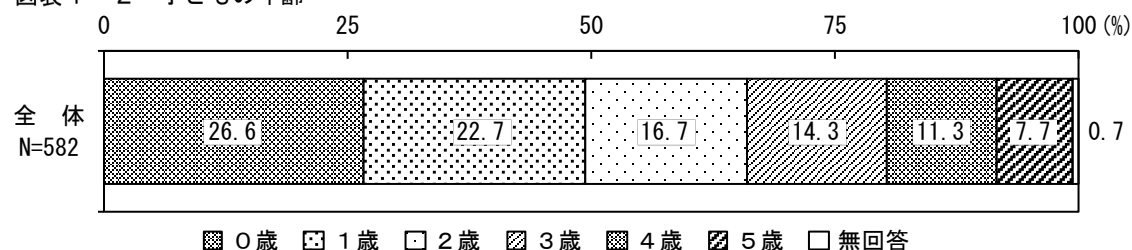
図表 1－1 居住地区

地区	高雄地区	山那地区	小淵地区	南山名地区	斎藤地区	高木地区	柏森地区	無回答	合計
人	247	12	8	52	64	27	171	1	582
%	42.4	2.1	1.4	8.9	11.0	4.6	29.4	0.2	100.0

(2) 子どもの年齢

回答のあった子どもの年齢は、図表 1－2 のとおりです。3歳未満が66.0%、3歳以上が33.3%を占めています。

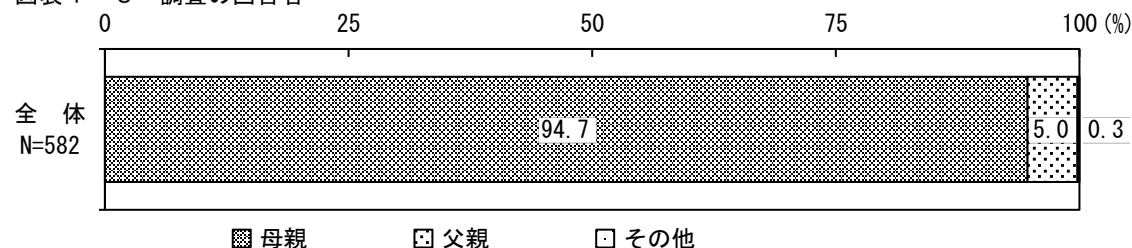
図表 1－2 子どもの年齢



(3) 調査の回答者

本調査の回答者は、「母親」が94.7%と非常に高くなっています。

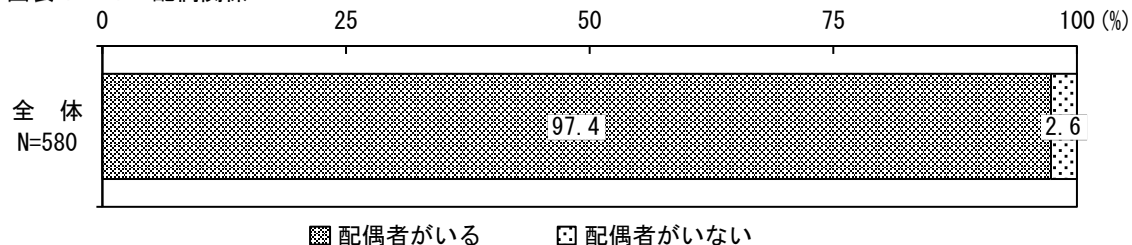
図表 1－3 調査の回答者



(4) 配偶関係

回答者の配偶関係をたずねたところ、「配偶者がいる」が97.4%、「配偶者はいない」が2.6%となっています。

図表 1－4 配偶関係

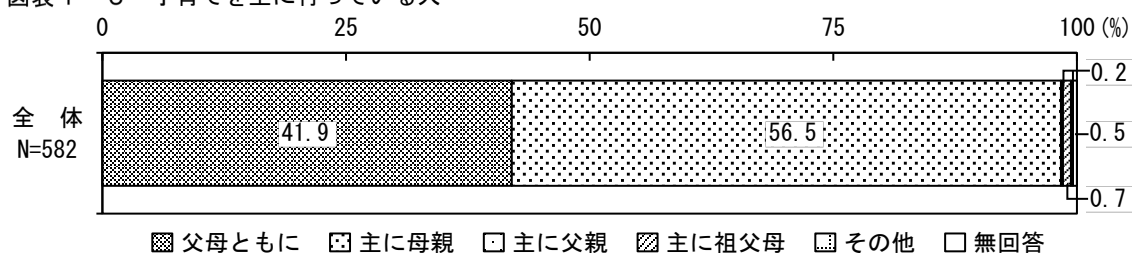


(5) 子育てを主に行っている人

子育てを主に行っているのは、「主に母親」が56.5%と最も高く、次いで「父母ともに」が41.9%、「主に祖父母」が0.7%、「主に父親」および「その他」が0.2%となっています。

「その他」として、「両親」、「祖母」の記述がありました。

図表 1－5 子育てを主に行っている人



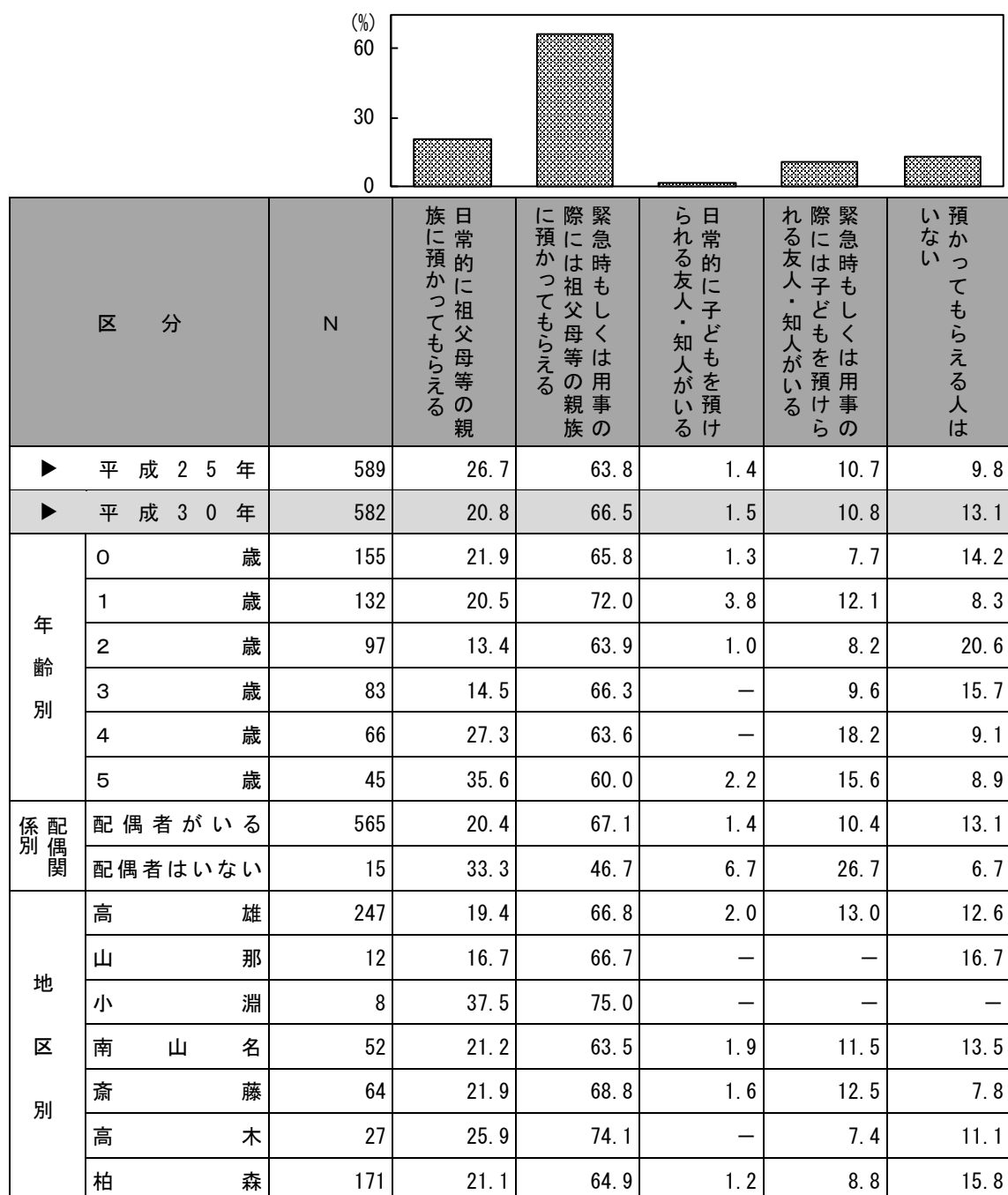
2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもを預かってもらえる人の有無

子どもを預かってもらえる人の有無をたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が66.5%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が20.8%などの順となっています。親族に比べると、友人・知人の率は低くなっています。平成25年との比較では、「預かってもらえる人はいない」が3.3ポイント高くなっています。

図表1-6 子どもを預かってもらえる人の有無（複数回答）

単位：Nは人、他は%

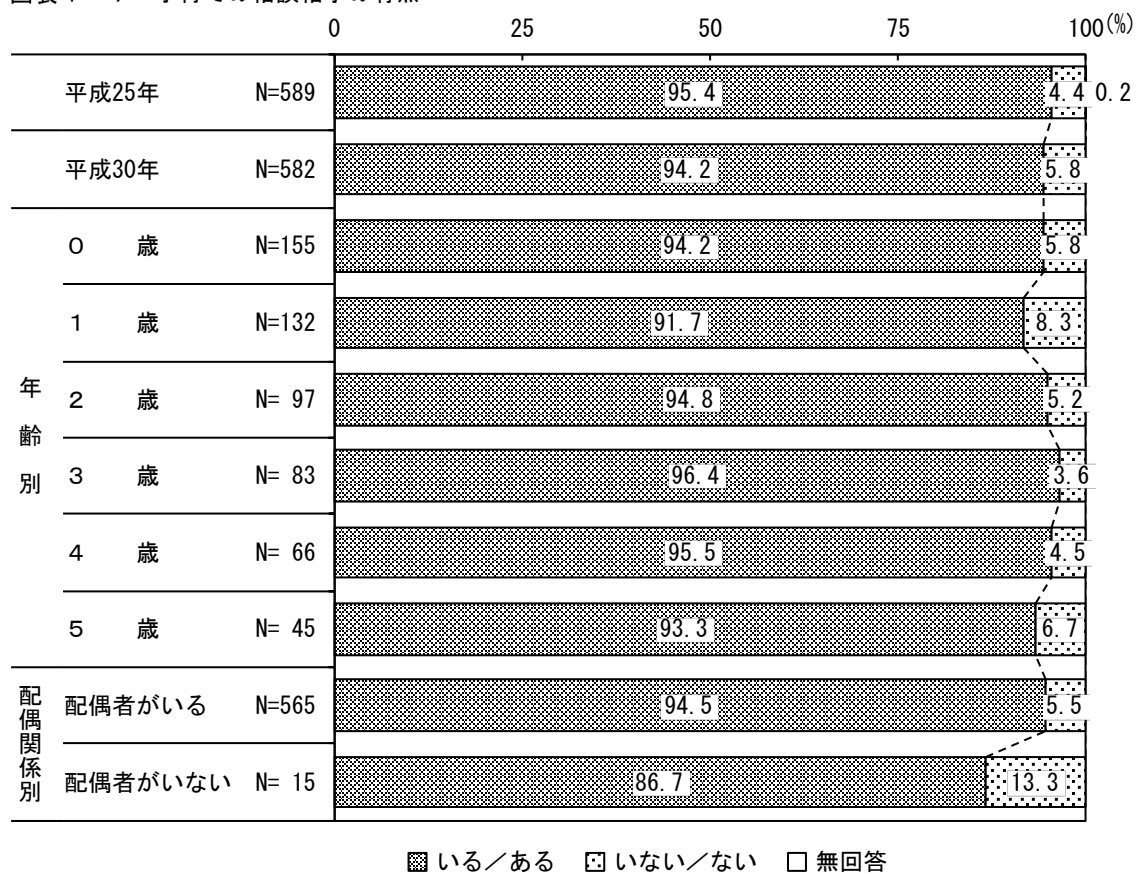


(2) 子育ての相談相手の有無

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人が「いる／ある」は94.2%を占めています。平成25年との比較では、「いない／ない」が1.4ポイント高くなっています。

「いない／ない」は、年齢別にみると、1歳が最も高くなっています。配偶関係別にみると、配偶者がいない人は13.3%（15人中2人）が「いない／ない」と回答しています。

図表 1－7 子育ての相談相手の有無



(3) 子育てに関する相談先

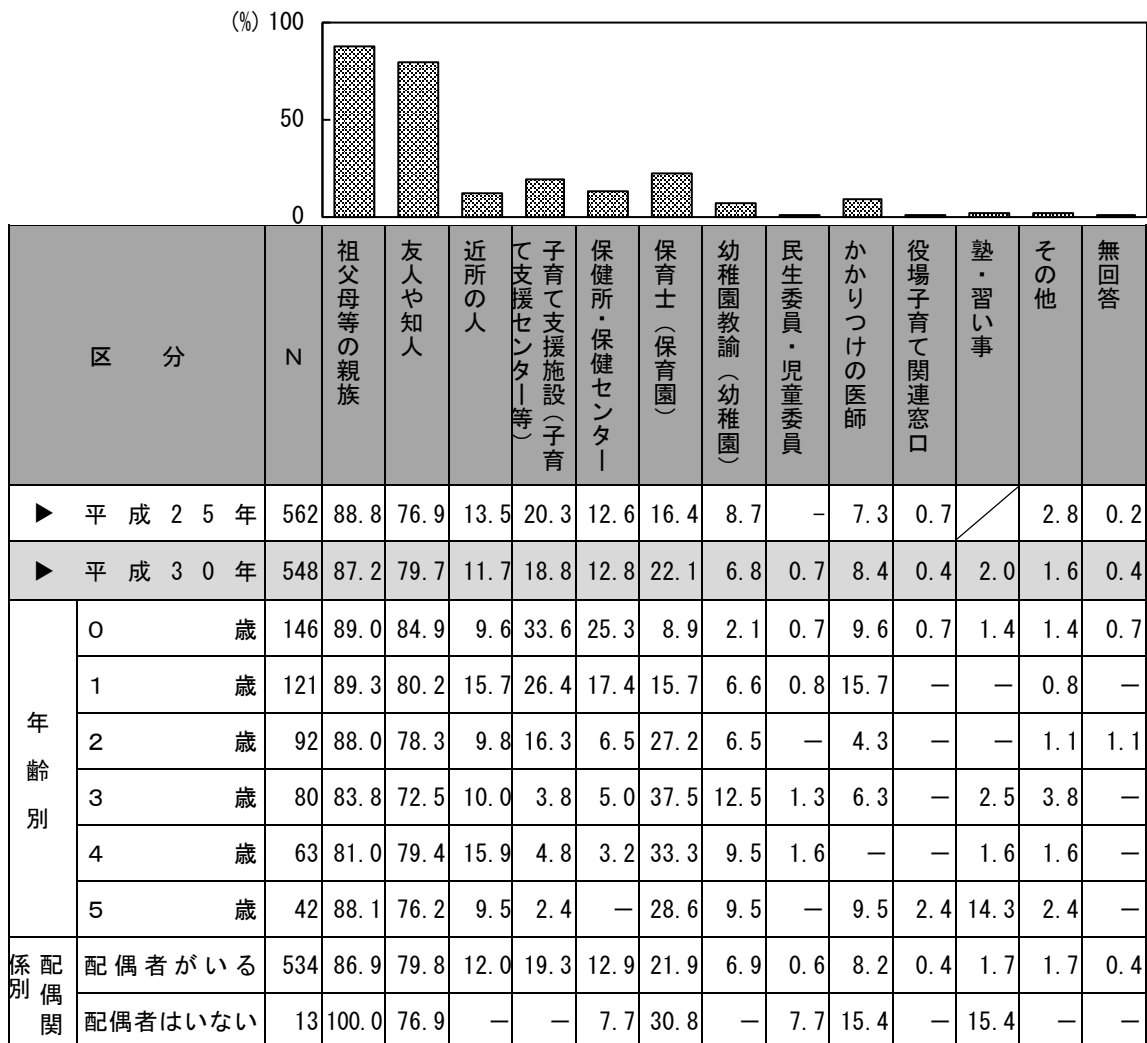
前項で、気軽に相談できる人が「いる／ある」と回答した人に相談先をたずねたところ、「祖父母等の親族」が87.2%と最も高く、次いで「友人や知人」が79.7%となっており、これら2項目が突出して高くなっています。平成25年との比較では、「保育士（保育園）」が5.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「子育て支援施設（子育て支援センター等）」「保健所・保健センター」は年齢とともに低くなっています。

「その他」として、「職場の人」「療育施設」「職場の上司」「助産師」「ネット」などの記述がありました。

図表 1－8 子育てに関する相談先（複数回答）

単位：Nは人、他は%

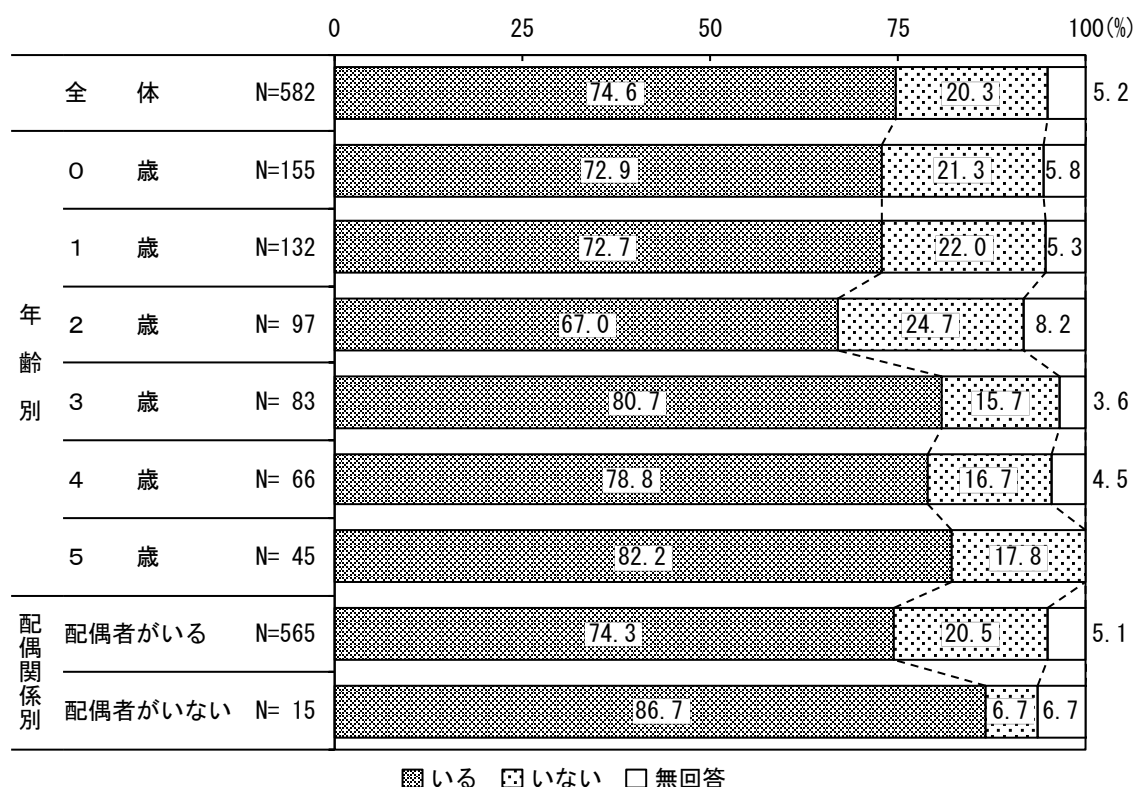


(4) 子育ての手助けをしてくれる人の有無

子育てをする上で、身近に手助けしてくれる人がいるかたずねたところ、「いる」が74.6%と「いない」を大きく上回っています。

年齢別にみると、「いる」は5歳が82.2%と最も高く、2歳が67.0%と最も低くなっており、その差は15.2ポイントとなっています。配偶関係別にみると、「いる」は配偶者がいる人より、いない人が高くなっています。

図表1－9 子育ての手助けをしてくれる人の有無



(5) 子育てを手助けしてくれる人

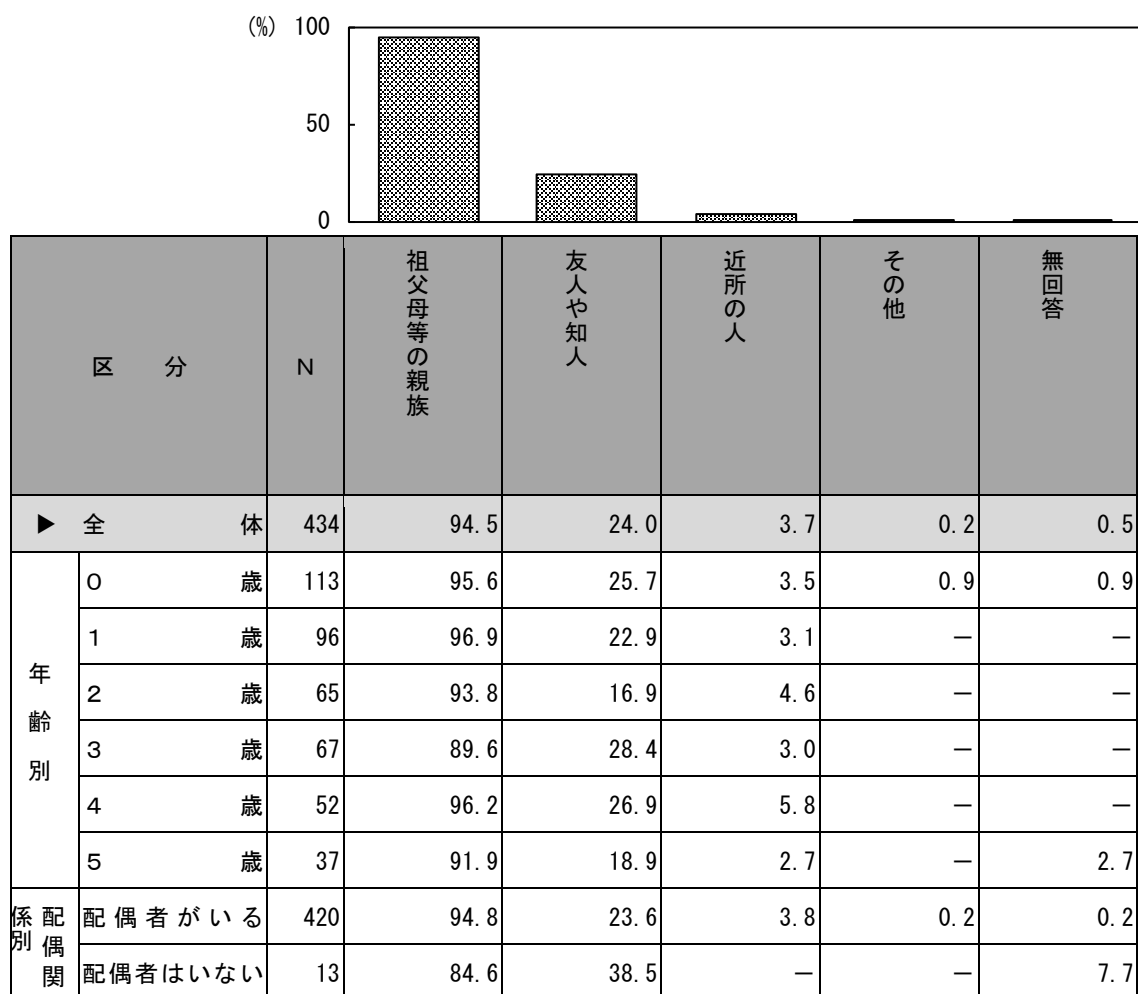
前項で、身近に子育ての手助けをしてくれる人が「いる」と回答した人にどのような人かたずねたところ、「祖父母等の親族」が94.5%と非常に高く、次いで「友人や知人」が24.0%、「近所の人」が3.7%となっています。

年齢別にみると、「祖父母等の親族」が最も高いのは1歳、「知人や友人」が最も高いのは3歳、「近所の人」が最も高いのは4歳となっています。

「その他」として、「夫」との記述がありました。

図表1-10 子育てを手助けしてくれる人

単位：Nは人、他は%



3 保護者の就労状況

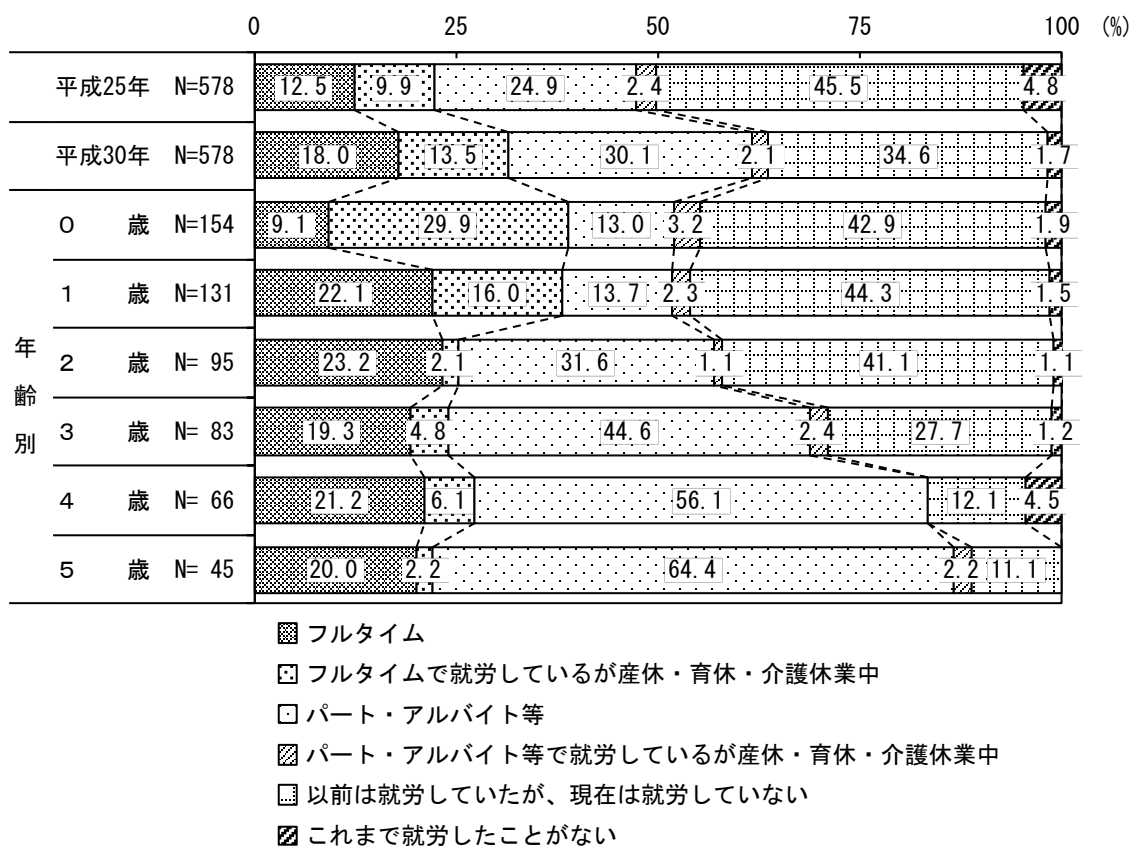
(1) 母親の就労状況

① 就労状況

母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が34.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等」が30.1%、「フルタイム」が18.0%などの順となっています。平成25年との比較では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が10.9ポイント、「これまで就労したことがない」が3.1ポイント低下し、就労している人が高くなっています。

年齢別にみると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は年齢とともに低下傾向となっています。「パート・アルバイト等」は年齢とともに高くなり、4歳以上では50%以上です。0歳では「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中」が29.9%となっていますが、1歳になると16.0%まで低下し、2歳以上では10%以下です。

図表 1-11 母親の就労状況

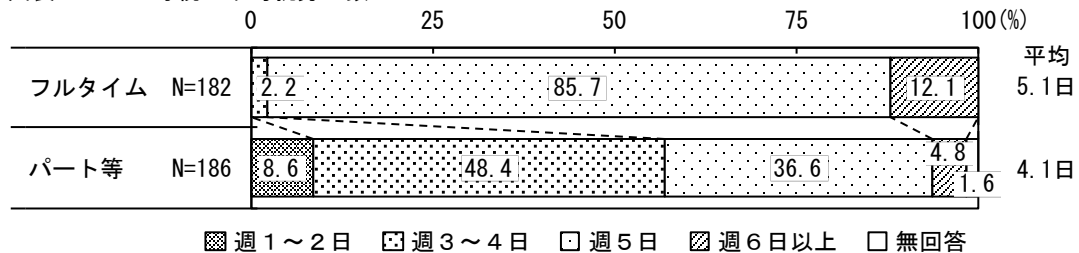


② 平均就労日数

フルタイムの母親の就労日数は、「週5日」が85.7%を占めており、次いで「週6日以上」が12.1%、「週3～4日」が2.2%となっています。1週当たりの就労日数の平均は5.1日です。

パート・アルバイト等の母親の就労日数は、「週3～4日」が48.4%と最も高く、次いで「週5日」が36.6%、「週1～2日」が8.6%などの順となっており、1週当たりの就労日数の平均は4.1日です。

図表 1-12 母親の平均就労日数

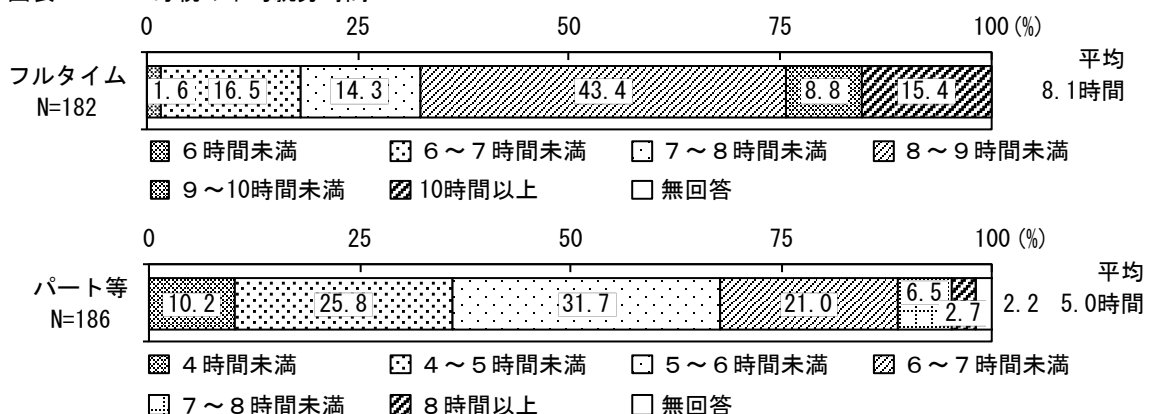


③ 平均就労時間

フルタイムの母親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」が43.4%を占めており、次いで「6～7時間未満」が16.5%、「10時間以上」が15.4%などの順となっています。1日当たりの平均就労時間は8.1時間です。

パート・アルバイト等の母親の平均就労時間は、「5～6時間未満」が31.7%と最も高く、次いで「4～5時間未満」が25.8%、「6～7時間未満」が21.0%などの順となっています。1日当たりの就労時間の平均は5.0時間です。

図表 1-13 母親の平均就労時間



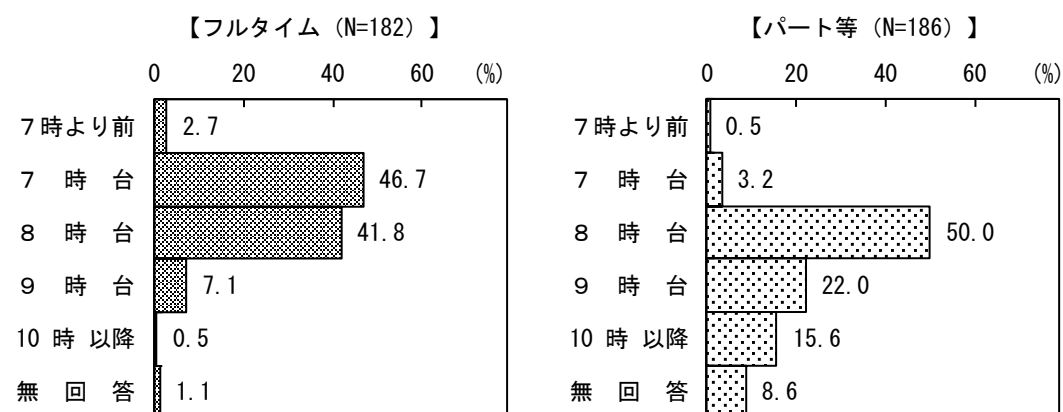
④ 家を出る時刻、帰宅時刻

母親が家を出る時刻をみると、フルタイムは、「7時台」および「8時台」が40%以上となっており、91.2%が9時までに家を出ていることになります。パート・アルバイト等は、「8時台」が50%を占め、9時以降に家を出る人が37.6%です。

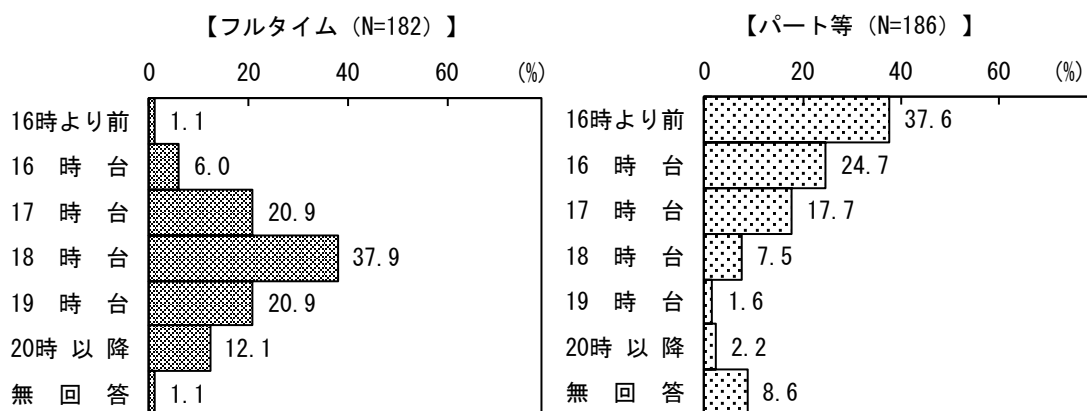
帰宅時刻をみると、フルタイムは「18時台」が37.9%と最も高く、18時以降に帰宅する人の合計は70.9%です。パート・アルバイト等は、「16時より前」が37.6%と最も高く、そこから低下傾向となっています。18時より前に帰宅する人の合計が80.0%です。

図表 1-14 母親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

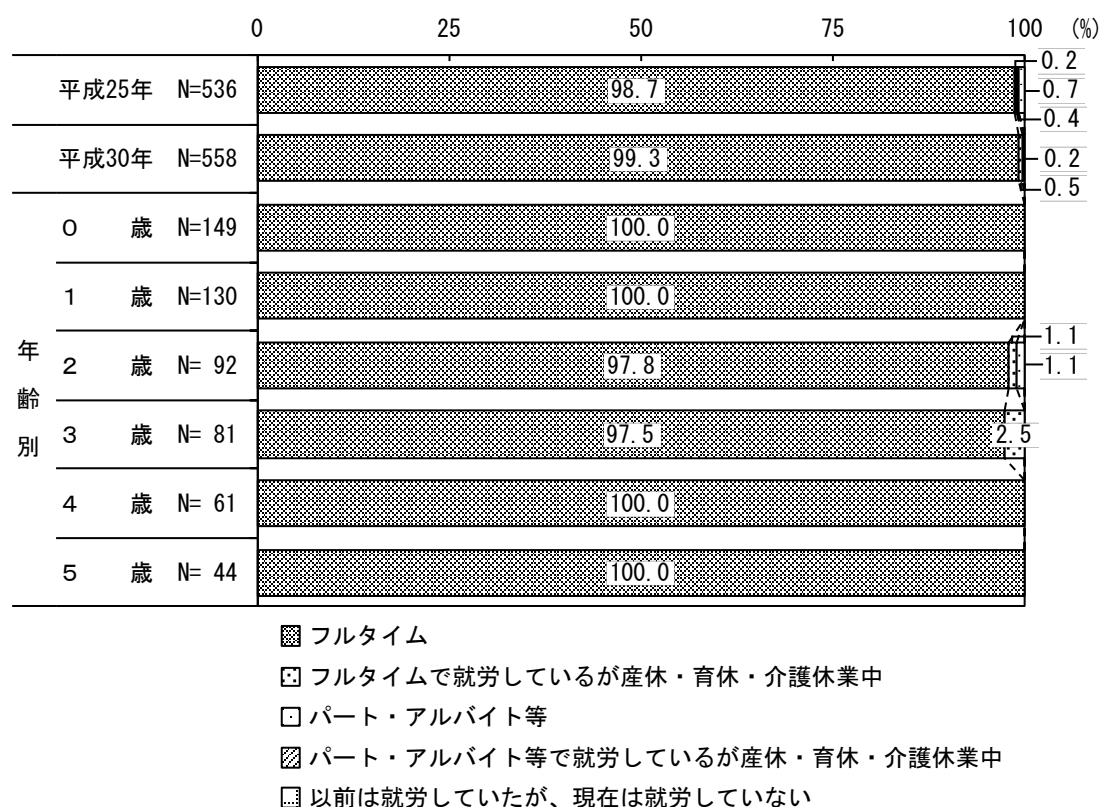


(2) 父親の就労状況

① 就労状況

父親の就労状況は、「フルタイム」が99.3%を占めています。「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中」は0.5%、「パート・アルバイト等」は0.2%です。「以前は就労していたが、現在は就労していない」との回答はありません。平成25年との比較では、「フルタイム」がわずかに高くなっています。

図表 1－15 父親の就労状況



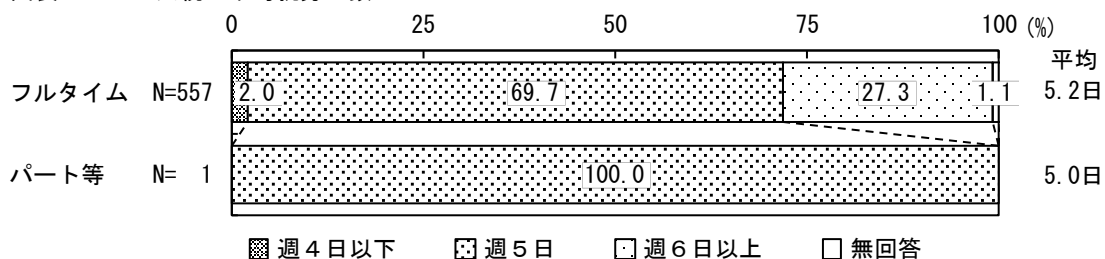
(注) 「これまで就労したことがない」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

② 平均就労日数

フルタイムの父親の就労日数は、「週5日」が69.7%と最も高く、次いで「週6日以上」が27.3%、「週4日以下」が2.0%などの順となっています。1週当たりの就労日数の平均は5.2日です。

パート・アルバイト等の父親（1人）の就労日数は「週5日」です。

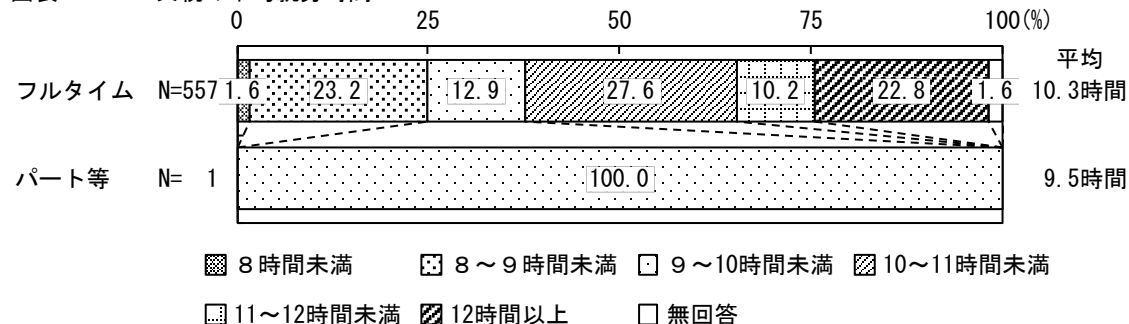
図表 1-16 父親の平均就労日数



③ 平均就労時間

フルタイムの父親の1日当たりの平均就労時間は、「10～11時間未満」が27.6%と最も高く、次いで「8～9時間未満」が23.2%、「12時間以上」が22.8%などとなっています。1日当たりの平均就労時間は10.3時間です。

図表 1-17 父親の平均就労時間



④ 家を出る時刻、帰宅時刻

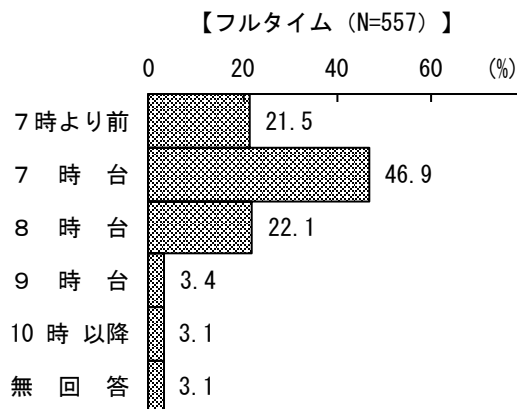
フルタイムの父親が家を出る時刻をみると、「7時台」が46.9%と最も高く、次いで「8時台」が22.1%、「7時より前」が21.5%などの順となっており、9時までに出ている率は90.5%です。

帰宅時刻は、「20時台」「21時台」「22時以降」が22.4%となっており、20時以降に帰宅する人の合計は67.2%です。

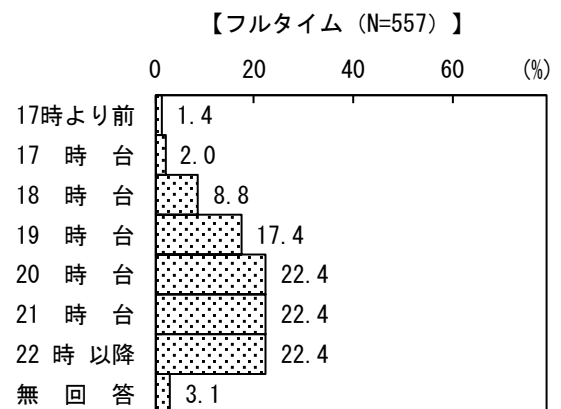
パート・アルバイト等の父親（1人）が家を出る時刻は「7時台」、帰宅時刻は「20時台」です。

図表 1-18 父親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

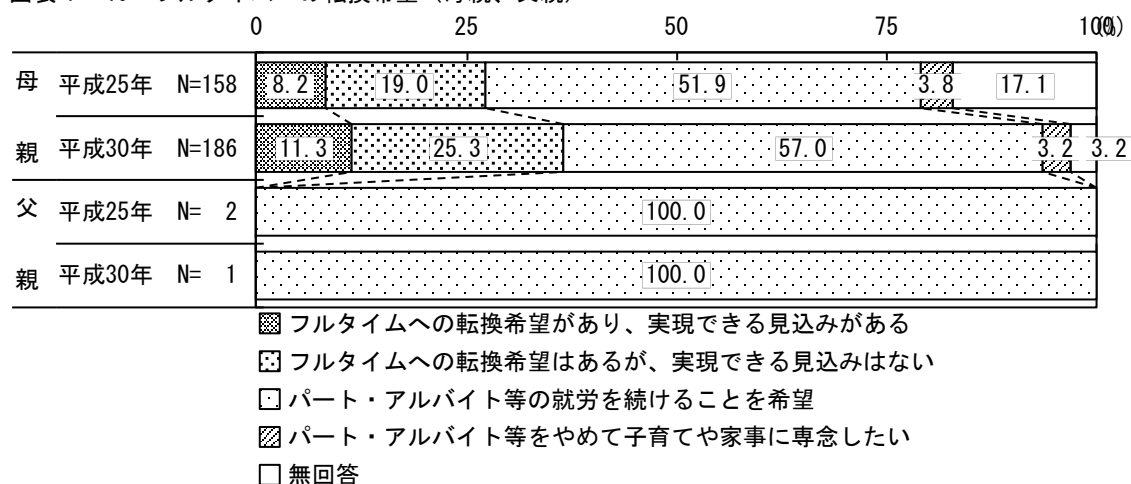


(3) フルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と回答した人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、母親は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が57.0%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が25.3%などとなっています。平成25年との比較では、「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」以外は高くなっています。

父親は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」しています。

図表 1-19 フルタイムへの転換希望（母親、父親）



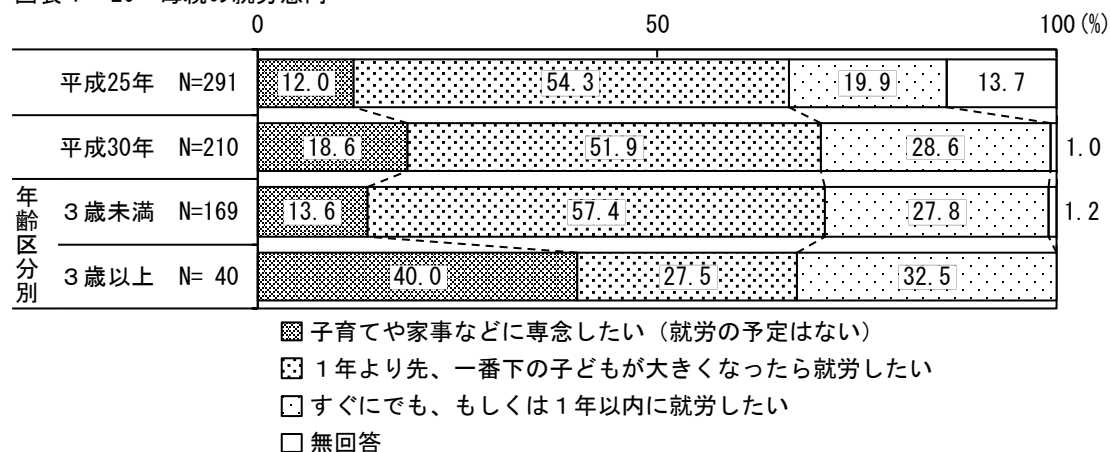
(4) 母親の就労意向

① 就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」が51.9%と最も高く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（28.6%）と合計した《就労したい》は80.5%となります。平成25年と比べて、《就労したい》が6.3ポイント高くなっています。

子どもの年齢区分別にみると、《就労したい》は3歳以上が低くなっています。

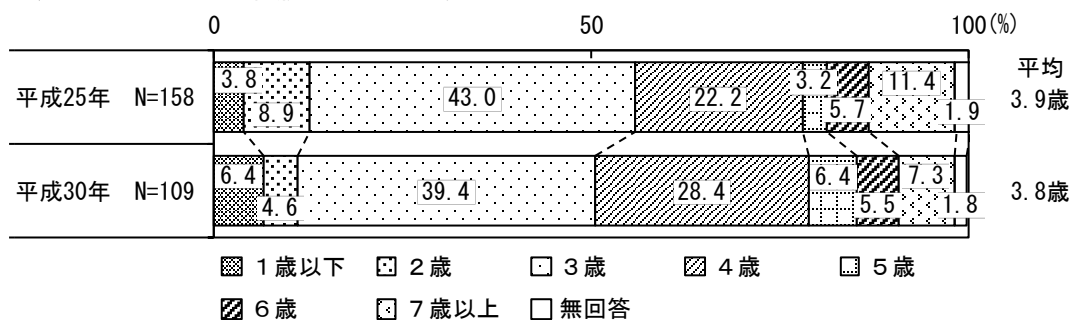
図表 1-20 母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と回答した人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「3歳」が39.4%と最も高く、次いで「4歳」が28.4%などの順となっており、平均は3.8歳です。平成25年との比較では、「2歳」および「3歳」が低くなっている一方、「1歳以下」は高くなっています。

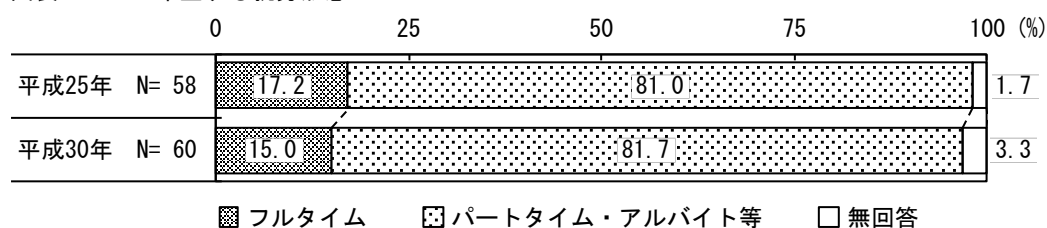
図表 1-21 子どもが何歳になったら就労したいか



③ 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が81.7%を占め、平成25年と比べて、「フルタイム」が2.2ポイント低くなっています。

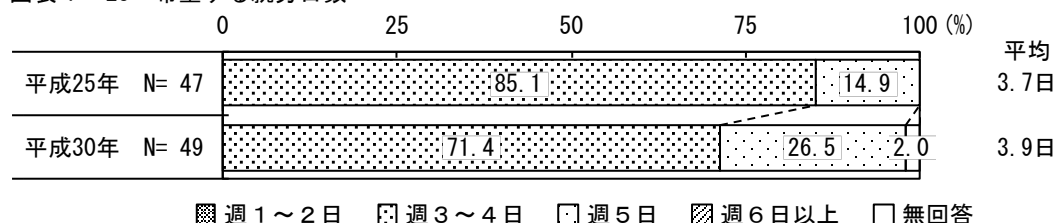
図表 1-22 希望する就労形態



④ 希望する就労日数、就労時間

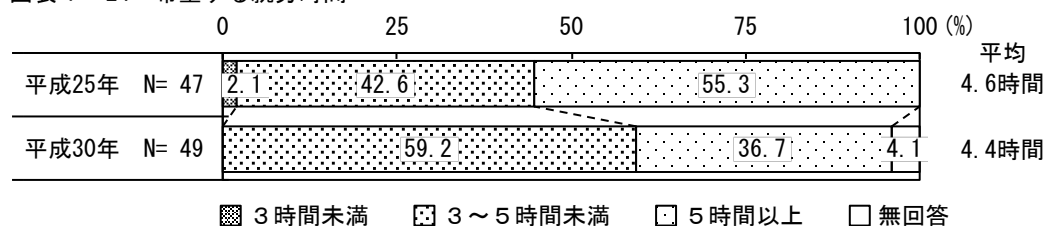
③で、「パート・アルバイト等」と回答した人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週3～4日」が71.4%と最も高く、次いで「週5日」が26.5%となっており、1週当たりの希望就労日数の平均は3.9日です。平成25年との比較では、「週5日」が11.6ポイント高くなり、平均も0.2日増加しています。

図表1-23 希望する就労日数



希望する1日当たりの就労時間は、「3～5時間未満」が59.2%と最も高く、次いで「5時間以上」が36.7%となっており、平均は4.4時間です。平成25年との比較では、「5時間以上」が18.6ポイント低下し、平均も0.2時間減少しています。

図表1-24 希望する就労時間



4 平日の定期的な教育・保育事業

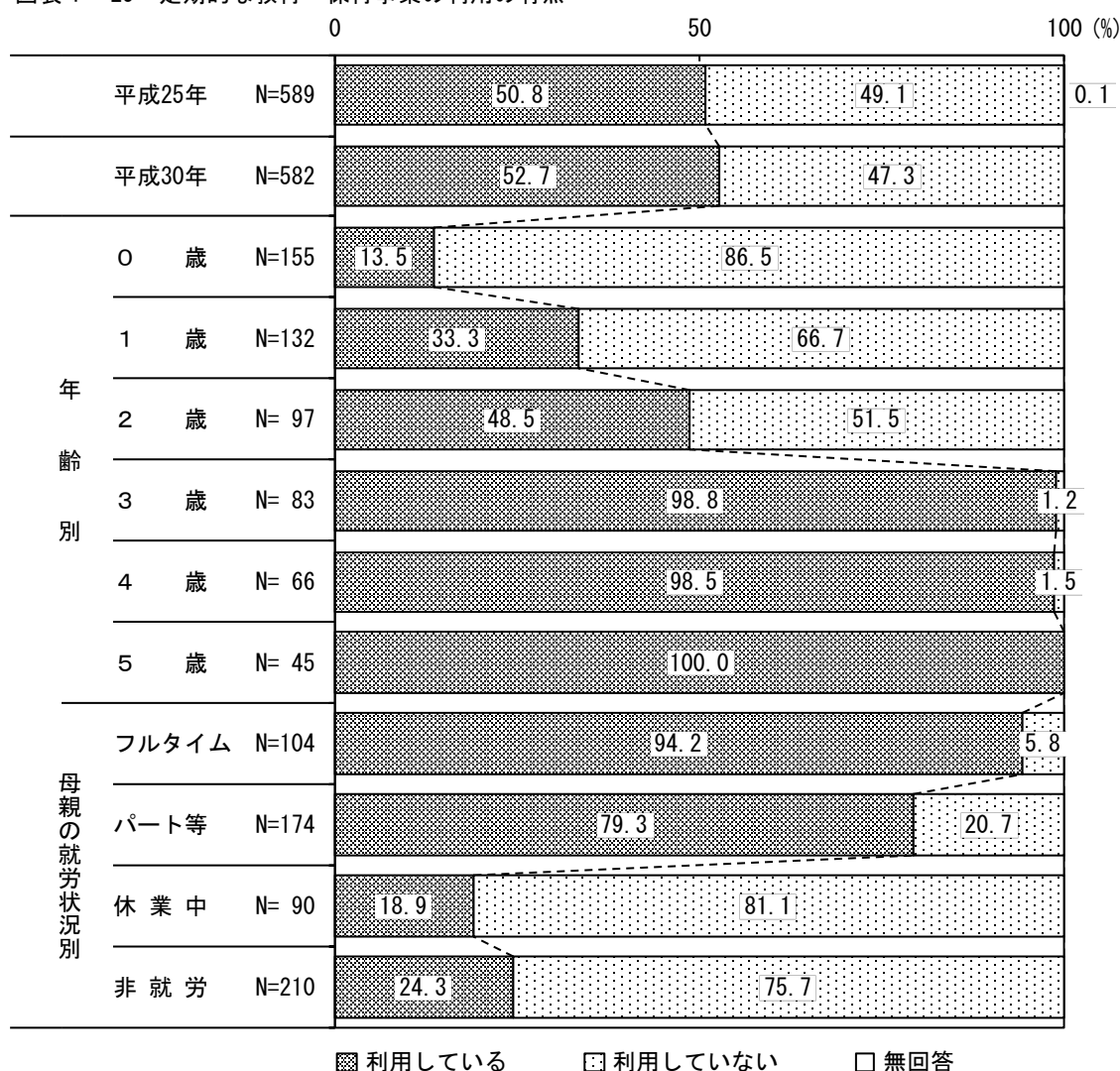
(1) 定期的な教育・保育事業の利用の有無

定期的な教育・保育事業は、調査回答者の52.7%が利用しています。平成25年との比較では、「利用している」が1.9ポイント高くなっています。

子どもの年齢別にみると、3歳以上はほとんどの子どもが利用していますが、2歳以下は年齢が下がるにしたがい低くなっており、0歳では13.5%が利用しています。

母親の就労状況別にみると、「利用している」は当然のことながらフルタイムおよびパート等が高く、フルタイムでは94.2%を占めています。

図表1-25 定期的な教育・保育事業の利用の有無



(注) 本調査における「定期的な教育・保育事業」とは、幼稚園、幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）、保育園（都道府県等の認可を受けた施設）、事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設）、その他の認可外保育施設、ファミリー・サポート・センター（地域住民同士による育児の相互援助を会員制で行う事業）を指します。

(2) 利用している教育・保育事業

定期的に利用している教育・保育事業の種類は、「保育園」が68.7%と最も高く、次いで「幼稚園」が25.7%などの順となっています。

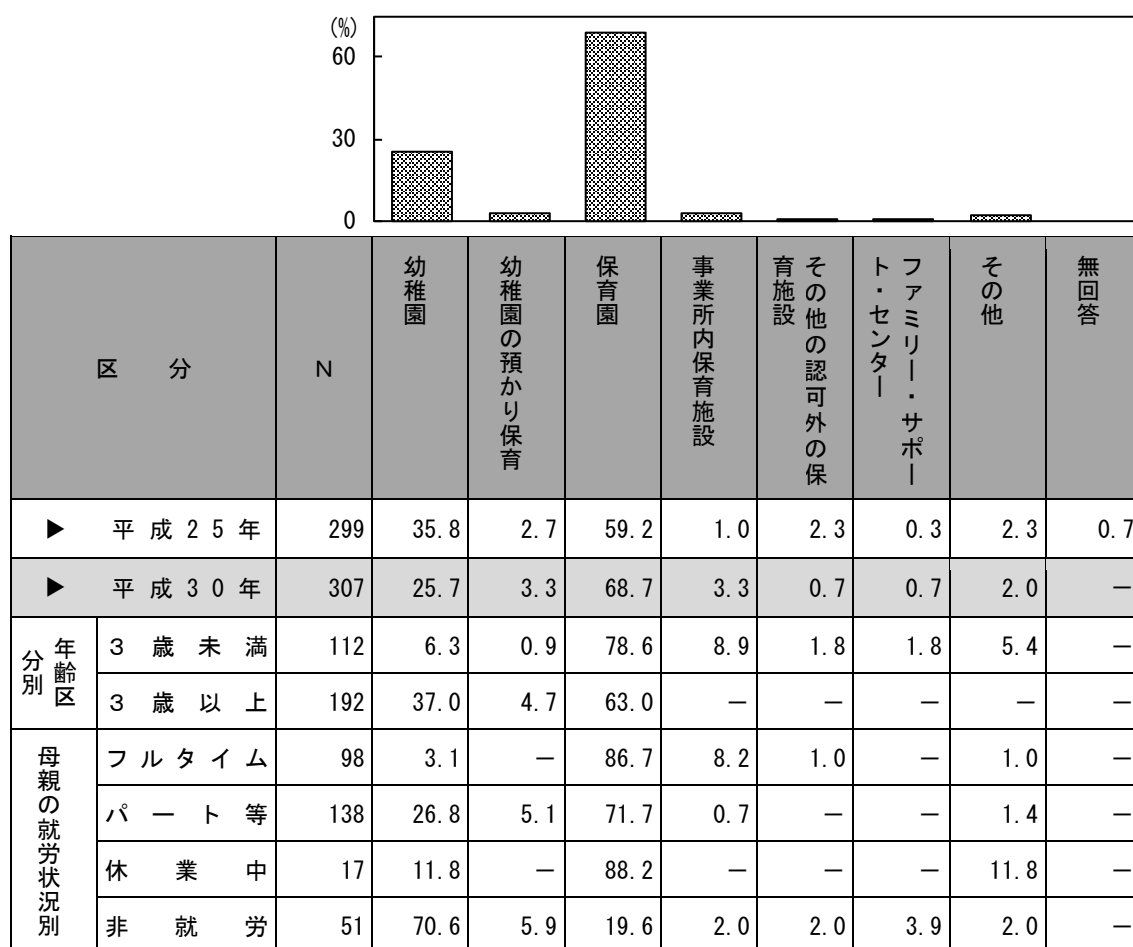
子どもの年齢区分別にみると、どちらも「保育園」が最も高くなっています。「幼稚園」は当然のことながら3歳以上が高く、「事業所内保育施設」「その他の認可外の保育施設」「ファミリー・サポート・センター」「その他」は3歳未満のみとなっています。

母親の就労状況別にみると、「保育園」が高いのはフルタイム、パート等および休業中、「幼稚園」が高いのは非就労です。

「その他」として、「一時保育」（3件）、「こころろルーム」などの記述がありました。

図表 1－26 利用している教育・保育事業（複数回答）

単位：Nは人、他は%



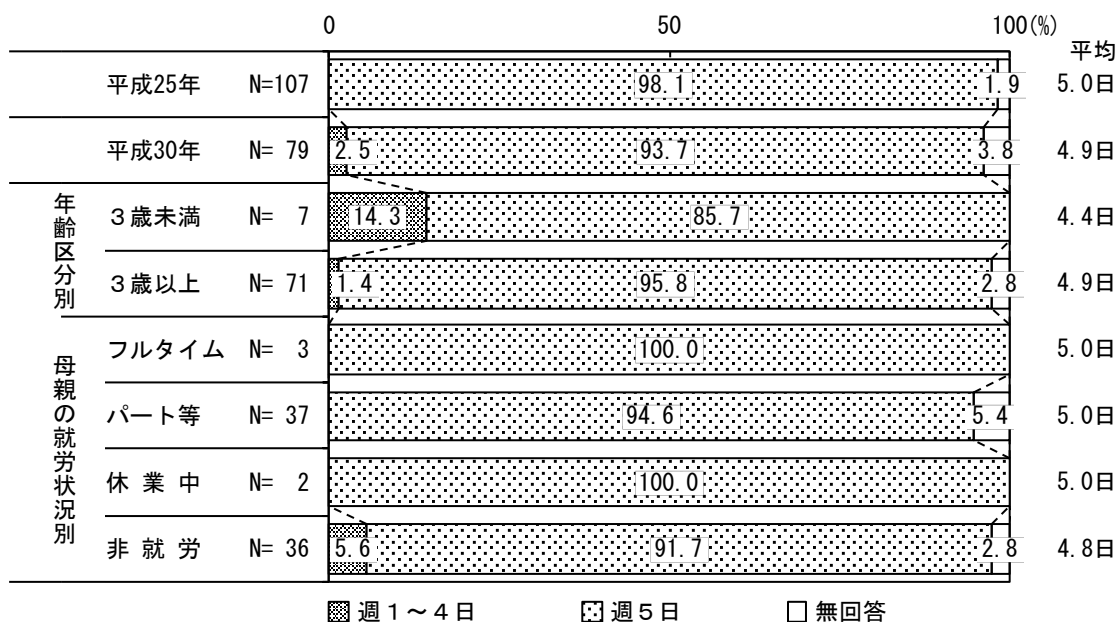
(3) 幼稚園の利用状況

① 利用日数（現在・希望）

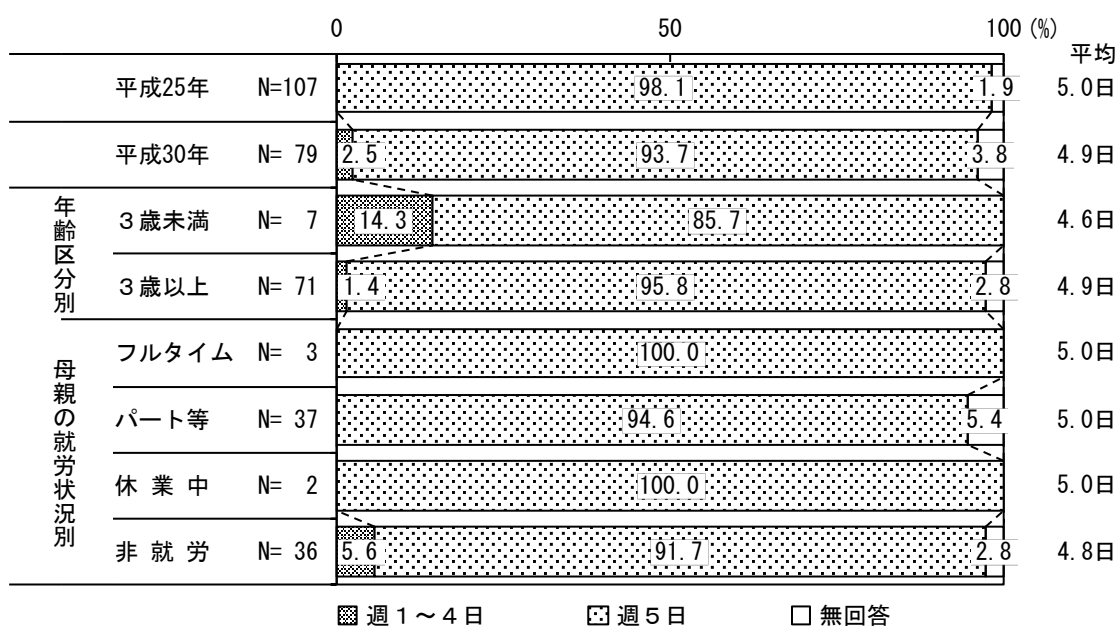
幼稚園の現在の利用日数は、「週5日」が93.7%を占めており、「週1～4日」が2.5%となっています。

希望する利用日数は、現在と同じです。

図表 1-27 現在の利用日数



図表 1-28 利用希望日数

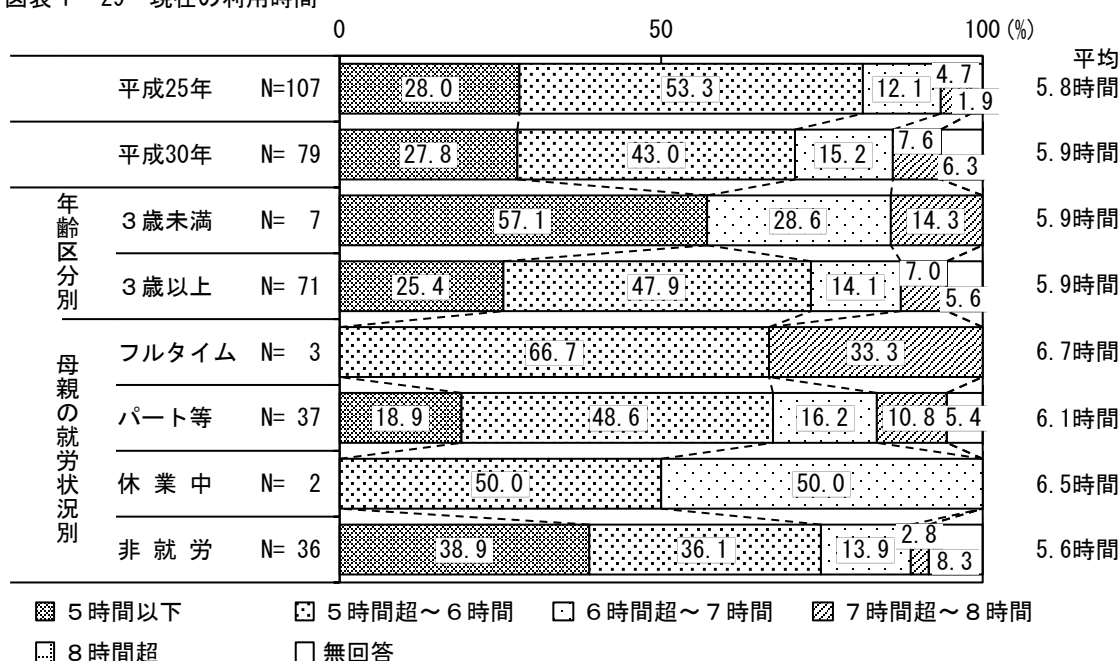


② 利用時間（現在・希望）

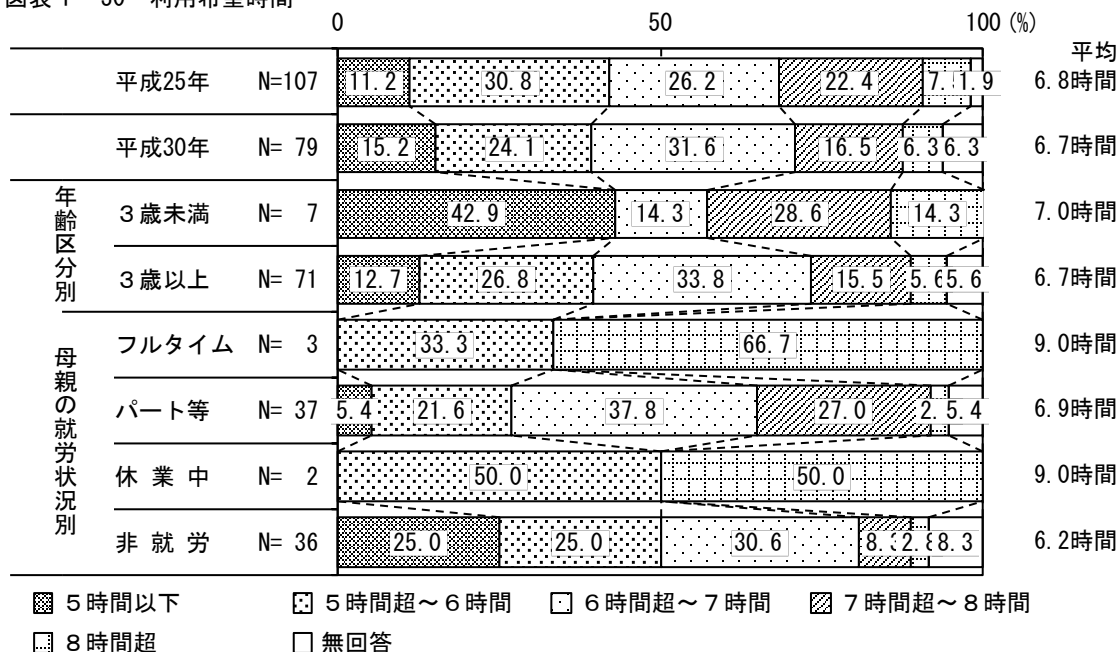
幼稚園の現在の利用時間は「5時間超～6時間」が43.0%と最も高く、次いで「5時間以下」が27.8%、「6時間超～7時間」が15.2%となっており、平均は5.9時間です。「8時間超」はありません。平成25年との比較では、「6時間超～7時間」および「7時間超～8時間」が高くなっており、平均も0.1時間増加しています。

希望する利用時間は、「6時間超～7時間」が最も高くなっています。現在の利用時間から「6時間超～7時間」が16.4ポイント、「7時間超～8時間」が8.9ポイント、「8時間超」が6.3ポイント上昇しており、平均は6.7時間に増加しています。

図表 1-29 現在の利用時間



図表 1-30 利用希望時間

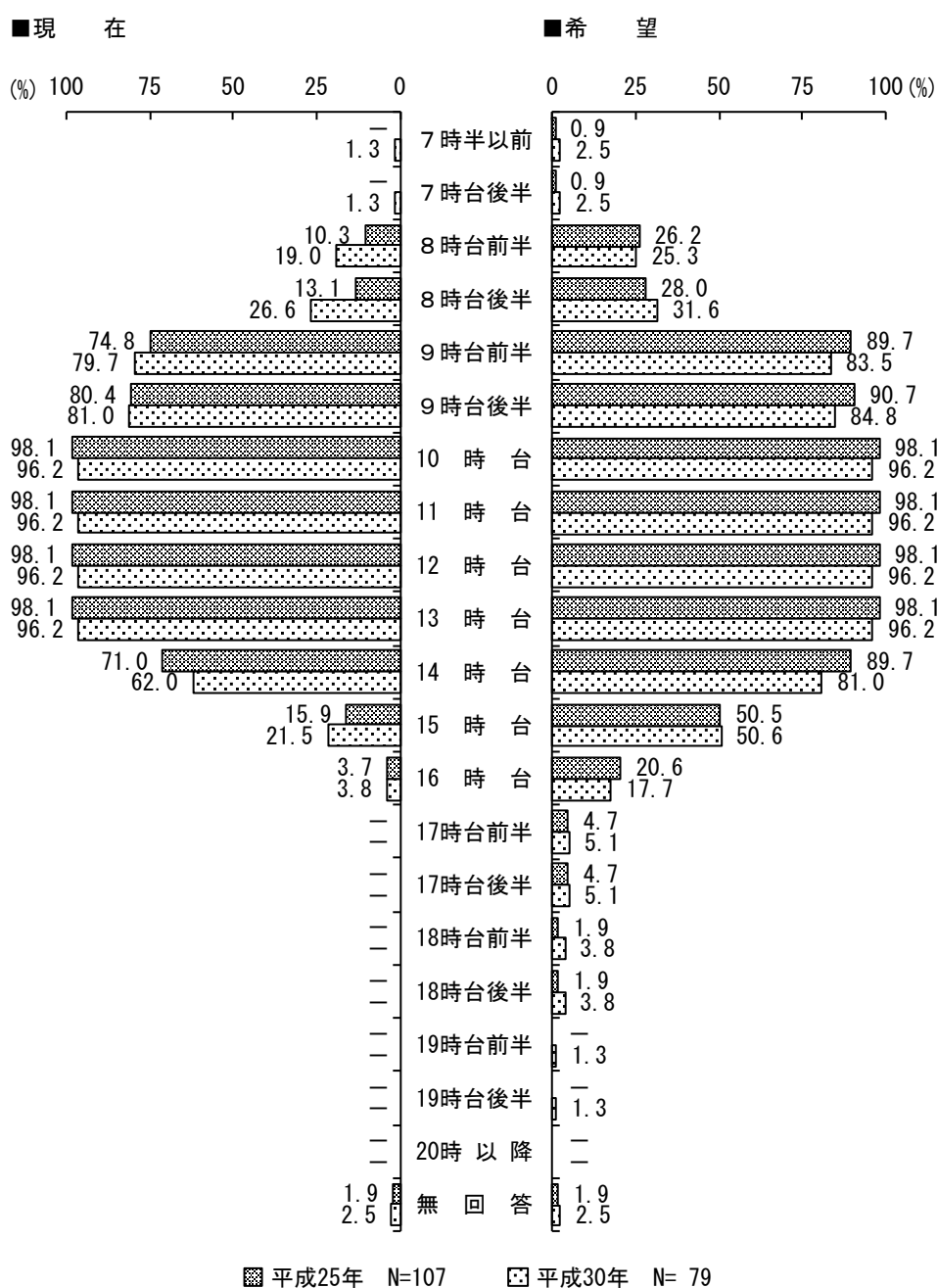


③ 利用時間帯（現在・希望）

現在の利用時間帯は、9時台には80%前後となり、10時台から13時台はほぼ95%を超えています。平成25年との比較では、10時台より前、15時台および16時台が高くなっています。

希望する利用時間帯は、10時台から13時台までは現在と概ね同様ですが、14時台以降が上昇しています。

図表 1－31 利用時間帯（現在・希望）



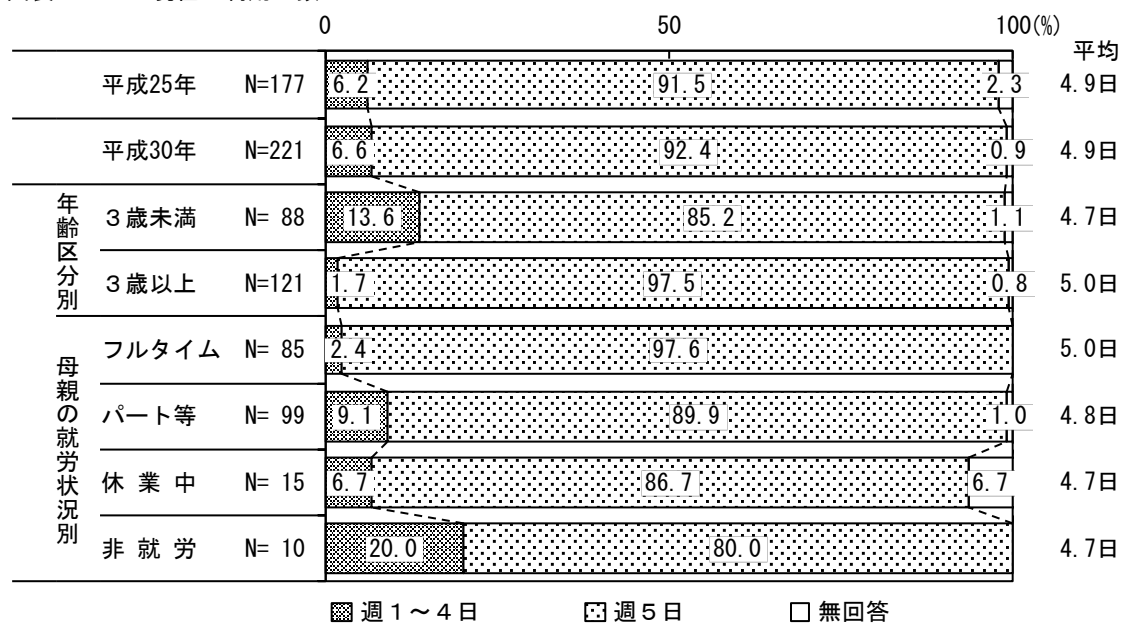
(4) 保育園の利用状況

① 利用日数（現在・希望）

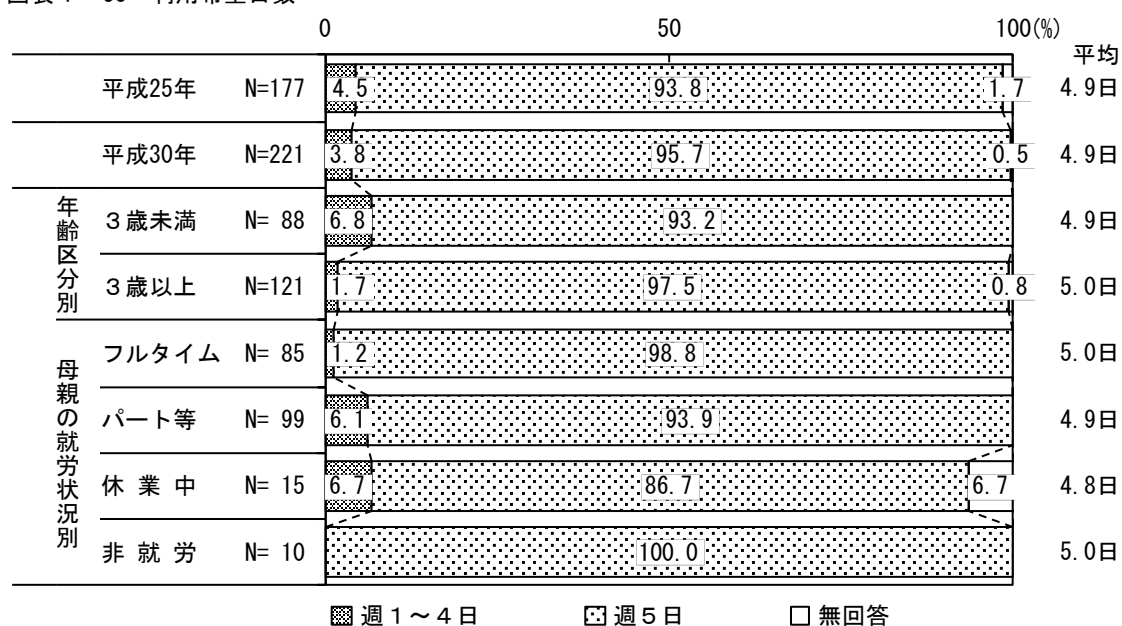
保育園の現在の利用日数は、「週5日」が92.4%を占めており、「週1～4日」が6.6%、平均は4.9日です。

希望する利用日数は、「週5日」が95.7%を占めています。

図表 1－32 現在の利用日数



図表 1－33 利用希望日数

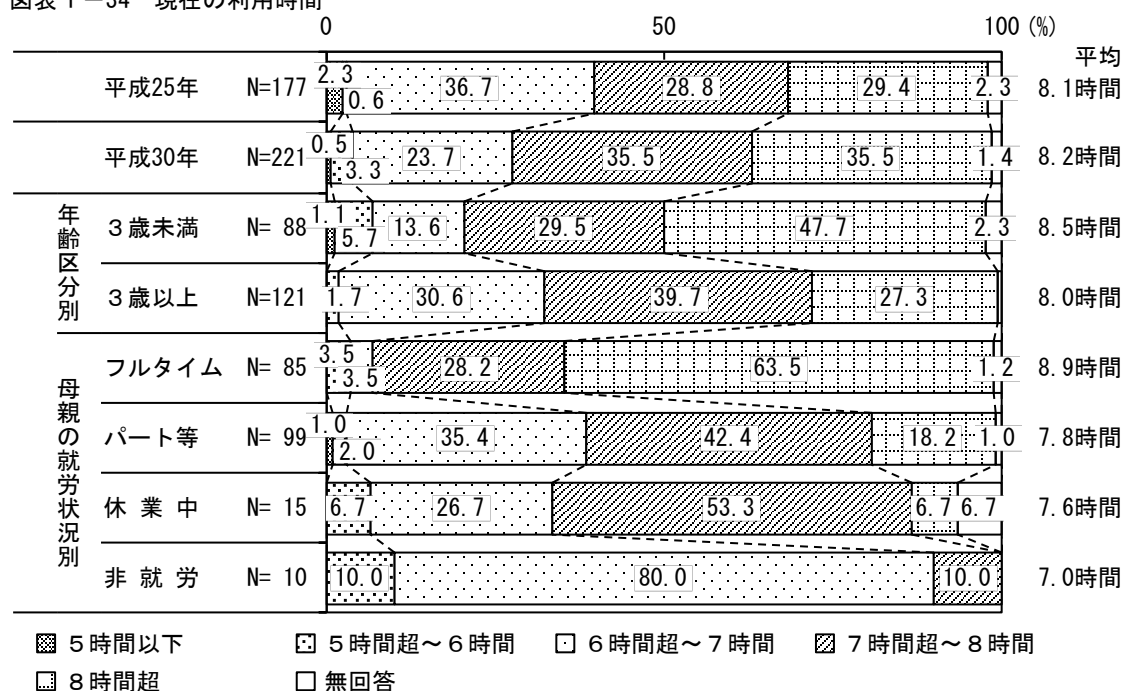


② 利用時間（現在・希望）

現在の利用時間は「8時間超」および「7時間超～8時間」が35.5%と高く、次いで「6時間超～7時間」が23.7%などとなっており、平均は8.2時間です。

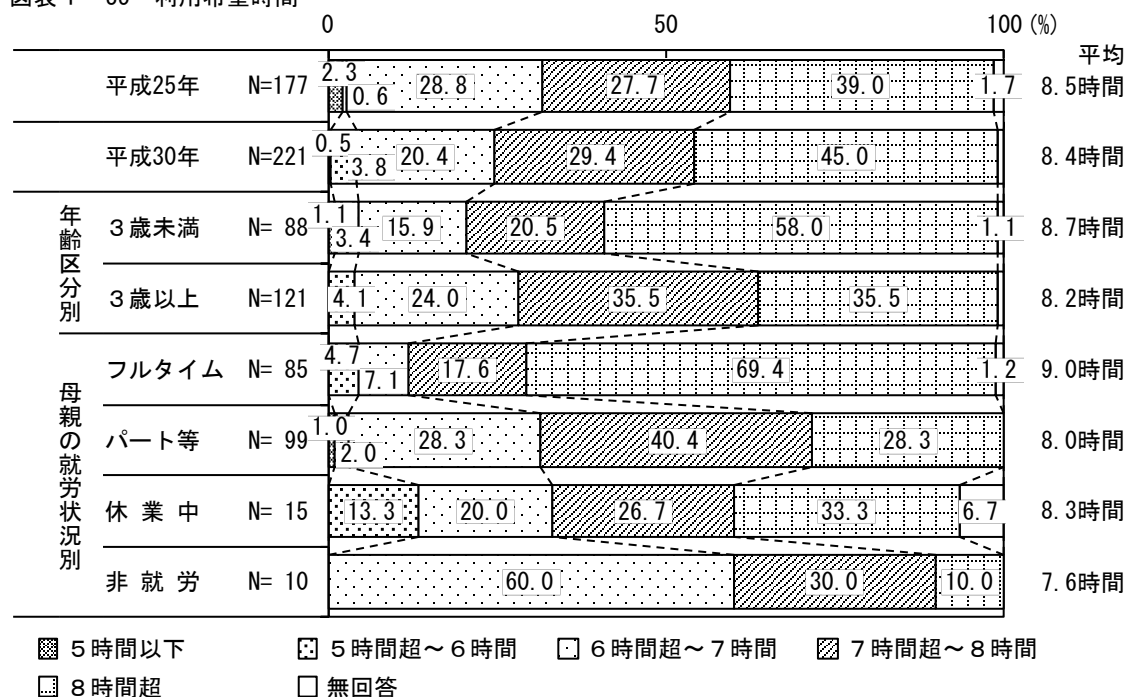
希望する利用時間は、「8時間超」が現在の利用時間から9.5ポイント上昇しており、平均は8.4時間です。

図表 1－34 現在の利用時間



(注) グラフは表記の都合上、全体以外は1%未満の値を省略しています。

図表 1－35 利用希望時間



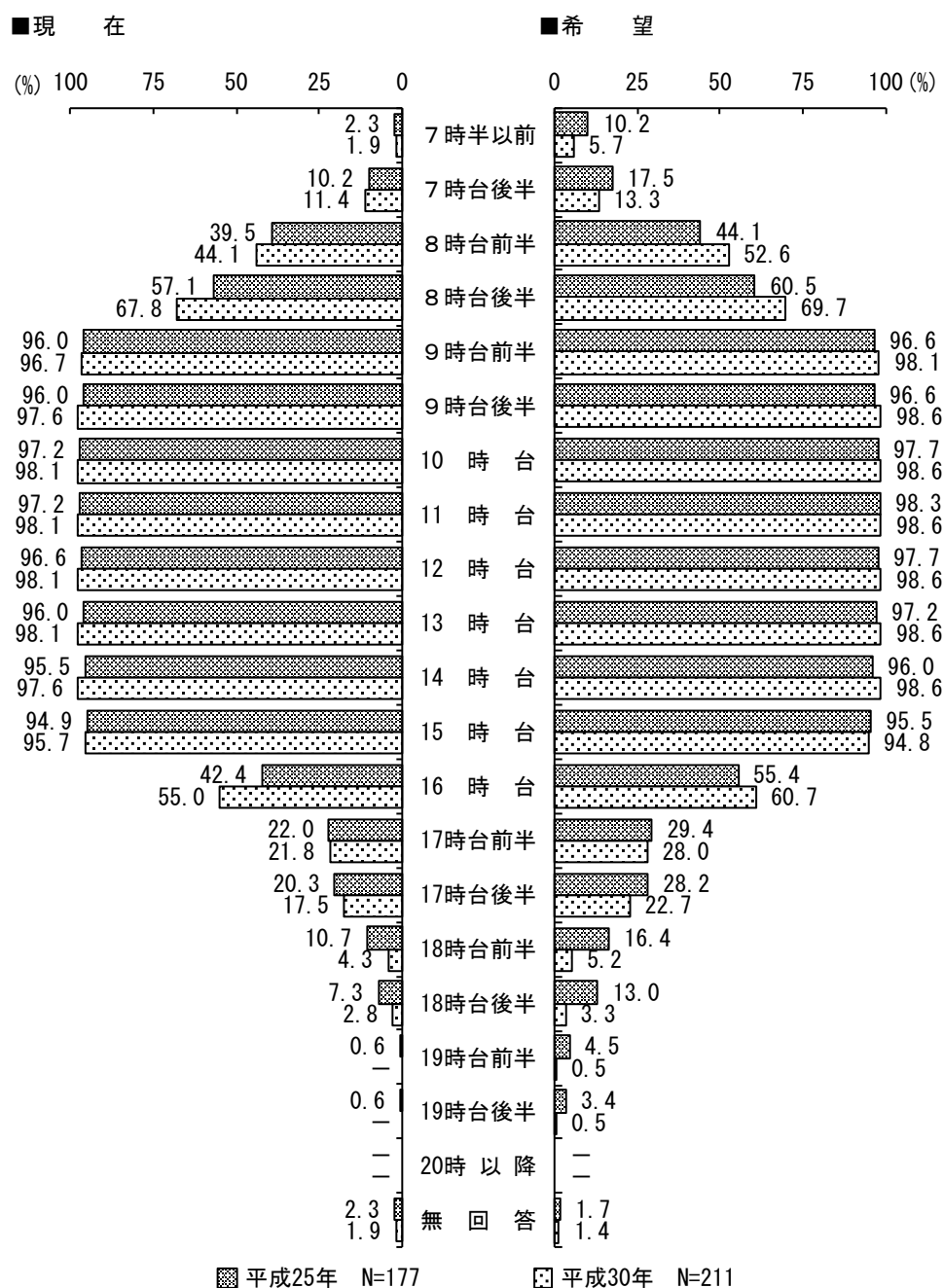
(注) グラフは表記の都合上、全体以外は1%未満の値を省略しています。

③ 利用時間帯（現在・希望）

現在の利用時間帯は、7時半以前から徐々に高くなり、9時台前半から15時台は95%以上となっています。16時台になると55.0%にまで低下し、以降、徐々に低くなっています。最も遅い時間帯は18時台後半で2.8%となっています。平成25年との比較では、7時台後半から16時台までが高くなっています。

希望する利用時間帯は、概ね現在と同様ですが、現在より5ポイント以上高いのは、8時台前半および16時台から17時台後半となっています。

図表1-36 利用時間帯（現在・希望）



(5) 事業所内保育施設の利用状況

① 利用日数・利用時間（現在・希望）

事業所内保育施設の現在の利用日数は、10人の利用者のうち2人が「週1～4日」、8人が「週5日」と答えています。希望する利用日数は、10人の利用者のうち1人が「週1～4日」、9人が「週5日」と答えています。

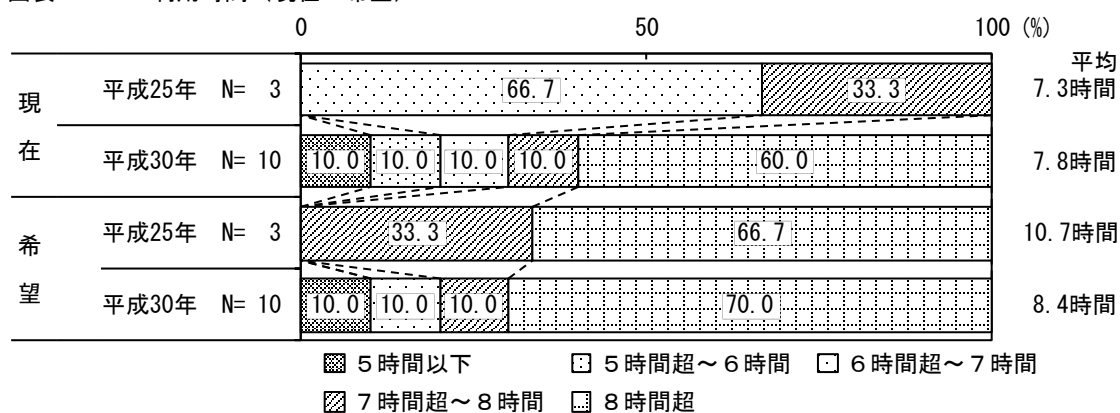
図表1－38で現在の利用時間および希望する利用時間をみると、現在の利用時間は「8時間超」が60.0%（6人）と最も多く、平均が7.8時間です。平成25年との比較では、平均は0.5時間増加しています。希望する利用時間は「8時間超」が70.0%（7人）と最も高く、平均が8.4時間となっています。

図表1－37 利用日数（現在・希望）

単位：人

区 分	N	週1～4日	週5日
現 在	10	2	8
希 望	10	1	9

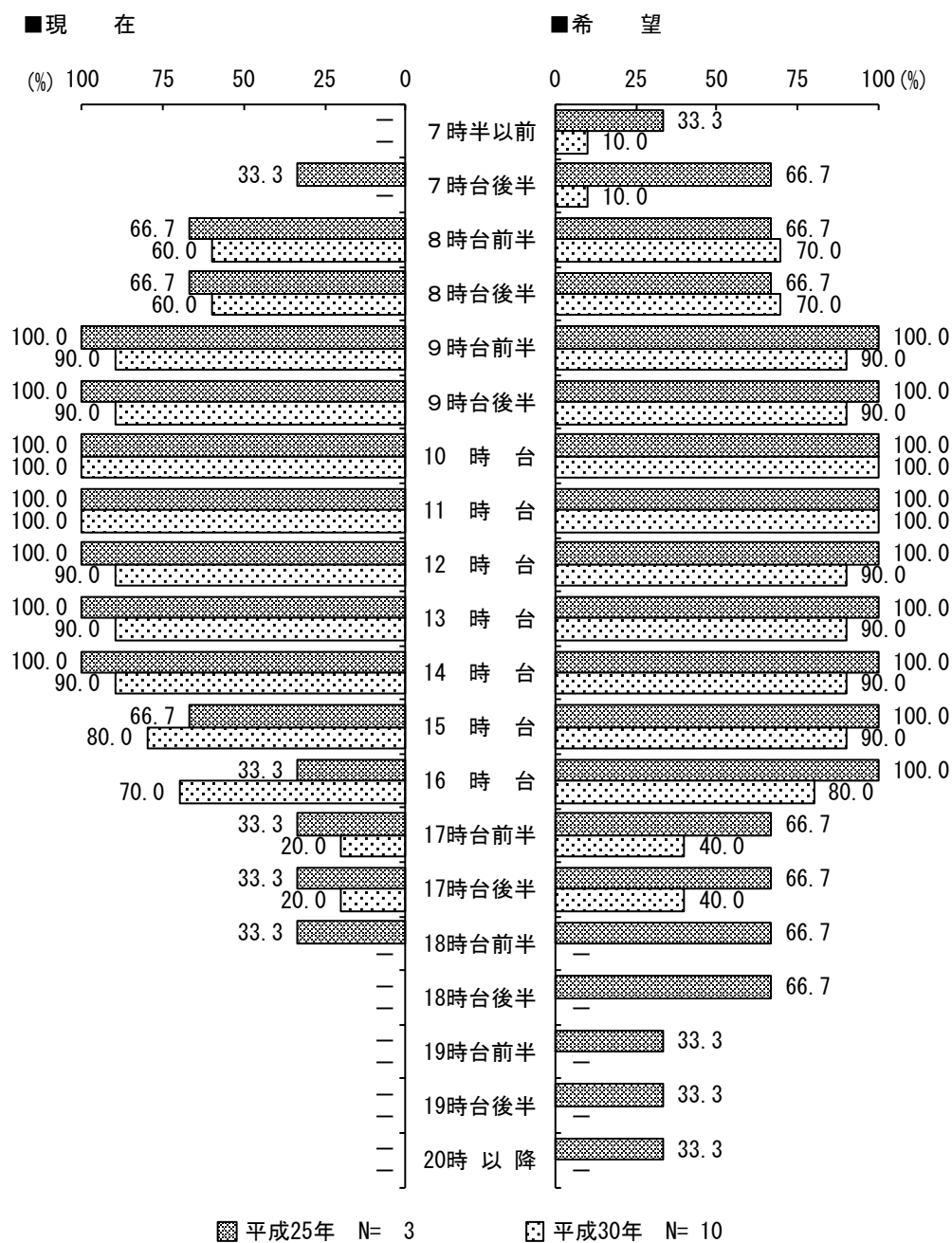
図表1－38 利用時間（現在・希望）



② 利用時間帯（現在・希望）

現在の利用時間帯は、8時台前半から17時台後半までとなっています。平成25年と比べて、朝夕それぞれ30分ほど短くなっています。希望の利用時間帯は9時台前半から14時台までは同じ割合となっており、8時台後半より前および15時台から以降17時台後半までが高くなっています。

図表 1－39 利用時間帯（現在・希望）

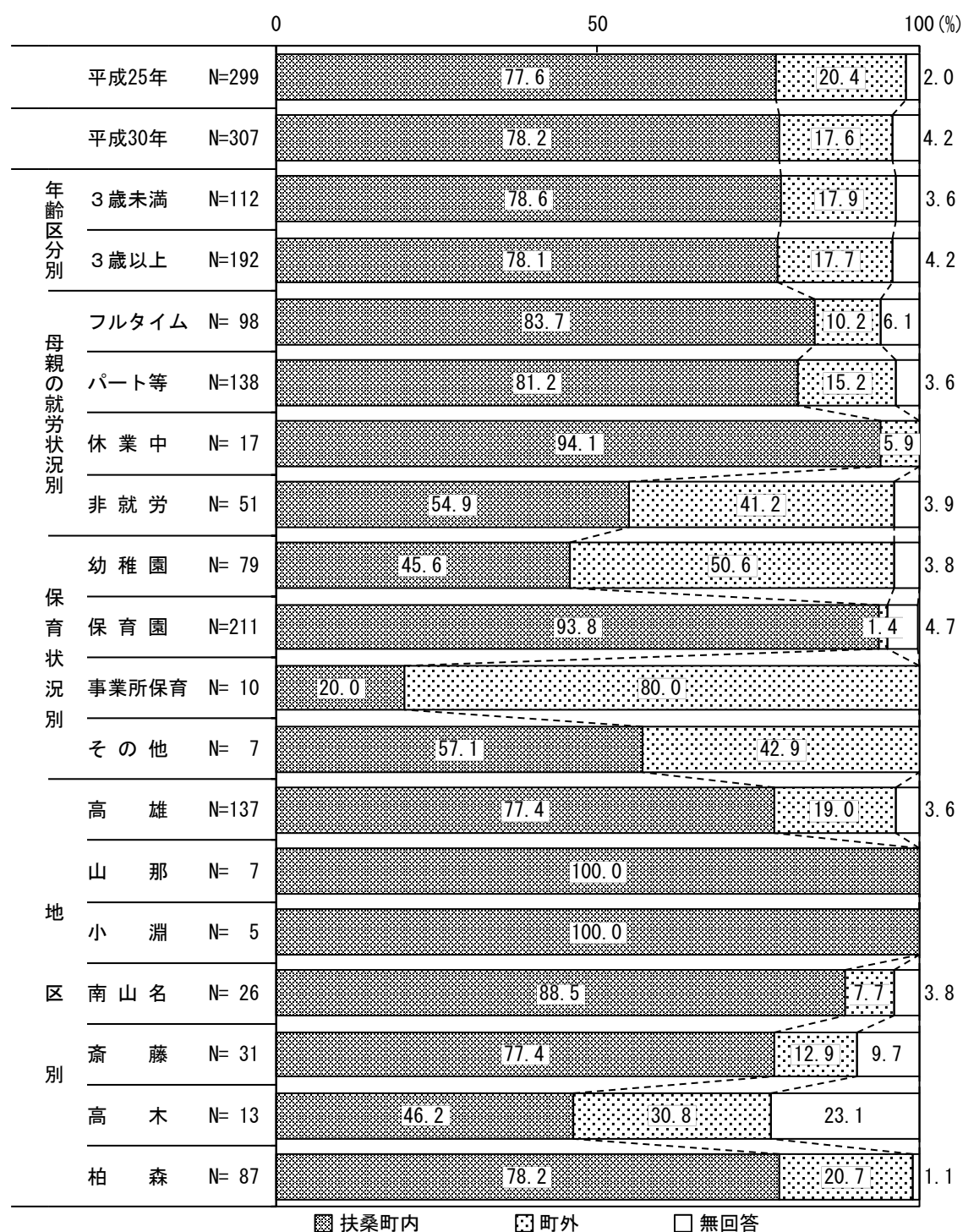


(6) 定期的な教育・保育事業を利用している場所

現在、利用している教育・保育事業の実施場所は、「扶桑町内」が78.2%、「町外」が17.6%です。平成25年との比較では、「町外」が低くなっています。

「町外」として、犬山市（17件）、大口町（16件）、江南市（9件）、各務原市（2件）、一宮市、小牧市、春日井市、名古屋市、可児市の記述がありました。

図表 1－40 定期的な教育・保育事業を利用している場所

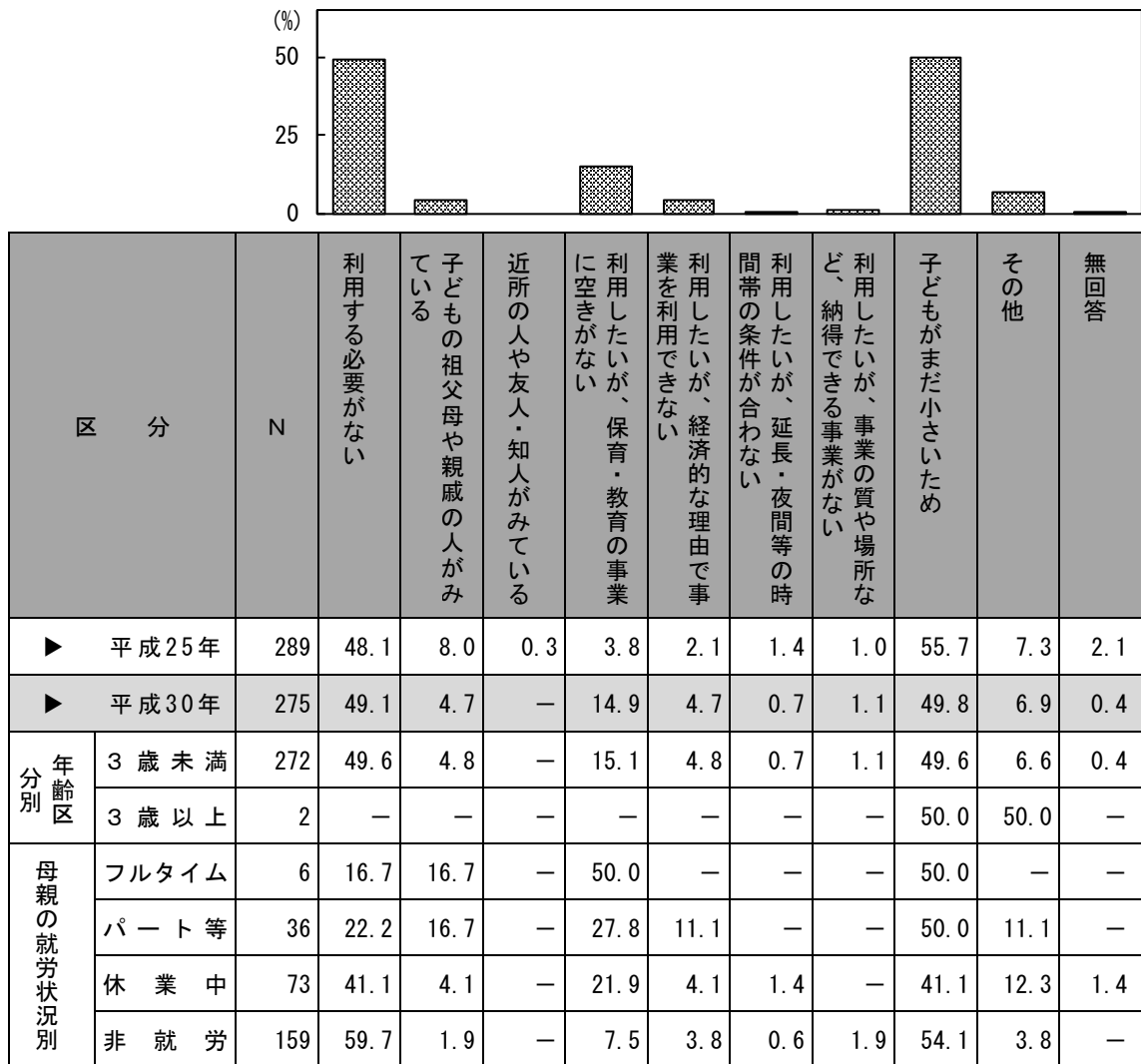


(7) 定期的な教育・保育事業を利用していない理由

定期的な教育・保育事業を「利用していない」と回答した人の理由は、「子どもがまだ小さいため」が49.8%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が49.1%となっています。「子どもの祖父母や親戚の人がみている」は4.7%です。「事業に空きがない」「経済的な理由で」「条件があわない」「納得できる事業がない」を合計した《利用したいが、できない》は21.4%です。平成25年との比較では、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」は3.3ポイント低下し、《利用したいが、できない》は13.1ポイント高くなっています。特に「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」は11.1ポイント高くなっています。

「その他」として、「育児休職中の為」（5件）などの記載がありました。

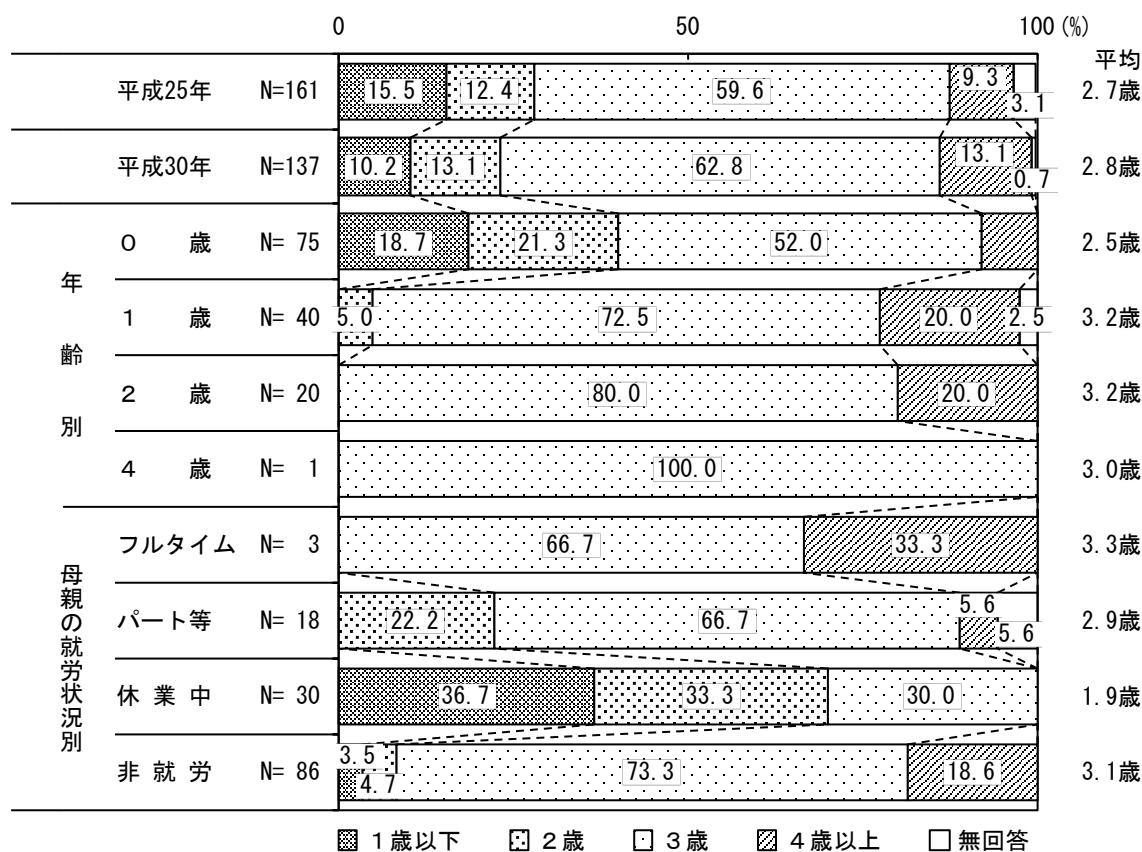
図表 1－41 定期的な教育・保育事業を利用していない理由（複数回答） 単位：Nは人、他は%



(8) 子どもが何歳になったら利用したいか

前項で、「子どもがまだ小さいため」と回答した人に、子どもが何歳になったら利用したいかをたずねたところ、「3歳」が62.8%と最も高く、次いで「2歳」および「4歳以上」が13.1%となっており、平均は2.8歳です。平成25年との比較では、「1歳以下」が低くなっています。

図表1-42 子どもが何歳になったら利用したいか



(注) 年齢別の3歳、5歳は、前項で「子どもがまだ小さいため」と回答した人がいませんでした。

(9) 定期的に利用したい教育・保育事業

現在、利用している、利用していないにかかわらず、定期的に利用したい教育・保育事業は、「保育園」が68.4%と最も高く、次いで「幼稚園」が48.8%、「幼稚園の預かり保育」が24.7%などの順となっています。平成25年との比較では、「認定こども園」「小規模な保育施設」「家庭的保育」および「自治体の認証・認定保育施設」が低くなっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイム、パート等および休業中は「保育園」が高く、非就労は「幼稚園」が高くなっています。

保育状況別にみると、未利用者の65.1%が「保育園」を、57.1%が「幼稚園」を利用したいと考えています。

図表 1－43 定期的に利用したい教育・保育事業（複数回答）

単位：Nは人、他は%

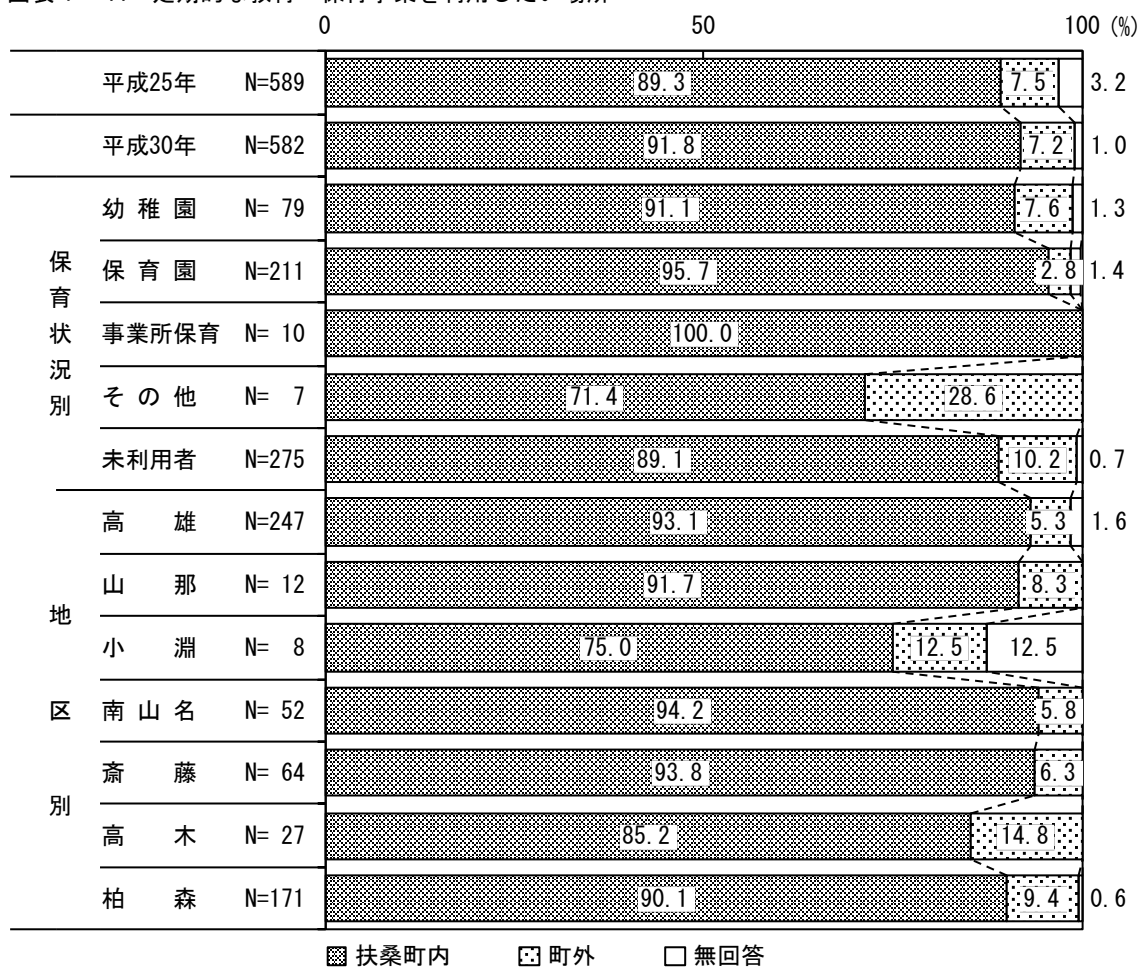
区 分		N	幼稚園	幼稚園の預かり保育	保育園	認定こども園	小規模な保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	自治体の認証・認定保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
▶ 平成25年		589	44.3	22.2	61.1	23.1	6.1	2.0	5.8	3.7	0.7	1.7	4.6	1.7	2.0
▶ 平成30年		582	48.8	24.7	68.4	22.7	5.7	1.9	8.4	2.9	1.4	3.1	7.4	2.2	0.9
年齢区別	3歳未満	384	51.6	25.0	69.8	26.0	7.3	2.3	9.4	3.4	1.3	2.9	8.1	2.3	1.3
	3歳以上	194	43.8	24.7	65.5	16.5	2.6	1.0	6.2	2.1	1.5	3.6	6.2	2.1	—
母親の就労状況別	フルタイム	104	29.8	21.2	91.3	26.0	3.8	2.9	11.5	3.8	1.9	4.8	3.8	2.9	—
	パート等	174	34.5	19.5	72.4	19.5	2.9	1.7	6.3	2.9	2.9	2.9	4.6	1.7	—
	休業中	90	37.8	25.6	87.8	40.0	10.0	3.3	17.8	6.7	—	4.4	18.9	3.3	2.2
	非就労	210	74.3	30.5	45.7	16.2	7.1	1.0	4.8	1.0	0.5	1.9	6.7	1.9	1.4
保育状況別	幼稚園	79	96.2	49.4	12.7	12.7	2.5	1.3	2.5	2.5	1.3	2.5	7.6	1.3	—
	保育園	211	20.4	14.7	94.3	25.1	4.7	2.4	10.0	2.8	1.4	5.2	5.7	3.3	—
	事業所保育	10	50.0	50.0	70.0	30.0	—	—	40.0	—	—	—	—	—	—
	その他	7	42.9	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	42.9	—	14.3	—	—
	未利用者	275	57.1	24.4	65.1	23.3	6.9	1.5	7.6	2.9	0.4	1.8	8.7	1.8	1.8

(10) 定期的な教育・保育事業を利用したい場所

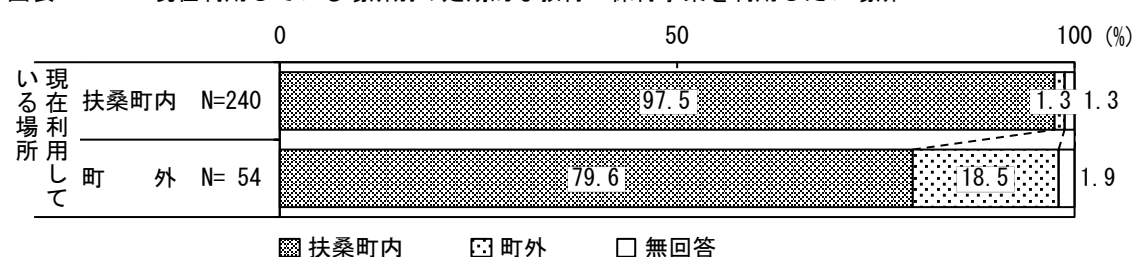
教育・保育事業を利用したい場所は、「扶桑町内」が91.8%を占めています。平成25年との比較では、「扶桑町内」がわずかに高くなっています。

図表1-45で、現在定期的な教育・保育事業を利用している場所別にみると、町外で利用している人の79.6%が「扶桑町内」と回答しています。

図表1-44 定期的な教育・保育事業を利用したい場所



図表1-45 現在利用している場所別の定期的な教育・保育事業を利用したい場所

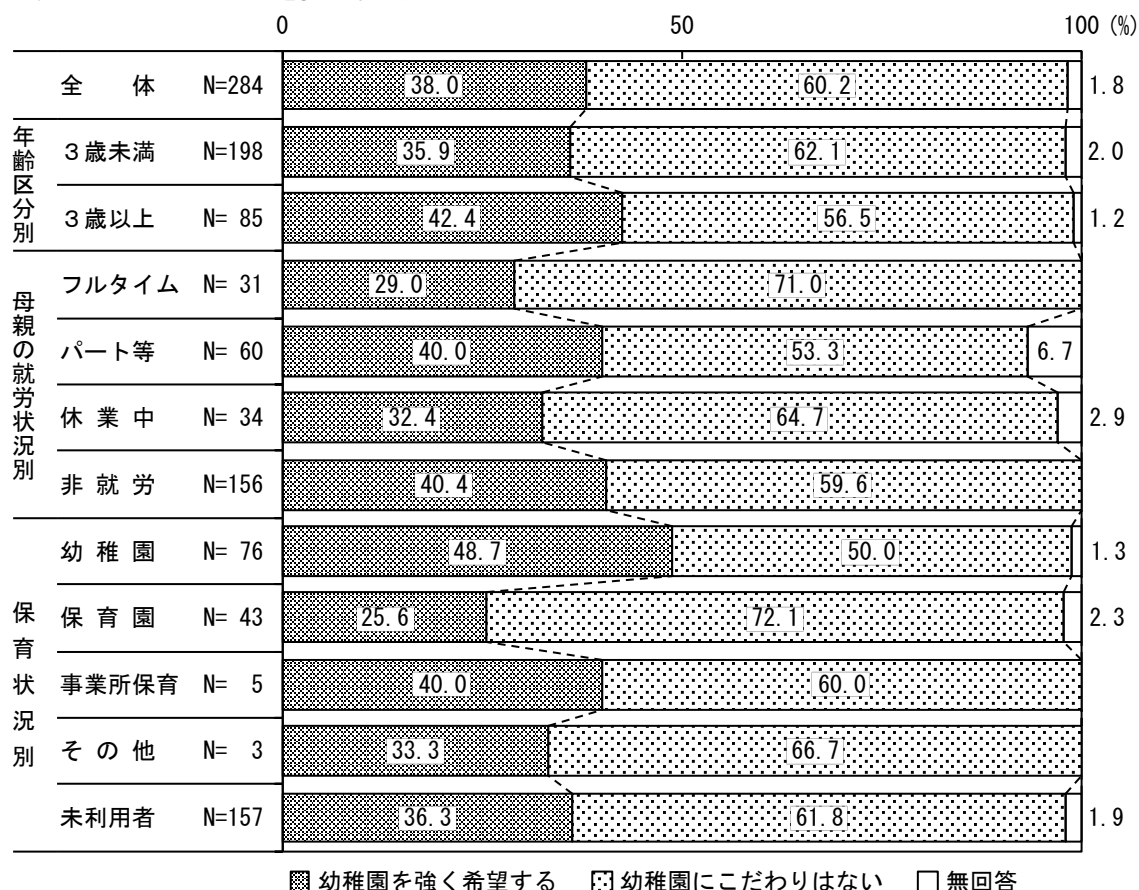


(11) 幼稚園利用を強く希望するか

(9)で「幼稚園」または「幼稚園の預かり保育」と回答した人に、幼稚園利用を強く希望するかをたずねたところ、「幼稚園にこだわりはない」が60.2%と「幼稚園を強く希望する」を上回っています。

「幼稚園を強く希望する」が高いのは、年齢区分別では3歳以上、母親の就労状況別では非就労、保育状況別では幼稚園となっています。

図表 1-46 幼稚園利用を強く希望するか

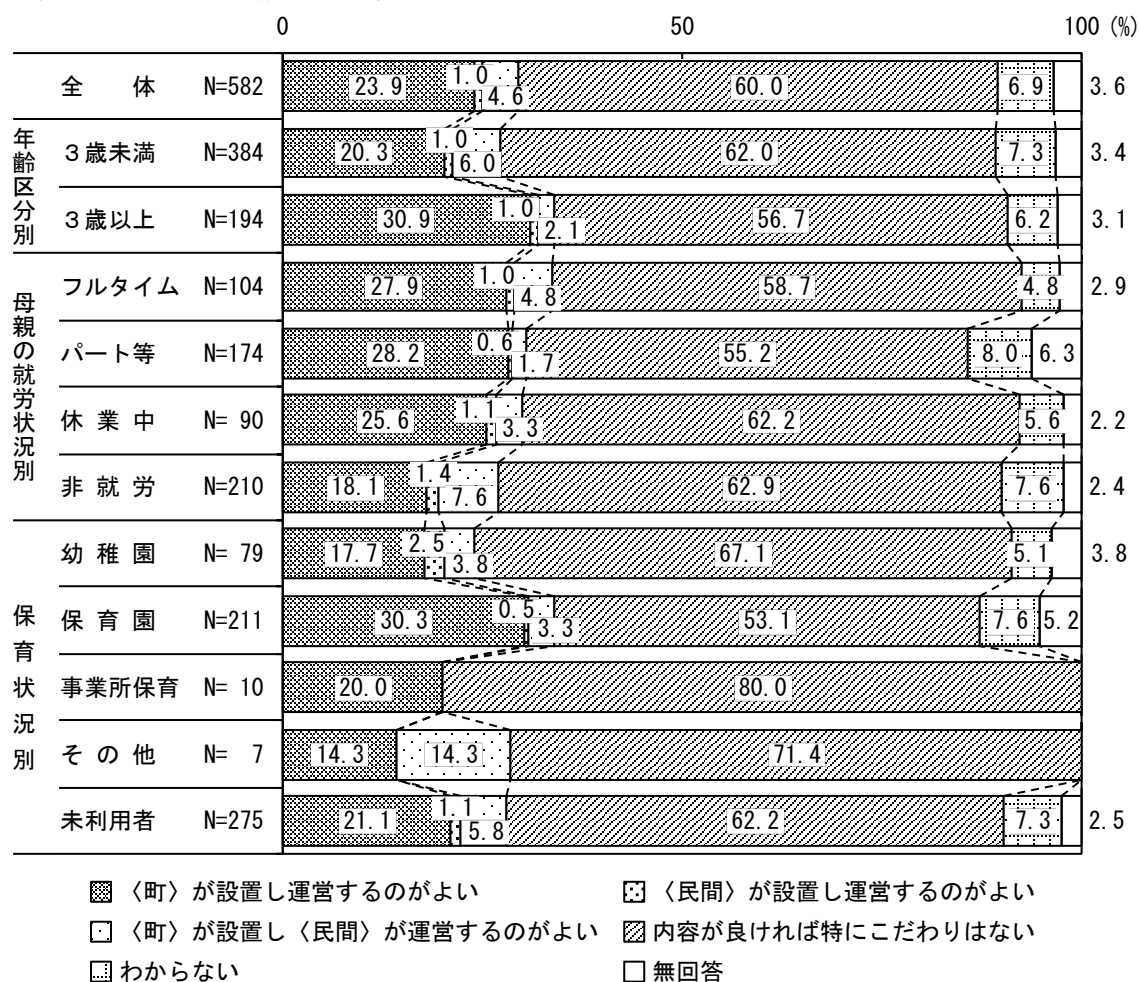


(12) 幼稚園や保育園の運営について

幼稚園や保育園などの設置や運営についてたずねたところ、「内容が良ければ特にこだわりはない」が60.0%を占め、次いで「〈町〉が設置し運営するのがよい」が23.9%などの順となっています。

「〈町〉が設置し運営するのがよい」が高いのは、年齢区分別では3歳以上、母親の就労状況別ではパート等、保育状況別では保育園となっています。

図表 1-47 幼稚園や保育園の運営について



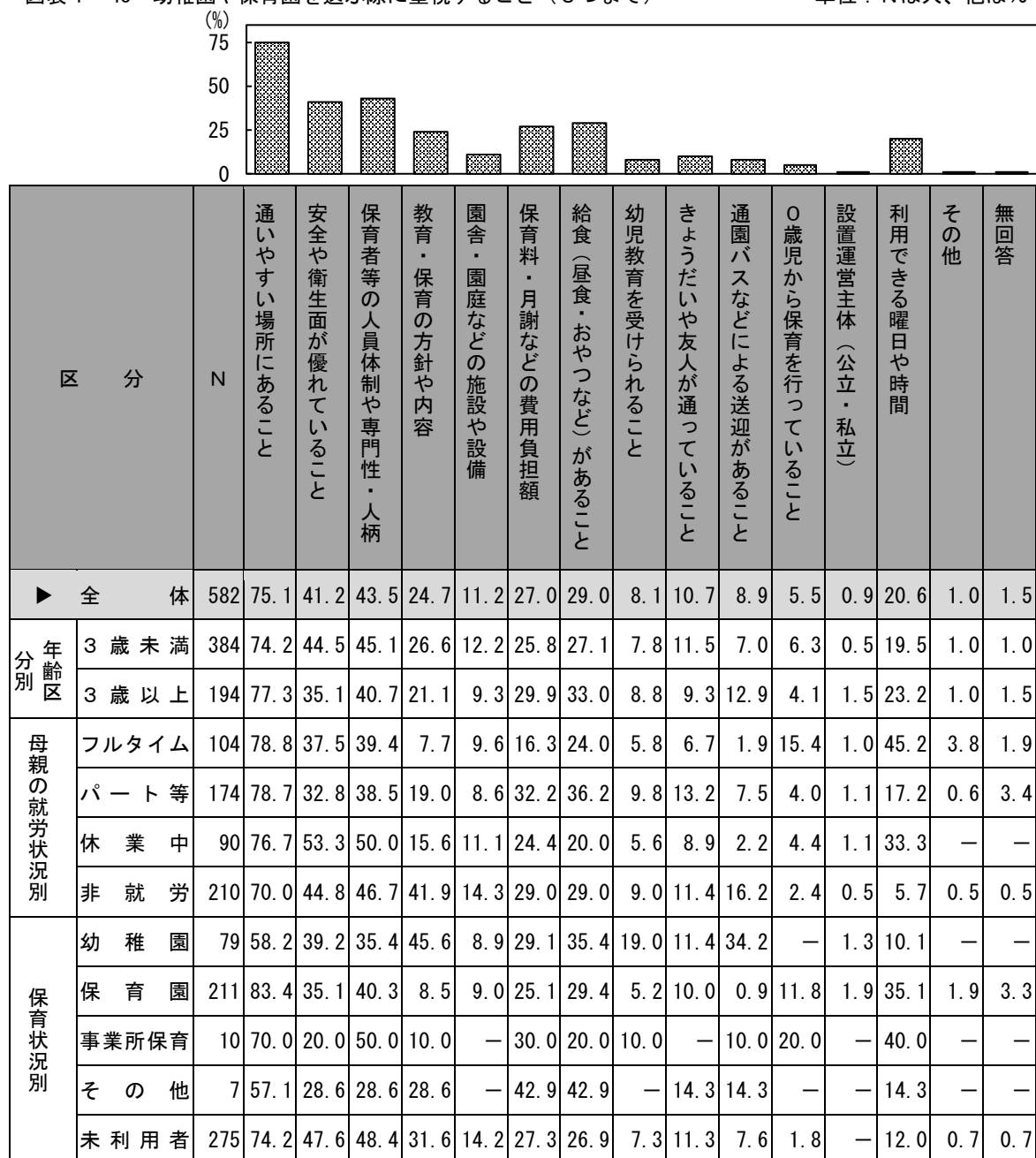
(13) 幼稚園や保育園を選ぶ際に重視すること

幼稚園や保育園を選ぶ際に重視することは、「通いやすい場所にあること」が75.1%と最も高く、次いで「保育者等の人員体制や専門性・人柄」が43.5%、「安全や衛生面が優れていること」が41.2%などの順となっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムは「通いやすい場所にあること」に次いで「利用できる曜日や時間」が45.2%と2番目に高くなっています。保育状況別にみると、保育園は、「通いやすい場所にあること」が8割を超えています。

図表1-48 幼稚園や保育園を選ぶ際に重視すること（3つまで）

単位：Nは人、他は%



5 地域の子育て支援事業

(1) 地域子育て支援センターの利用状況

① 利用状況

親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする地域子育て支援センターの利用状況は、「にこにこらんど（高雄保育園内）」が14.8%。「すくすくらんど（斎藤保育園内）」が11.5%となっています。なお、「利用していない」（73.5%）と「無回答」（1.4%）を除いた25.1%が、いずれかまたは複数の事業を利用していることになります。

図表 1-49 地域子育て支援センターの利用状況

単位：Nは人、他は%

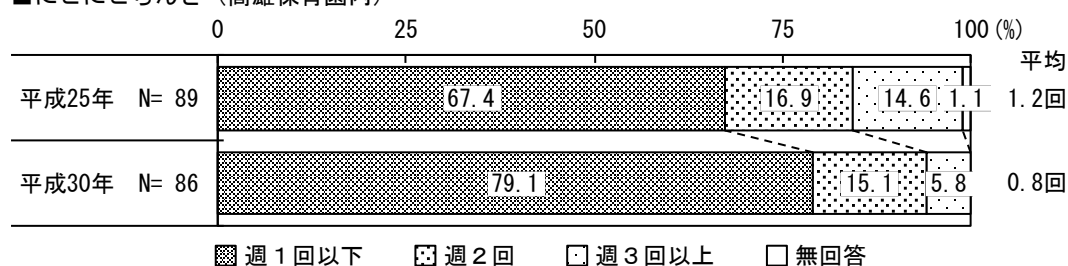
区 分		N	にこにこらんど (高雄保育園内)	すくすくらんど (斎藤保育園内)	利用していない	無回答
▶ 平成 25 年		589	15.1	15.1	69.9	3.6
▶ 平成 30 年		582	14.8	11.5	73.5	1.4
年齢 別	3 歳 未 満	384	22.1	17.4	60.9	1.3
	3 歳 以 上	194	0.5	—	97.9	1.5
母親の 就労状況 別	フ ル タ イ ム	104	2.9	—	93.3	3.8
	パ ー ト 等	174	6.9	3.4	89.1	0.6
	休 業 中	90	20.0	27.8	52.2	1.1
	非 就 労	210	24.8	17.1	60.0	1.0
保育 状況 別	幼 稚 園	79	1.3	—	94.9	3.8
	保 育 園	211	2.4	1.4	94.3	2.4
	事 業 所 内 保 育 施 設	10	20.0	—	80.0	—
	そ の 他	7	14.3	—	85.7	—
	未 利 用 者	275	28.0	23.3	50.9	—
地 区 別	高 雄	247	26.3	1.6	72.9	0.8
	山 那	12	8.3	16.7	83.3	—
	小 淵	8	—	—	100.0	—
	南 山 名	52	5.8	5.8	88.5	—
	斎 藤	64	1.6	20.3	75.0	3.1
	高 木	27	25.9	25.9	48.1	3.7
	柏 森	171	5.3	22.2	71.3	1.8

② 利用回数

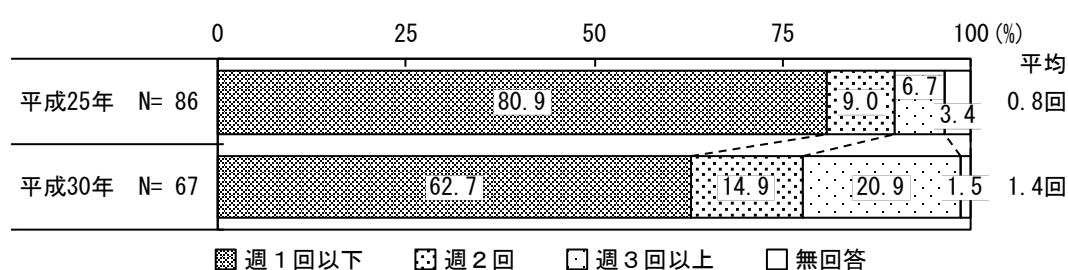
①の「にこにこらんど」「すくすくらんど」の利用者に、その利用頻度をたずねたところ、いずれも「週1回以下」が半数以上を占めています。1週当たりの平均利用回数は、にこにこらんどが0.8回、すくすくらんどが1.4回です。平成25年との比較では、にこにこらんどは、「週1回以下」が11.7ポイント高くなり、1週当たりの平均利用回数が0.4回減少しています。すくすくらんどは「週3回以上」が14.2ポイント高くなり、1週当たりの平均利用回数が0.6回増加しています。

図表1-50 利用回数（回／週）

■にこにこらんど（高雄保育園内）



■すくすくらんど（斎藤保育園内）

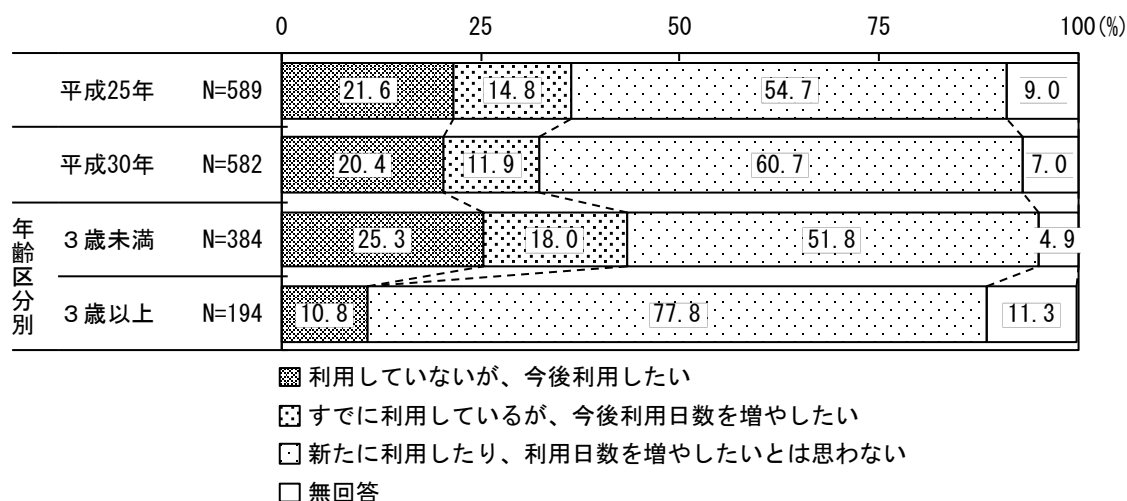


(2) 地域子育て支援センターの利用意向

① 利用意向

地域子育て支援センターの利用意向をたずねたところ、「利用していないが、今後利用したい」は20.4%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は11.9%です。平成25年との比較では、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が6.0ポイント高くなっています。

図表 1-51 地域子育て支援センターの利用意向

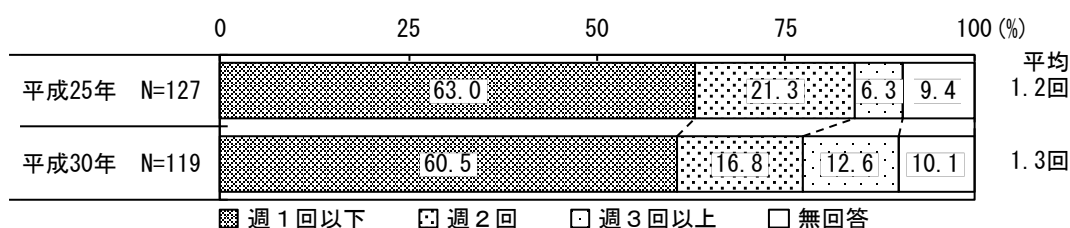


② 利用したい回数

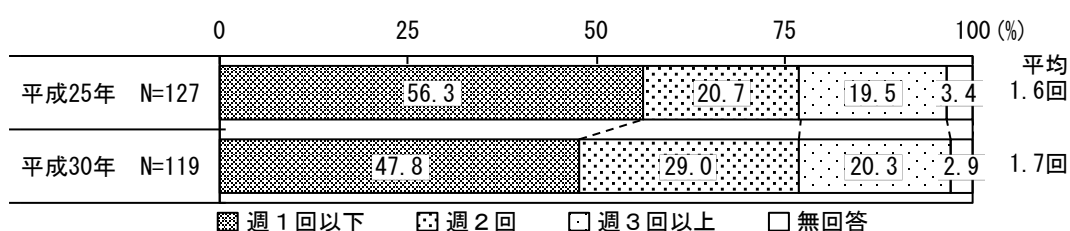
①で、利用意向のあった回答者に利用したい回数をたずねたところ、未利用者が今後利用したい回数は平均1.3回、すでに利用している人が今後増やしたい回数は平均1.7回です。

図表 1-52 利用したい回数

■利用していない人（利用したい回数）



■すでに利用している人（増やしたい回数）

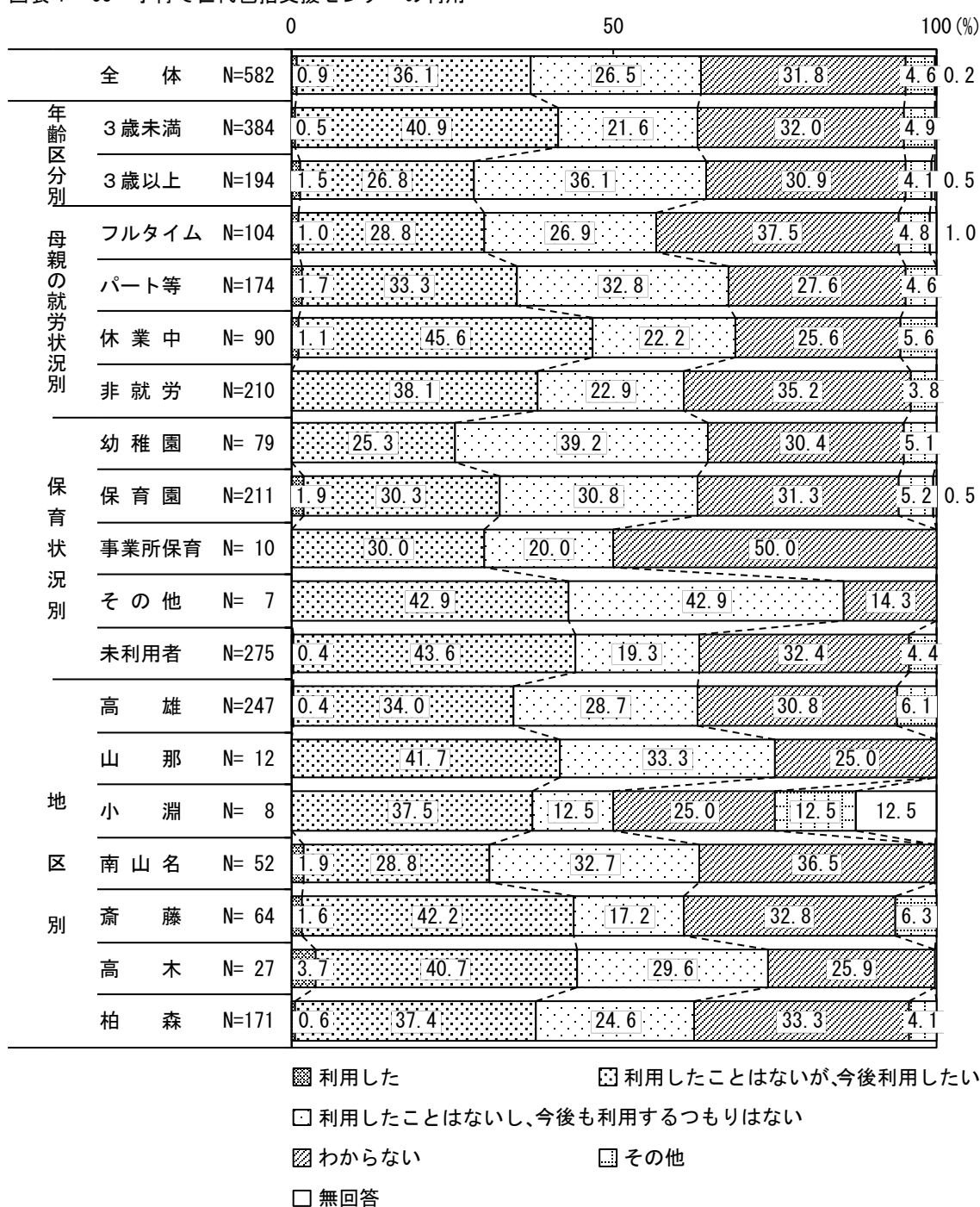


(3) 子育て世代包括支援センターの利用

平成30年4月にオープンした、妊娠期から出産、子育て期までの総合相談窓口となる子育て世代包括支援センターを利用したことがあるかたずねたところ、「利用した」は0.9%にとどまっており、「利用したことはないが、今後利用したい」が36.1%となっています。

年齢区分別にみると、3歳未満は「利用したことはないが、今後利用したい」が最も高く、3歳以上は「利用したことはないし、今後も利用するつもりはない」が最も高くなっています。

図表1-53 子育て世代包括支援センターの利用



(4) その他の子育て支援事業

① 保育園の園庭開放

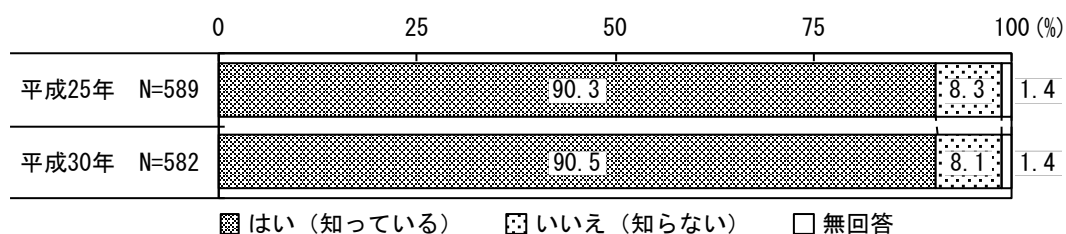
保育園の園庭開放の認知度は90.5%と非常に高くなっています。平成25年から大きな変化はありません。

利用経験では、39.9%が利用したことがあると回答しており、平成25年との比較では、11.5ポイント低下しています。

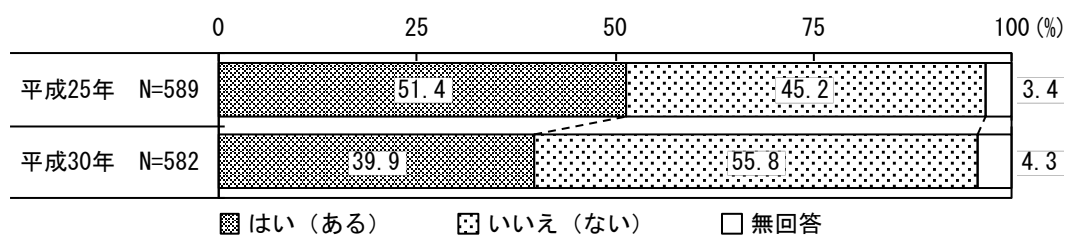
利用意向では、「はい（ある）」が48.6%となっています。平成25年との比較では、「いいえ（ない）」がわずかに高くなっています。

図表 1-54 保育園の園庭開放の認知度、利用経験、利用意向

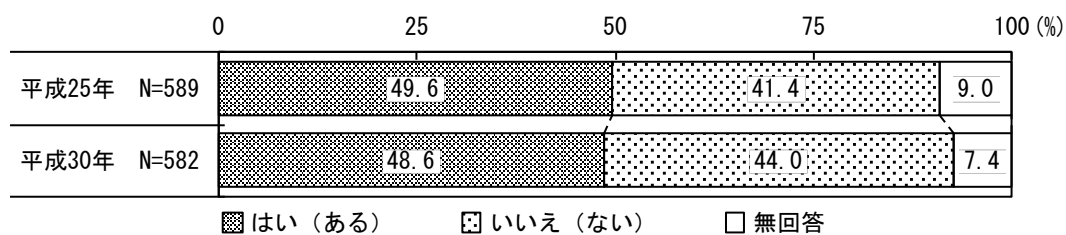
■認知度



■利用経験



■利用意向



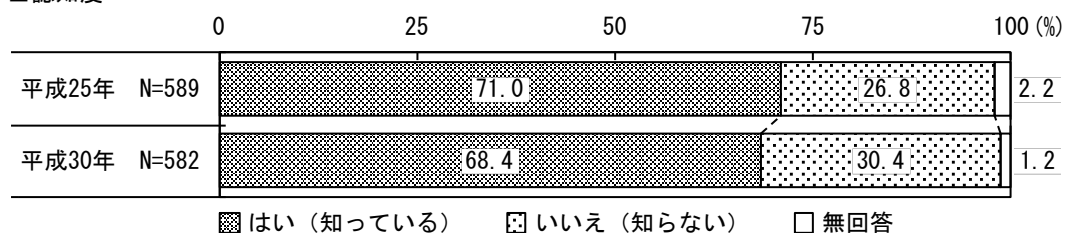
② 育児サークル

育児サークルの認知度は68.4%となっており、平成25年との比較では、2.6ポイント低下しています。

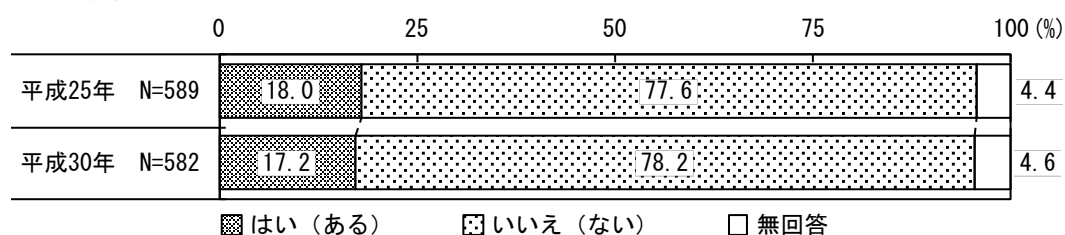
利用経験では、利用したことがある人が17.2%、利用意向では、「はい（ある）」が26.1%となっています。平成25年との比較では、どちらも大きな変化はありません。

図表 1－55 育児サークルの認知度、利用経験、利用意向

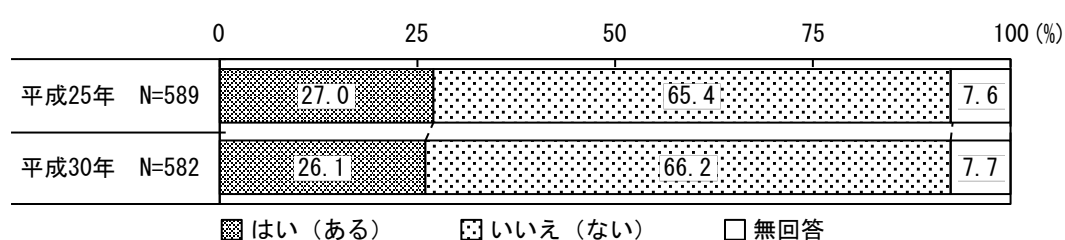
■認知度



■利用経験



■利用意向

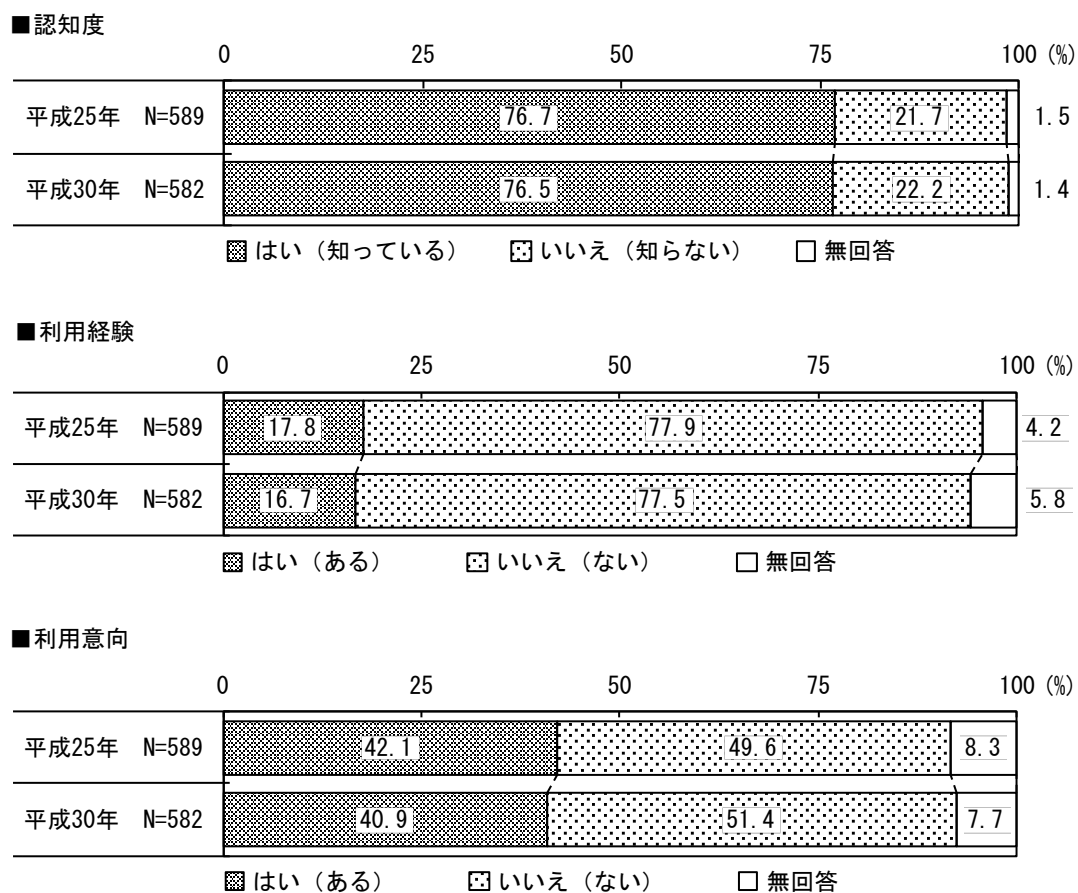


③ 児童相談

児童相談の認知度は76.5%となっており、平成25年から大きな変化はありません。

利用経験では、利用したことがある人が16.7%、利用意向では、「はい（ある）」が40.9%となっており、平成25年との比較では、どちらもわずかに低下しています。

図表 1－56 児童相談の認知度、利用経験、利用意向



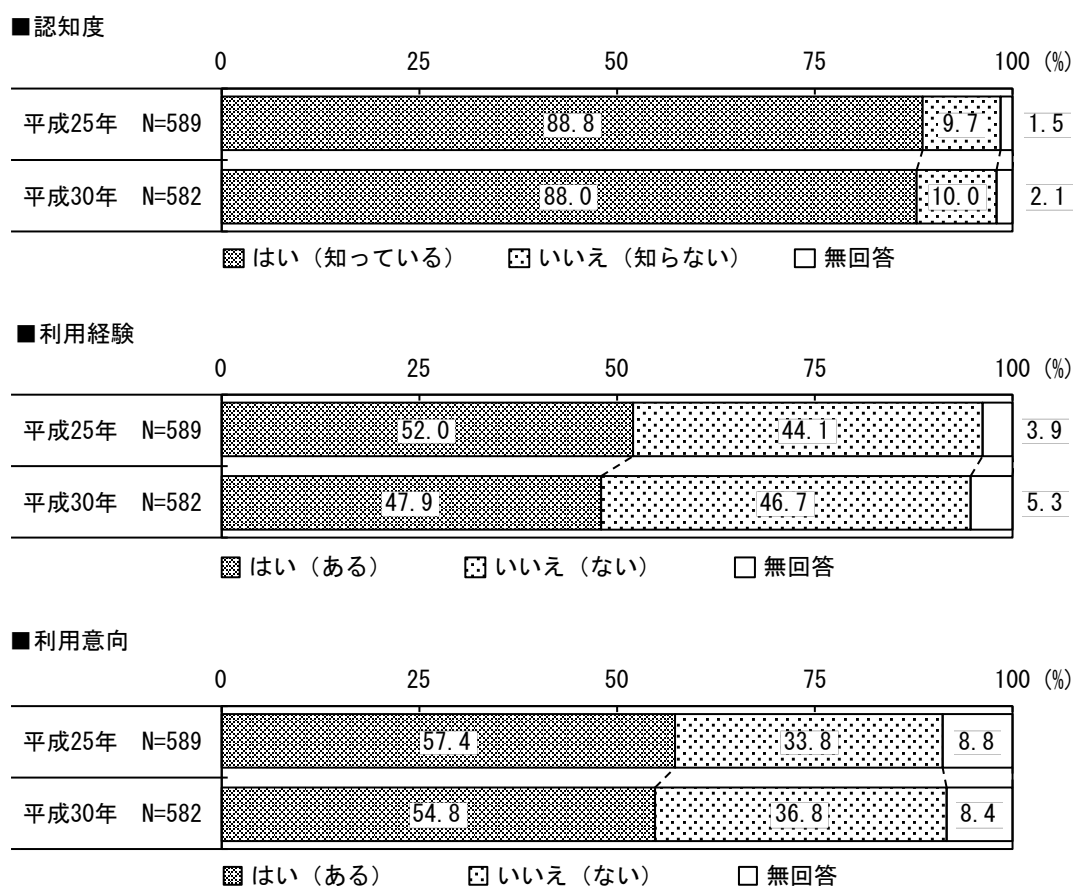
④ 保健センターの情報・相談

保健センターの情報・相談の認知度は88.0%と非常に高くなっています。平成25年から大きな変化はありません。

利用経験では、利用したことがある人は47.9%となっており、平成25年との比較では、4.1ポイント低下しています。

利用意向では、「はい（ある）」が54.8%となっています。平成25年との比較では、2.6ポイント低下しています。

図表 1-57 保健センターの情報・相談の認知度、利用経験、利用意向



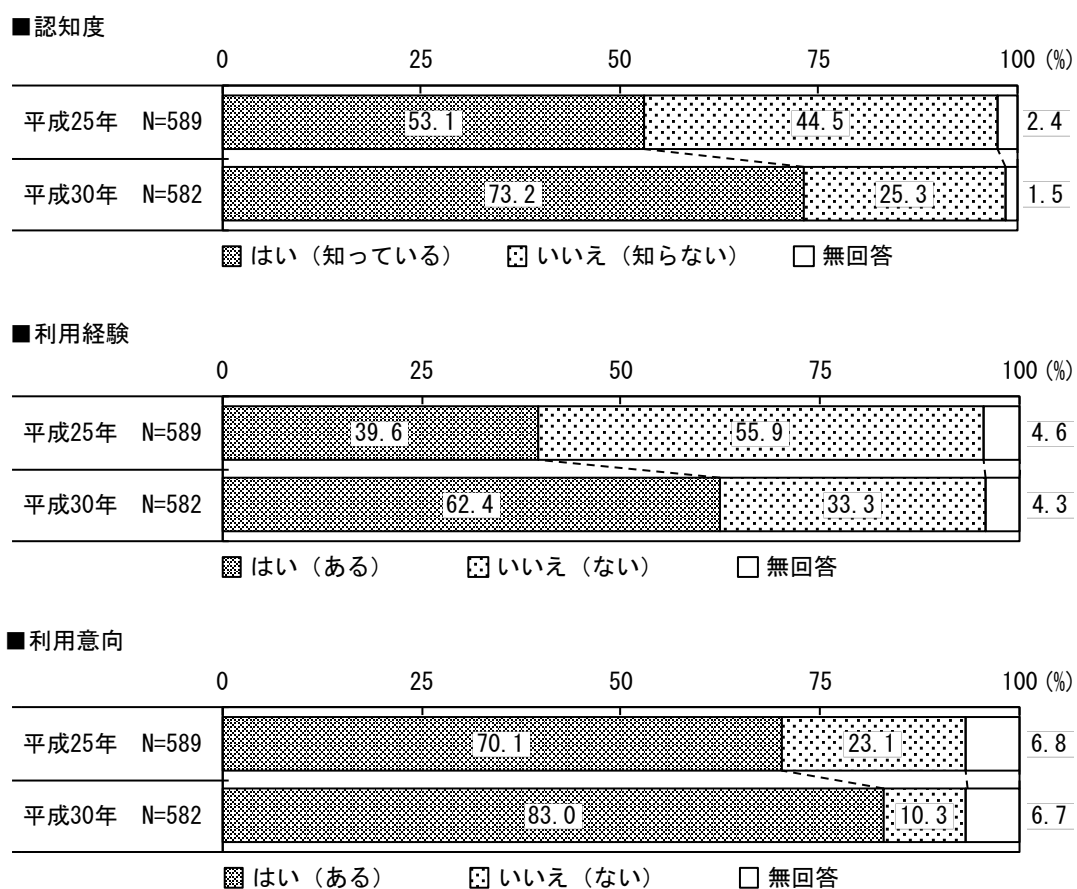
⑤ 児童遊園

児童遊園の認知度は73.2%と、平成25年から20.1ポイント高くなっています。

利用経験では、62.4%が利用したことがあると回答しており、平成25年との比較では、22.8ポイント高くなっています。

利用意向では、「はい（ある）」が83.0%と非常に高く、平成25年との比較では、12.9ポイント高くなっています。

図表 1－58 児童遊園の認知度、利用経験、利用意向



⑥ シルバー人材センターのベビーシッター

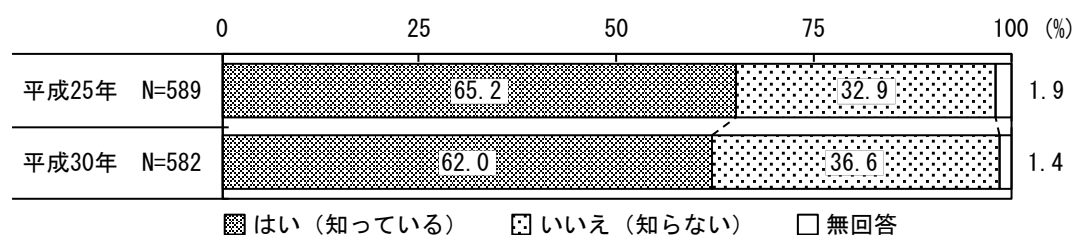
シルバー人材センターのベビーシッターの認知度は62.0%となっており、平成25年から3.2ポイント低下しています。

利用経験では、「はい（ある）」が0.5%と非常に低くなっており、平成25年と同様に、「いいえ（ない）」が90%を超えています。

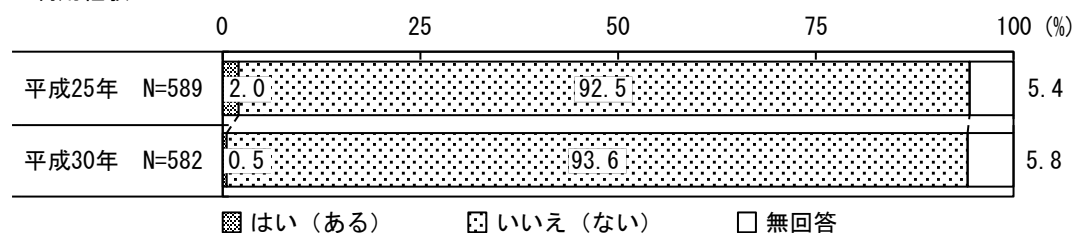
利用意向では、「はい（ある）」が18.0%と、平成25年との比較では、2.7ポイント高くなっています。

図表1-59 シルバー人材センターのベビーシッターの認知度、利用経験、利用意向

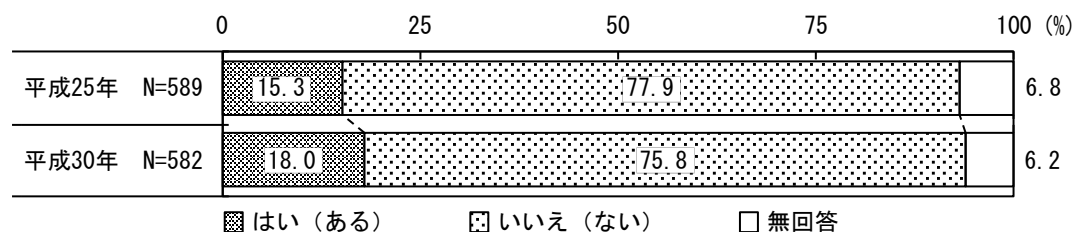
■認知度



■利用経験



■利用意向



⑦ こころろルーム

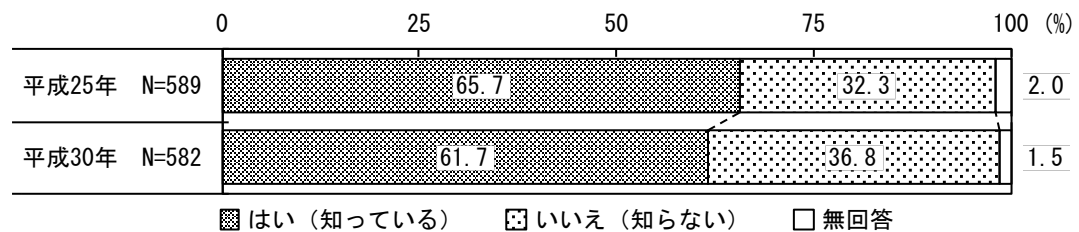
こころろルームの認知度は61.7%となっており、平成25年から4.0ポイント低下しています。

利用経験では、「はい（ある）」が8.4%にとどまっています。平成25年との比較では2.8ポイント高くなっています。

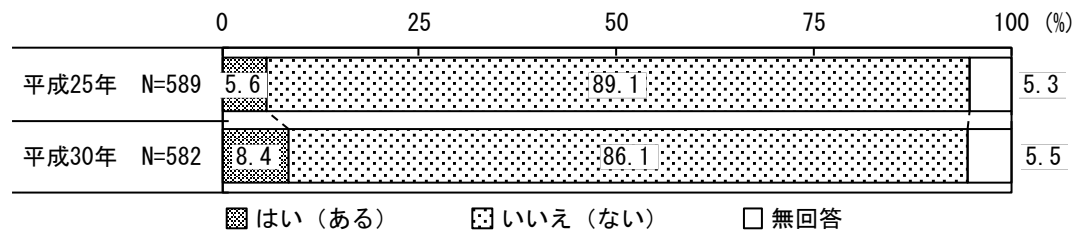
利用意向では、「はい（ある）」が26.8%と、平成25年との比較では、3.2ポイント高くなっています。

図表 1－60 こころろルームの認知度、利用経験、利用意向

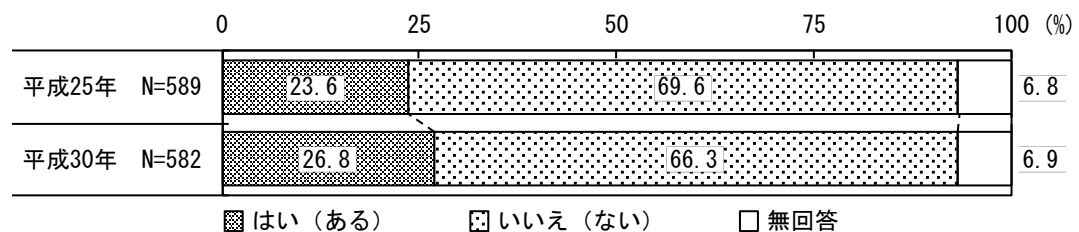
■ 認知度



■ 利用経験



■ 利用意向

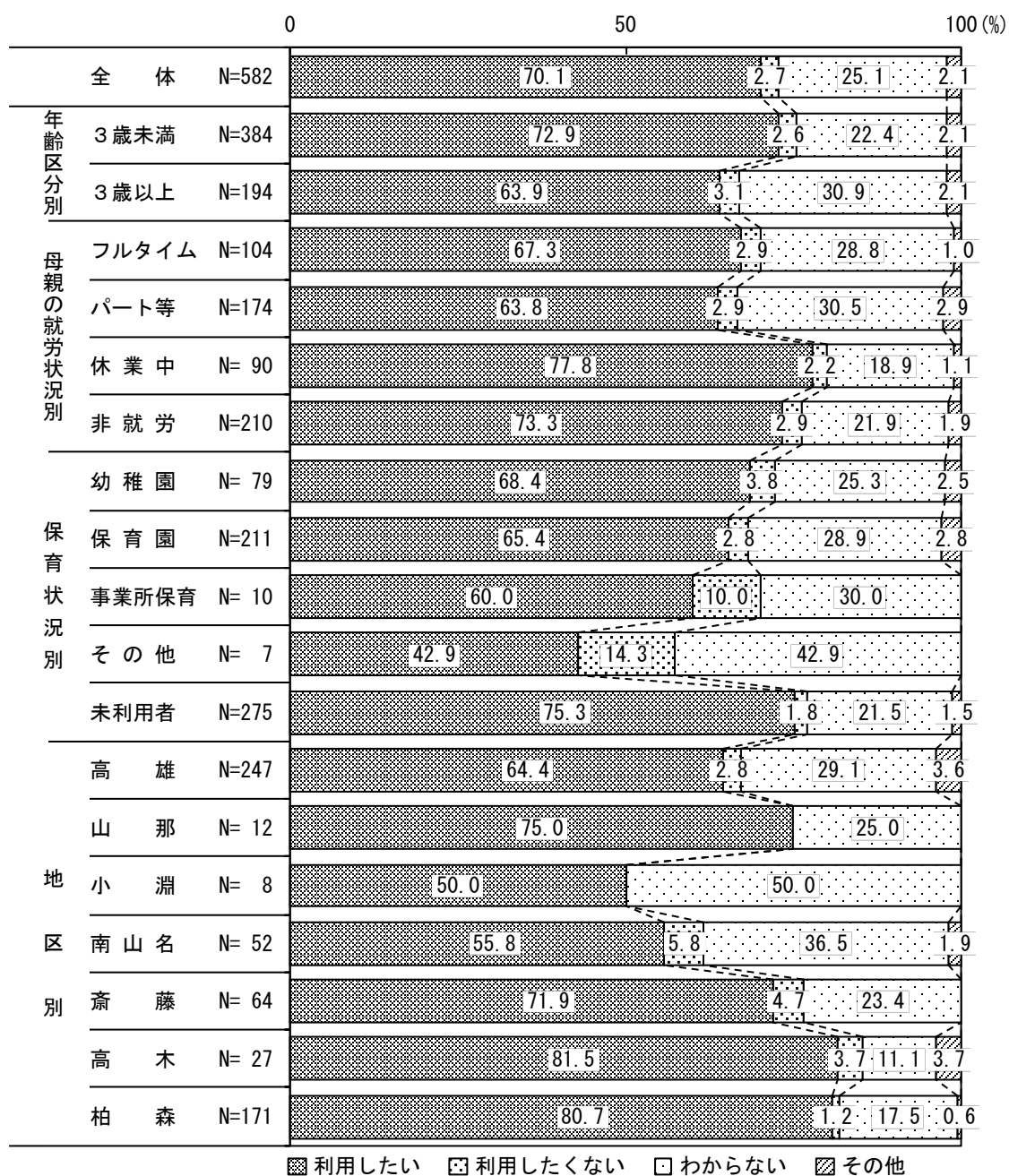


(5) (仮称) 多機能児童館の利用意向

現在、建設している、児童館を中心に多世代が集い交流できるまちづくりの拠点施設である「(仮称) 多機能児童館」の利用意向をたずねたところ、「利用したい」が70.1%を占めています。

「利用したい」が70%以上となっているのは、年齢区分別にみると3歳未満、母親の就労状況別にみると休業中および非就労、保育状況別にみると未利用者、地区別にみると山那地区、斎藤地区、高木地区および柏森地区となっています。

図表 1-61 (仮称) 多機能児童館の利用意向



6 休日・長期休業期間中の定期的な教育・保育事業

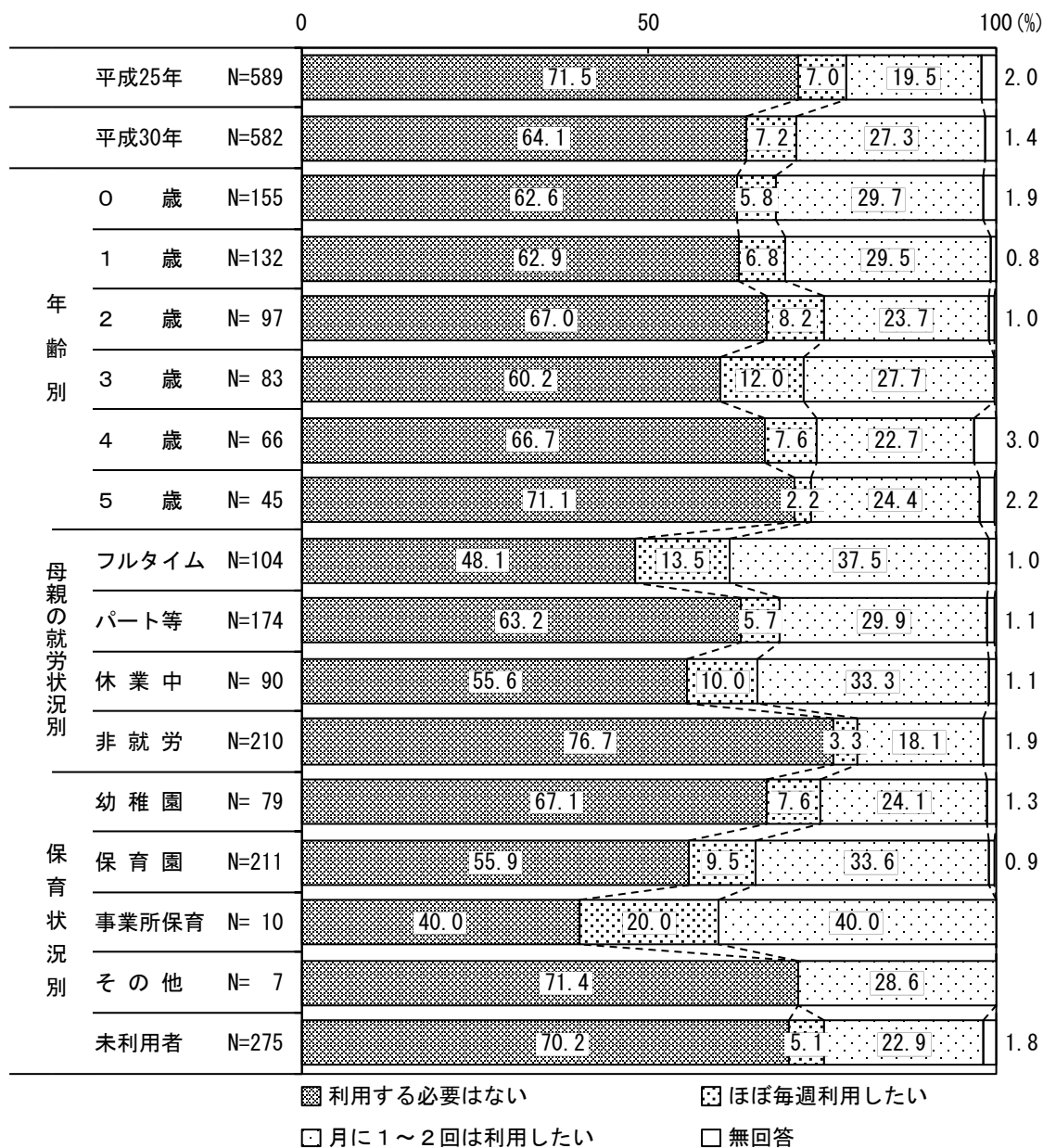
(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業

① 利用意向

土曜日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が64.1%となっています。「ほぼ毎週利用したい」(7.2%)と「月に1～2回は利用したい」(27.3%)を合計した利用意向は34.5%です。平成25年との比較では、利用意向は8.0ポイント高くなっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用意向は51.0%と半数以上となっています。

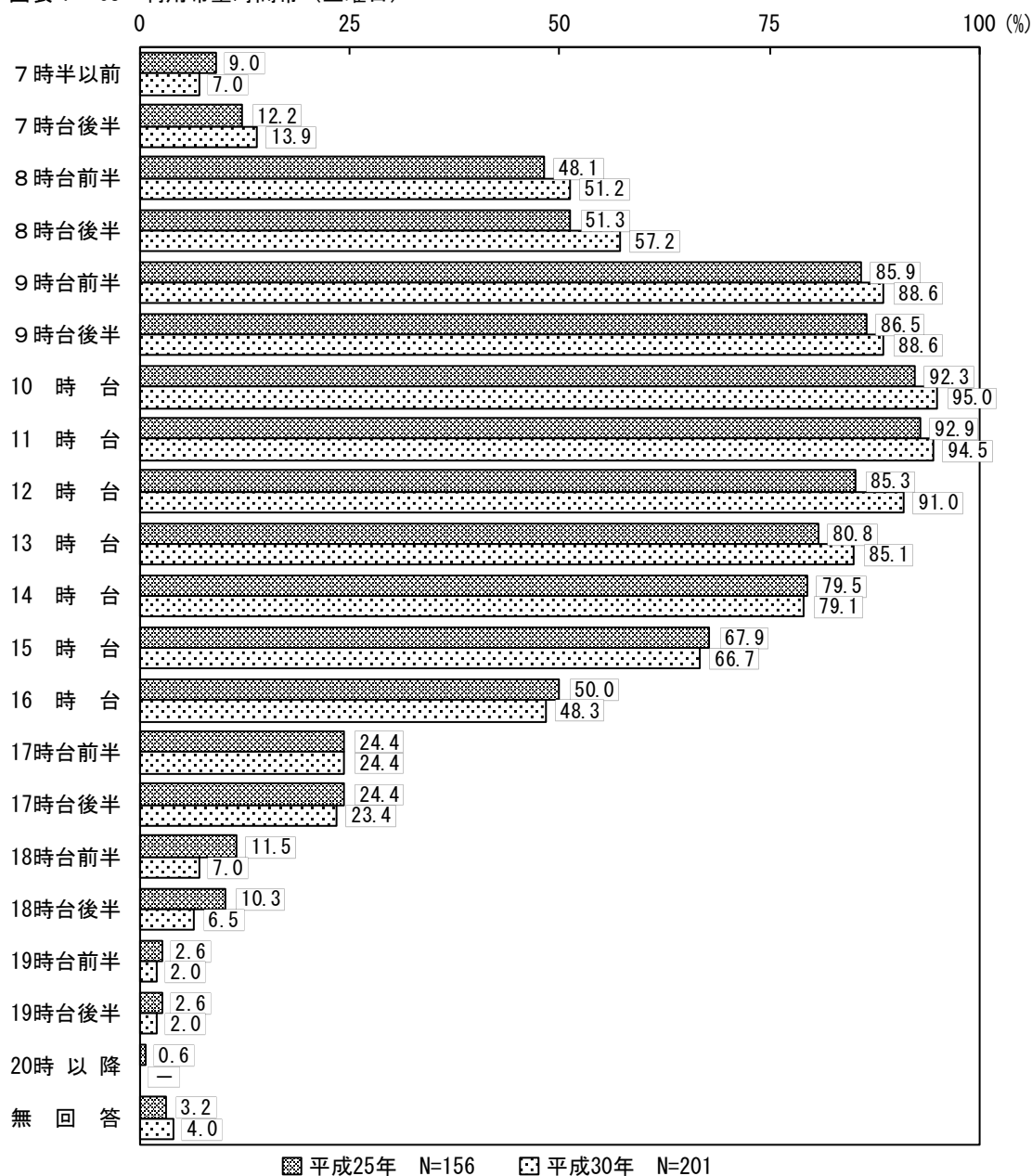
図表 1-62 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯は、8時台前半から50%以上となり、9時台前半～13時台までは85%以上となっています。その後徐々に低下し、最も遅い時間帯は19時後半となっています。平成25年との比較では、7時台後半から13時台までが高くなっています。

図表 1－63 利用希望時間帯（土曜日）

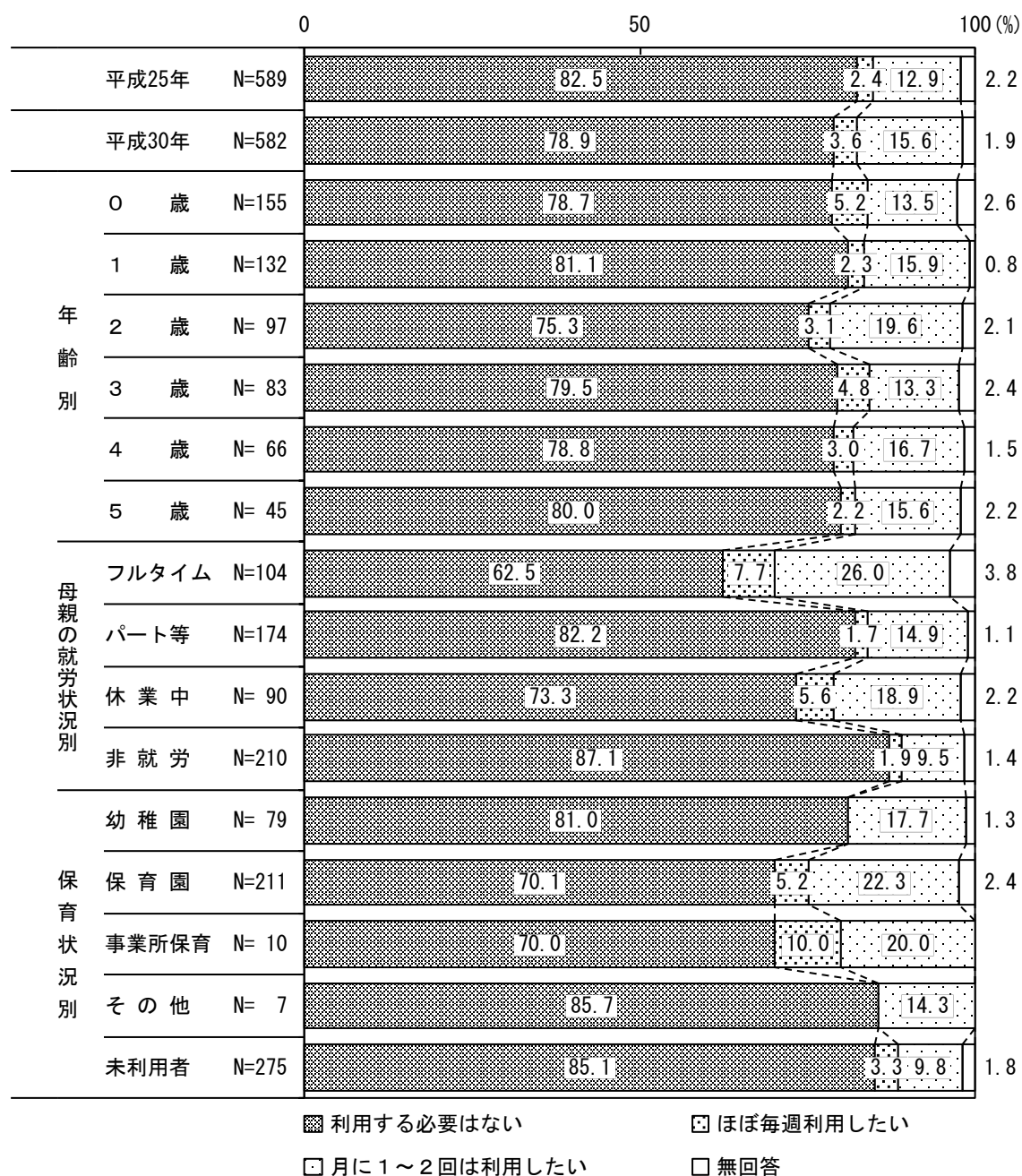


(2) 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業

① 利用意向

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が78.9%を占めています。「ほぼ毎週利用したい」（3.6%）と「月に1～2回は利用したい」（15.6%）を合計した利用意向は19.2%です。平成25年との比較では、利用意向は3.9ポイント高くなっています。

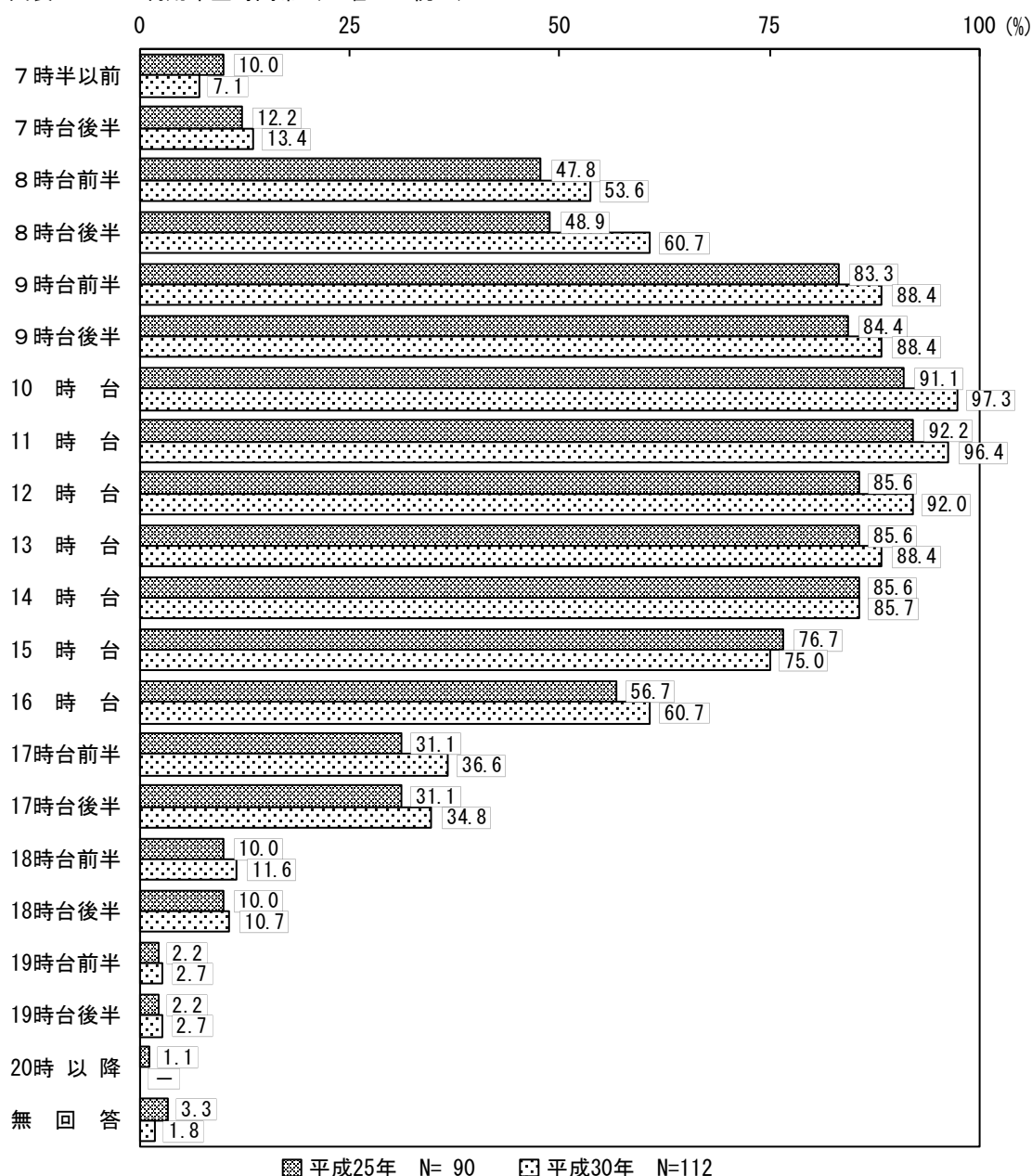
図表 1－64 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望時間帯は、8時台前半から50%を超え、10時台から12時台は90%以上となっています。11時台から徐々に低下し、17時台には36.6%となっています。平成25年との比較では、7時半以前、15時台および20時以降以外はすべて高くなっています。

図表 1－65 利用希望時間帯（日曜日・祝日）

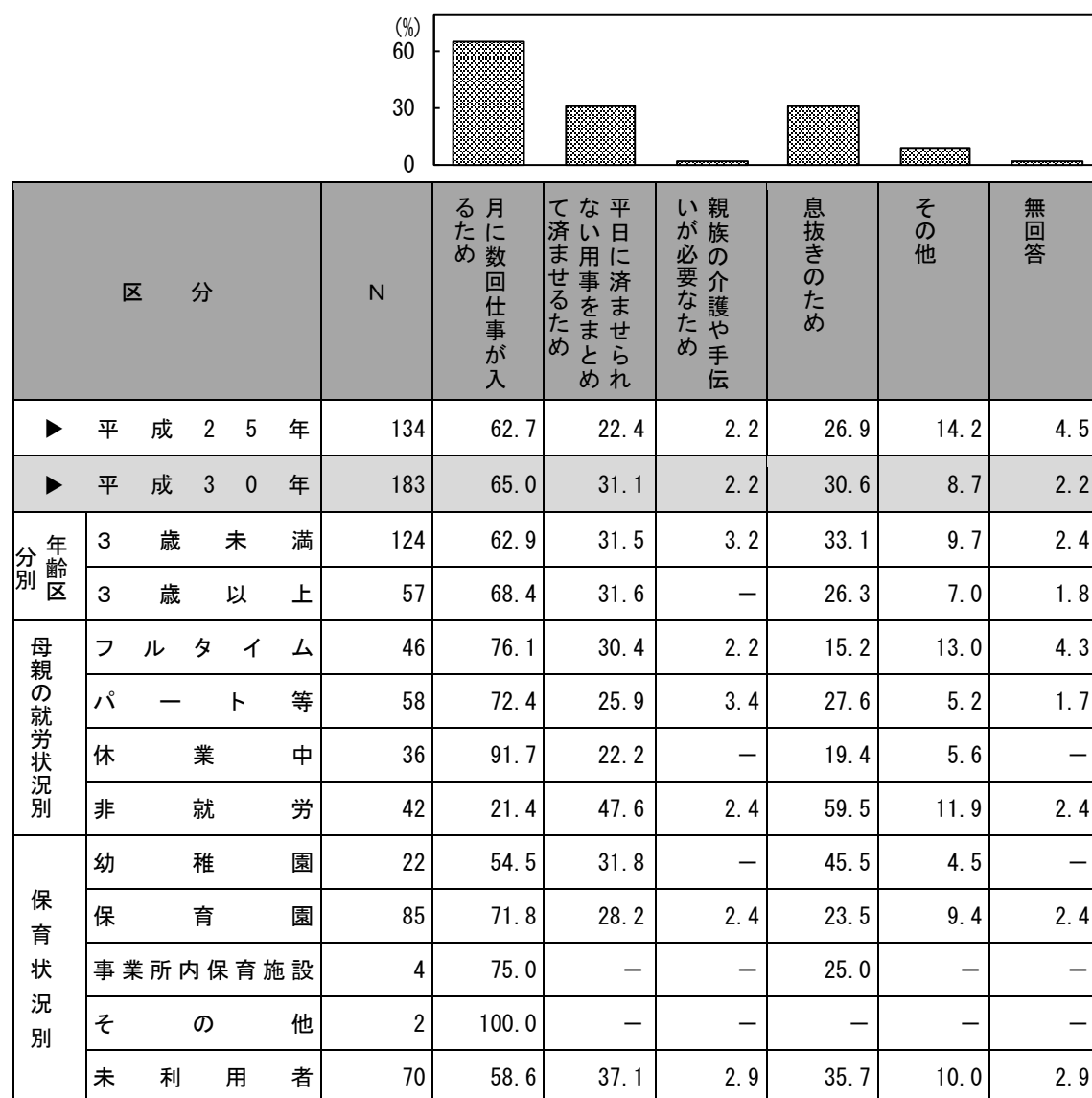


(3) 休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由

休日に定期的な教育・保育事業を「月に1～2回は利用したい」と答えた人に、毎週ではなくたまに利用したい理由をたずねたところ、「月に数回仕事が入るため」が65.0%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が31.1%、「息抜きのため」が30.6%などの順となっています。平成25年と比べ、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が8.7ポイント上昇しています。

「その他」として、「祝日は、仕事が休みではないため」（6件）、「毎週、土・日曜日が休みではないため」（2件）、「仕事がフルタイムの時に、預けたいと思っているから」（2件）、「身内に預けられないときが、月に何度かあるため」などの記述がありました。

図表1-66 休日に定期的な教育・保育事業をたまに利用したい理由（複数回答） 単位：Nは人、他は%

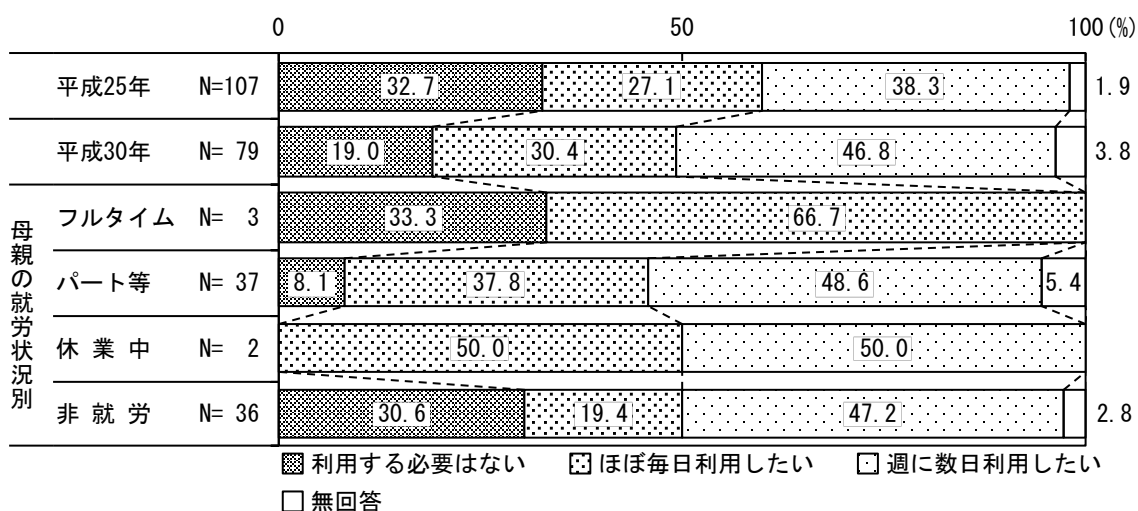


(4) 長期休業期間中の定期的な教育・保育事業（幼稚園利用者）

① 利用意向

幼稚園の利用者に、夏休み・冬休みなど長期の休業期間中における教育・保育事業についてたずねたところ、「週に数日利用したい」が46.8%と最も高く、「ほぼ毎日利用したい」（30.4%）と合計した利用意向は77.2%です。平成25年との比較では、利用意向は11.8ポイント高くなっています。

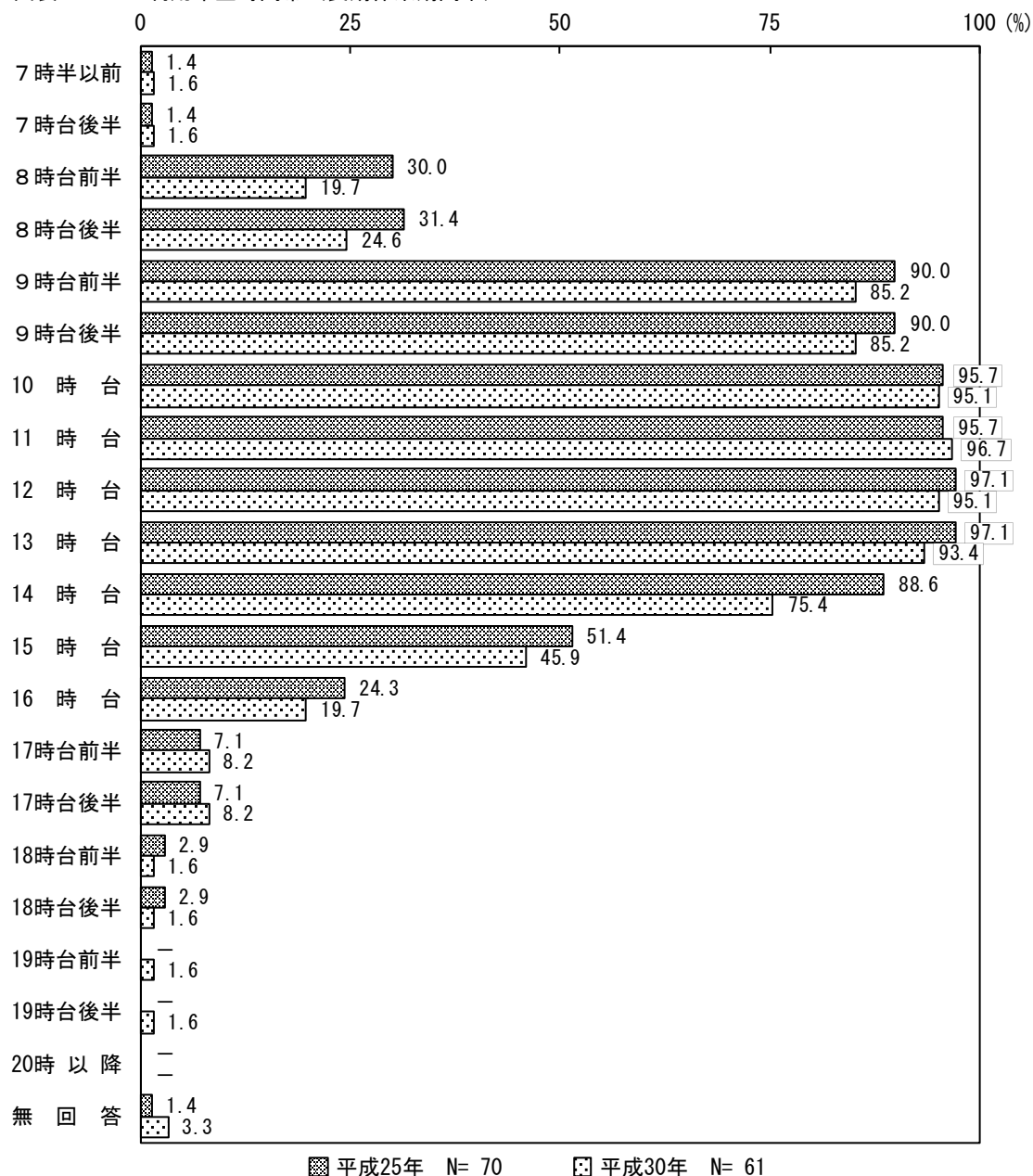
図表 1－67 長期休業期間中の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

長期休業期間中における教育・保育事業の利用希望時間帯は、8時台20%前後となっており、9時台には85%を超えています。10時台から13時台までは90%以上となり、以降、急激に低下しています。

図表 1－68 利用希望時間帯（長期休業期間中）

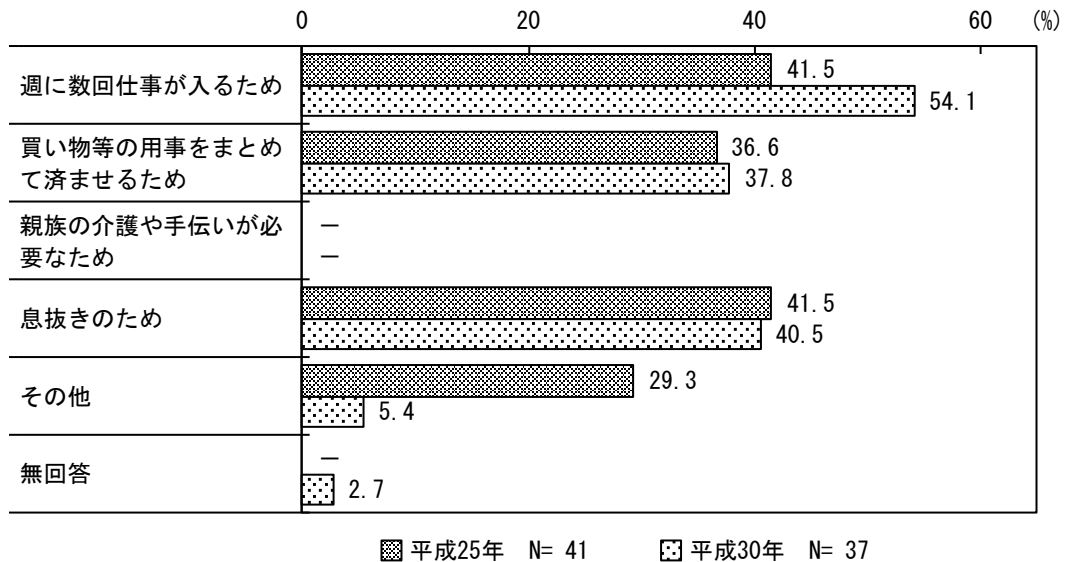


③ たまに利用したい理由

①で、「週に数日利用したい」と答えた人にその理由をたずねたところ、「週に数回仕事が入るため」が54.1%と最も高く、次いで「息抜きのため」が40.5%、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が37.8%などとなっています。

「その他」として、図表1－70の記述がありました。

図表1－69 長期休業期間中に教育・保育事業を「週に数日利用したい」理由（複数回答）



図表1－70 長期休業期間中に教育・保育事業を「週に数日利用したい」理由（その他）

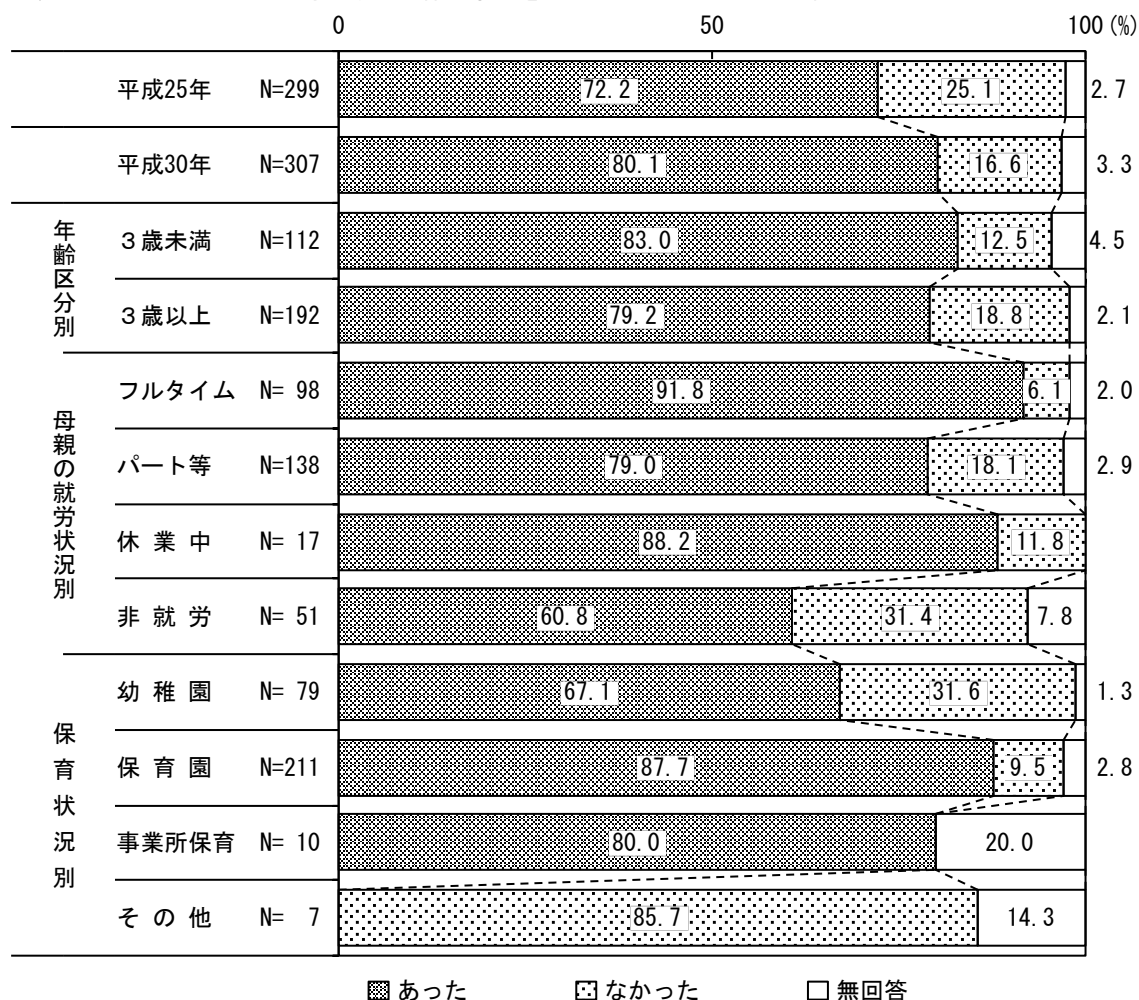
- ・ 家にいるよりも楽しく色々な遊びができて良さそうだから。でも毎週でなくていいかなと思う。
- ・ 夏休み明けもスムーズに、幼稚園生活に順応できるようにするため。
- ・ 長い休みだと、子どもが行くのを拒否しはじめるため。
- ・ 今後、仕事をしたときに預けたいから。

7 子どもが病気の際の対応

(1) 子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかったことの有無

平日の教育・保育事業を利用している人に、「この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで普段利用している幼稚園や保育園が利用できなかったこと」があるかをたずねたところ、「あった」が80.1%、「なかった」が16.6%となっています。平成25年との比較では、「あった」は7.9ポイント高くなっています。

図表1-71 子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかったことの有無



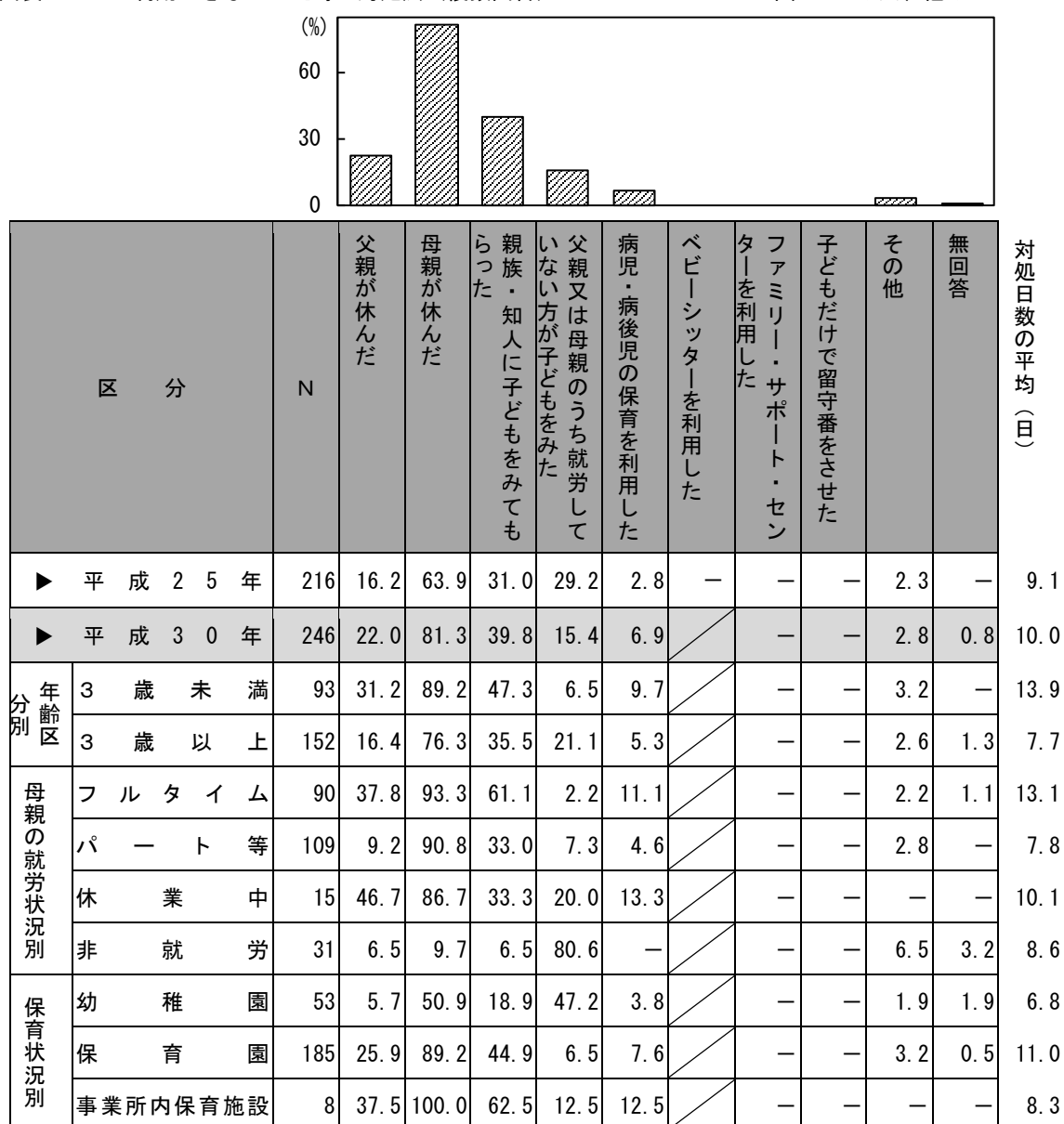
(2) 利用できなかった時の対処法

子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかった時の対処法については、「母親が休んだ」が81.3%と突出して高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が39.8%、「父親が休んだ」が22.0%などの順となっています。対処が必要だった日数の平均は10.0日です。平成25年との比較では、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」以外はすべて高くなっています。

「その他」として、「内職なので、仕事をしながら子どもをみた」「祖母が休んだ」などの記述がありました。

図表 1-72 利用できなかった時の対処法（複数回答）

単位：Nは人、他は%

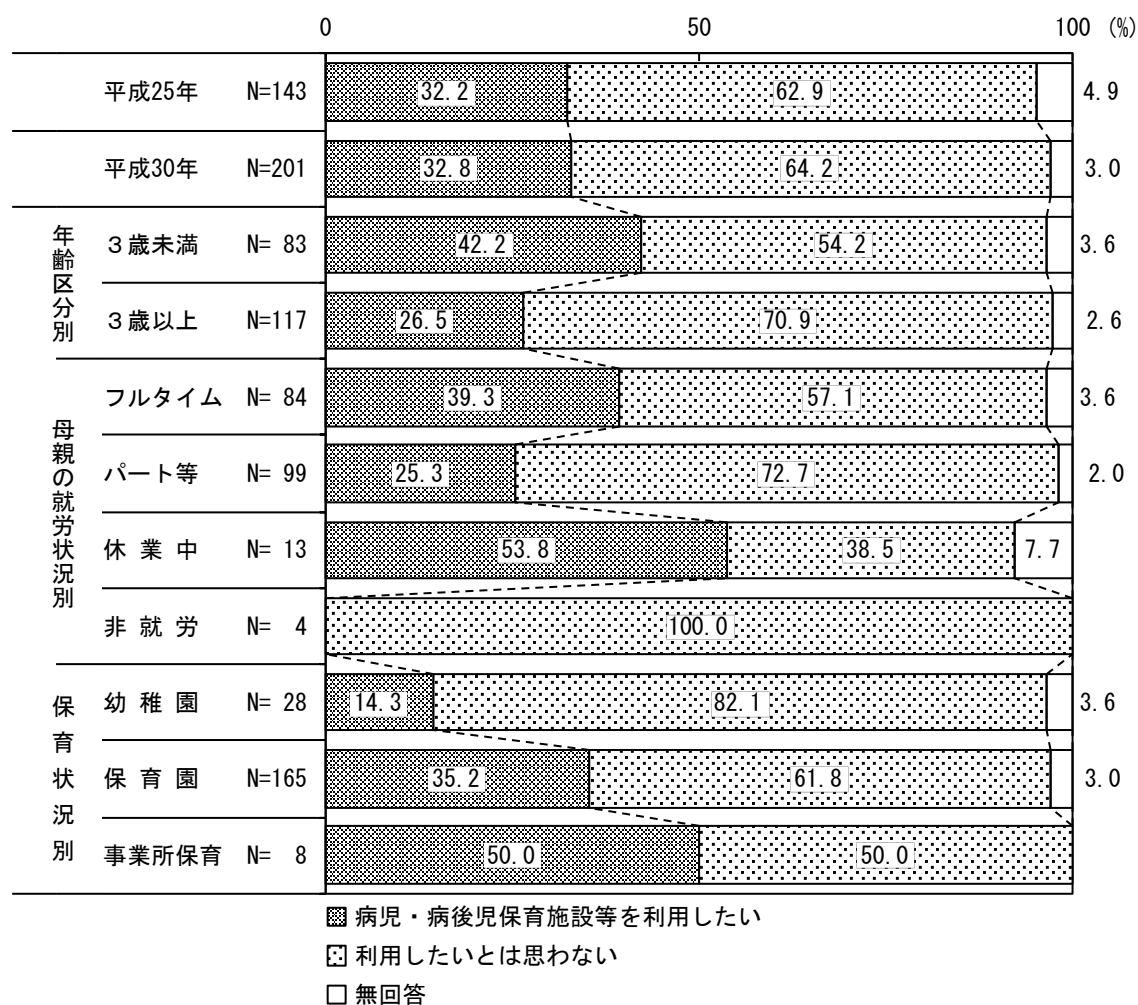


(3) 病児・病後児保育施設等の利用意向

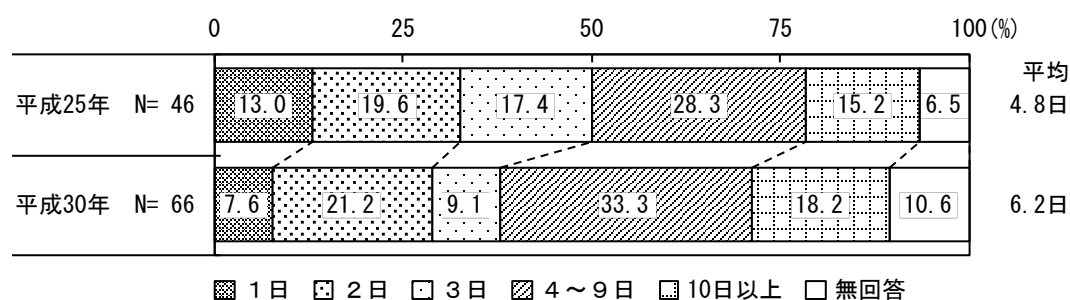
前項で、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した人の病児・病後児保育施設等の利用意向は32.8%です。平成25年との比較では、大きな変化はありません。

病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数は、「4～9日」が33.3%と最も高く、無回答を除いた平均は6.2日となっています。平成25年との比較では、平均は1.4日増加しています。

図表 1－73 病児・病後児保育施設等の利用意向



図表 1－74 病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数

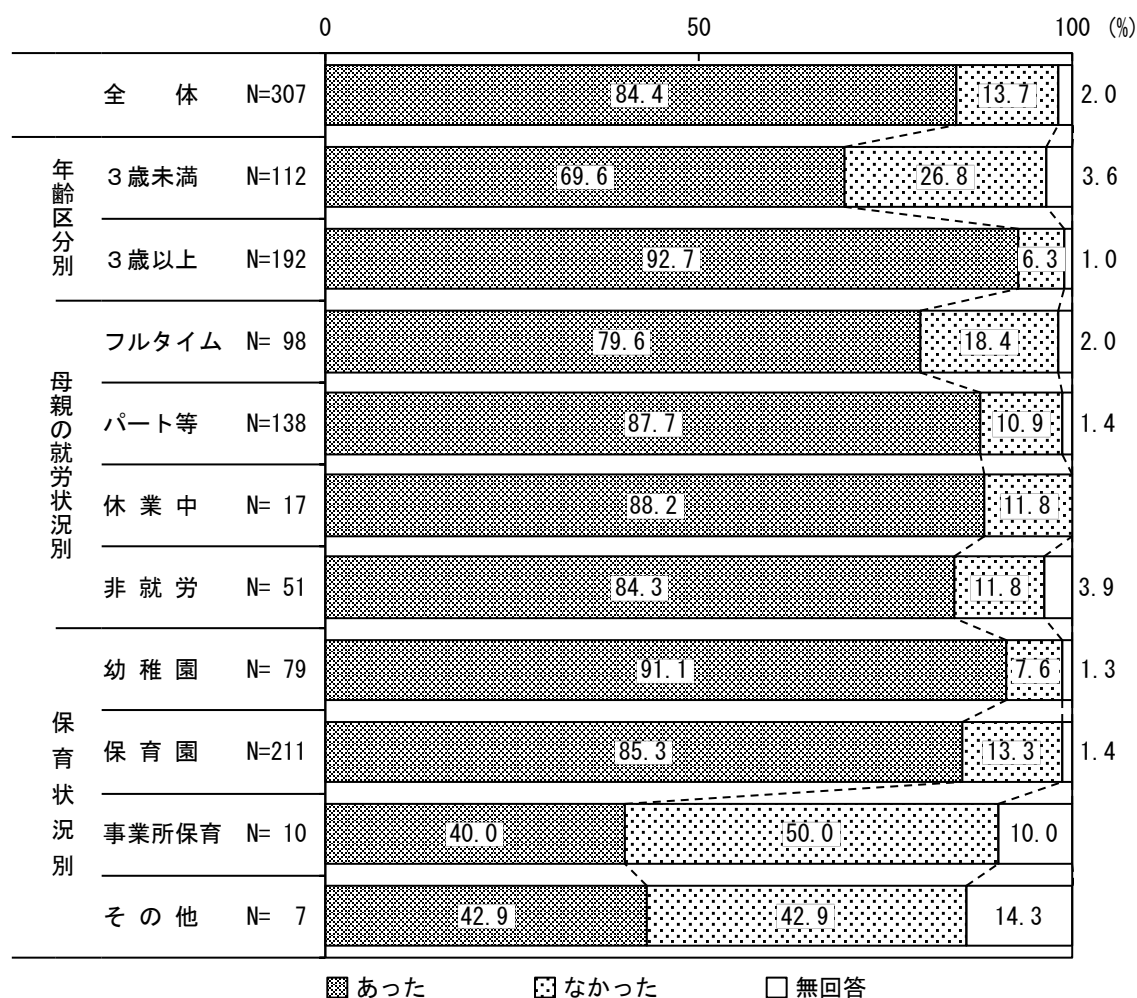


8 台風など災害時の対応

(1) 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかったことがあったか

平日の教育・保育事業を利用している人に、「これまでに、あて名のお子さんが台風接近に伴う休園などで普段利用している幼稚園や保育園が利用できなかったこと」があるかをたずねたところ、「あった」が84.4%、「なかった」が13.7%となっています。

図表 1-75 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかったことがあったか

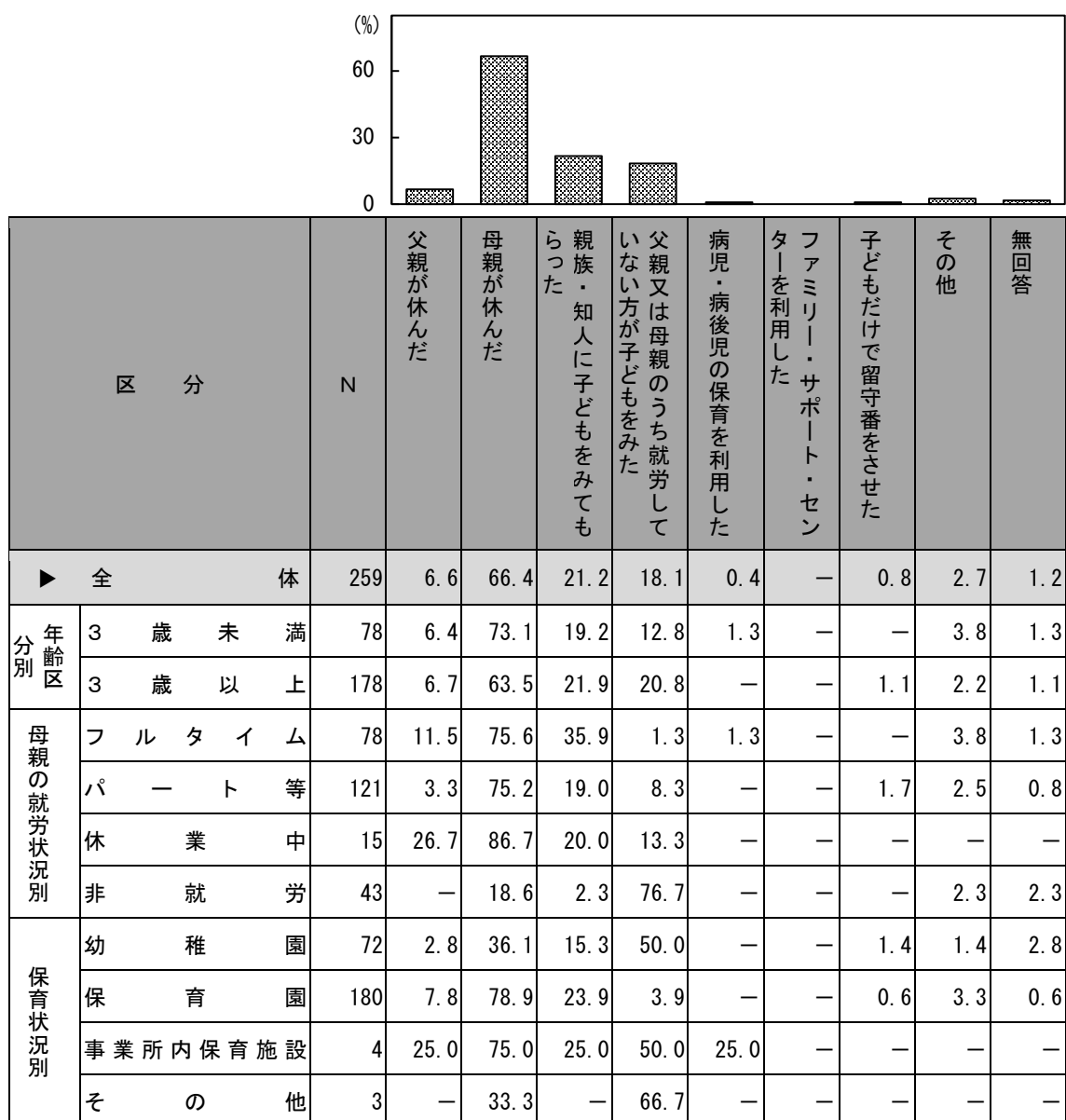


(2) 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかった場合の対処法

子どもが台風接近などにより教育・保育事業を利用できなかった時の対処法については、「母親が休んだ」が66.4%と突出して高く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」が21.2%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が18.1%などの順となっています。

「その他」として、「職場の託児所を利用」（2件）、「母親も仕事が休みになった」（2件）、「父親も仕事が休みになった」（2件）などの記述がありました。

図表 1-76 台風等で幼稚園・保育園が利用できなかった場合の対処法（複数回答）単位：Nは人、他は%

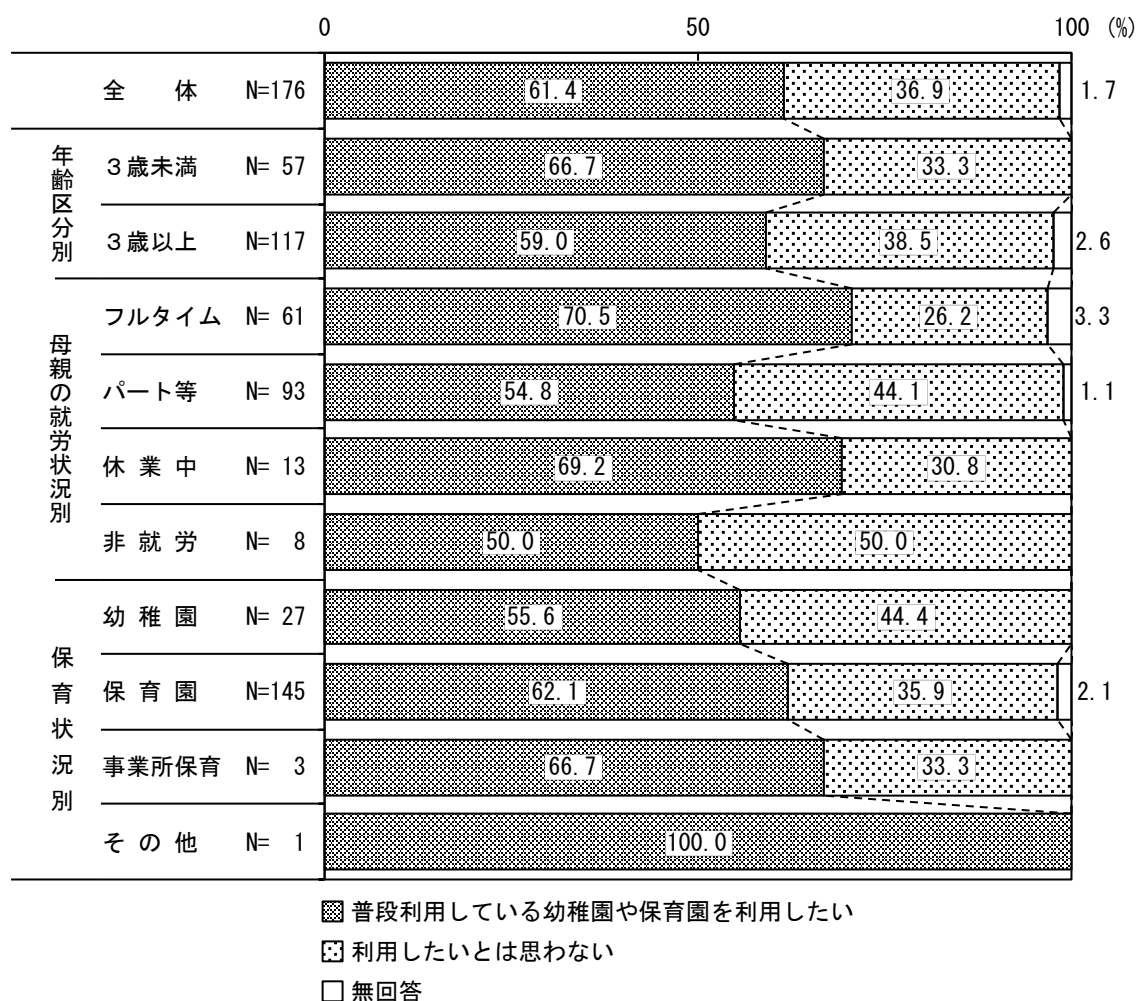


(3) 台風等の休園時に幼稚園・保育園を利用したいか

(2)で「母親が休んだ」または「父親が休んだ」と回答した人に、その際、普段利用している幼稚園や保育園を利用したいと思ったかたずねたところ、「普段利用している幼稚園や保育園を利用したい」が61.4%、「利用したいとは思わない」が36.9%となっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムおよび休業中は「普段利用している幼稚園や保育園を利用したい」が70%前後と高くなっています。

図表 1-77 台風等の休園時に幼稚園・保育園を利用したいか



9 不特定の教育・保育事業や一時保育等

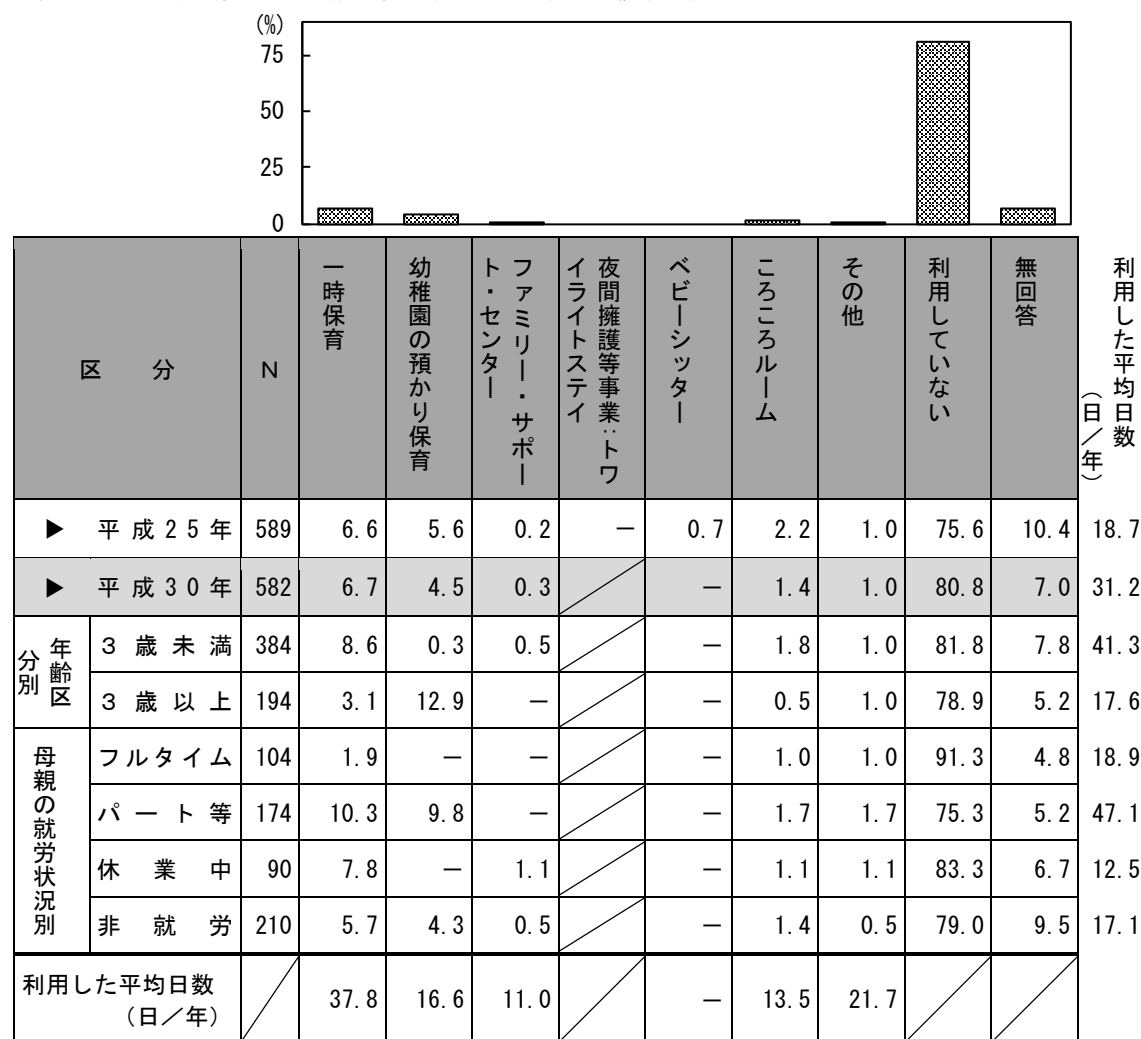
(1) 不特定の教育・保育事業等の利用経験の有無

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、一時的に子どもを預けられる事業の利用経験の有無をたずねたところ、「一時保育」が6.7%、「幼稚園の預かり保育」が4.5%などとなっていますが、「利用していない」が80.8%となっています。利用した平均日数は、全体では年間31.2日となっており、年齢別の3歳未満が41.3日、母親の就労状況別のパート等が47.1日と高くなっています。平成25年との比較では、「利用していない」は5.2ポイント高くなっています。利用した平均日数は12.5日増加しています。

「その他」として、「発達支援センター」「NPO法人の一時預かり」「認可外の託児所」「職場の託児所」などの記述がありました。

図表 1-78 不特定の教育・保育事業等の利用の有無（複数回答）

単位：Nは人、他は%

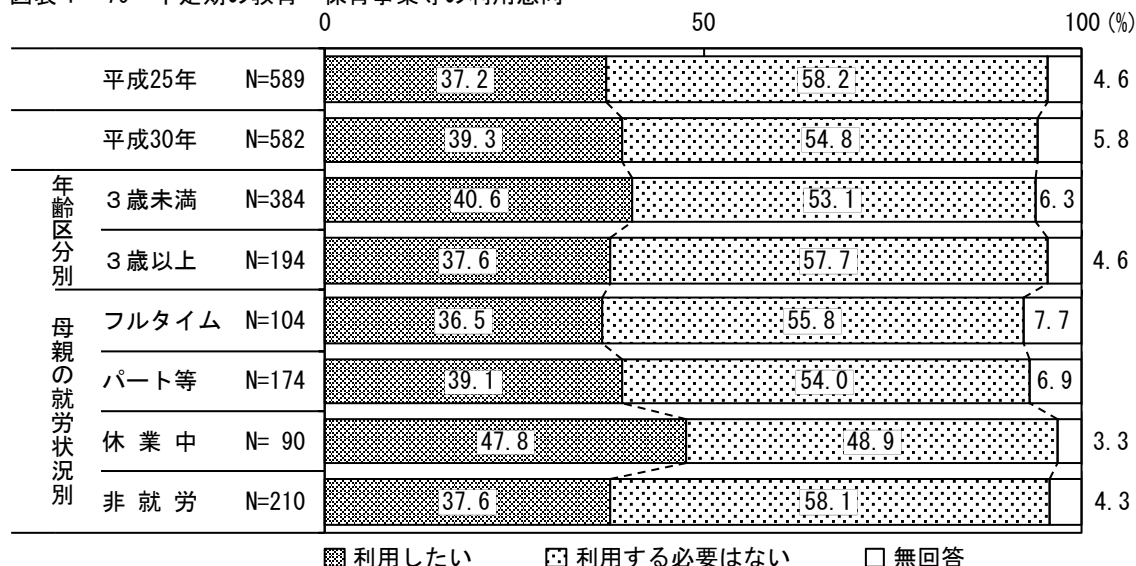


(2) 不特定の教育・保育事業等の利用意向

① 利用意向

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、一時的に子どもを預けられる事業の利用意向は39.3%です。母親の就労状況別の休業中が高くなっています。

図表 1－79 不特定の教育・保育事業等の利用意向

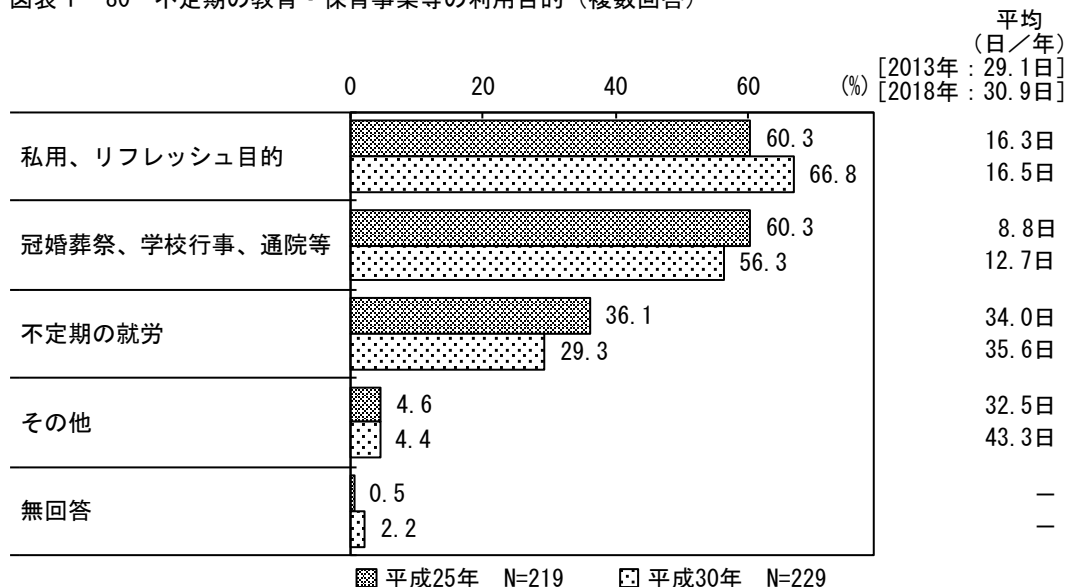


② 利用目的

不特定の教育・保育事業等を利用したい目的は、「私用、リフレッシュ目的」が66.8%と最も高くなっています。利用したい平均日数は、「不特定の就労」および「その他」が年間30日を超えています。平成25年との比較では、いずれの選択肢も平均日数が増加しています。

「その他」として、「就職活動」「資格取得のため」「産後・保育園退園のため」「母親が病気の日」などの記述がありました。

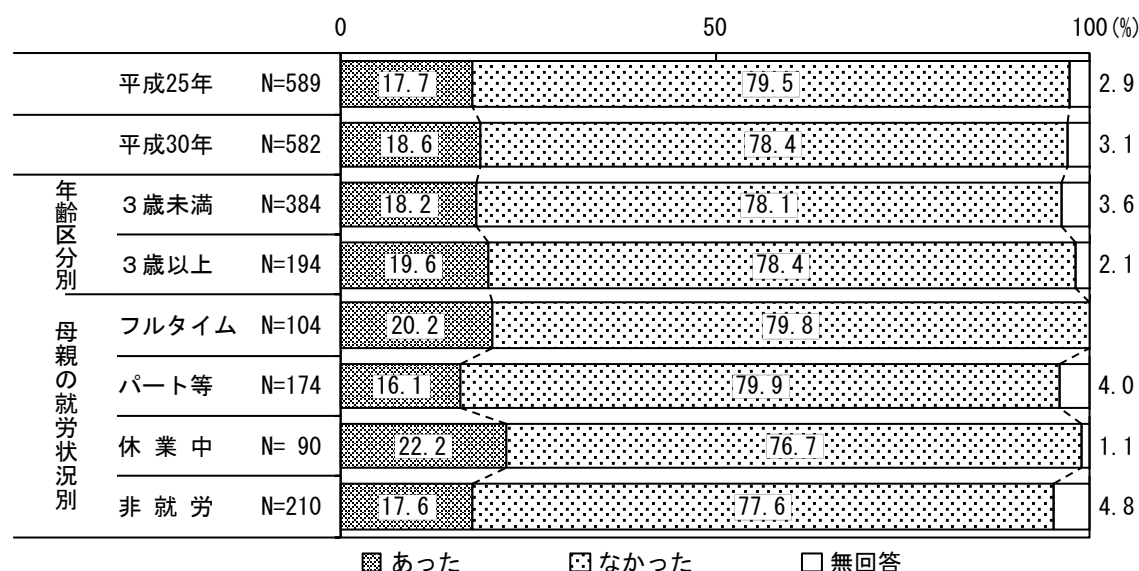
図表 1－80 不特定の教育・保育事業等の利用目的（複数回答）



(3) 子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無

この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外の人に預けなければならなかったこと（預け先が見つからなかった場合も含む）があったかをたずねたところ、「あった」が18.6%となっています。平成25年との比較では、「あった」はわずかに高くなっています。

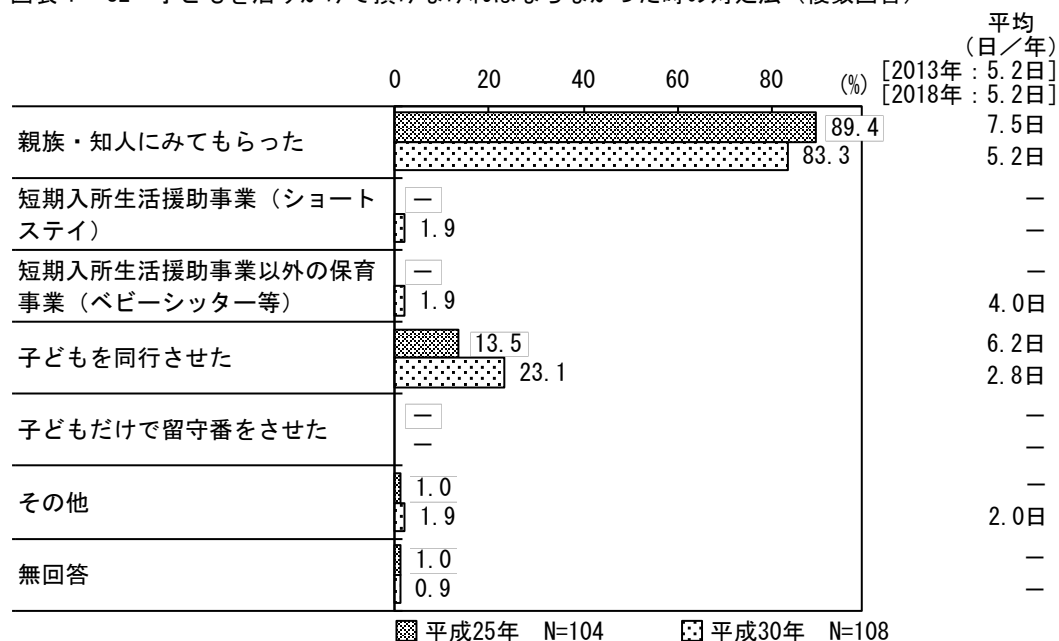
図表 1－81 子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無



(4) 子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法

子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法は、「親族・知人にみてもらった」が83.3%と突出して高く、次いで「子どもを同行させた」が23.1%となっています。

図表 1－82 子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法（複数回答）



10 小学校就学後の放課後の過ごし方

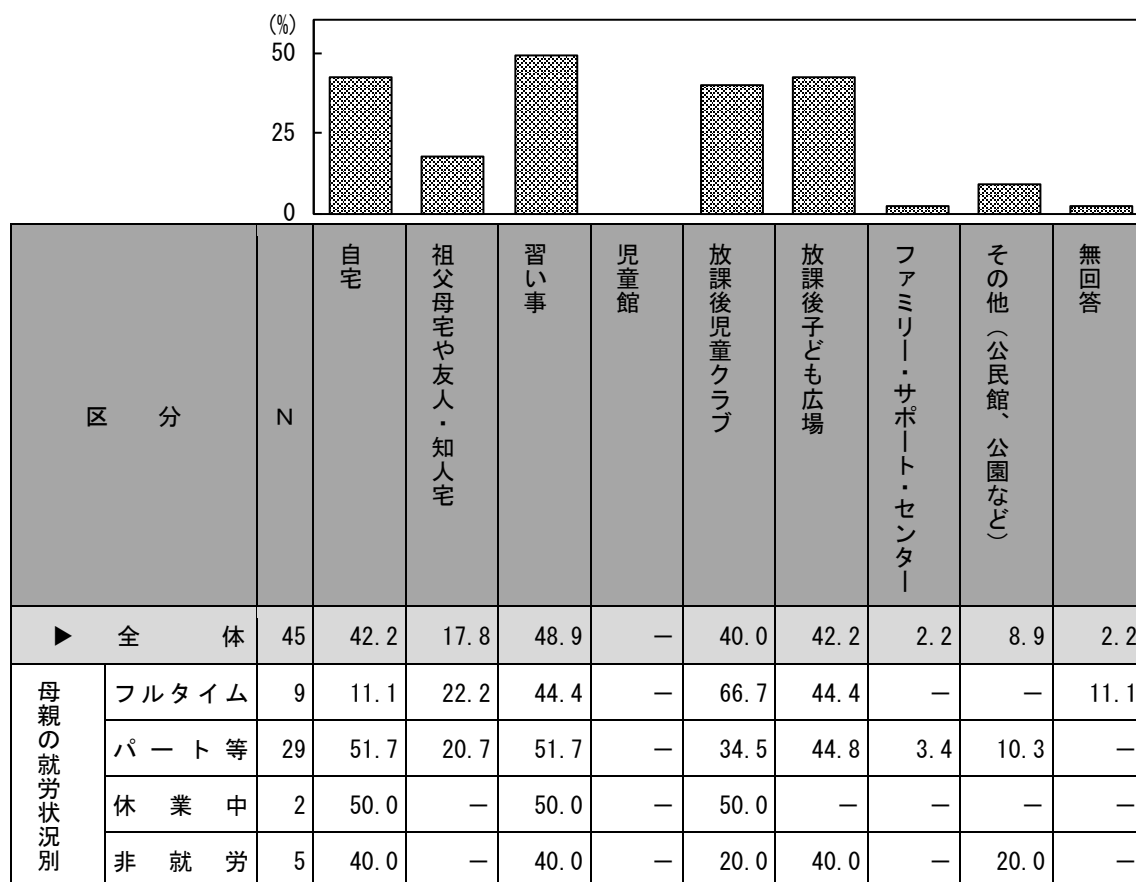
(1) 低学年のうちの放課後の過ごし方

子どもが小学校へ就学後、低学年（１～３年生）のうちは、放課後の時間をどこで過ごさせたいと考えているかをたずねたところ、「習い事」が48.9%と最も高く、次いで「放課後子ども広場」および「自宅」が42.2%などの順となっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムは「放課後児童クラブ」が66.7%と最も高く、「自宅」は11.1%にとどまっています。

図表 1－83 低学年のうちの放課後の過ごし方（５歳、複数回答）

単位：Nは人、他は%



過ごさせたい場所別にみた希望する週当たりの日数は図表 1－84のとおりです。

なお、児童館の希望する週当たりの日数に回答はありませんでした。

図表 1－84 過ごさせたい日数（日／週）

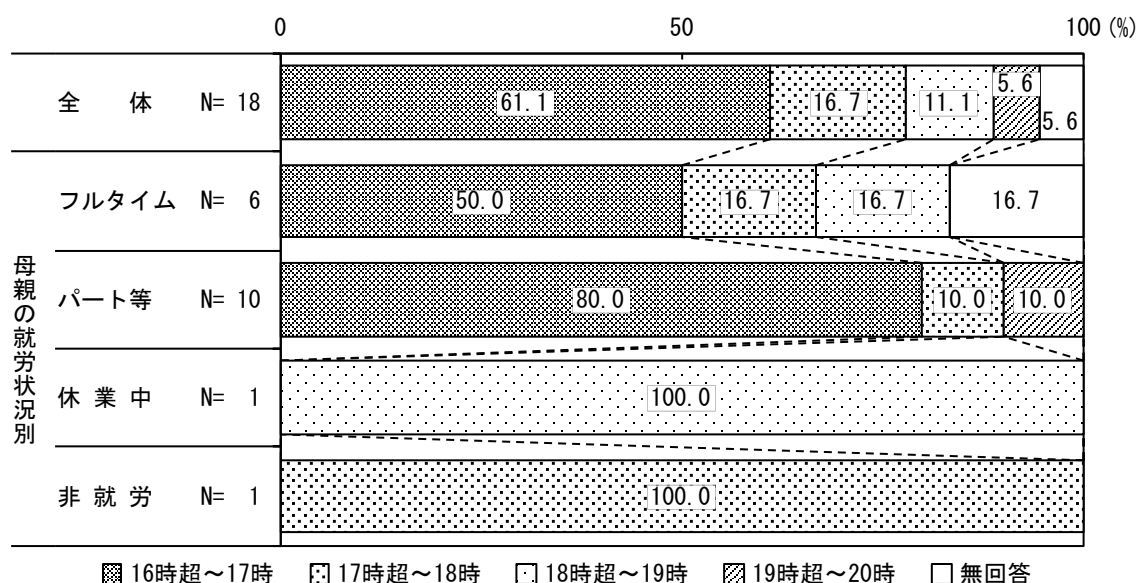
単位：Nは人、他は%

区 分	N	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日	週 5 日	無 回 答	平均 日数 (日／週)
自 宅	19	31.6	26.3	26.3	5.3	10.5	—	2.4
祖父母や友人宅	8	50.0	25.0	—	—	12.5	12.5	1.9
習 い 事	22	31.8	22.7	40.9	—	—	4.5	2.1
放課後児童クラブ	18	—	—	27.8	5.6	66.7	—	4.4
放課後子ども広場	19	—	26.3	36.8	21.1	15.8	—	3.3
ファミリー・サポ ート・センター	1	100.0	—	—	—	—	—	1.0
そ の 他	4	50.0	25.0	25.0	—	—	—	1.8

(2) 低学年のうちは放課後児童クラブを何時まで利用したいか

(1)の「放課後児童クラブ」の利用希望者に、低学年のうちは下校時から何時まで利用したいかをたずねたところ、「16時超～17時」が61.1%と最も高く、次いで「17時超～18時」が16.7%、「18時超～19時」が11.1%などの順となっています。

図表 1－85 低学年のうちは放課後児童クラブを何時まで利用したいか（5歳）

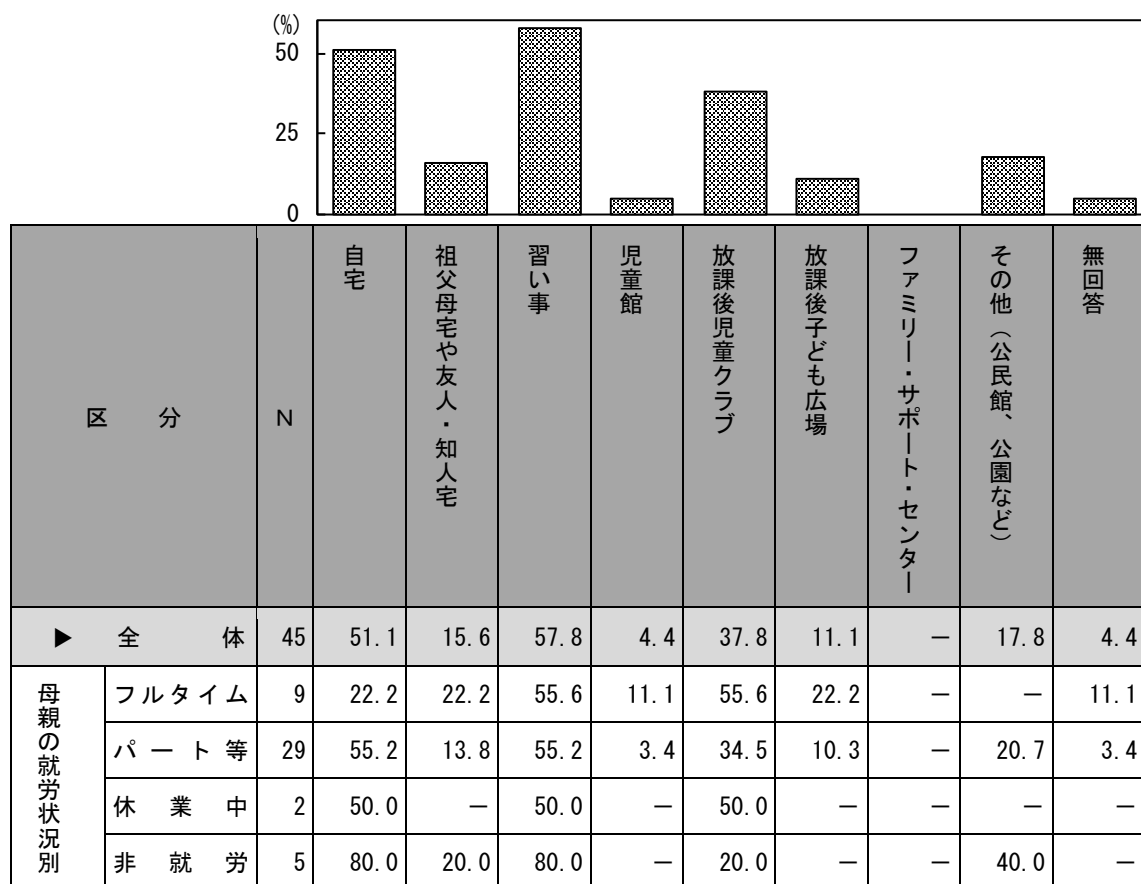


(3) 高学年になった時の放課後の過ごし方

子どもが小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間をどこで過ごさせたいと考えているかをたずねたところ、「習い事」が57.8%と最も高く、次いで「自宅」が51.1%、「放課後児童クラブ」が37.8%などの順となっています。(1)の低学年時と比べると、「自宅」および「習い事」が５ポイント以上上昇しています。

図表１－86 高学年になった時の放課後の過ごし方（５歳、複数回答）

単位：Nは人、他は%



過ごさせたい場所別にみた希望する週当たりの日数は図表１－87のとおりです。

なお、ファミリー・サポート・センターの希望する週当たりの日数に回答はありませんでした。

図表１－87 過ごさせたい日数（日／週）

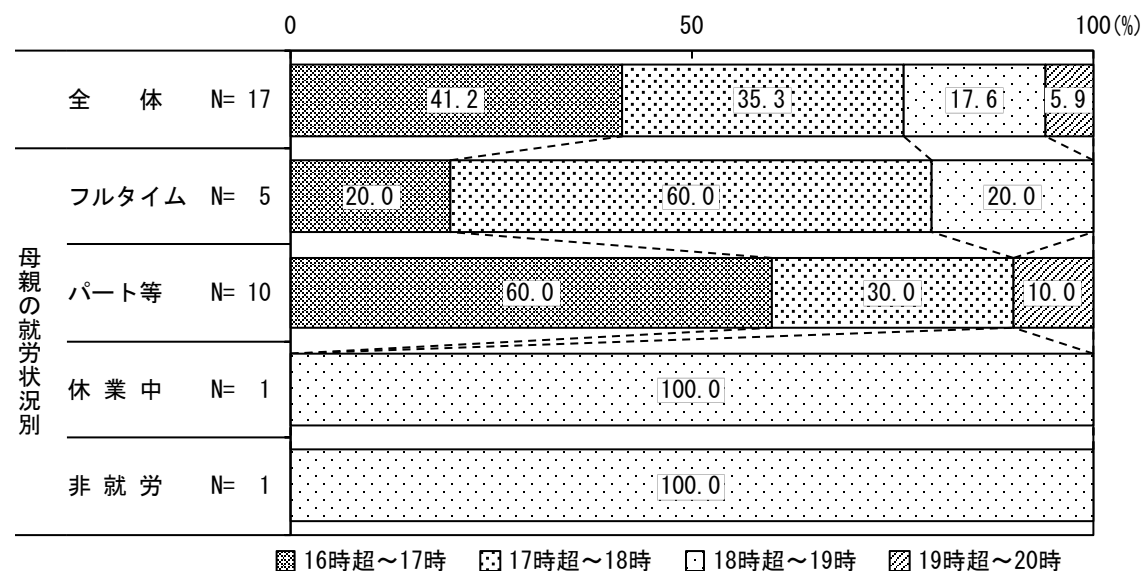
単位：Nは人、他は%

区 分	N	週 1 日	週 2 日	週 3 日	週 4 日	週 5 日	無 回 答	平均 日数 (日／ 週)
自 宅	23	8.7	39.1	13.0	8.7	17.4	13.0	2.9
祖父母や友人宅	7	14.3	28.6	—	—	14.3	42.9	2.5
習 い 事	26	23.1	30.8	34.6	3.8	—	7.7	2.2
児 童 館	2	50.0	—	—	—	50.0	—	3.0
放課後児童クラブ	17	—	—	17.6	5.9	76.5	—	4.6
放課後子ども広場	5	—	40.0	—	20.0	40.0	—	3.6
そ の 他	8	12.5	62.5	25.0	—	—	—	2.1

(4) 高学年になったら放課後児童クラブを何時まで利用したいか

(3)の「放課後児童クラブ」の利用希望者に、高学年になったら下校時から何時まで利用したいかをたずねたところ、「16時超～17時」が41.2%と最も高く、次いで「17時超～18時」が35.3%などの順となっています。(2)の低学年時と比較して、「16時超～17時」が19.9ポイント低下し、「17時超～18時」が18.6ポイント高くなっています。

図表１－88 高学年になったら放課後児童クラブを何時まで利用したいか（５歳）

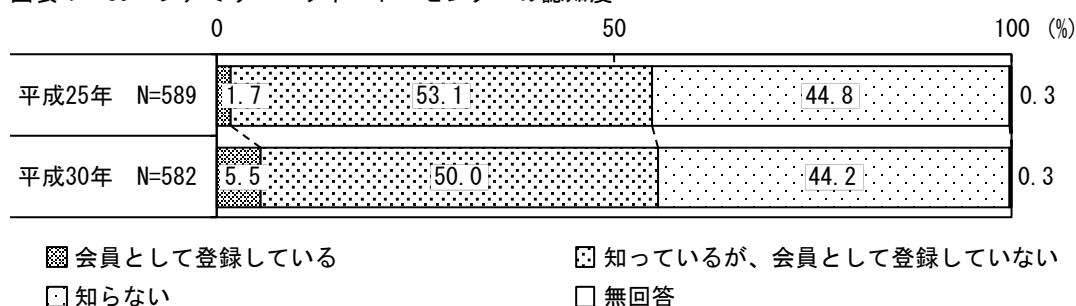


11 ファミリー・サポート・センター

(1) ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについて知っているかをたずねたところ、「知っているが、会員として登録していない」が50.0%と最も高く、「会員として登録している」（5.5%）と合計した《認知度》は55.5%となります。平成25年との比較では、「会員として登録している」が3.8ポイント高くなっていますが、認知度に大きな変化はありません。

図表 1－89 ファミリー・サポート・センターの認知度

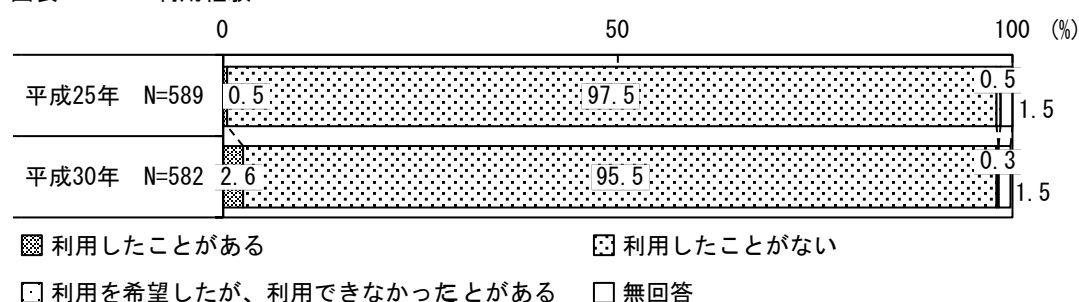


(2) ファミリー・サポート・センターの利用状況

① 利用経験

ファミリー・サポート・センターの利用経験をたずねたところ、「利用したことがある」は2.6%にとどまっており、「利用したことがない」が95.5%と圧倒的に高くなっています。平成25年との比較では、「利用したことがある」は2.1ポイント高くなっています。

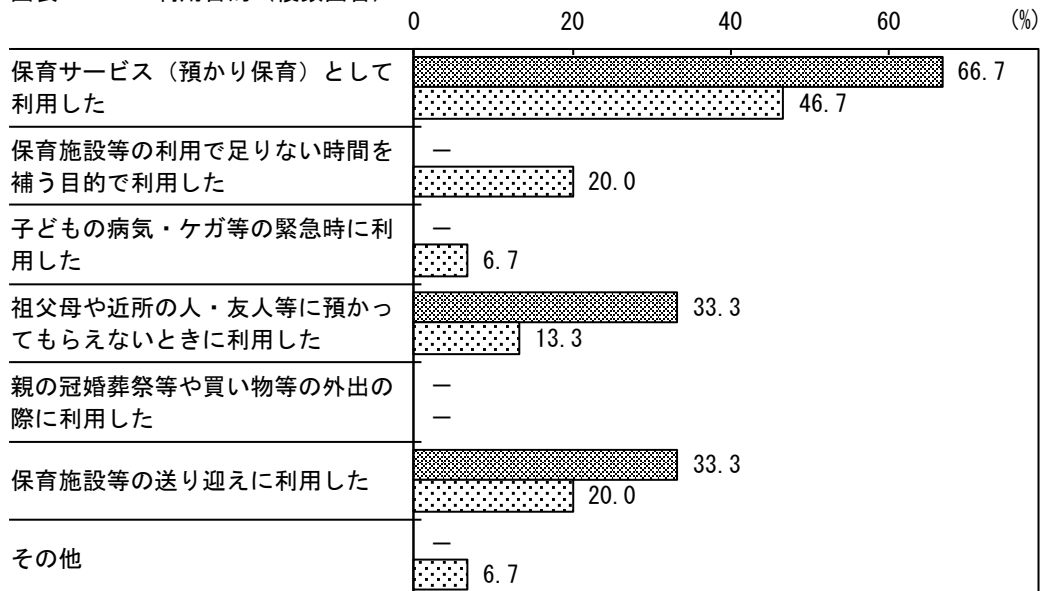
図表 1－90 利用経験



② 利用目的

①で「利用したことがある」と回答した人に利用目的をたずねたところ、「保育サービス（預かり保育）として利用した」が46.7%と最も高くなっています。

図表 1－91 利用目的（複数回答）



■ 平成25年 N= 3 □ 平成30年 N= 15

③ 満足度

①で「利用したことがある」と回答した人に、利用について満足しているかをたずねたところ、「とても満足している」が40.0%（6人）、「満足している」が60.0%（9人）となっています。

図表 1－92 満足度

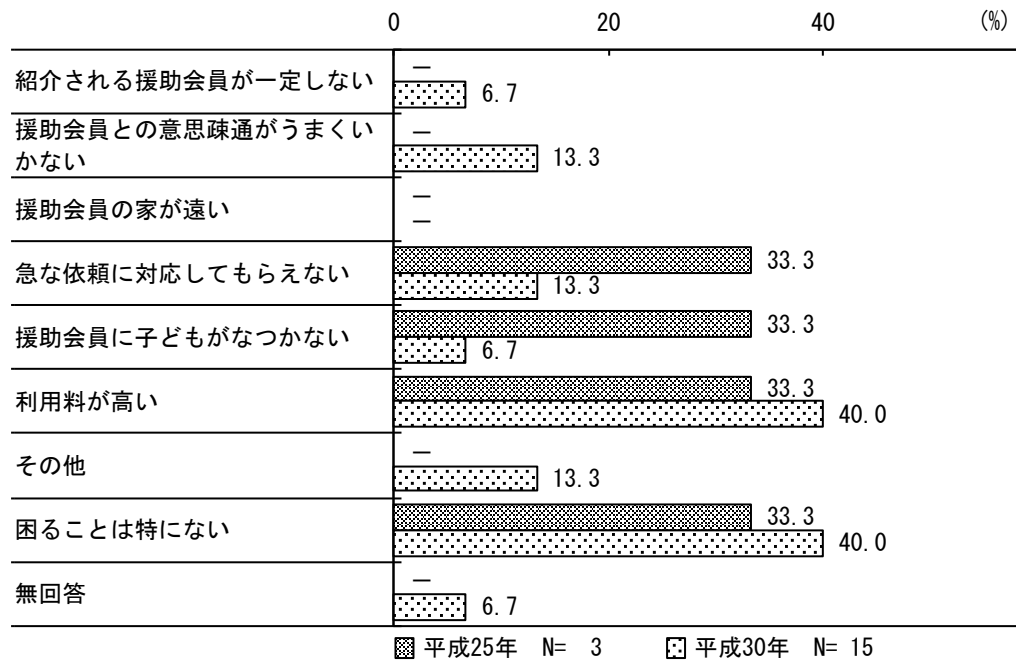
単位：Nは人、他は%

区 分		N	とても満足している	満足している	少し不満がある	不満がある
▶	平成25年	3	33.3	33.3	33.3	—
▶	平成30年	15	40.0	60.0	—	—

④ 利用して困ったこと

利用して困ったこととしては、「利用料が高い」が40.0%（6人）最も高く、次いで「援助会員との意思疎通がうまくいかない」「急な依頼に対応してもらえない」および「その他」が13.3%（2人）などの順となっています。

図表 1－93 利用して困ったこと



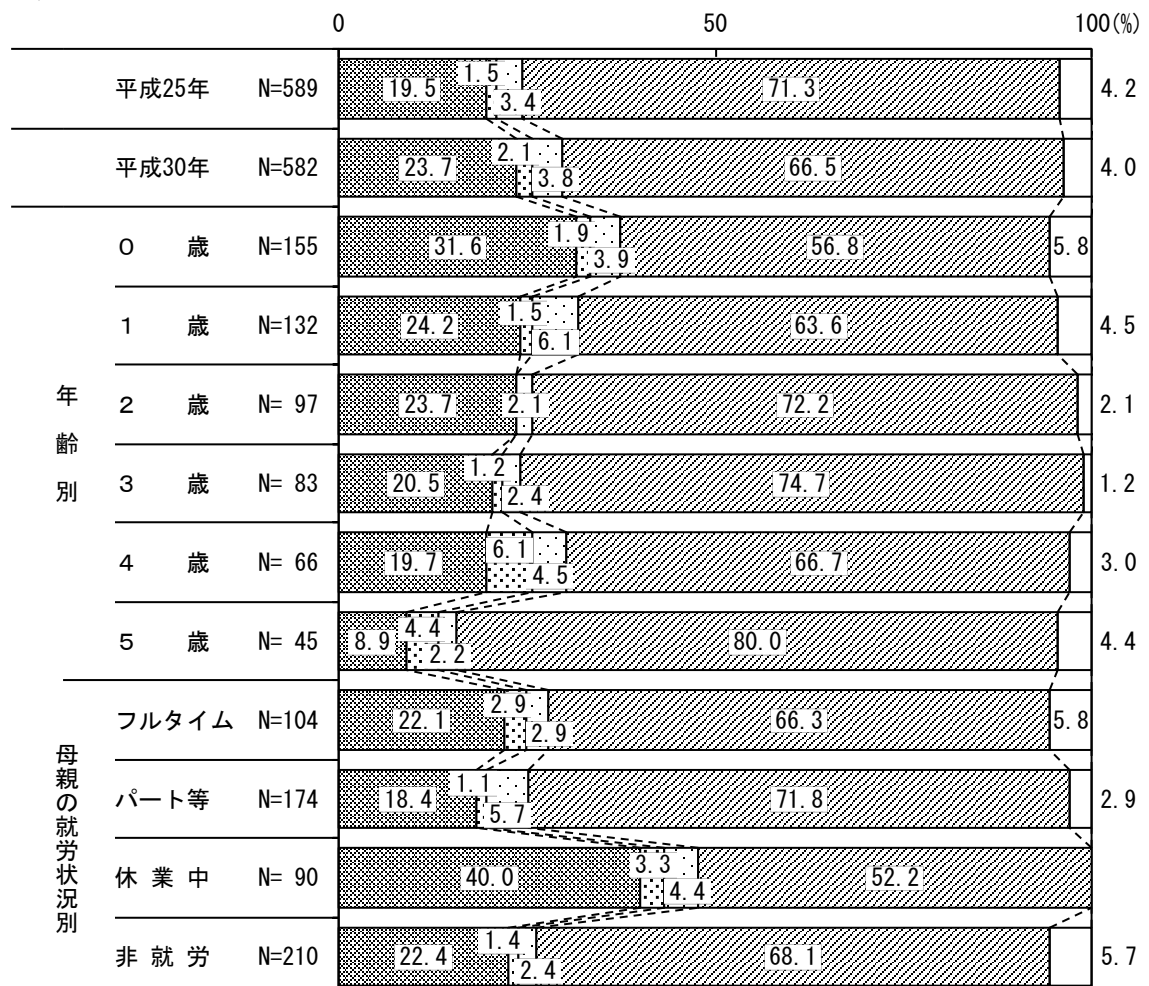
(3) ファミリー・サポート・センターの利用意向

ファミリー・サポート・センターを今後利用したいと思うかをたずねたところ、「利用（登録）するつもりはない」が66.5%を占めています。「依頼会員として登録したい（登録している）」は23.7%、「援助会員として登録したい（登録している）」は2.1%、「両方会員として登録したい（登録している）」は3.8%です。平成25年との比較では、「利用（登録）するつもりはない」は4.8ポイント低下しています。

年齢別にみると、「依頼会員として登録したい（登録している）」は年齢が低いほど高くなっており、0歳が31.6%と最も高くなっています。

母親の就労状況別にみると、「依頼会員として登録したい（登録している）」は休業中が40.0%と最も高くなっています。

図表 1－94 ファミリー・サポート・センターの利用意向



- 依頼会員（援助を受けたい人）として登録したい（登録している）
- ▨ 援助会員（援助をしたい人）として登録したい（登録している）
- 両方会員として登録したい（登録している）
- ▤ 利用（登録）するつもりはない
- 無回答

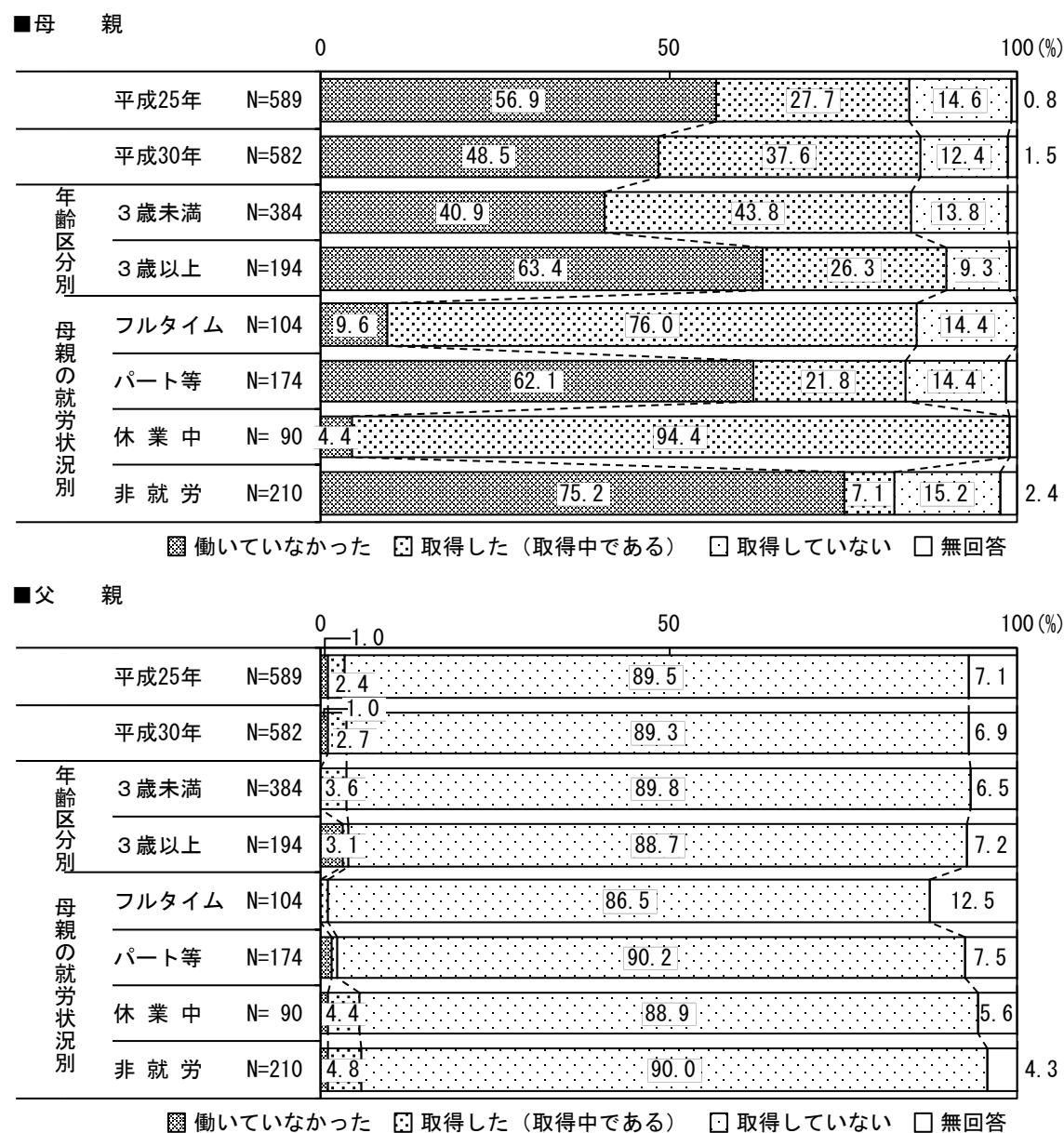
12 育児休業制度

(1) 育児休業の取得の有無

「あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか」とたずねたところ、母親は、「働いていなかった」が48.5%と最も高く、次いで「取得した（取得中である）」が37.6%、「取得していない」が12.4%となっています。平成25年との比較では、「取得した（取得中である）」が9.9ポイント高くなっています。

父親は、「取得していない」が89.3%を占めており、「取得した（取得中である）」はわずか2.7%（16人）です。平成25年から大きな変化はありません。

図表 1-79 育児休業の取得の有無



(注) 全体以外は2%未満の表記を省略。

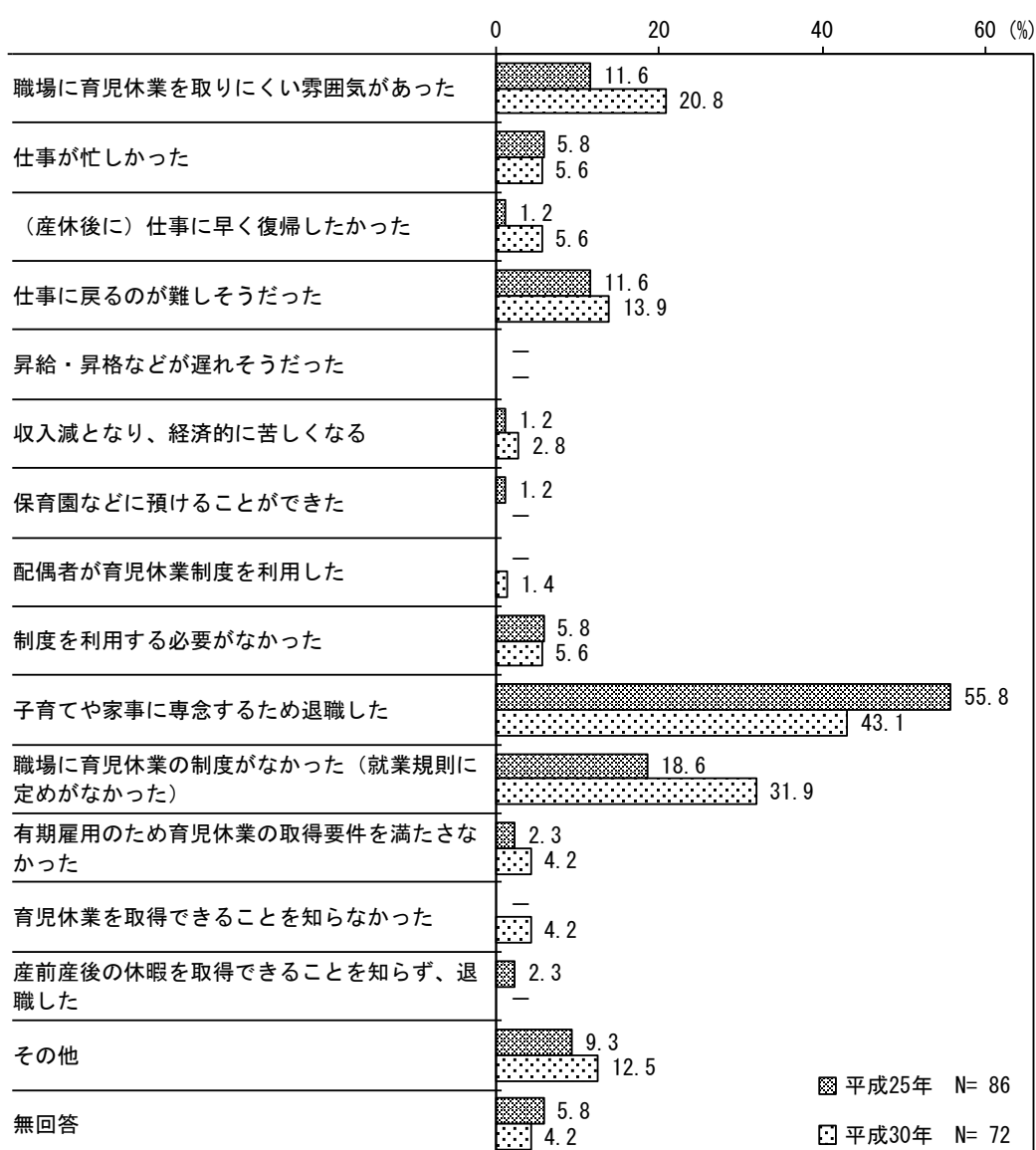
(2) 育児休業を取得していない理由

① 母 親

育児休業を「取得していない」と答えた母親にその理由をたずねたところ、「子育てや家事に専念するため退職した」が43.1%と最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が31.9%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が20.8%などの順となっています。平成25年との比較では、「子育てや家事に専念するため退職した」は12.7ポイント低下し、職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が13.3ポイント高くなっています。

「その他」として、「自営業をしているので休めなかった」（4件）、「パート、アルバイトだったため」（3件）などの記載がありました。

図表 1－80 育児休業を取得していない理由（母親、複数回答）

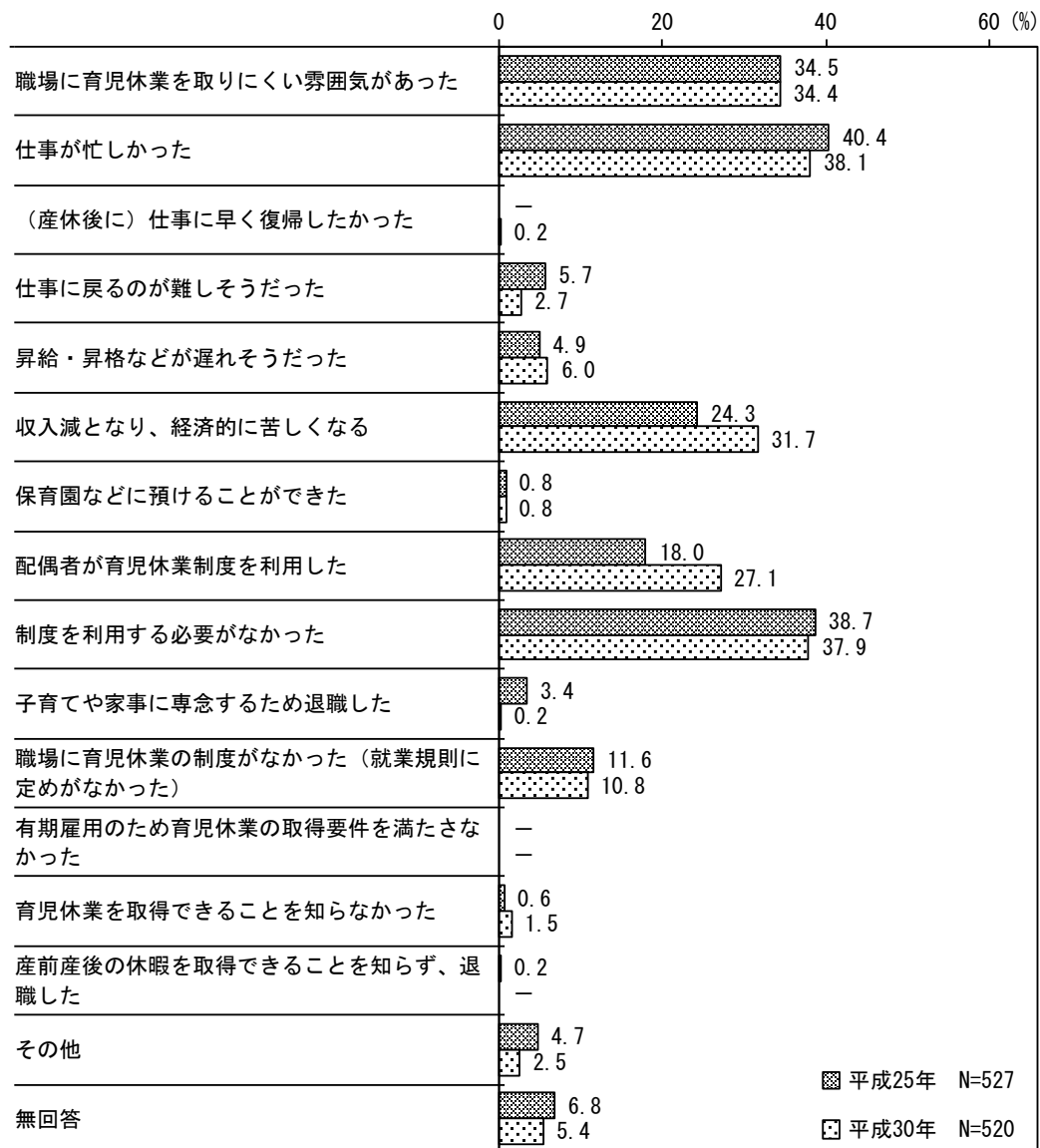


② 父 親

育児休業を「取得していない」と答えた父親にその理由をたずねたところ、「仕事が忙しかった」が38.1%と最も高く、次いで「制度を利用する必要がなかった」が37.9%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が34.4%などの順となっています。平成25年との比較では、上位3項目は同じですが、いずれも低下しています。一方、「収入減となり、経済的に苦しくなる」および「配偶者が育児休業制度を利用した」が5ポイント以上高くなっています。

「その他」として、「自営業をしているので休めなかった」（3件）、「考えたこともなかった」（3件）、「「育休をとる」という価値観がない」（2件）、「有給取得により対応」などの記載がありました。

図表 1－81 育児休業を取得していない理由（父親、複数回答）

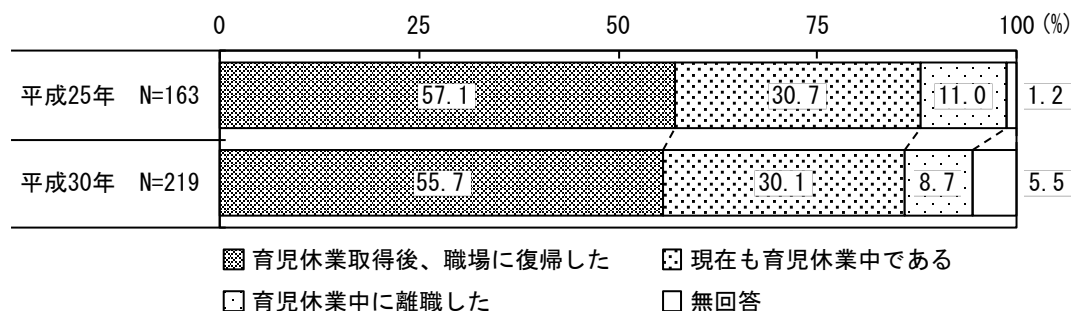


(3) 母親の育児休業

① 育児休業取得後に職場に復帰したか（母親）

育児休業を取得した母親に職場復帰したかをたずねたところ、母親の55.7%が「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えています。「現在も育児休業中である」は30.1%であり、「育児休業中に離職した」は8.7%（19人）です。

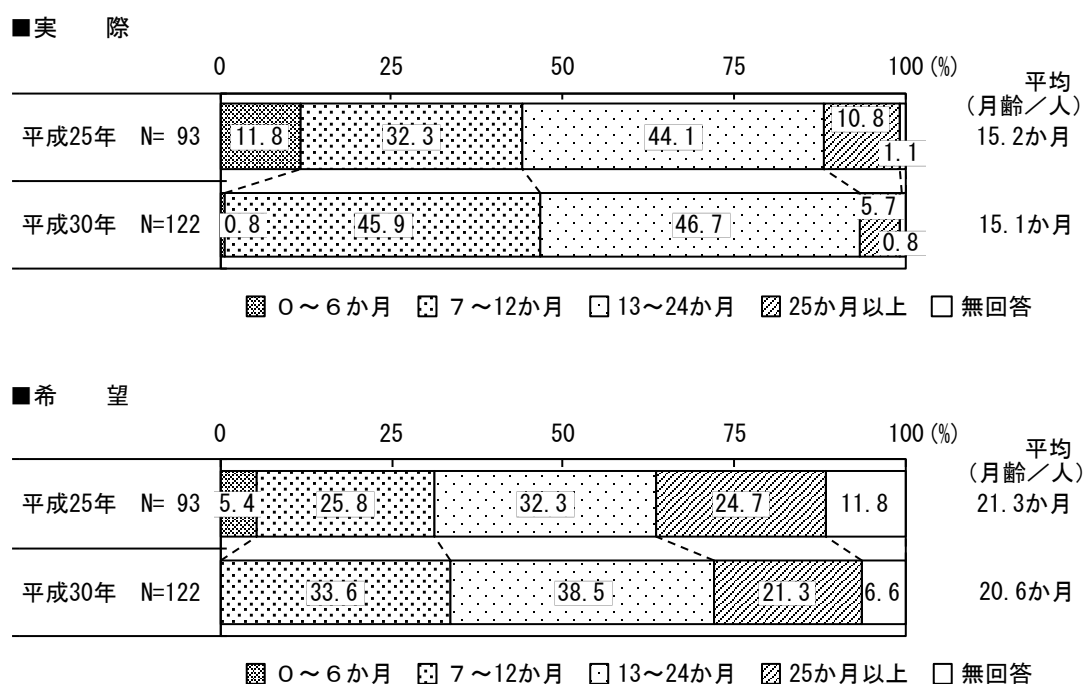
図表 1－82 育児休業取得後に職場に復帰したか（母親）



② 実際の取得期間と希望期間（母親）

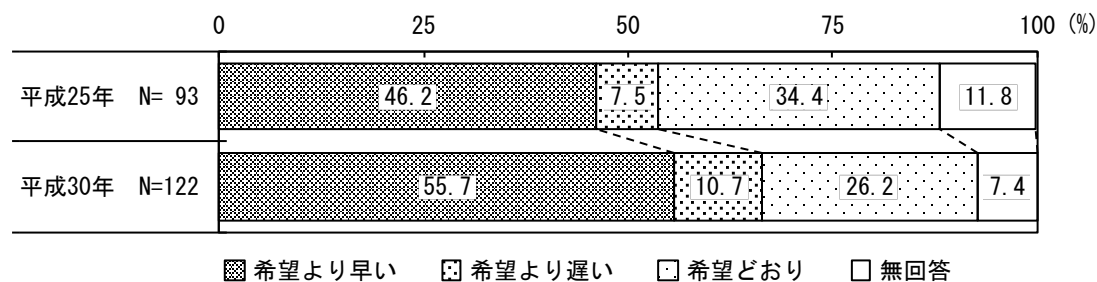
母親が実際に取得した育児休業の期間は、「13～24か月」が46.7%と最も高く、次いで「7～12か月」が45.9%となっており、平均は15.1か月です。勤務先の育児休業制度の期間内で取得したかった（希望）期間は、「25か月以上」が21.3%に上昇しており、平均は20.6か月となっています。平成25年との比較では、実際の期間と希望の期間のどちらも平均が減少しています。

図表 1－83 育児休業を実際に取得した期間と希望する期間（母親、実際・希望）



図表 1－84は、母親の実際の取得期間と希望期間から、育児休業からの復帰時期が希望どおりだったかをみたものです。「希望より早い」が55.7%と最も高く、「希望どおり」は26.2%、「希望より遅い」は10.7%です。平成25年との比較では、「希望より早い」は9.5ポイント高く、「希望どおり」は8.2ポイント低下しています。

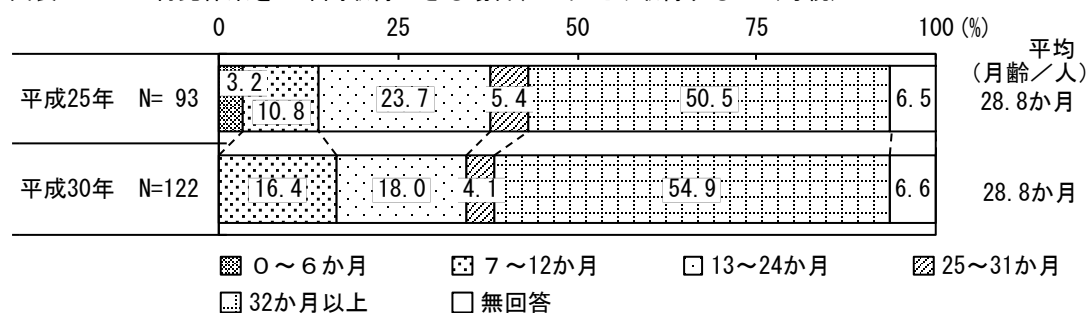
図表 1－84 復帰時期は希望どおりだったか（母親）



③ 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得したいか（母親）

育児休業取得後に職場に復帰した母親に、子どもが3歳になるまで育児休業を取得できる制度があった場合、子どもがいくつになるまで取得したかったかをたずねたところ、「32か月以上」が54.9%と最も高く、次いで「13～24か月」が18.0%、「7～12か月」が16.4%となっており、平均は28.8か月です。平成25年との比較では、1年以内は高く、2年以上が低くなっています。

図表 1－85 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得するか（母親）



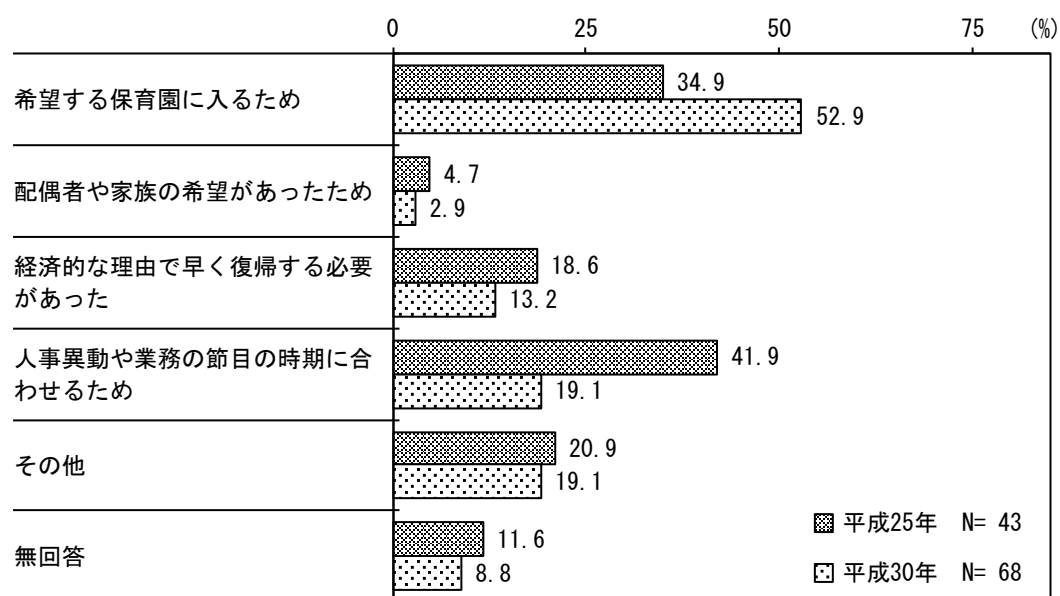
④ 希望の時期に職場復帰しなかった理由（母親）

■希望より早い理由

母親が希望より早く育児休業から復帰した理由として、「希望する保育園に入るため」が52.9%と突出して高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」および「その他」が19.1%などの順となっています。平成25年との比較では、「希望する保育園に入るため」が18.0ポイント高く、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」は22.8ポイント低下しています。

「その他」として、「会社から早期復帰の依頼があったため」（5件）、「兄が保育園に入るため」「職場の雰囲気」「職場が1歳までに復帰する決まりになっている」などが記載されていました。

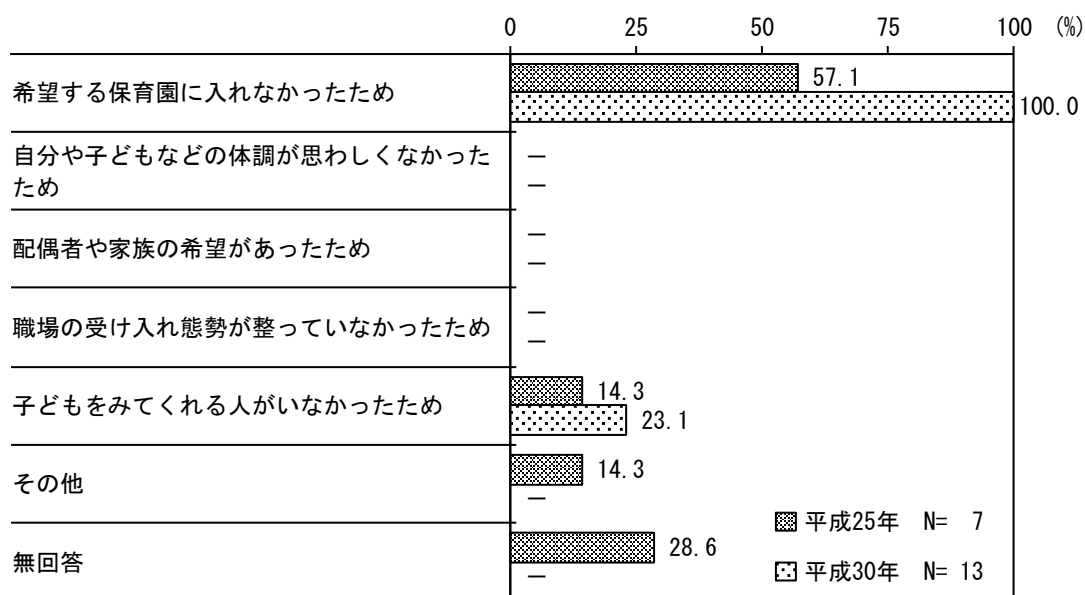
図表 1－86 希望より早く育児休業から復帰した理由（母親、複数回答）



■希望より遅い理由

希望より遅く育児休業から復帰した理由として、すべての母親が「希望する保育所に入れなかったため」と回答しており、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」が23.1%となっています。平成25年との比較では、「希望する保育所に入れなかったため」および「子どもをみてくれる人がいなかったため」が高くなっています。

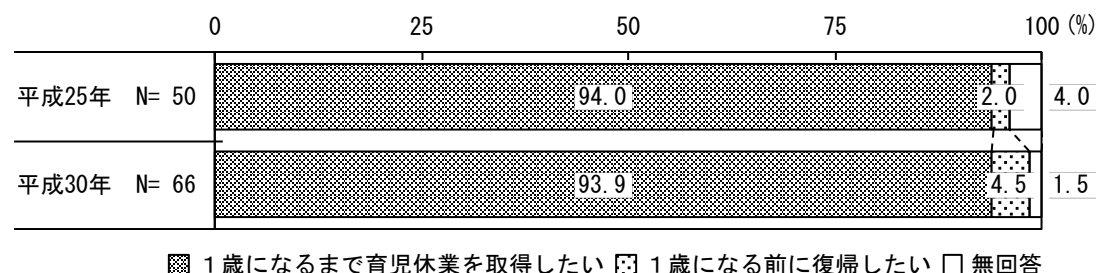
図表 1－87 希望より遅く育児休業から復帰した理由（母親、複数回答）



⑤ 必ず預けられる事業があった場合、1歳まで育児休業を取得するか（母親）

現在、育児休業中の人に、「あて名のお子さんが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか」とたずねたところ、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が93.9%を占めています。平成25年との比較では、「1歳になる前に復帰したい」が2.5ポイント高くなっています。

図表 1－88 必ず預けられる事業があった場合、1歳まで育児休業を取得するか（母親）

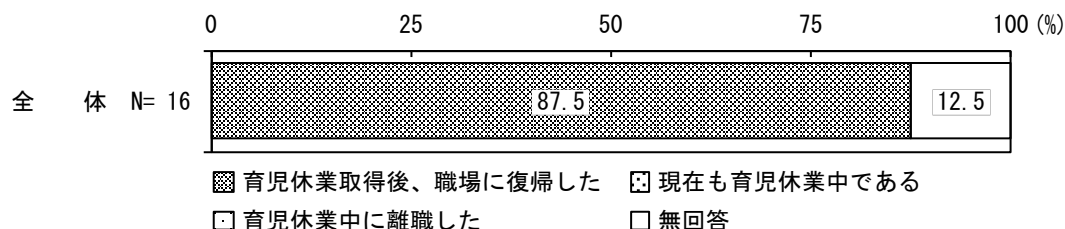


(4) 父親の育児休業

① 育児休業取得後に職場に復帰したか（父親）

育児休業を取得した父親に職場復帰したかをたずねたところ、「育児休業取得後、職場に復帰した」が87.5%（14人）となっています。

図表 1－89 育児休業取得後に職場に復帰したか（父親）

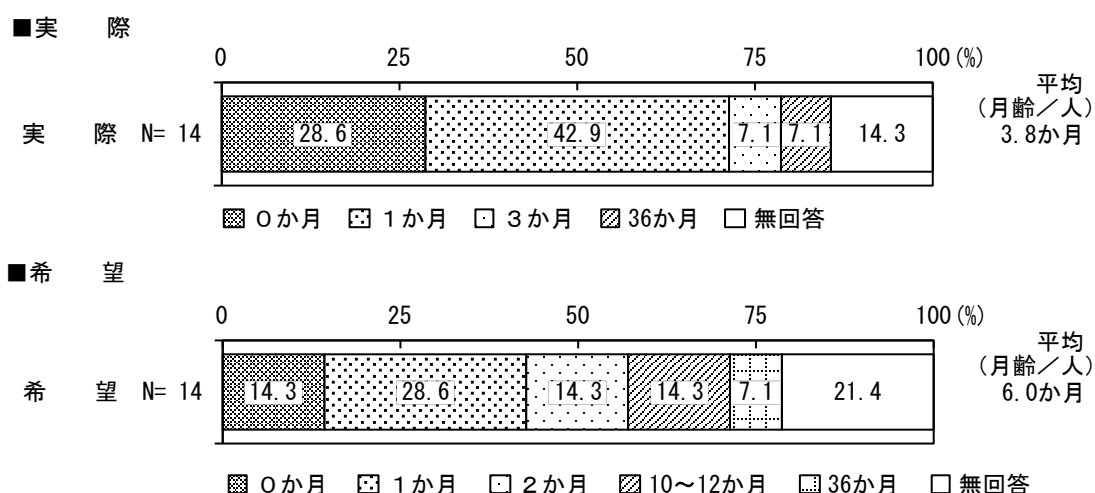


② 実際の取得期間と希望期間（父親）

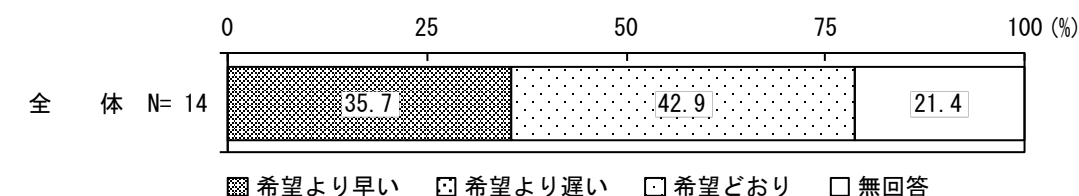
図表 1－90は父親が実際に取得した育児休業の期間を見たものです。「1か月」が42.9%（6人）と最も高く、平均は3.8か月です。勤務先の育児休業制度の期間内で取得したかった（希望）期間は、「1か月」が28.6%（4人）と最も高く、平均は6.0か月となっています。

図表 1－91は父親の実際の取得期間と希望期間から、育児休業からの復帰時期が希望どおりだったかをみたものです。「希望より早い」が35.7%（5人）、「希望どおり」が42.9%（6人）となっています。

図表 1－90 育児休業を実際に取得した期間と希望する期間（父親、実際・希望）



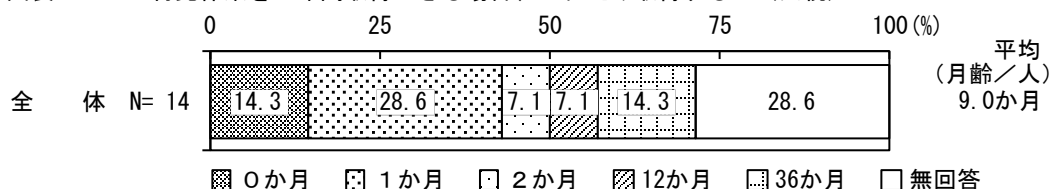
図表 1－91 復帰時期は希望どおりだったか（父親）



③ 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得したいか（父親）

育児休業取得後に職場に復帰した父親に、子どもが3歳になるまで育児休業を取得できる制度があった場合、子どもがいくつになるまで取得したかったかをたずねたところ、「1か月」が28.6%（4人）と最も高く、次いで「0か月」および「36か月」が14.3%（2人）などの順となっており、平均は9.0か月です。

図表 1－92 育児休業を3年間取得できる場合、どれだけ取得するか（父親）

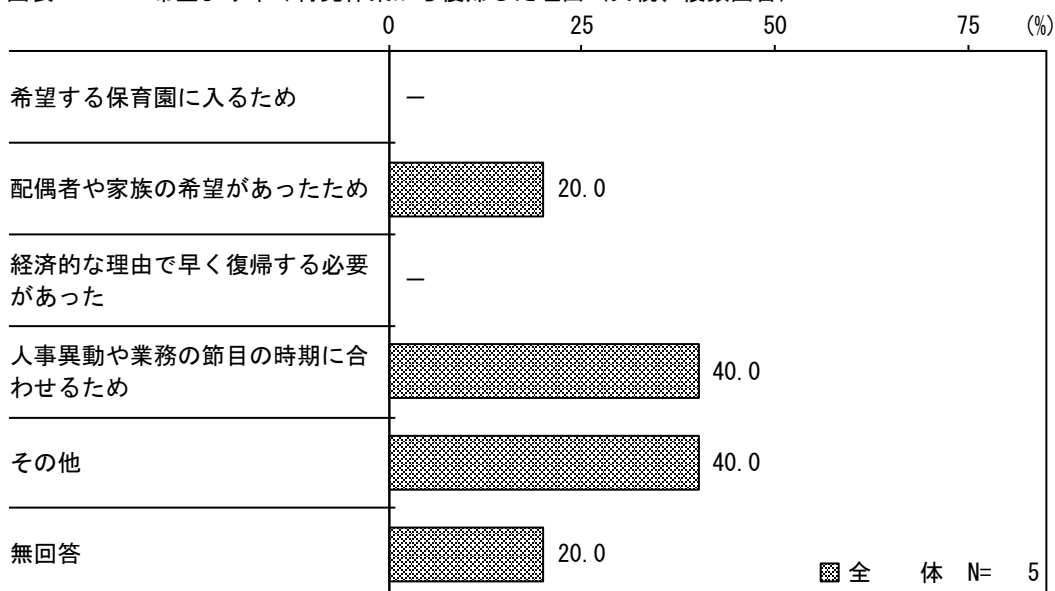


④ 希望の時期に職場復帰しなかった理由（父親）

■ 希望より早い理由

希望より遅く育児休業から復帰した理由として、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」および「その他」が40.0%（2人）、「配偶者や家族の希望があったため」が20.0%（1人）となっています。「その他」には記述がありませんでした。

図表 1－93 希望より早く育児休業から復帰した理由（父親、複数回答）

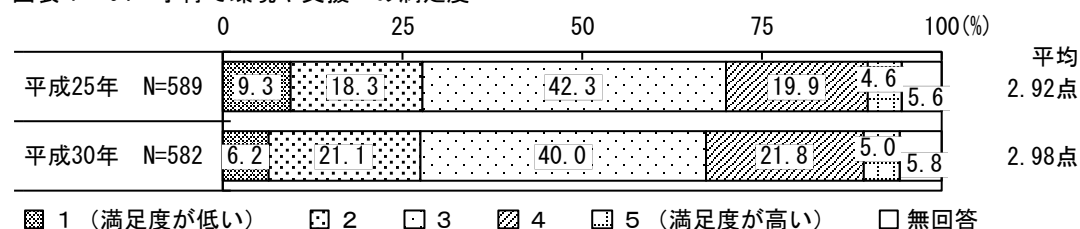


13 扶桑町の子育て支援

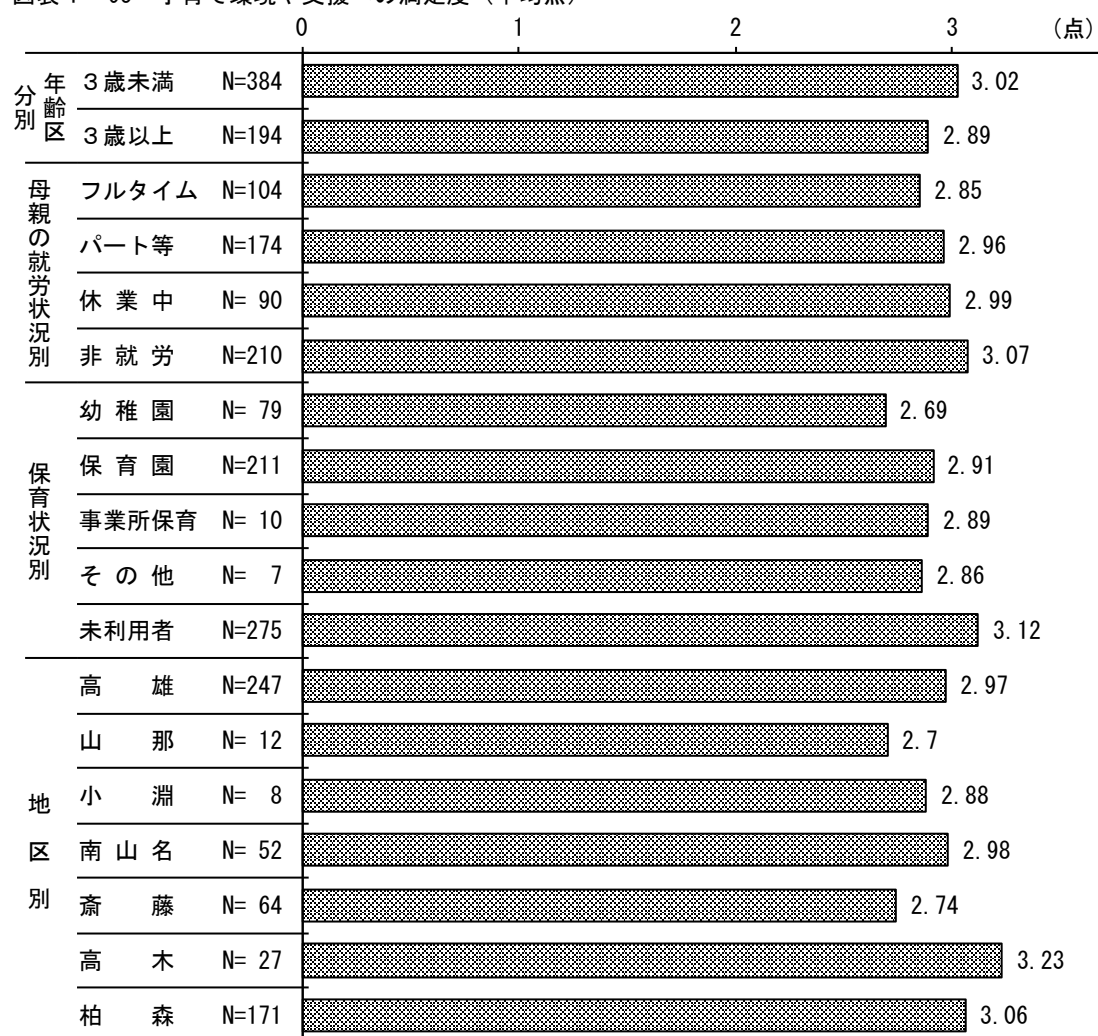
(1) 子育て環境や支援への満足度

本町における子育て環境や支援への満足度について、「満足度が高い」を5点、「満足度が低い」を1点として、何点になるかをたずねたところ、「3点」が40.0%と最も高く、平均は2.98点です。平成25年との比較では、「1点」「3点」が低下し、「2点」「4点」「5点」が高くなり、平均は0.06点高くなっています（図表1－94）。

図表1－94 子育て環境や支援への満足度



図表1－95 子育て環境や支援への満足度（平均点）



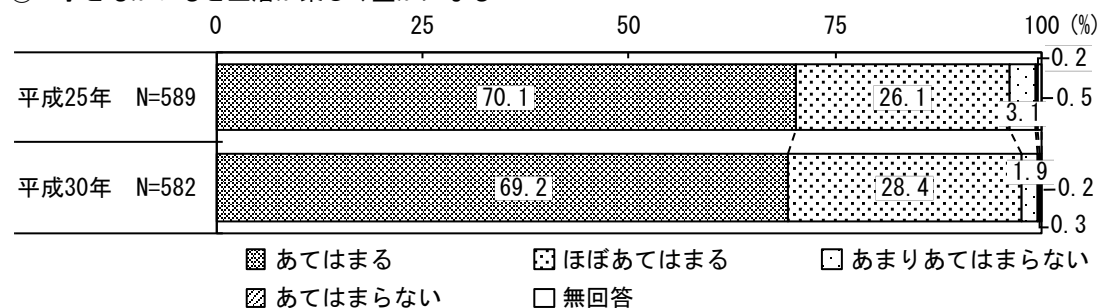
(2) 子育てに対して感じていること

子育てに関する下記①～⑧について、「あてはまる」「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4つから、最もあてはまるものをたずねました。

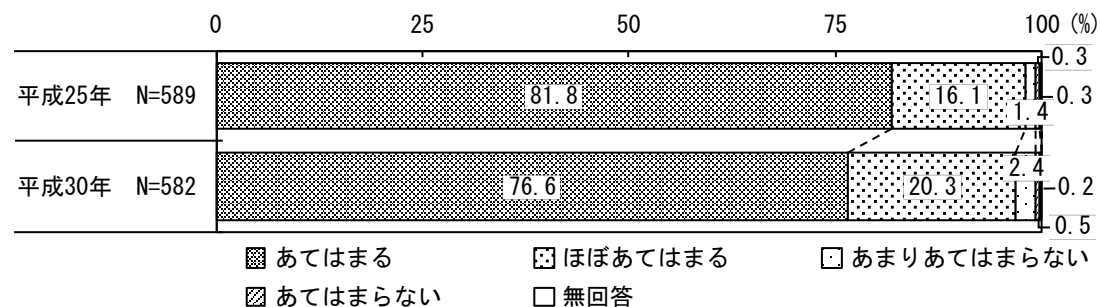
①～④の項目について「あてはまる」が最も高くなっており、子どもの存在や子育てが人生に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。しかし、平成25年との比較では、子育て等のプラス面を表す①～③の項目は「あてはまる」が低下しています。⑤では、「あてはまる」および「ほぼあてはまる」が低下しており、子育てに対して不安を感じている割合が低下しています。

図表1-96 子育てに対して感じていること

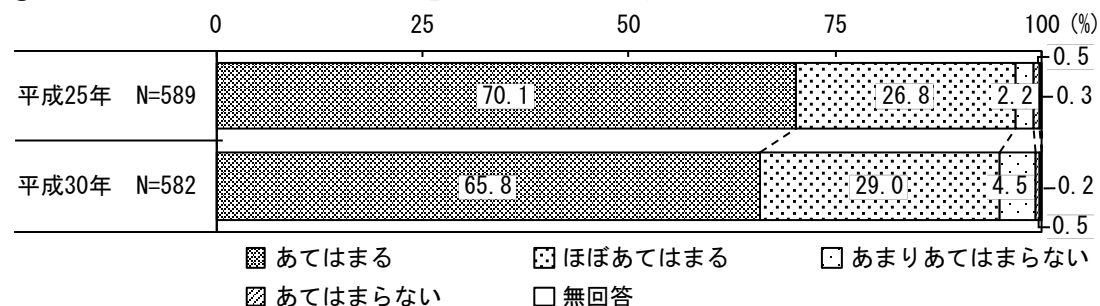
① 子どもがいると生活が楽しく豊かになる



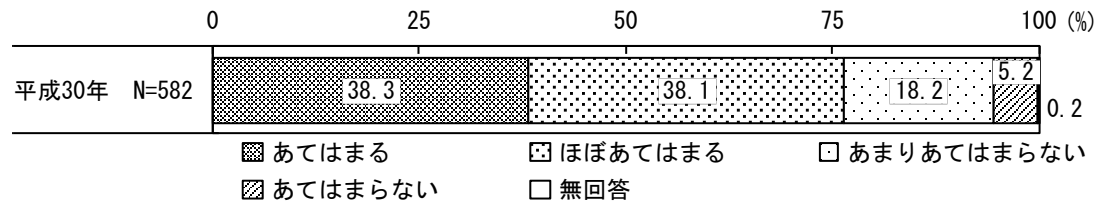
② 子育てを通じて自分も成長すると思う



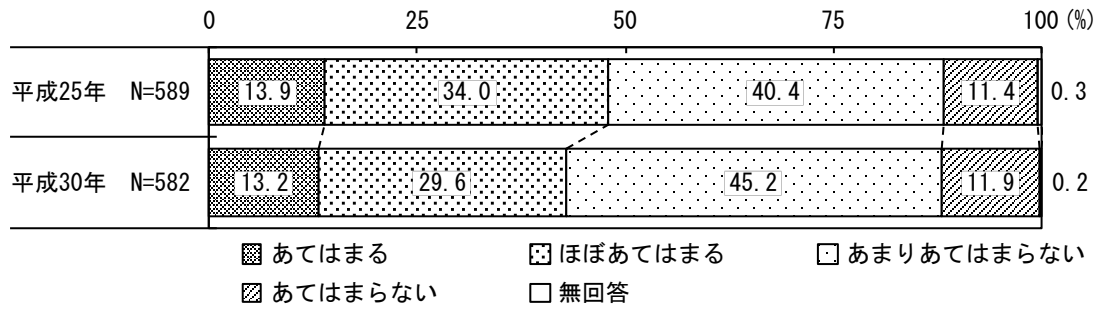
③ 子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う



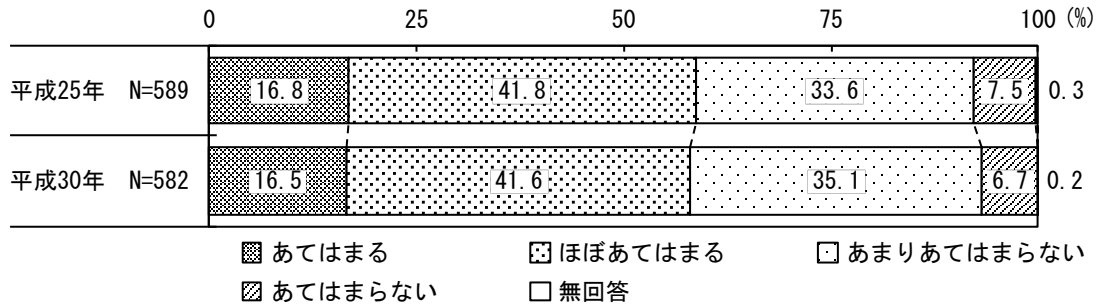
④ 同世代の友人や知人ができ、地域に溶け込むことができる



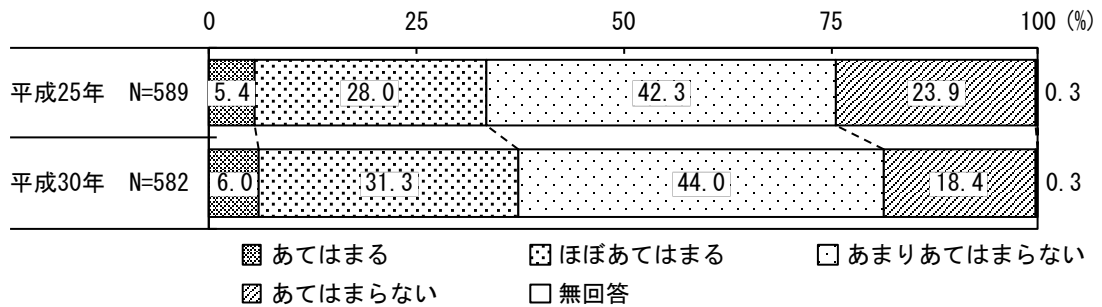
⑤ 子育てに対して不安を感じている



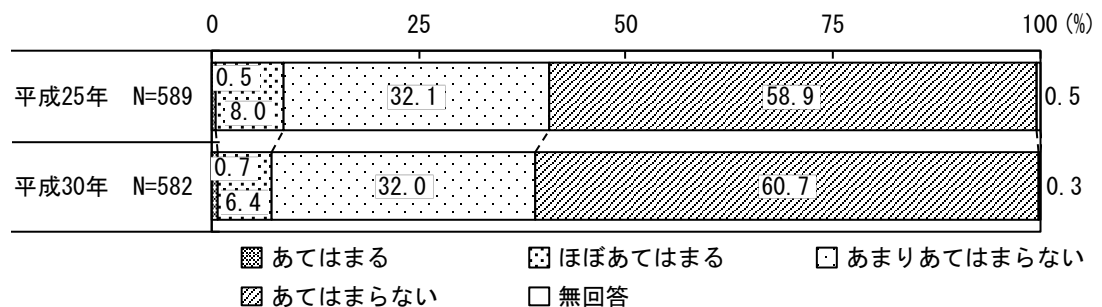
⑥ 仕事や自分のやりたいことができない



⑦ 子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



⑧ 子どもを虐待しているのではないかと思う



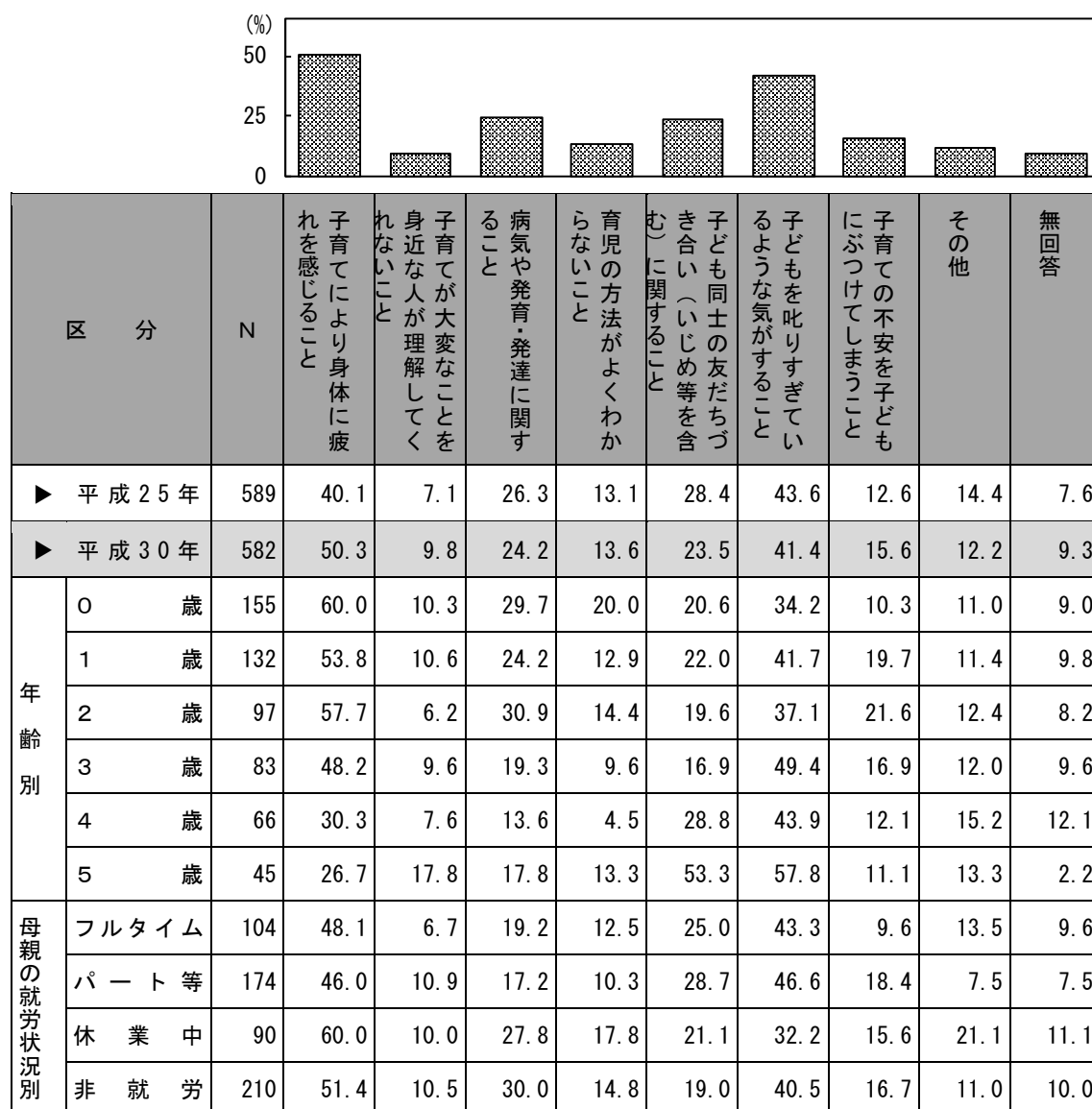
(3) 子育ての不安や悩み

子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいることとしては、「子育てにより身体に疲れを感じる」とが50.3%と最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がする」とが41.4%、「病気や発育・発達に関する」とが24.2%などの順となっています。

年齢別にみると、0～2歳は「子育てにより身体に疲れを感じる」とが50%を超え、3歳以降は低下傾向となっています。5歳は「子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関する」とおよび「子どもを叱りすぎているような気がする」とが50%を超えています。

図表 1-97 子育ての不安や悩み（複数回答）

単位：Nは人、他は%



「その他」として、図表 1－98の記述がありました。

図表 1－98 子育ての不安や悩み（その他）

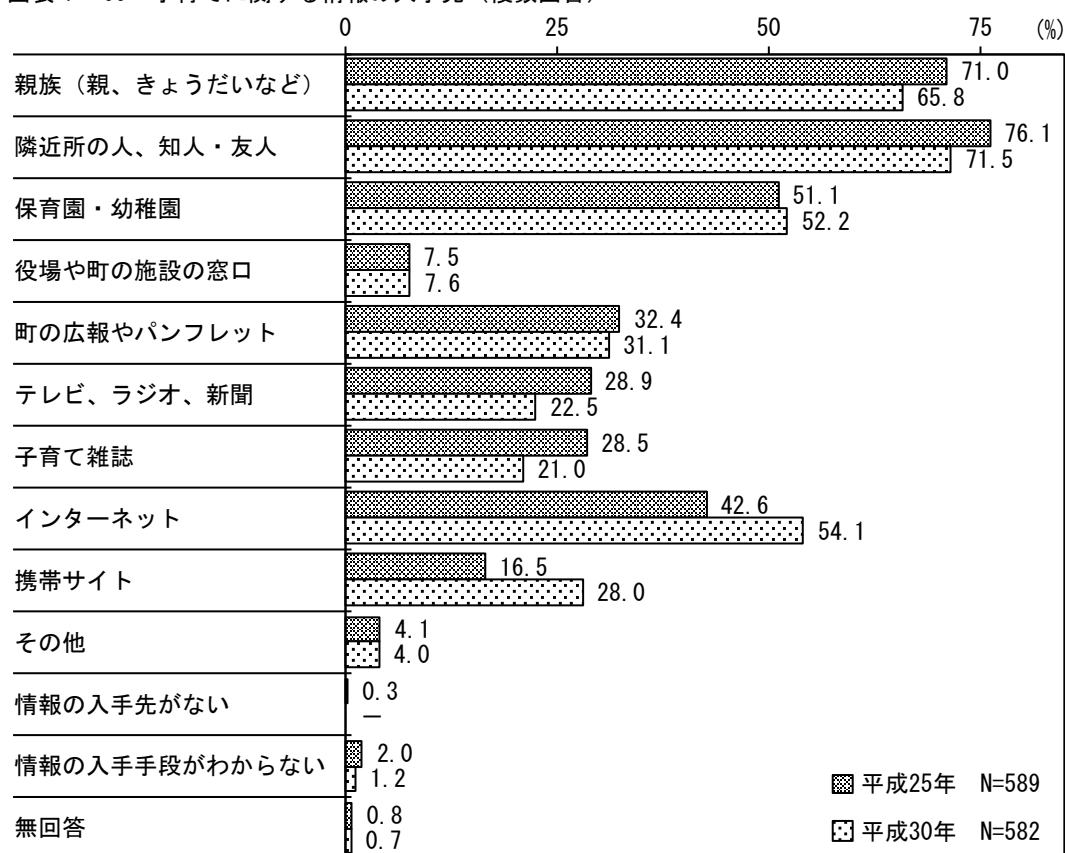
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・子育てと仕事の両立。（４件）・お金。（３件）・経済的にやっていけるか。（２件）・夫の協力不足。（２件）・自分の育て方がいいのかどうか。（２件）・今は特に無いが今後悩みが出てくるのではないかと不安になる。（２件）・一人で子育てすることで、精神的に参ってしまう。（２件）・母子家庭なので寂しい思いをさせないか。・夫が長期出張が多く、子どもと触れ合う時間が少ないこと。・叱り方があっているのか不安。・子どもに言いたいことが伝わらず、何度も同じことで叱っていること。・駄目と言っていることが、多い気がする。・好き嫌いがあるので、何でもバランスよく食べてくれる子になってほしい。・栄養面。（野菜を食べないこと。）・気軽・手軽な一時預かり施設があればよい。・教育費。・自営になった場合、子どもが病気になったら誰がみくれるのか。・町でＰＴＡの活動参加ができない人への在り方の確立が欲しい。（マニュアルなど）・扶桑町はまだ両親がフルタイムで働き、長時間保育園や学童に行く子が少ない。そのため、我が家の様に両親がフルタイムで働く場合、肩身が狭く、地域での理解が低い。もっと子育て支援が広がり働く人が増えることを願っている。・扶桑町は勤務地の状況と比較して、仕事と子育てを両立するにあたり、サポートがなさすぎる。・子どもとゆっくり関わりたいが、仕事と家事で時間に追われ、ゆっくり関われない。・仕事復帰後、子育てが今みたいに見えるか不安。・仕事で取り残された気持ちになる。・仕事をする上で、制限がかかること。・身近で気軽に子どもを預けられる人がいないなかで、フルタイムで働いているため、子育てと仕事のキャリアのことで悩むことがある。・保育園に預けてからだと、仕事の開始時刻に間に合わない。パートにならなくてはいけなくなるかもしれない。・自分の体力不足で家族に負担をかけていること。仕事を続けていく自信がなく、小学校にあがったら辞めようか考えている。仕事を辞めてしまうと金銭的な不安もある。・勤労に伴う子どもの預け先について。 | <ul style="list-style-type: none">・子どもが保育園に行きたくない日も、保育園に預けて仕事に行ってしまうこと。・子どもに対して、本気でイライラしてしまう自分が情けなく感じる事。・自分にゆとりがないとき、感情的に子どもを怒ってしまう。・ママ友など、外での出会いがうまくできない。・子育てが大変なわけではないが、やりたいこと（くつ下の穴をふさぎたい。そうじをまめにしたい。）ができない。やりたいことができないという、趣味とか習いごとように理解されてしまうので、それもストレス。・夫の助けで助かってはいるが、睡眠不足が一番辛い。・夫が多忙で、子育ての参加率が低いこと。・祖父母の援助が見込めないため、両親共働きで育児ができるか。・自分に何かあったときに、子どもをみてもらえる所があるのか不安。・勉強についていけない。・保育園の担任の先生の教育方針に疑問を感じている。子どもたちに圧力をかけるようなことを言う。すべての子どもが同じようにできて当たり前と言う。・保育園の先生とのコミュニケーション。不安と言うより不満。言葉づかいが悪い。仕事に関して、口を出してくる。子どもの悪いところしか、見ていないような報告をしてくる。・学校や担任に対する不信感。・地元の人間ではないため、色々なことを知らないし頼れる友人、知人も少ないこと。・育児に対する常識やタブーなど、どれが正しい情報が分かりづらい。地域によって考え方が違いすぎる。後から知って後悔することが多い。・きょうだい間での扱いの差について。・下の子が３歳になるまでしか、時短勤務ができないため、仕事を辞めざるを得ないこと。保育園、児童館の利用時間内では、仕事を継続できない。・年子の子の育児になるので、どうなるか不安。・保育園に通うのと幼稚園とでは学力に差が出るのではないかと不安。・育児サークル、母親同士の付き合い。・子どもの声が、大きすぎないか、近所迷惑と思われるか不安。・公園で、子どもの声（泣いたり、叫んだり）が、迷惑と思われるか不安。・車や自転車の急な飛び出し。・特にない。（９件） |
|---|--|

(4) 子育てに関する情報の入手先

子育てに関する情報の入手先は、「隣近所の人、知人・友人」が71.5%と最も高く、次いで「親族（親、きょうだいなど）」が65.8%、「インターネット」が54.1%、「保育園・幼稚園」が52.2%などの順となっています。平成25年との比較では、「インターネット」および「携帯サイト」が10ポイント以上高くなり、「町の広報やパンフレット」や「テレビ、ラジオ、新聞」「子育て雑誌」の情報媒体・ツールが低下しています。

「その他」として、図表 1－100の記述がありました。

図表 1－99 子育てに関する情報の入手先（複数回答）



図表 1－100 子育てに関する情報の入手先（その他）

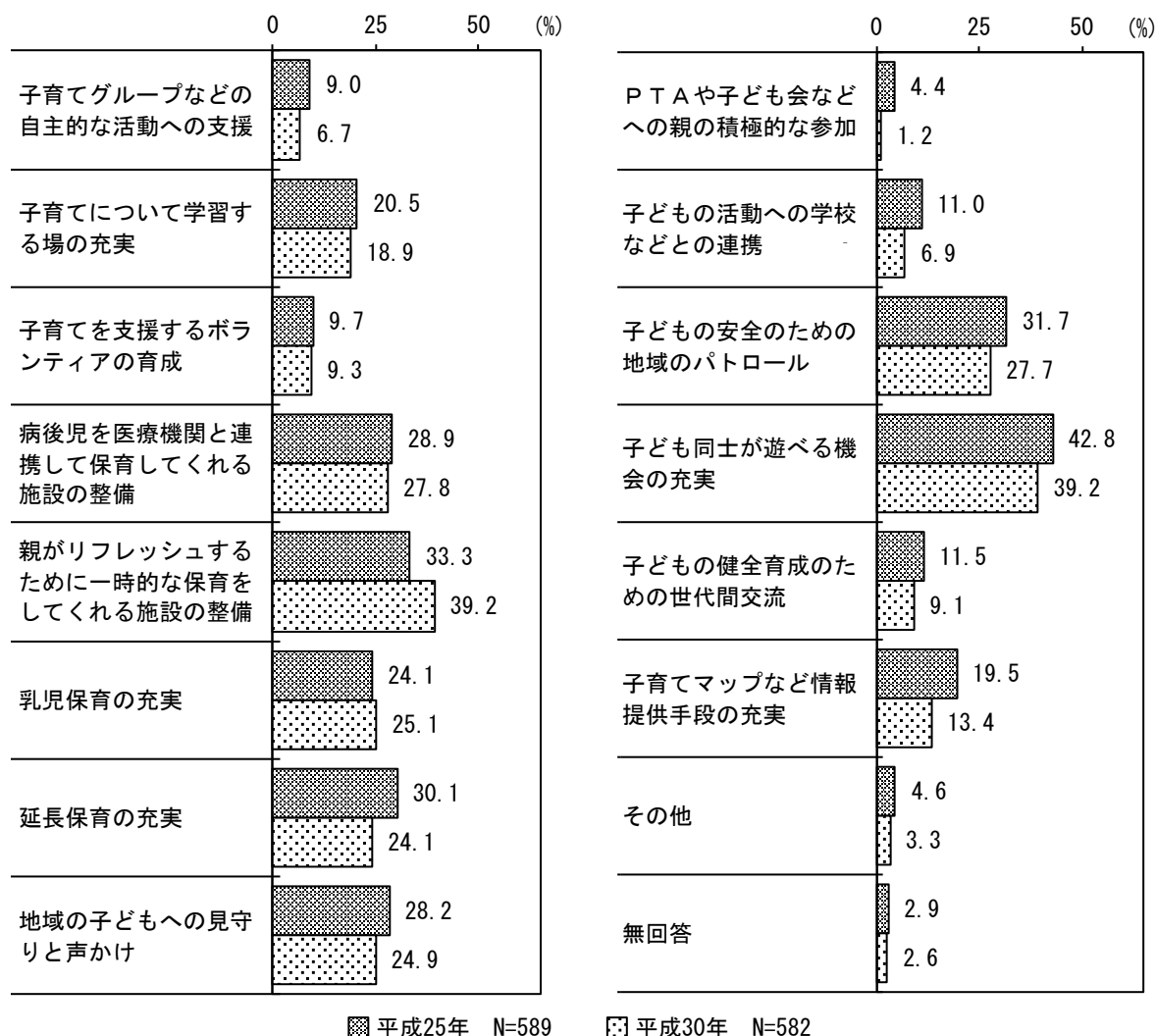
- | | |
|----------------|----------------|
| ・子育て支援センター（8件） | ・育児書 |
| ・職場の同僚・先輩（4件） | ・サークル |
| ・本（2件） | ・NPO法人 |
| ・元職場（病院） | ・特に何かを参考にはしない。 |
| ・保健センター | |

(5) 今後必要と思われる取組

子育てについて今後必要と思われる取組をたずねたところ、「親のリフレッシュのために一時的な保育をしてくれる施設の整備」および「子ども同士が遊べる機会の充実」が39.2%と高く、次いで「病後児を医療機関と連携して保育してくれる施設の整備」が27.8%などの順となっています。平成25年との比較では、「親がリフレッシュするために一時的な保育をしてくれる施設の整備」が5.9ポイント高くなり、「延長保育の充実」および「子育てマップなど情報提供手段の充実」が5ポイント以上低下しています。

「その他」として、図表1-102の記述がありました。

図表1-101 今後必要と思われる取組（複数回答：主なもの3つまで）



図表 1－102 今後必要と思われる取組（その他）

・休日子どもを連れて遊びに行ける施設の整備。（2件） ・子どもの食に関するサポート。 ・扶桑町からの積極的な発信とフォロー。 ・体操教室に子どもがお世話になっています。いい教室で来年もお世話になりたいと思っていますが、人気があり入れなかった人もいると聞くので可能であればたくさんの方が利用できるようにして欲しい。 ・全部必要。扶桑町は取り組みが遅すぎる。 ・仕事をしている親をボランティアとして拘束しないこと。PTA、子供会が特に負担。	・発達支援などの専門的機関。 ・保育園であっても、教育や連携による習い事ができるしくみ。 ・日・祝日の保育園の利用を可能にして欲しい。 ・長期休業保育の充実。 ・子育て支援制度、助成金等の充足。 ・授業料・保育料の無料化。 ・子育て相談先の充実。 ・子どもが安全に遊べるように、整った公園。 ・児童遊園などに、幼児の遊べる遊具を増やす。 ・子どもが2歳になったら、確実に、保育園に預かっていただける体制を整えて欲しい。
---	--

第2部

小学生保護者調査

I 子どもと家族の状況等

(1) 居住地区

回答のあった子どもの居住地区は、「高雄」が47.8%を占めており、次いで「柏森」が23.4%、「斎藤」が11.6%などの順となっています。

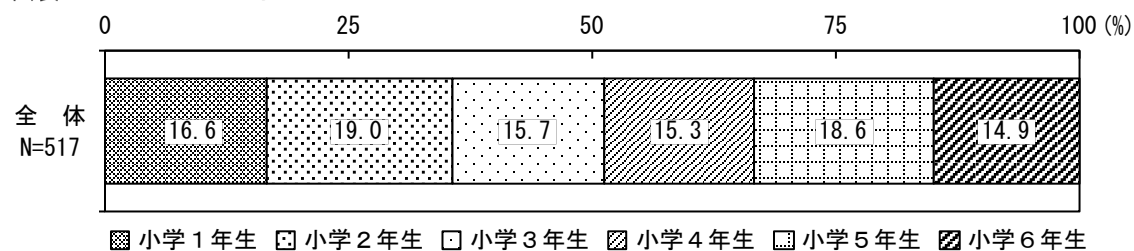
図表 2－1 居住地区

地区	高雄地区	山那地区	小淵地区	南山名地区	斎藤地区	高木地区	柏森地区	その他	無回答	合計
人	247	14	11	39	60	23	121	1	1	517
%	47.8	2.7	2.1	7.5	11.6	4.4	23.4	0.2	0.2	100.0

(2) 子どもの学年

回答のあった子どもの学年は、図表 2－2 のとおりです。1～3年生の低学年が51.3%、4～6年生の高学年が48.8%を占めています。

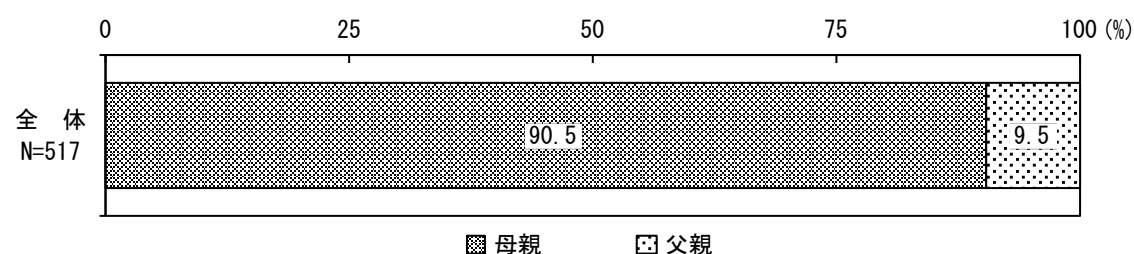
図表 2－2 子どもの学年



(3) 調査の回答者

本調査の回答者は、「母親」が90.5%を占め、「父親」が9.5%となっています。

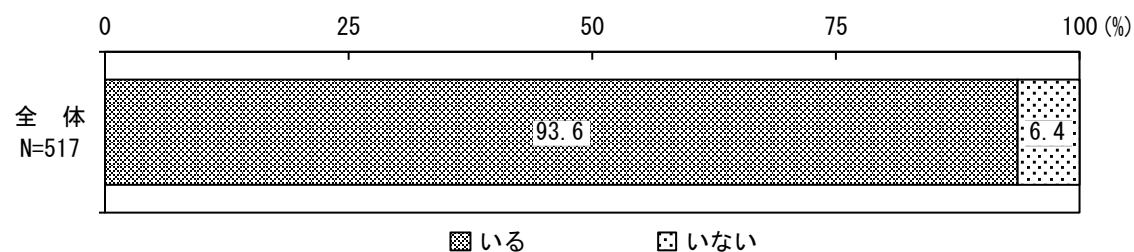
図表 2－3 調査の回答者



(4) 配偶関係

回答者の配偶関係をたずねたところ、「配偶者がいる」が93.6%、「配偶者はいない」が6.4%となっています。

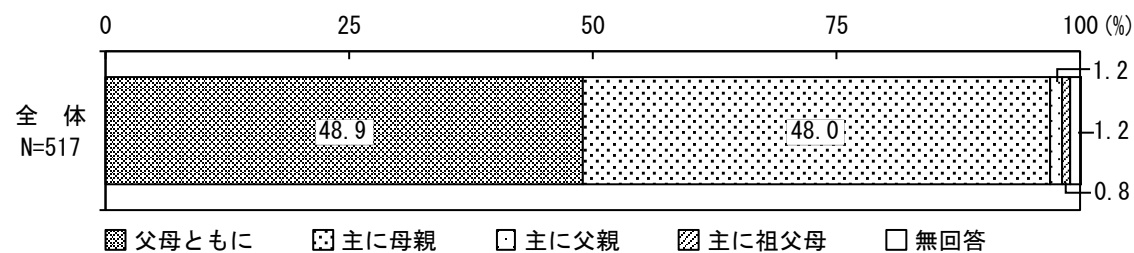
図表 2-4 配偶関係



(5) 子育てを主に行っている人

子育てを主に行っているのは、「父母ともに」(48.9%)と「主に母親」(48.0%)がほぼ同率となっています。「主に父親」は1.2%、「主に祖父母」は0.8%です。

図表 2-5 子育てを主に行っている人



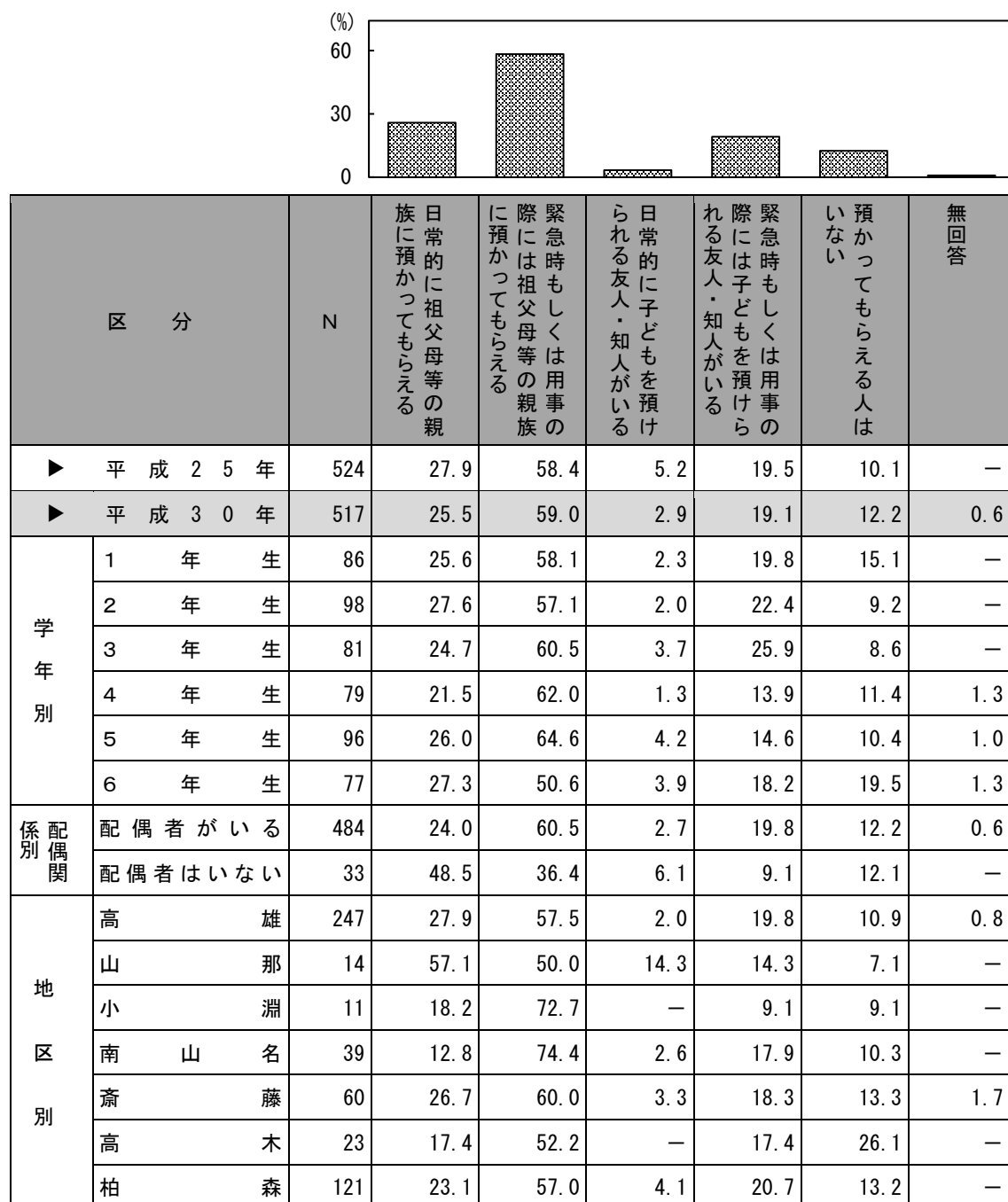
2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもを預かってもらえる人の有無

子どもを預かってもらえる人の有無をたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が59.0%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が25.5%などの順となっています。「預かってもらえる人はいない」は12.2%です。平成25年との比較では、「預かってもらえる人はいない」は2.1ポイント高くなっています。

図表2-6 子どもを預かってもらえる人の有無（複数回答）

単位：Nは人、他は%

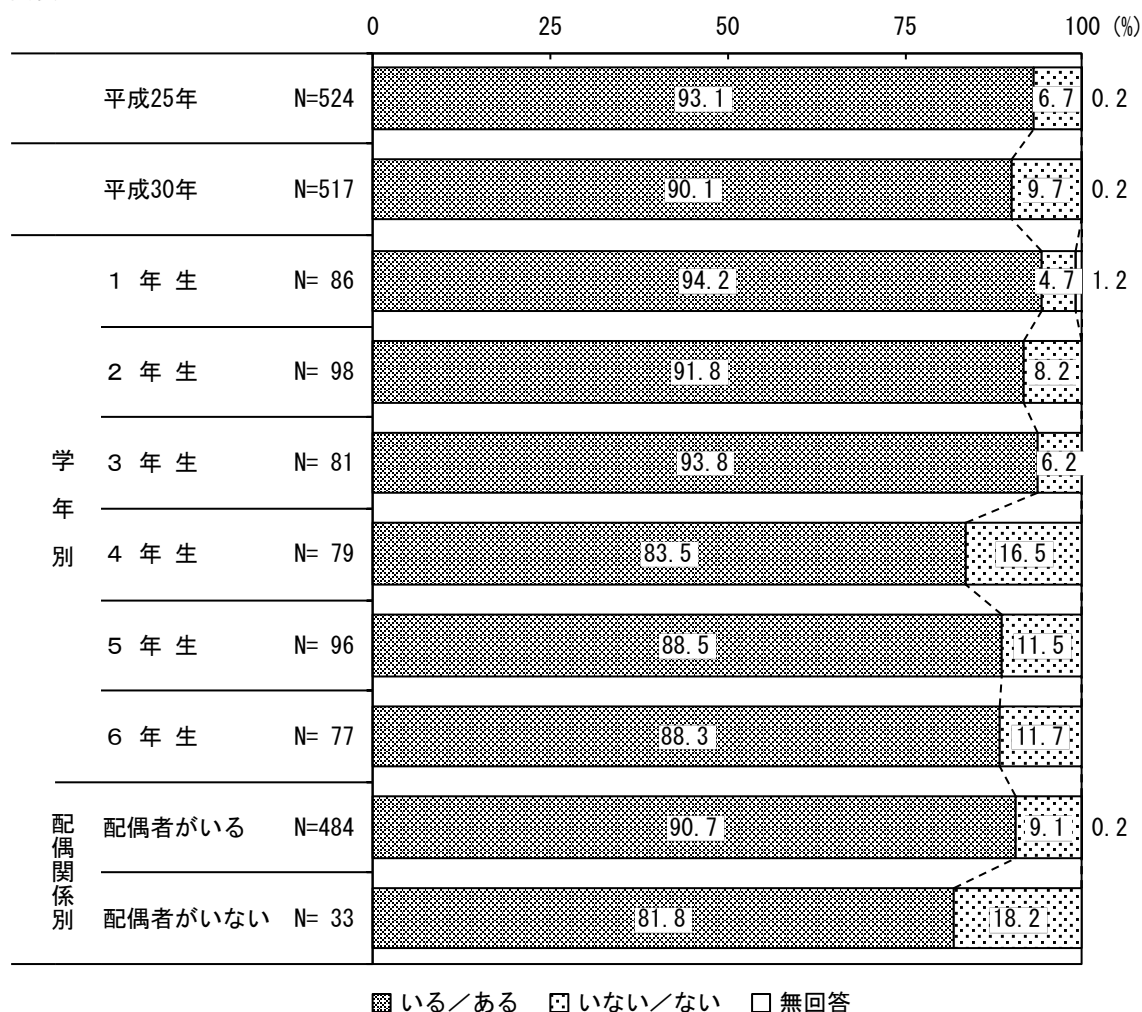


(2) 子育ての相談相手の有無

子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人が「いる／ある」は90.1%を占めています。平成25年との比較では、「いない／ない」が3.0ポイント高くなっています。

学年別にみると、4年生以上の「いない／ない」が10%以上となっています。

図表2-7 子育ての相談相手の有無



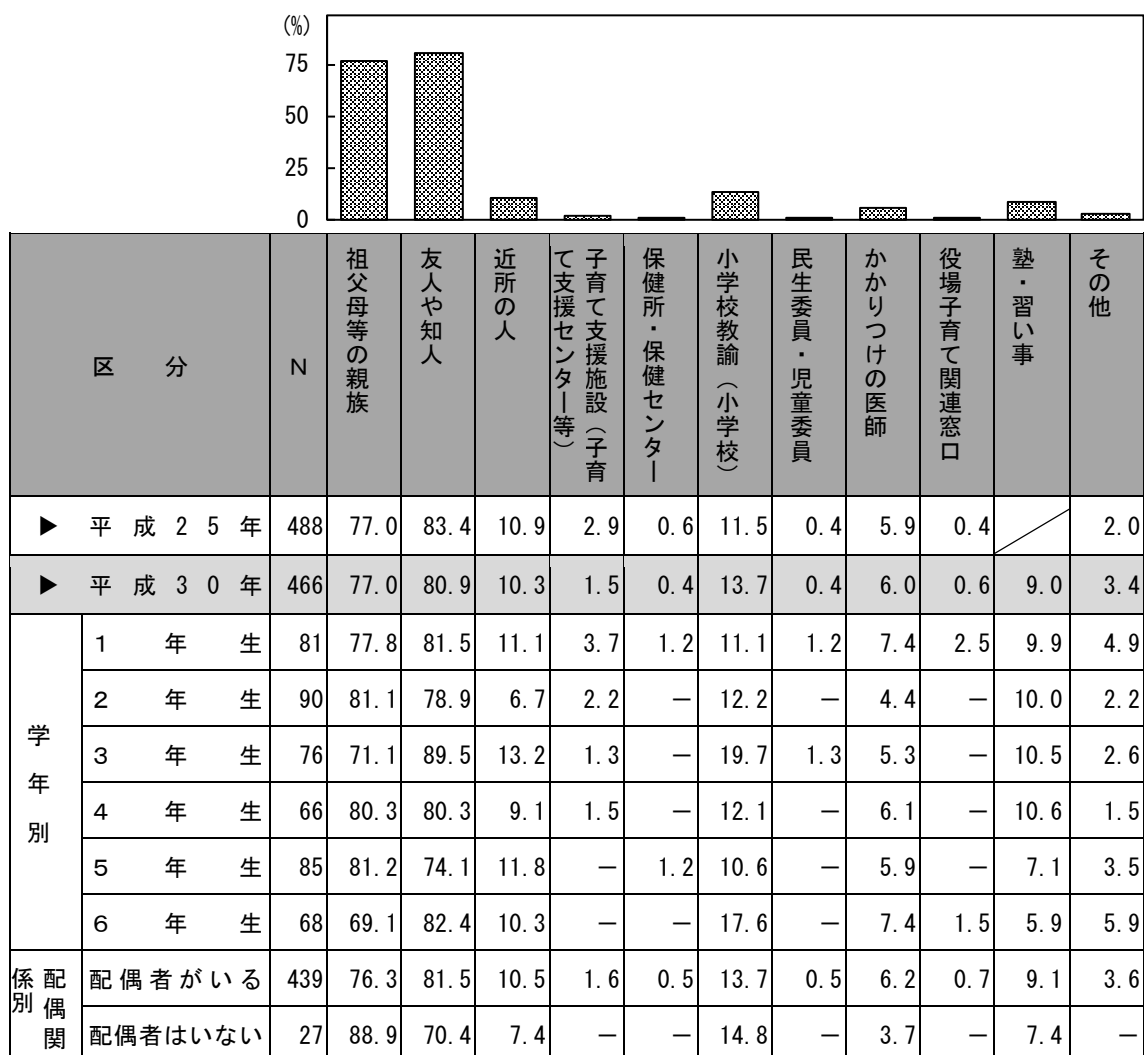
(3) 子育てに関する相談先

前項で、気軽に相談できる人が「いる／ある」と回答した人に相談先をたずねたところ、「友人や知人」が80.9%と最も高く、次いで「祖父母等の親族」が77.0%となっており、これら2項目が突出して高くなっています。就学前児童の保護者と比較すると（参照8頁図表1－8）、上位2項目は同じですが、順位が逆転しています。そのほかの相談先は、「小学校教諭（小学校）」「近所の人」が10%台となっています。

「その他」として、「勤務先の同僚」（3件）、「職場の上司」（2件）、「児童デイサービス」（2件）、「教会の牧師」、「自分のきょうだい」、「NPO法人」の記述がありました。

図表2－8 子育てに関する相談先（複数回答）

単位：Nは人、他は%

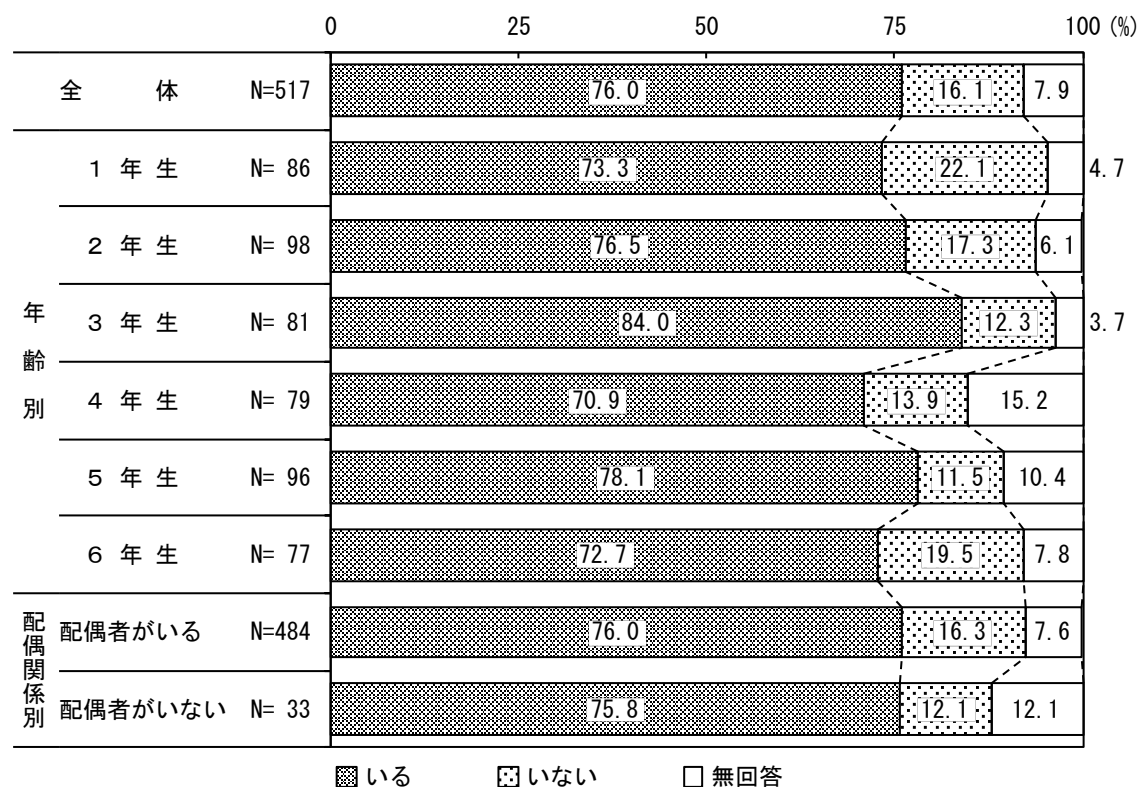


(4) 子育ての手助けをしてくれる人の有無

子育てをする上で、身近に手助けしてくれる人がいるかたずねたところ、「いる」が76.0%と「いない」を大きく上回っています。

学年別にみると、「いる」は3年生が84.0%と最も高く、4年生が70.9%と最も低くなっており、その差は13.1ポイントとなっています。

図表2-9 子育ての手助けをしてくれる人の有無

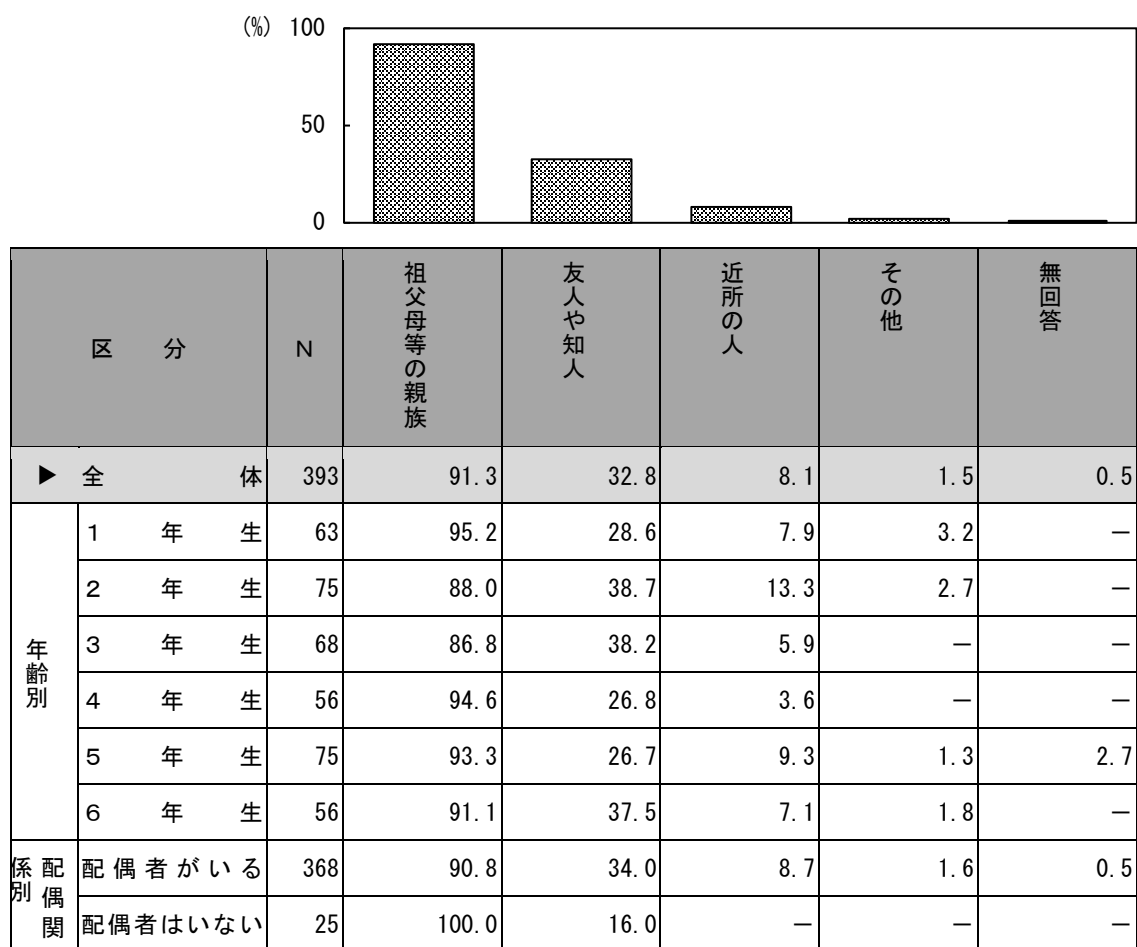


(5) 子育てを手助けしてくれる人

前項で、身近に子育ての手助けをしてくれる人が「いる」と回答した人にどのような人かたずねたところ、「祖父母等の親族」が91.3%と非常に高く、次いで「友人や知人」が32.8%、「近所の人」が8.1%となっています。

配偶関係別にみると、すべての配偶者がいない人は「祖父母等の親族」と回答しています。

図表 2-10 子育てを手助けしてくれる人



3 保護者の就労状況

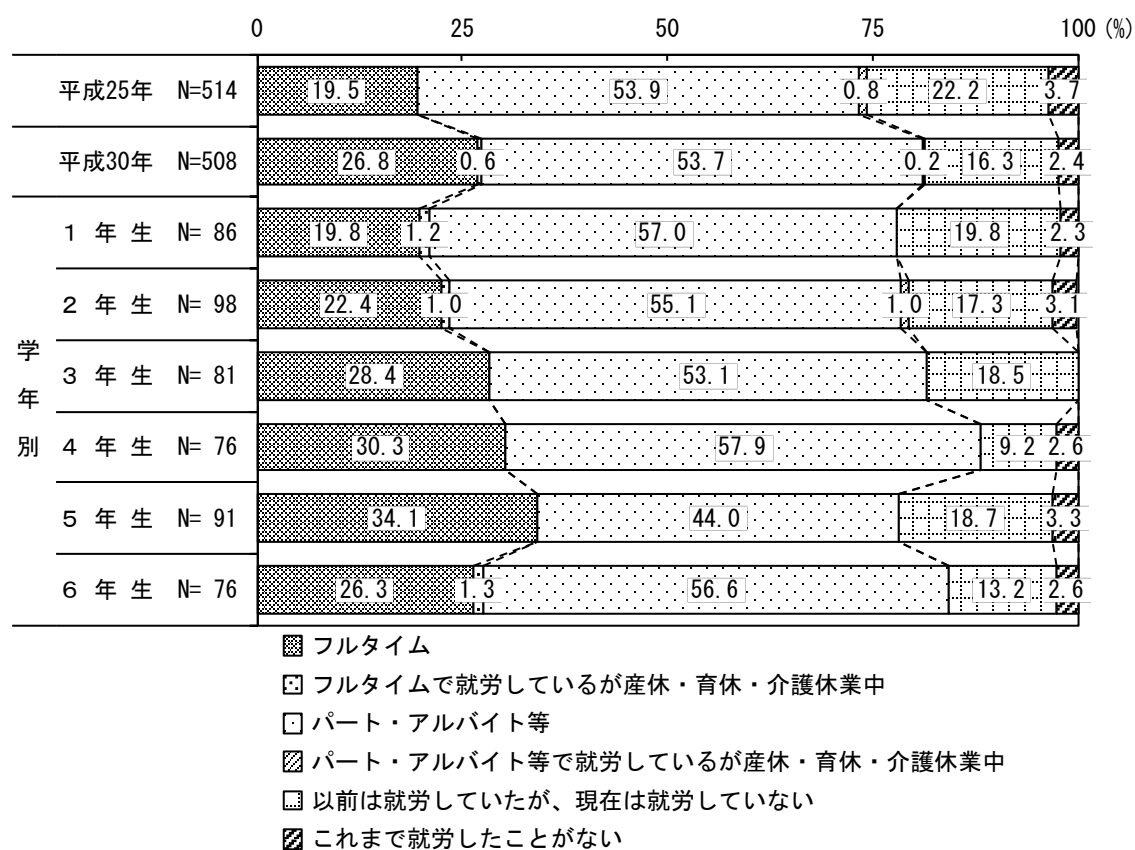
(1) 母親の就労状況

① 就労状況

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が53.7%と最も高く、次いで「フルタイム」が26.8%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が16.3%などの順となっています。平成25年との比較では、「フルタイム」は7.3ポイント高くなり、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は5.9ポイント低くなっています。

学年別にみると、「フルタイム」は、1年生から5年生までは学年が上がるにつれて高くなっています。

図表2-11 母親の就労状況



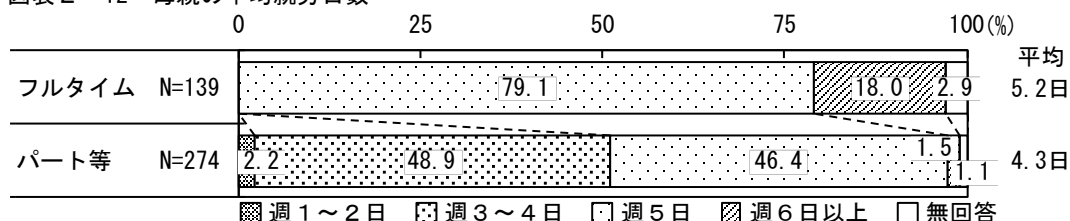
② 平均就労日数

フルタイムの母親の就労日数は、「週5日」が79.1%を占めています。1週当たりの平均は5.2日です。

パート・アルバイト等の母親の就労日数は、「週3～4日」が48.9%と最も高く、次いで「週5日」が46.4%などの順となっています。

平均就労日数を就学前児童の保護者と比較すると（参照12頁図表1－12）、フルタイムは0.1日、パート等は0.2日増加しています。

図表2－12 母親の平均就労日数



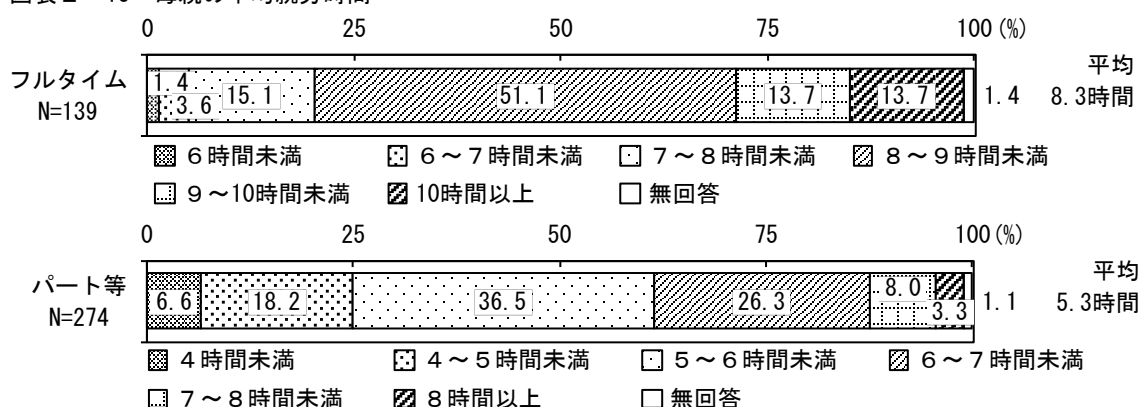
③ 平均就労時間

フルタイムの母親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」が51.1%を占めており、1日当たりの平均就労時間は8.3時間です。

パート・アルバイト等の母親の平均就労時間は、「5～6時間未満」が36.5%と最も高く、次いで「6～7時間未満」が26.3%などの順となっています。1日当たりの就労時間の平均は5.3時間です。

平均就労時間を就学前児童の保護者と比較すると（参照12頁図表1－13）、フルタイムは0.2時間、パート等は0.3時間増加しています。

図表2－13 母親の平均就労時間



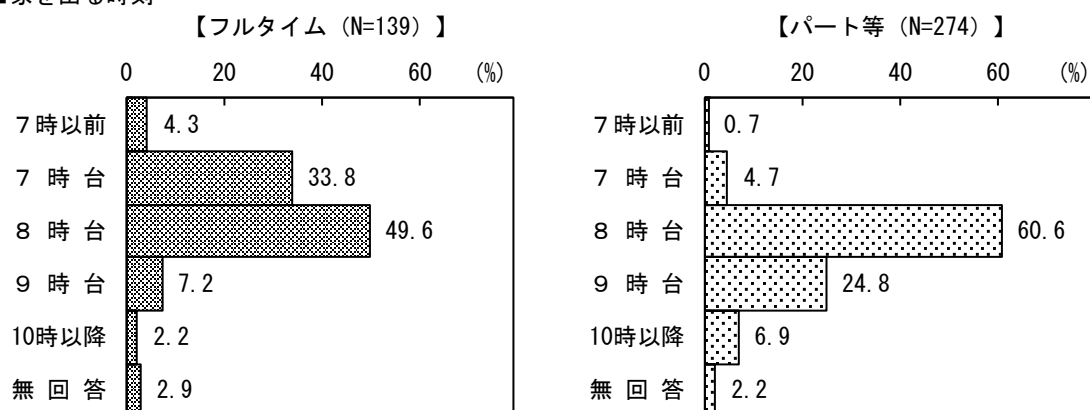
④ 家を出る時刻、帰宅時刻

母親が家を出る時刻をみると、フルタイムおよびパート等ともに「8時台」が最も高くなっています。2番目に高いのは、フルタイムは「7時台」（33.8%）、パート等は「9時台」（24.8%）となっています。フルタイムが9時までに家を出る率は87.7%です。

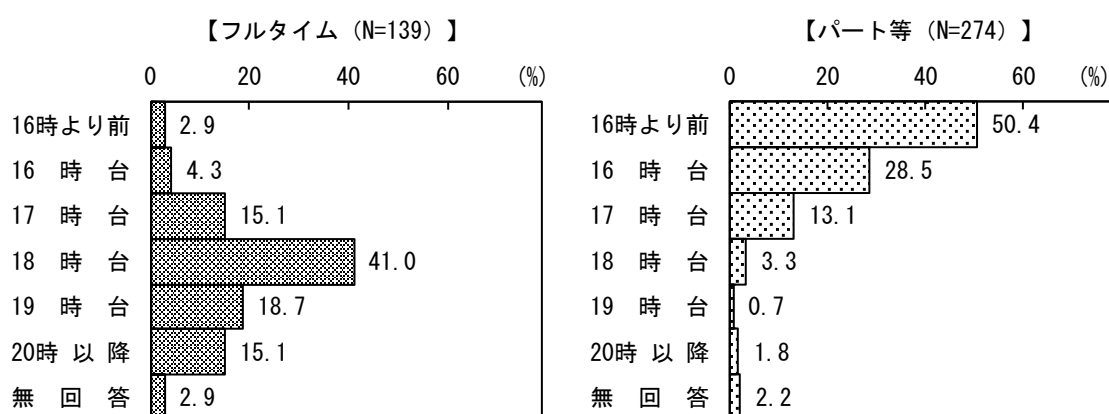
帰宅時刻をみると、フルタイムは「18時台」が41.0%と最も高く、18時以降に帰宅する人の合計は74.8%です。パート・アルバイト等は、「16時より前」が50.4%と最も高く、以降は徐々に低下しており、18時までに帰宅している人が92.0%を占めます。

図表2-14 母親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

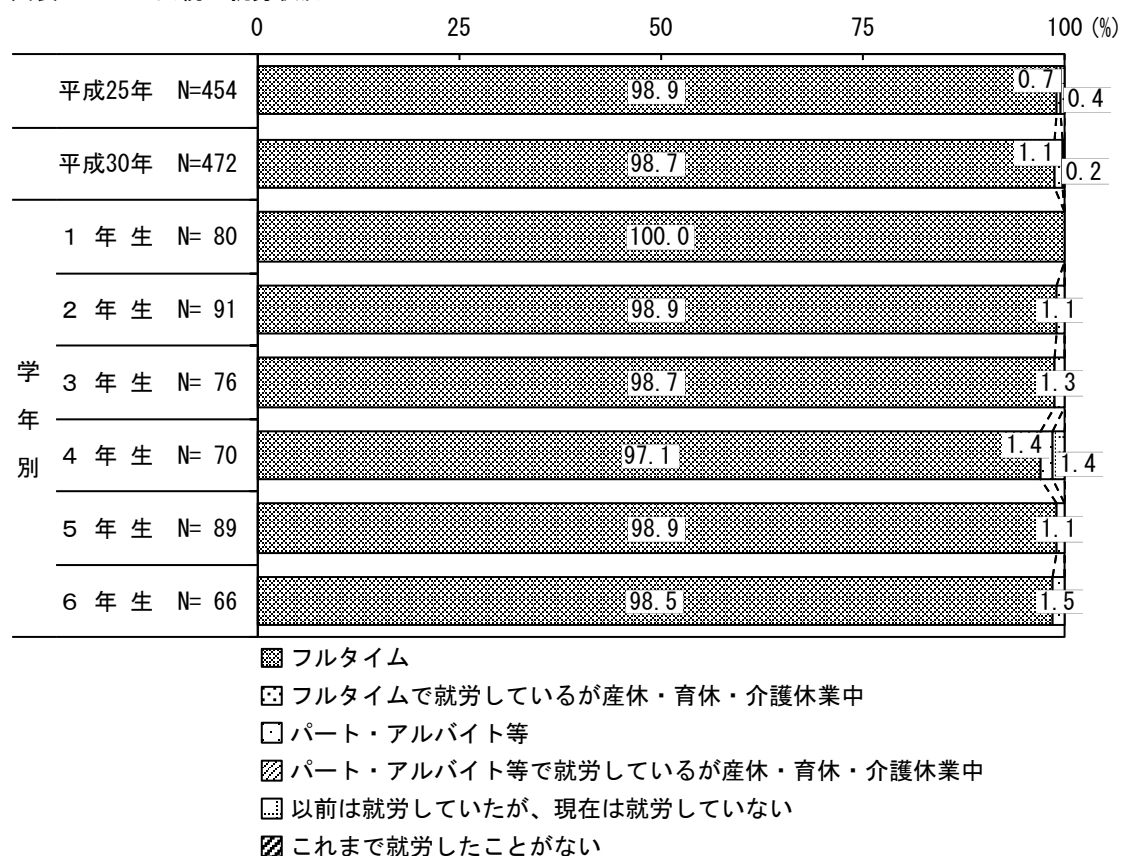


(2) 父親の就労状況

① 就労状況

父親の就労状況は、「フルタイム」が98.7%を占めています。そのほかは、「パート・アルバイト等」が1.1%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.2%です。

図表 2-15 父親の就労状況

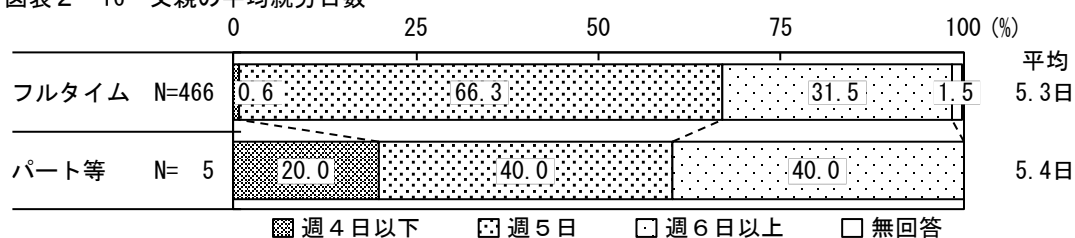


② 平均就労日数

フルタイムの父親の就労日数は、「週5日」が66.3%と最も高く、次いで「週6日以上」が31.5%などの順となっています。1週当たりの就労日数の平均は5.3日です。

パート・アルバイト等の父親（5人）の就労日数は、「週5日」および「週6日以上」が40.0%（2人）、「週4日以下」が20.0%（1人）です。1週当たりの就労日数の平均は5.4日です。

図表 2-16 父親の平均就労日数

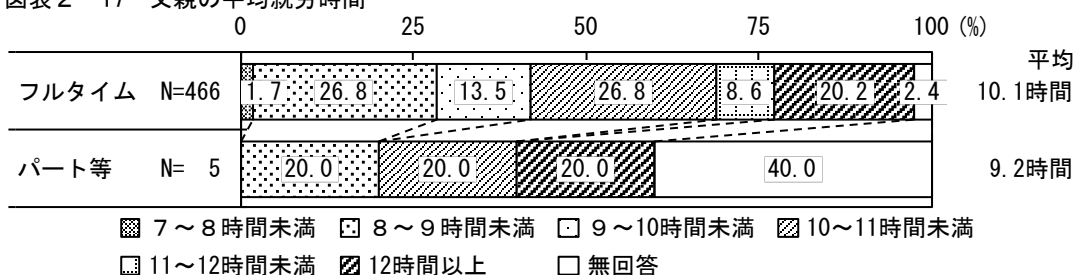


③ 平均就労時間

フルタイムの父親の1日当たりの平均就労時間は、「8～9時間未満」および「10～11時間未満」が26.8%と最も高く、次いで「12時間以上」が20.2%などとなっており、1日当たりの平均就労時間は10.1時間です。

パート・アルバイト等の父親（5人）の平均就労時間は、「8～9時間未満」「10～11時間未満」および「12時間以上」が20.0%（1人）となっており、1日当たりの就労時間の平均は9.2時間です。

図表 2-17 父親の平均就労時間



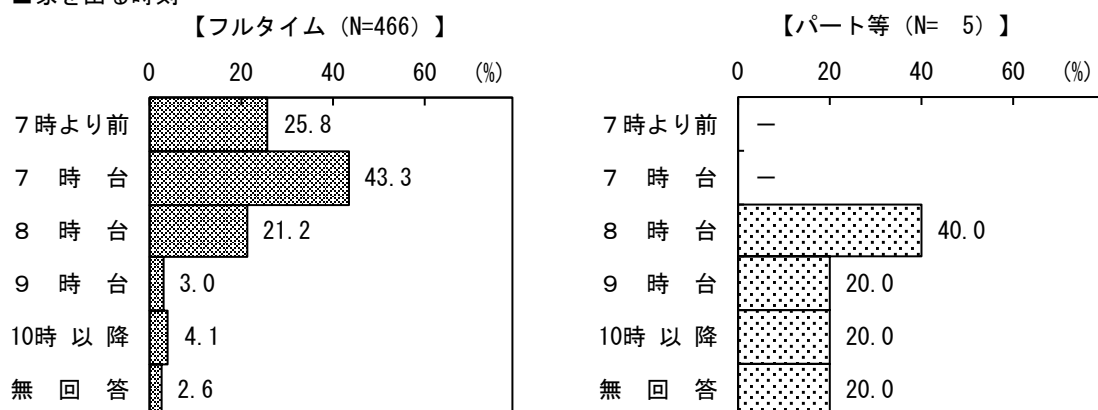
④ 家を出る時刻、帰宅時刻

フルタイムの父親が家を出る時刻をみると、「7時台」が43.3%と最も高く、次いで「7時より前」が25.8%、「8時台」が21.2%などの順となっています。9時までに家を出ている率は90.3%となっています。帰宅時刻は、「20時台」が23.4%と最も高く、次いで「21時台」が19.3%、「19時台」が18.5%などの順となっています。20時以降に帰宅する人の合計は59.9%となっています。

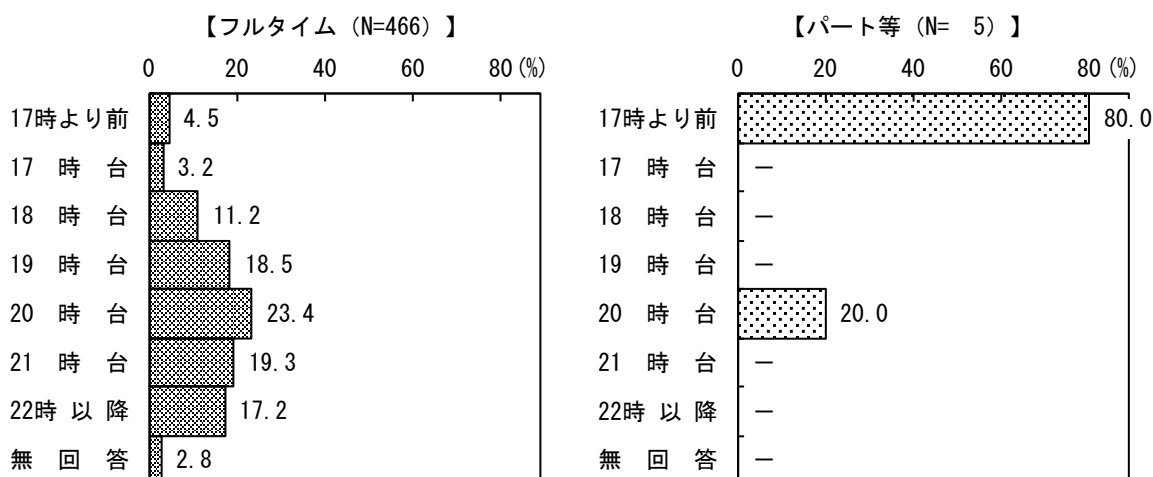
パート・アルバイト等の父親（5人）が家を出る時刻は、「8時台」が40.0%（2人）、「9時台」および「10時以降」が20.0%（1人）となっています。帰宅時刻は「17時より前」が80.0%（2人）、「20時台」が20.0%（1人）です。

図表2-18 父親の家を出る時刻、帰宅時刻

■家を出る時刻



■帰宅時刻

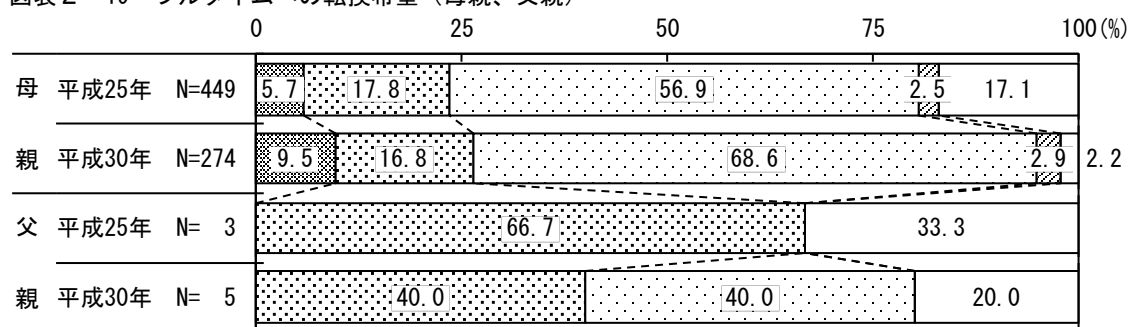


(3) フルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等と回答した人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、母親は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が68.6%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が16.8%などとなっています。平成25年との比較では、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が低くなっています。

父親は、「フルタイムへの転換希望があるが、実現できる見込みはない」および「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が40.0%（2人）と回答しています。

図表2-19 フルタイムへの転換希望（母親、父親）



- フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- ▨ フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- ▤ パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
- 無回答

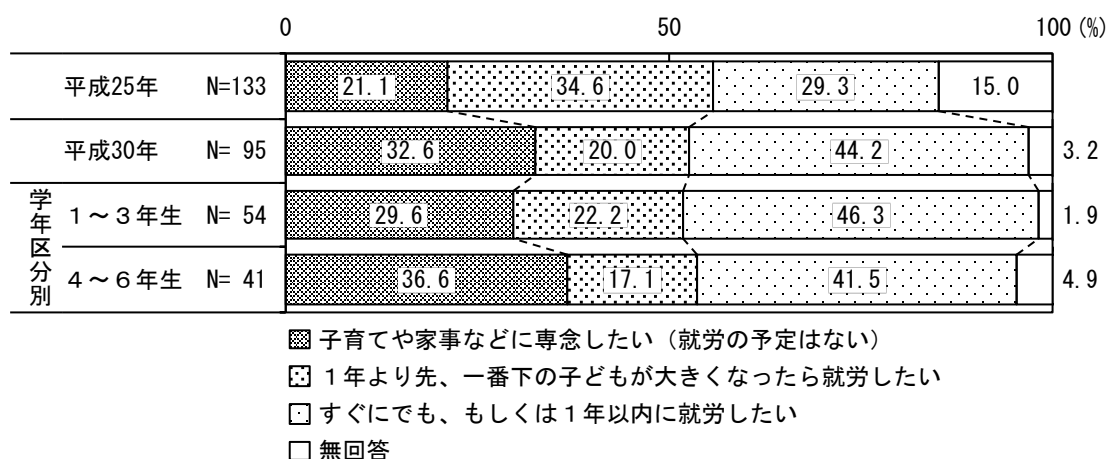
(4) 母親の就労意向

① 就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が44.2%と最も高く、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」（20.0%）と合計した《就労したい》は64.2%となります。平成25年との比較では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が14.9ポイント高くなっています。就学前児童の保護者に比べると（参照17頁図表1-20）、《就労したい》は16.3ポイント低下しています。

学年区分別にみると、《就労したい》は1～3年生が高くなっています。

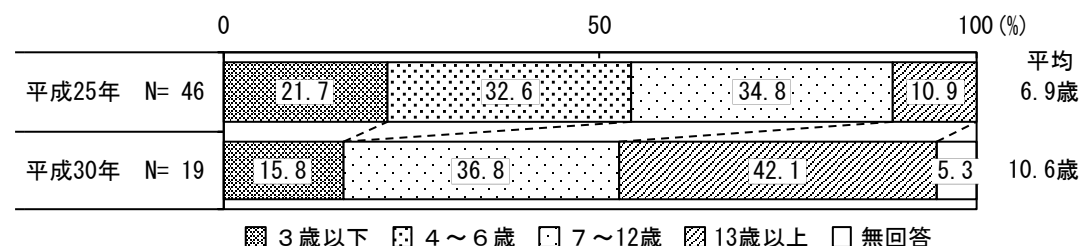
図表2-20 母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったら就労したい」と回答した人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「13歳以上」が42.1%と最も高く、次いで「7～12歳」が36.8%などの順となっており、平均は10.6歳です。平成25年との比較では、「13歳以上」が31.2ポイント高く、平均も3.7歳高くなっています。

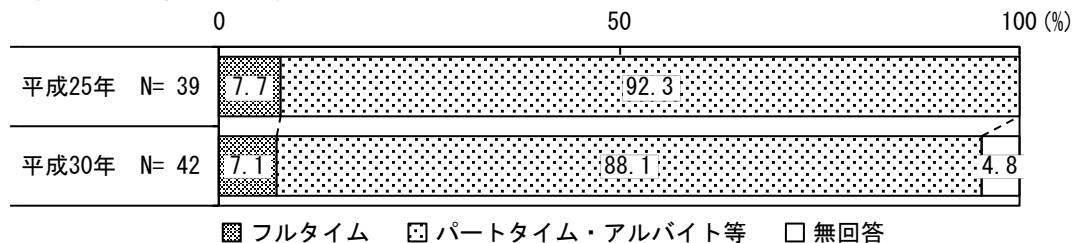
図表2-21 子どもが何歳になったら就労したいか



③ 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が88.1%を占めています。

図表 2-22 希望する就労形態



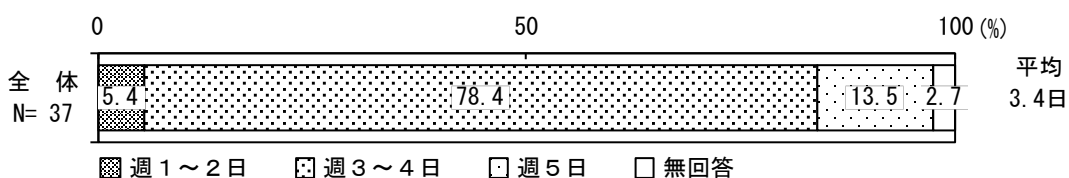
④ 希望する就労日数、就労時間

③で、「パート・アルバイト等」と回答した人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週3～4日」が78.4%と最も高く、次いで「週5日」が13.5%となっており、1週当たりの希望就労日数の平均は3.4日です。

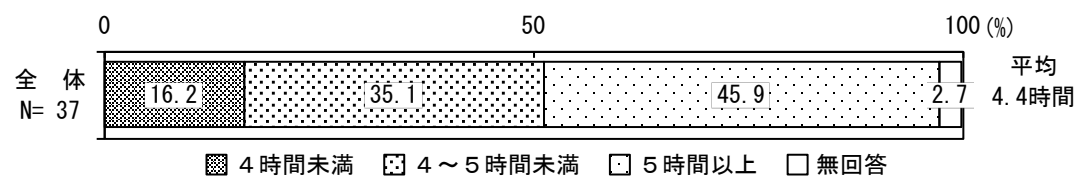
希望する1日当たりの就労時間は、「5時間以上」が45.9%と最も高く、次いで「4～5時間未満」が35.1%となっており、平均は4.4時間です。

図表 2-23 希望する就労日数・就労時間

■ 希望する就労日数



■ 希望する就労日時間



(5) 父親の就労意向

現在、仕事をしていない父親（1人）の就労意向をたずねたところ、無回答でした。

4 放課後の過ごし方

(1) 放課後を過ごしている場所

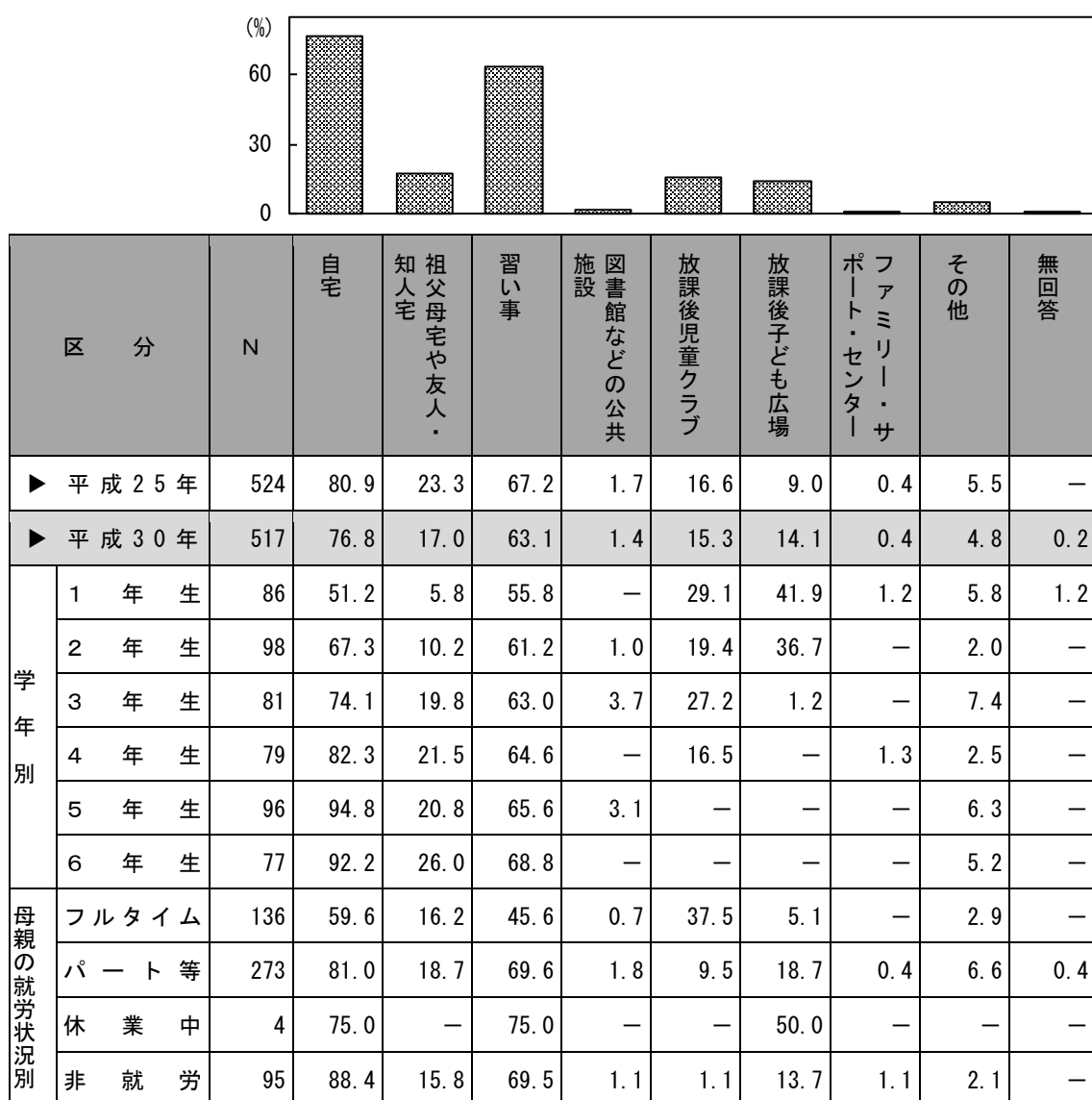
現在、子どもが放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしているかをたずねたところ、「自宅」が76.8%と最も高く、次いで「習い事」が63.1%、「祖父母宅や友人・知人宅」が17.0%などの順となっています。平成25年との比較では、「放課後子ども広場」のみが高くなっています

学年別にみると、「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」および「習い事」は学年が上がるほど高くなる傾向にあります。

公共施設として、「図書館」（4件）、「学習等供用施設」、「公園」の記載がありました。「その他」として、「公園」（10件）、「児童デイサービス」（5件）、「学校」（2件）、「通院」などの記述がありました。

図表 2-24 放課後を過ごしている場所（複数回答）

単位：Nは人、他は%

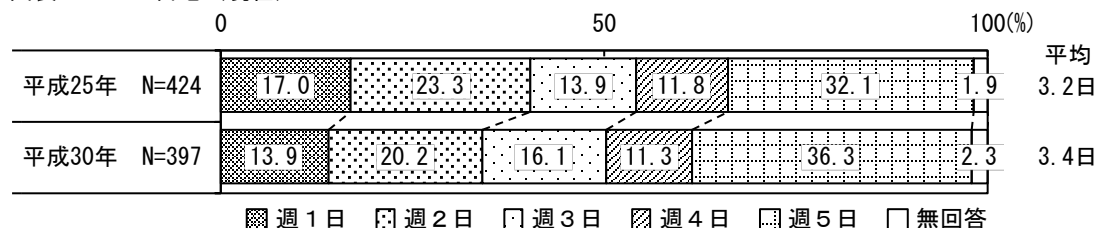


(2) 放課後を過ごしている平均日数

① 自宅（現在）

自宅で過ごしている日数は、「週5日」が36.3%と最も高く、平均日数は3.4日です。平成25年との比較では、「週5日」が4.2ポイント高くなっており、平均日数は0.2日増加しています。

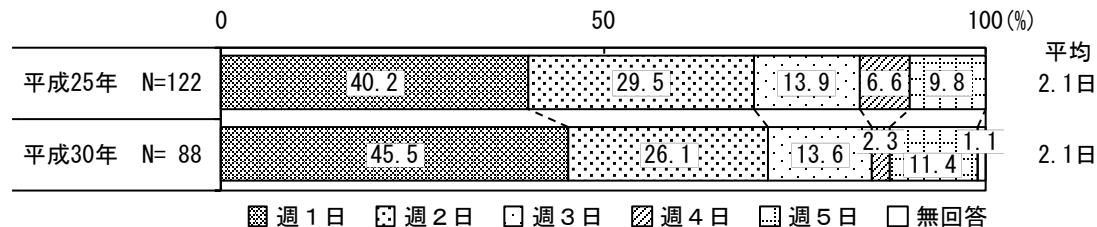
図表 2-25 自宅（現在）



② 祖父母宅や友人・知人宅（現在）

祖父母宅や友人・知人宅で過ごしている日数は、「週1日」が45.5%と最も高く、平均日数は2.1日です。平成25年との比較では、「週1日」が5.3ポイント高くなっています。

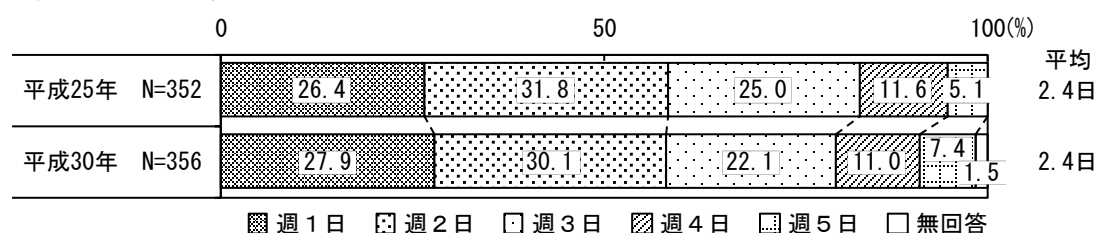
図表 2-26 祖父母宅や友人・知人宅（現在）



③ 習い事（現在）

習い事の日数は、「週2日」が30.1%と最も高く、次いで「週1日」が27.9%、「週3日」が22.1%などの順となっています。平均日数は2.4日です。平成25年との比較では、平均日数は2.4日と変化がありません。

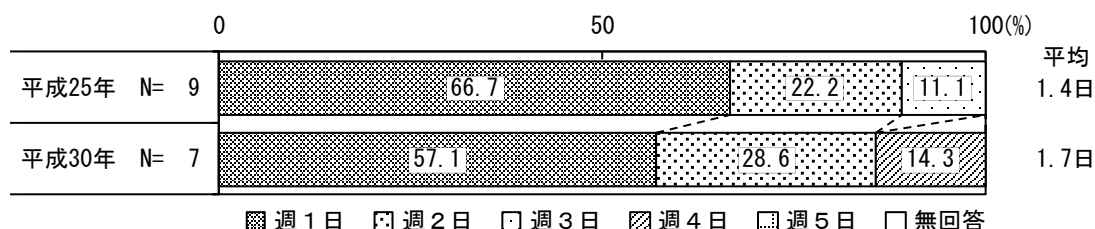
図表 2-27 習い事（現在）



④ 図書館などの公共施設（現在）

図書館などの公共施設で過ごしている日数は、「週1日」が57.1%（4人）と最も高く、次いで「週2日」が28.6%（2人）、「週4日」が14.3%（1人）、平均日数は1.7日です。平成25年との比較では、平均日数が0.3日減少しています。

図表 2-28 図書館などの公共施設（現在）

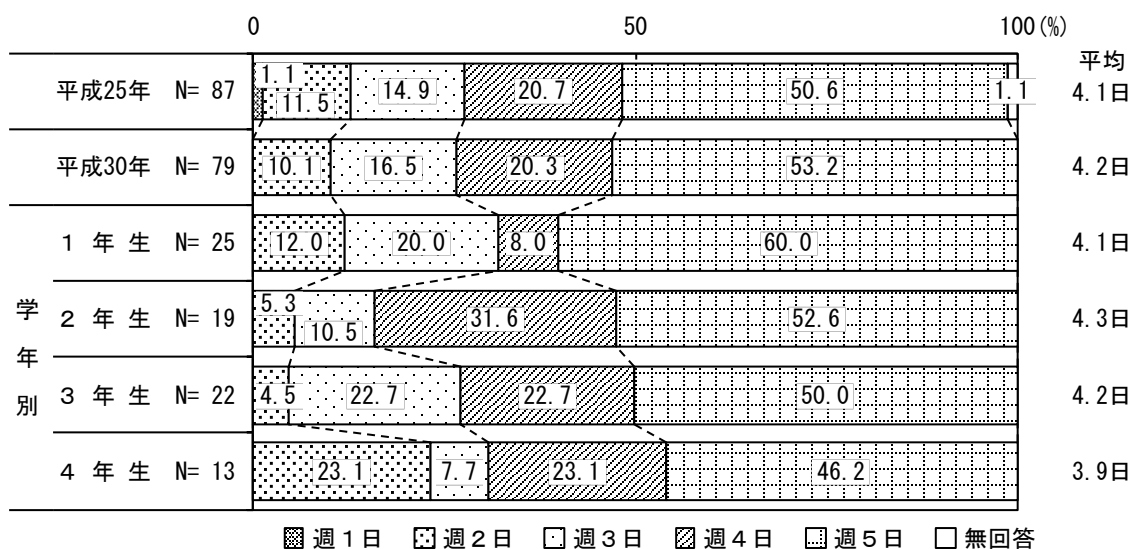


⑤ 放課後児童クラブ（現在）

放課後児童クラブで過ごしている日数は、「週5日」が53.2%と最も高く、平均日数は4.2日です。平成25年との比較では、「週5日」が2.6ポイント高くなり、平均日数が0.1日増加しています。

学年別にみると、4年生は「週1日」が23.1%と他の学年に比べて高くなっています。

図表 2-29 放課後児童クラブ（現在）

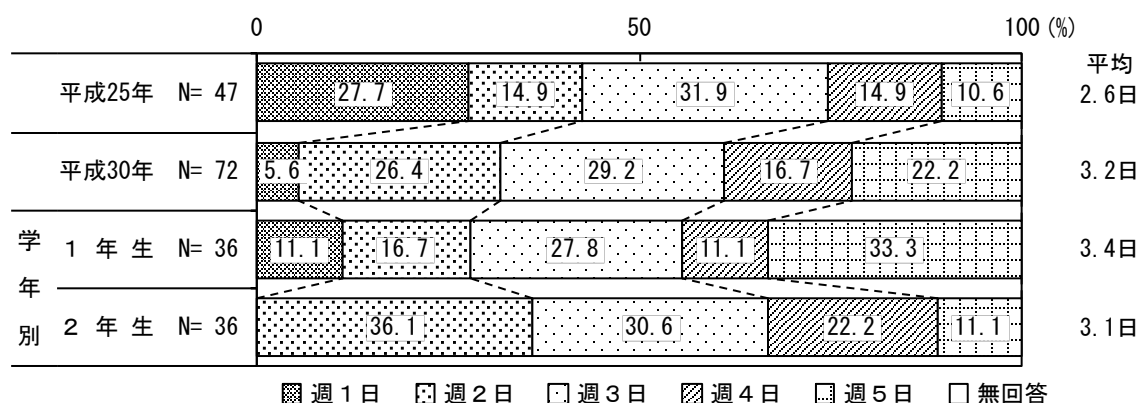


⑥ 放課後子ども広場（現在）

放課後子ども広場で過ごしている日数は、「週3日」が29.2%と最も高く、次いで「週2日」が26.4%、「週5日」が22.2%などの順となっています。平均日数は3.2日です。平成25年との比較では、週2日以上が増加しており、平均日数は0.6日増加しています。

学年別にみると、1年生は「週5日」、2年生は「週2日」が最も高くなっています。

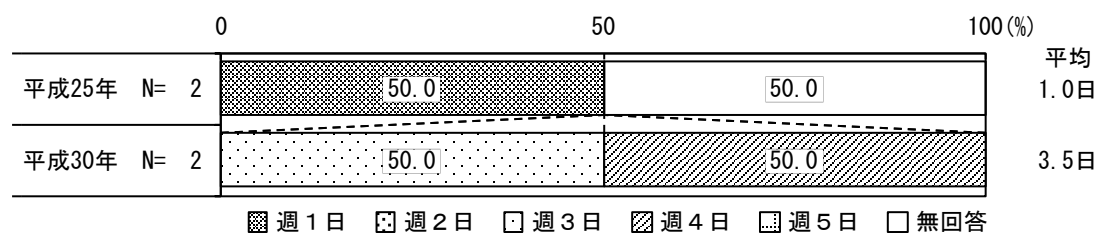
図表2-30 放課後子ども広場（現在）



⑦ ファミリー・サポート・センター（現在）

ファミリー・サポート・センターを利用していると回答した2人のうち、1人が「週3日」、もう1人が「週4日」と回答しています。平均日数は3.5日です。

図表2-31 ファミリー・サポート・センター（現在）



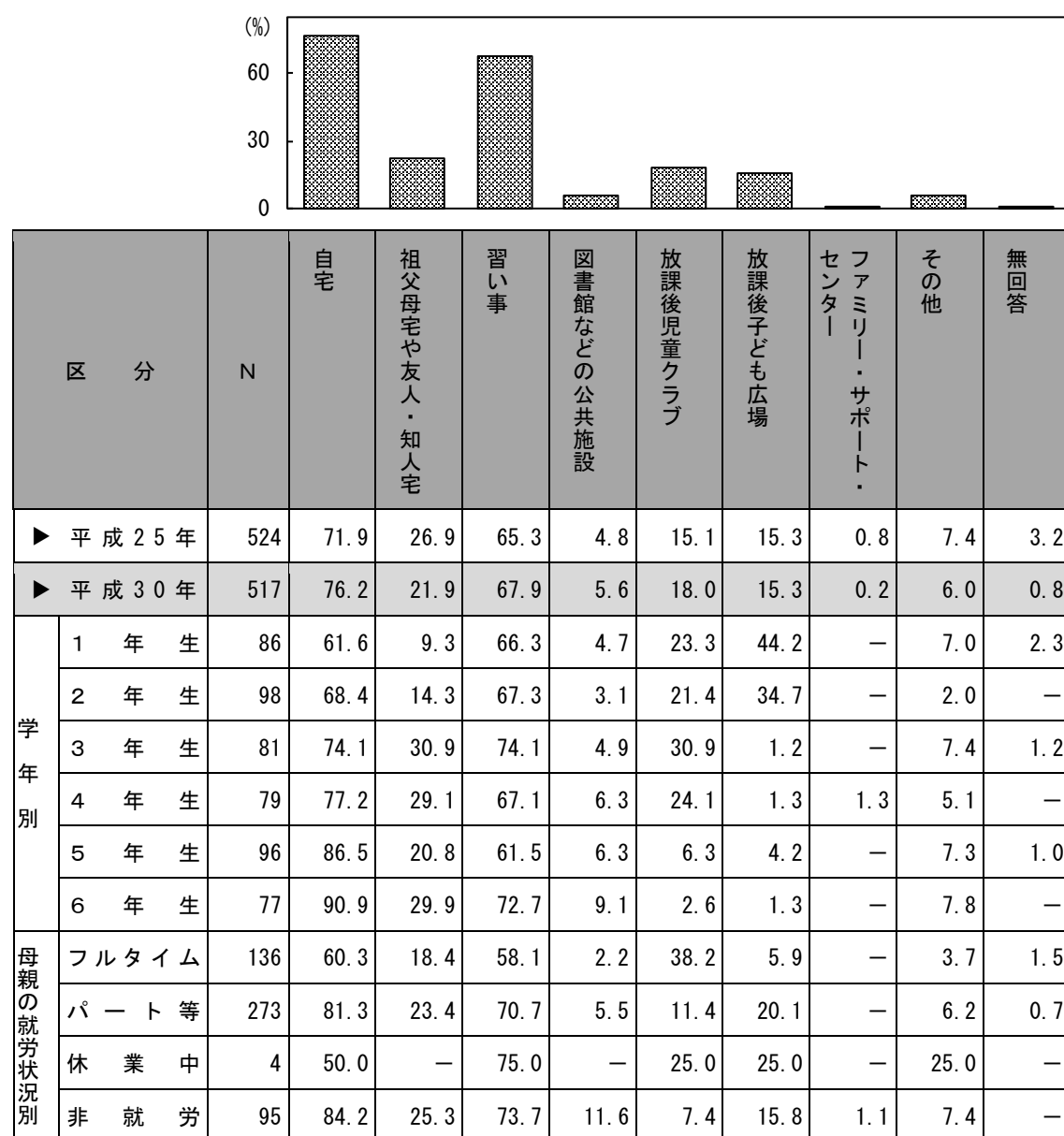
(3) 放課後を過ごさせたい場所

子どもに放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいかをたずねたところ、上位3項目は(1)と同様に「自宅」、「習い事」、「祖父母宅や友人・知人宅」の順となっています。平成25年との比較では、「自宅」「習い事」「図書館などの公共施設」および「放課後児童クラブ」が高くなっています。

公共施設として、「図書館」（4件）、「学習等供用施設」の記述がありました。「その他」として、「公園」（10件）、「外遊び」（4件）、「児童館」（3件）、「児童デイサービス」（3件）、「友だちと遊びに行く」（3件）、「学校」（2件）、「通院」などの記述がありました。

図表2-32 放課後を過ごさせたい場所（複数回答）

単位：Nは人、他は%

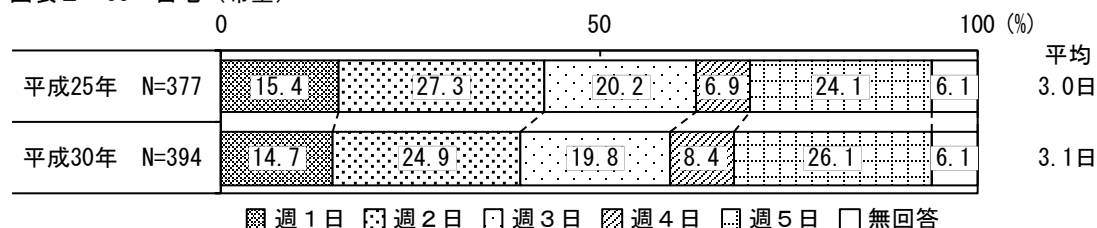


(4) 放課後を過ごさせたい平均日数

① 自宅（希望）

自宅で過ごさせたい日数は、「週5日」が26.1%と最も高く、平均日数は3.1日です。平成25年との比較では、週4日以上が高くなり、平均日数は0.1日増加しています。現在、過ごしている日数と比べると、0.3日減少しています。

図表 2-33 自宅（希望）

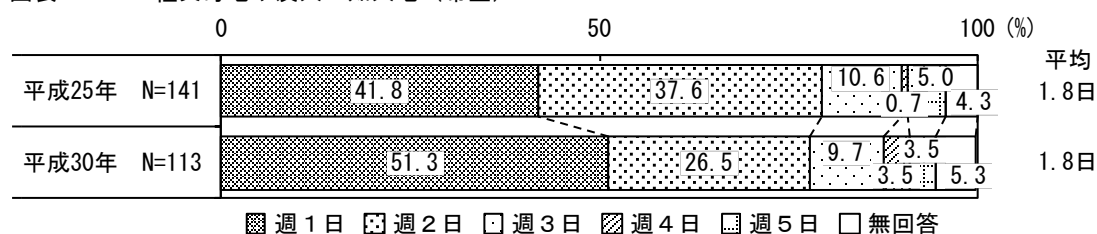


② 祖父母宅や友人・知人宅（希望）

祖父母宅や友人・知人宅で過ごさせたい日数は、「週1日」が51.3%を占めており、平均日数は1.8日となっています。平成25年との比較では、「週1日」が9.5ポイント高くなっています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.3日減少しています。

図表 2-34 祖父母宅や友人・知人宅（希望）

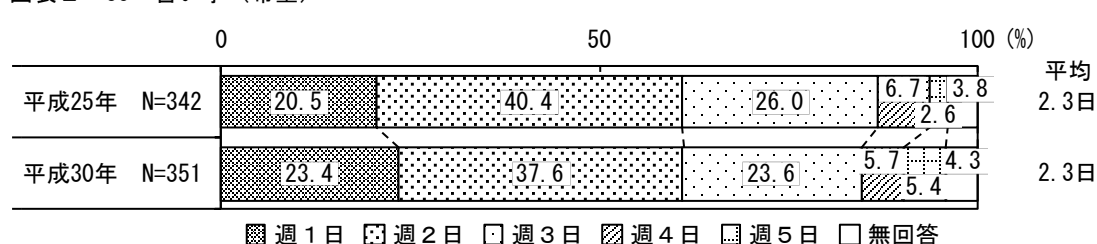


③ 習い事（希望）

習い事の希望日数は、「週2日」が37.6%と最も高く、次いで「週3日」が23.6%、「週1日」が23.4%などの順となっています。平均日数は2.3日です。平成25年との比較では、平均日数は変わりありません。

現在、過ごしている日数と比べると、0.1日減少しています。

図表 2-35 習い事（希望）

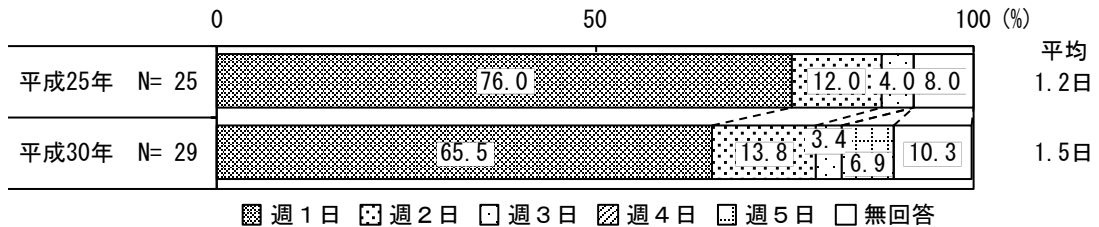


④ 図書館などの公共施設（希望）

図書館などの公共施設で過ごさせたい日数は、「週1日」が65.5%と最も高く、平均日数は1.5日です。平成25年との比較では、平均日数は0.3日増加しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.2日減少しています。

図表 2-36 図書館などの公共施設（希望）

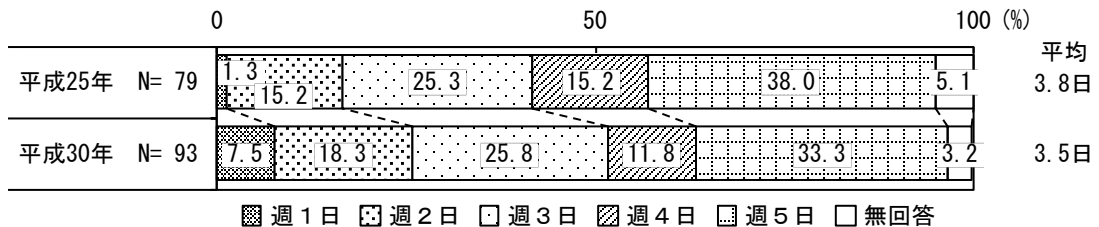


⑤ 放課後児童クラブ（希望）

放課後児童クラブで過ごさせたい日数は、「週5日」が33.3%と最も高く、平均日数は3.5日です。平成25年との比較では、「週1日」が6.2ポイント高く、「週5日」が4.7ポイント低くなり、平均日数が0.3日減少しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.7日減少しています。

図表 2-37 放課後児童クラブ（希望）

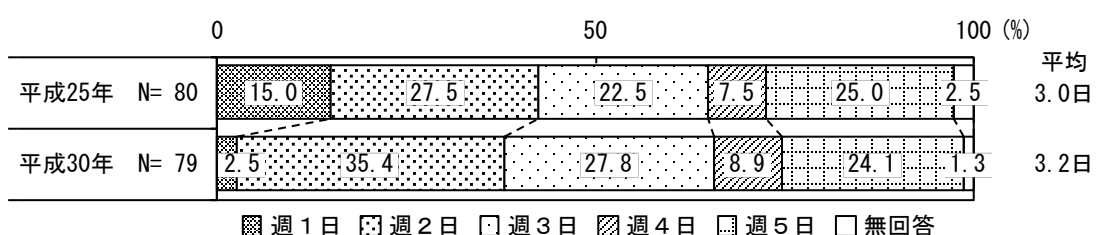


⑥ 放課後子ども広場（希望）

放課後子ども広場で過ごさせたい日数は、「週2日」が35.4%と最も高く、平均日数は3.2日です。平成25年との比較では、「週1日」が12.5ポイント低下しており、平均日数は0.2日増加しています。

現在、過ごしている日数と比べると、0.1日減少しています。

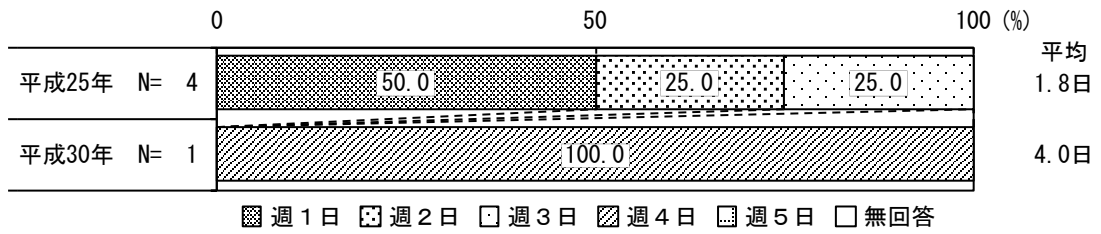
図表 2-38 放課後子ども広場（希望）



⑦ ファミリー・サポート・センター（希望）

ファミリー・サポート・センターを利用したいと回答した人は、「週4日」を希望しています。

図表2-39 ファミリー・サポート・センター（希望）



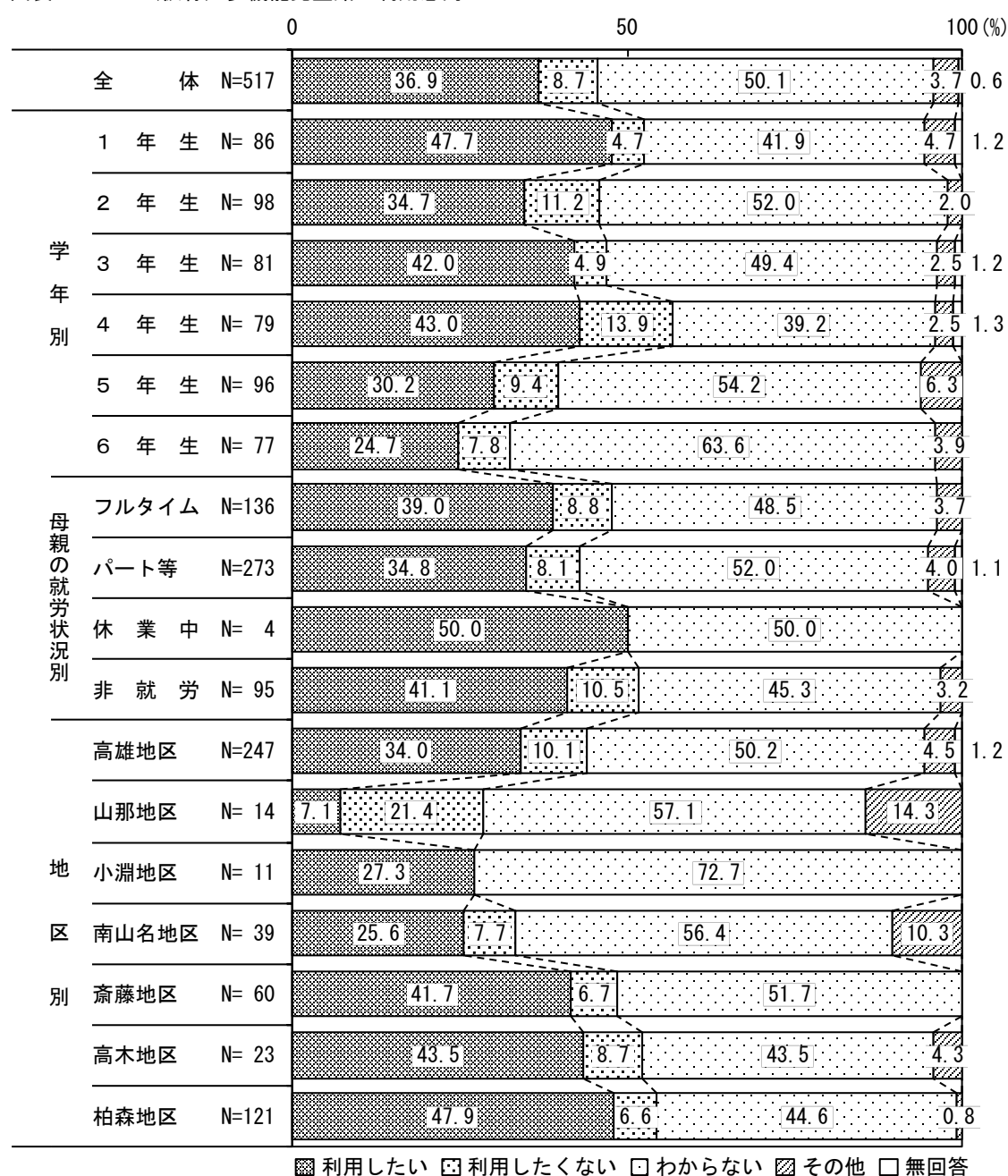
(5) (仮称) 多機能児童館の利用意向

児童館を中心に多世代が集い交流できるまちづくりの拠点施設である「(仮称) 多機能児童館」の利用意向をたずねたところ、「利用したい」が36.9%、「利用したくない」が8.7%と、「利用したい」が上回っていますが、「わからない」が50.1%を占めています。

「利用したい」が高いのは、学年別では1年生、母親の就労状況別では基数の少ない休業中を除くと非就労、地区別では柏森地区となっています。

「その他」として、図表2-41の記述がありました。

図表2-40 (仮称) 多機能児童館の利用意向



図表 2-41 (仮称)多機能児童館の利用意向(その他)

・遠すぎて子どもだけでは行けない。(4件) ・現在、小学6年生ですが、もし4年生ぐらいであれば利用したいと思います。 ・利用する年齢ではなくなりそう。 ・行く暇がない。 ・利用してみたいが年齢の幅が広いのでトラブルなど起きないか不安でもある。 ・車で行けないと利用が難しい。 ・目的が合えば。 ・子どもが行きたがれば利用すると思うが、小学生の子どもだけで扶桑中まで行くのは心配。 ・施設の内容次第。	・利用するにあたり、休日ばかりに偏らない施設運用があるとよい。 ・中学校の駐車場が無くなるので困っている。 ・子どもが自分で(自転車で)行けるのであれば利用させたい。高雄地区から子どもたちだけで行かせてもいいならぜひ利用したい。 ・やりたいという行事があれば利用するかもしれない。 ・作るのが遅すぎると思います。 ・年齢的に利用するとは思えない。あとどの年齢にも適しているのでしょうか?0~18歳という幅が広すぎて同じ場所ですごさせるのに不安がある。
---	--

5 放課後児童クラブ

(1) 放課後児童クラブの利用状況

① 利用状況

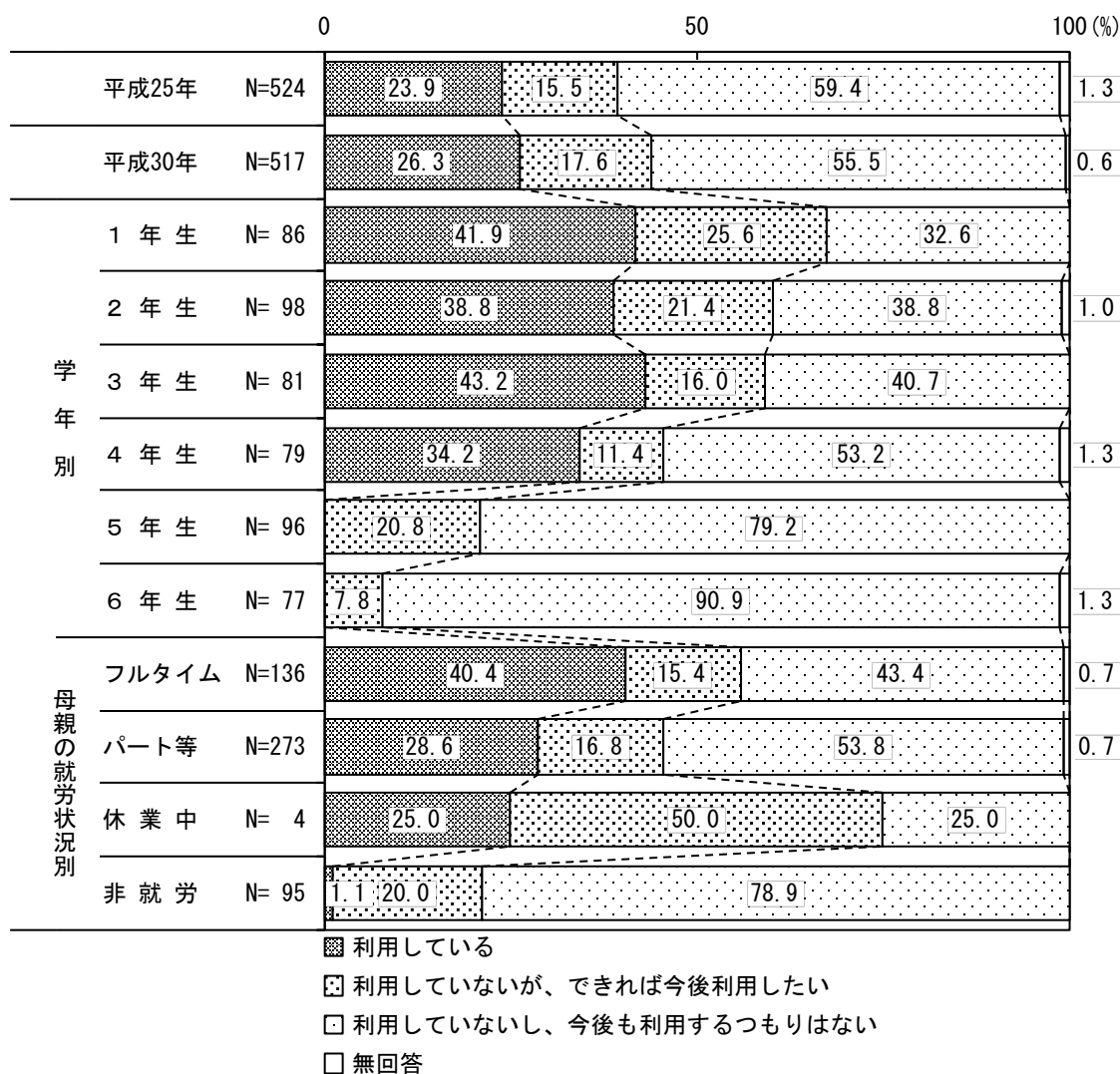
本町の放課後児童クラブは原則として小学4年生までの児童を対象としています
が、平成31年度からは6年生まで対象を拡大します。

放課後児童クラブの利用状況をみると、「利用している」が26.3%、「利用して
いないが、できれば今後利用したい」が17.6%となっています。平成25年との比較
では、「利用している」が2.4ポイント、「利用していないが、できれば今後利用し
たい」が2.1ポイント高くなっています。

学年別にみると、「利用していないが、できれば今後利用したい」は5年生が20.8%、
6年生が7.8%と、現在は利用対象外の5・6年生も利用したいと回答しています。

母親の就労状況別にみると、「利用している」はフルタイムが40.4%と最も高く
なっています。

図表2-42 放課後児童クラブの利用状況



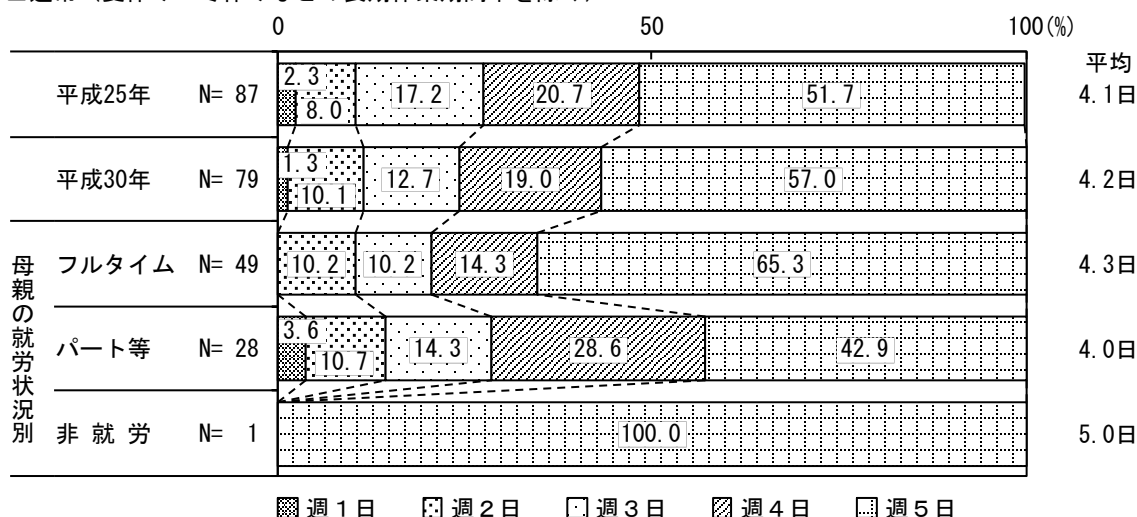
② 利用日数

①で「利用している」と回答した人に現在の利用日数をたずねたところ、通常（夏休み・冬休みなどの長期休業期間中を除く）は、「週5日」が57.0%を占め、次いで「週4日」が19.0%、「週3日」が12.7%などの順となっています。週当たりの利用日数の平均は4.2日です。平成25年との比較では、「週5日」が5.3ポイント高くなり、週当たりの利用日数の平均は0.1日増加しています。

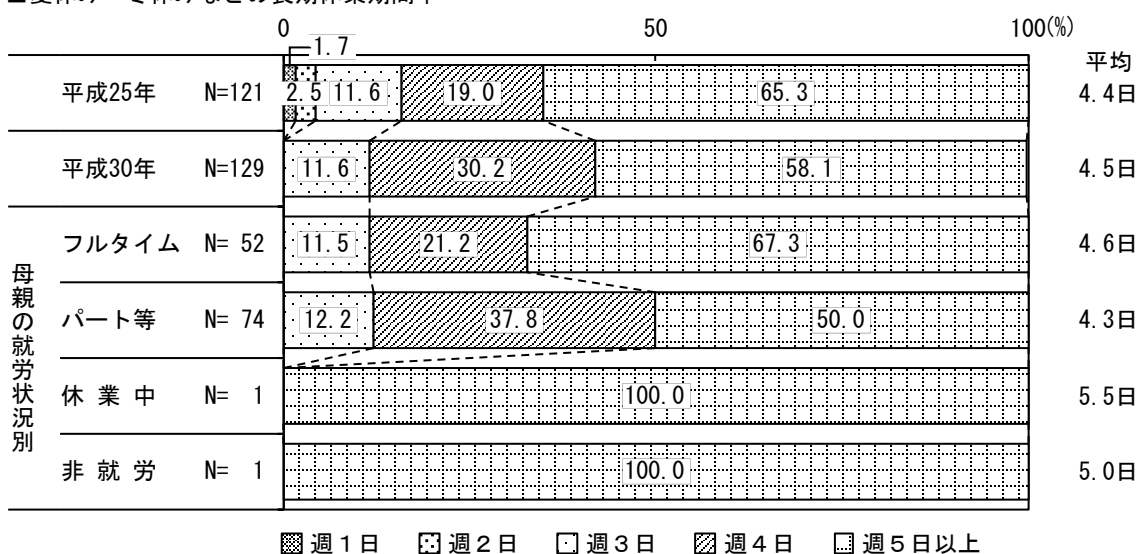
長期休業期間中は、週2日以下の回答がなく、週当たりの平均利用日数は4.5日に増加しています。平成25年との比較では、「週4日」が11.2ポイント高くなり、週当たりの平均利用日数は0.1日増加しています。

図表2-43 利用日数（回／週）

■通常（夏休み・冬休みなどの長期休業期間中を除く）



■夏休み・冬休みなどの長期休業期間中



(2) 放課後児童クラブの利用意向

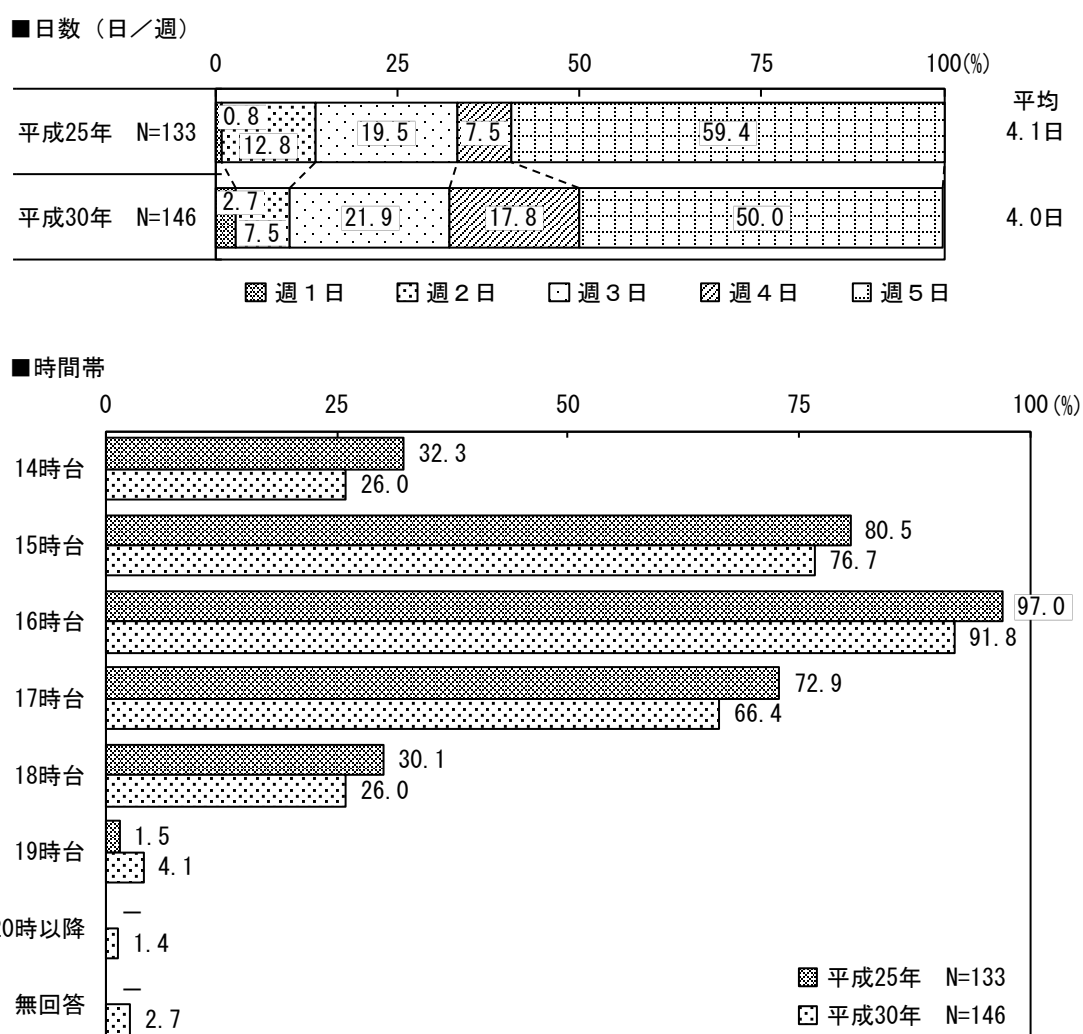
前項で、放課後児童クラブを「利用している」または「利用していないが、できれば今後利用したい」と回答した人に、今後の利用意向や利用したい主な理由をたずねました。

① 平 日

平日の利用意向をみると、日数は「週5日」が50.0%を占めており、次いで「週3日」が21.9%、「週4日」が17.8%などの順となっています。利用希望日数の平均は4.0日となっており、現在の利用日数より0.2日少なくなっています。平成25年との比較では、「週5日」が9.4ポイント低下し、「週4日」が10.3ポイント高くなり、平均日数は0.1日減少しています。

時間帯は、15時台に70%を上回り、16時台が91.8%と最も高くなっています。そこから、17時台には66.4%、18時台には26.0%と急激に低下します。平成25年との比較では、14～18時台が低く、19時以降が高くなっています。

図表2-44 平日の利用意向

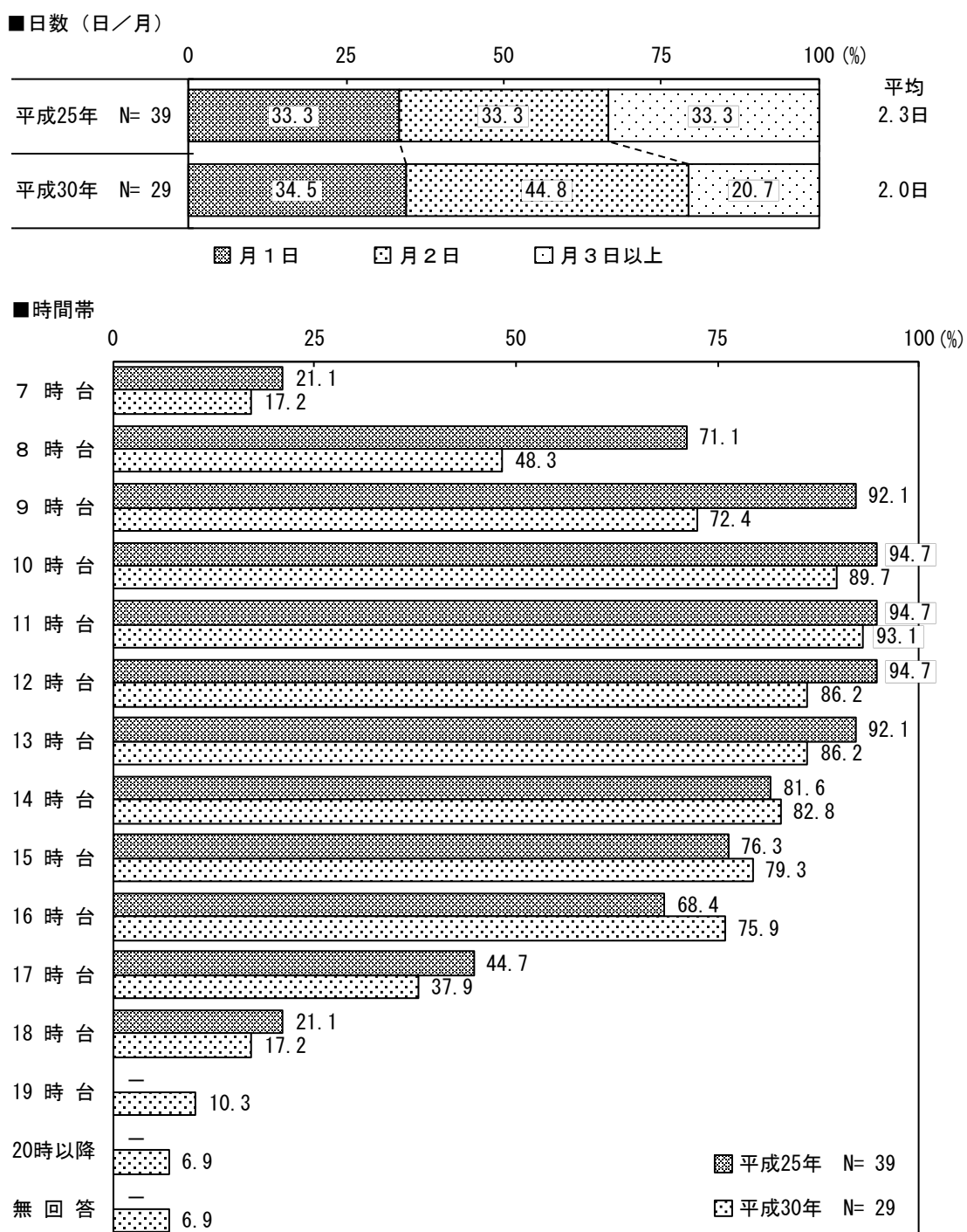


② 土曜日

土曜日の利用意向をみると、日数は「月2日」が44.8%と最も高く、次いで「月1日」が34.5%、「月3日以上」が20.7%となっています。利用希望日数の平均は2.0日です。平成25年との比較では、利用希望日数の平均は0.3日減少しています。

時間帯は、9時台に70%を上回り、11時台に93.1%と最も高くなっています。そこから徐々に低下し、17時台には37.9%、18時台には17.2%と急激に低下します。平成25年との比較では、14～16時台および19時以降が高くなっています。

図表2-45 土曜日の利用意向

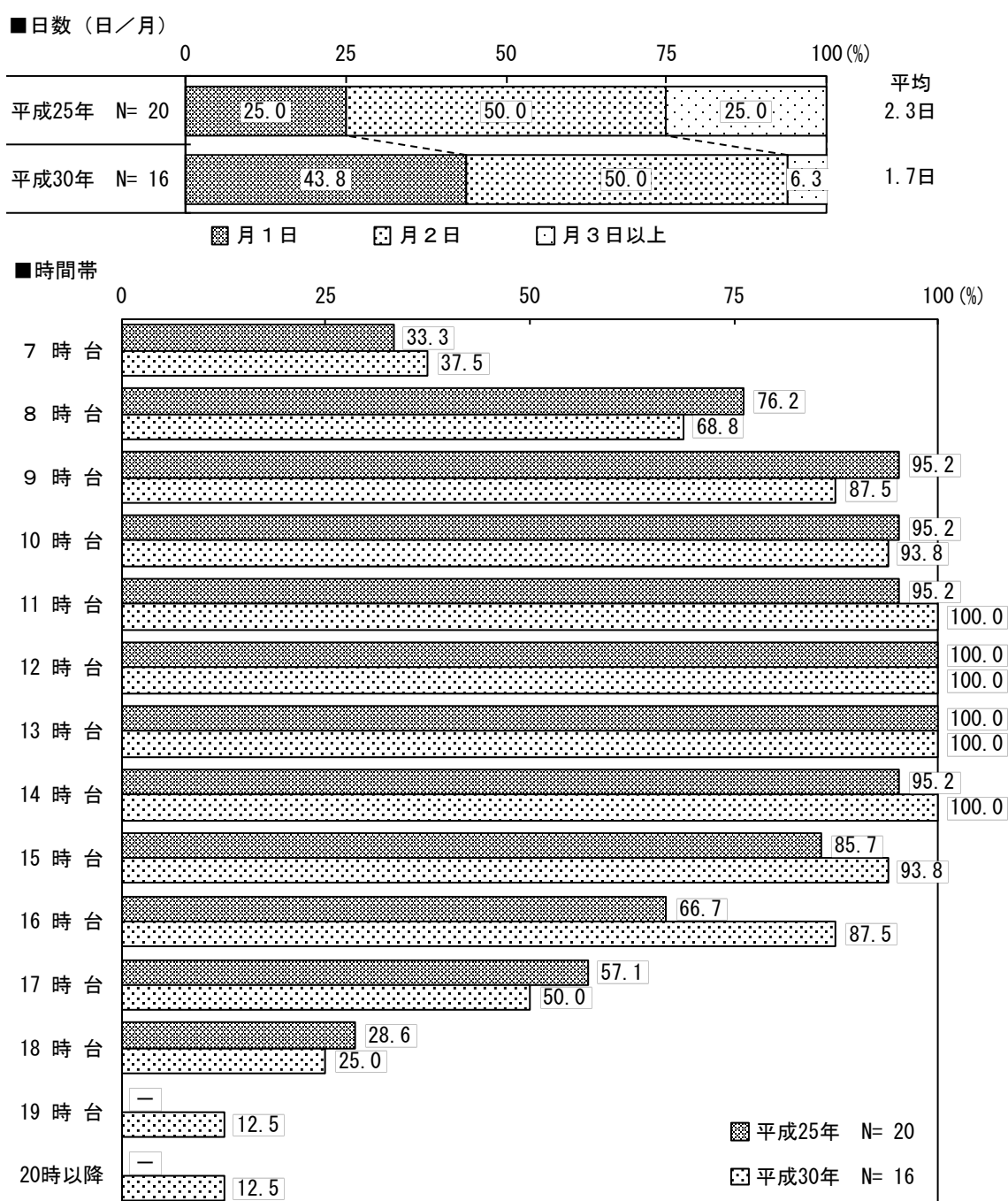


③ 日曜・祝日

日曜・祝日の利用意向をみると、日数は「月2日」が50.0%を占めており、次いで「月1日」が43.8%、「月3日以上」が6.3%となっています。利用希望日数の平均は1.7日です。平成25年との比較では、「月1日」が18.8ポイント高くなり、利用希望日数の平均は0.6日減少しています。

時間帯は、9時台には80%を上回り、11時台から14時台までは100.0%となっています。15時台以降は徐々に低下していき、17時台には50.0%、18時台には25.0%となります。平成25年との比較では、19時以降にも利用希望があります。

図表2-46 日曜・祝日の利用意向

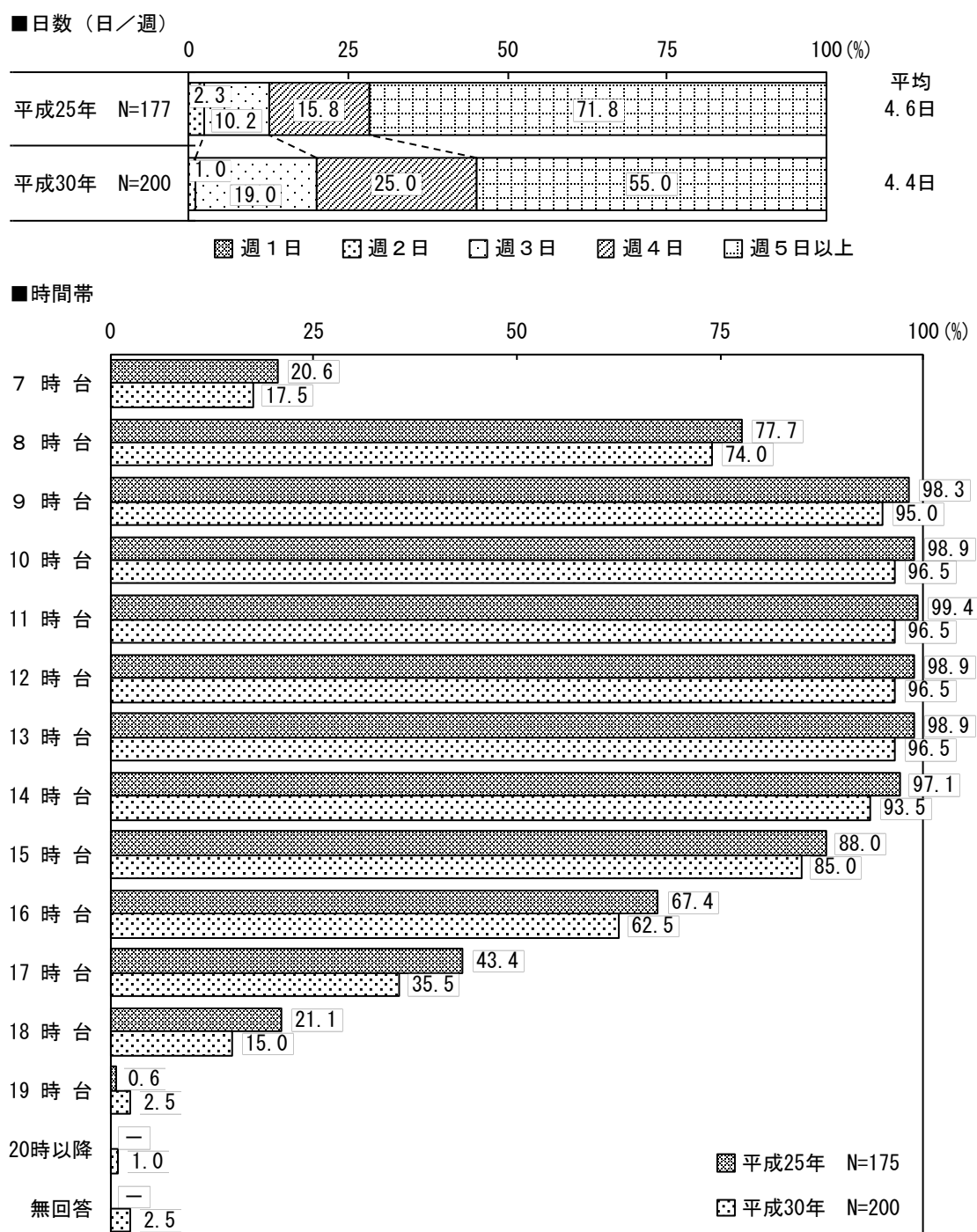


④ 長期休業期間中

夏休み・冬休みなどの長期休業期間中の利用意向をみると、日数は「週5日以上」が55.0%を占めており、利用希望日数の平均は4.4日です。平成25年との比較では、「週5日以上」が16.8ポイント低く、利用希望日数の平均は0.2日減少しています。

時間帯は、8時台には70%を上回り、9時台から14時台までは90%以上となっています。15時台以降は徐々に低下しています。平成25年との比較では、19時以降を除くいずれの時間帯も低くなっています。

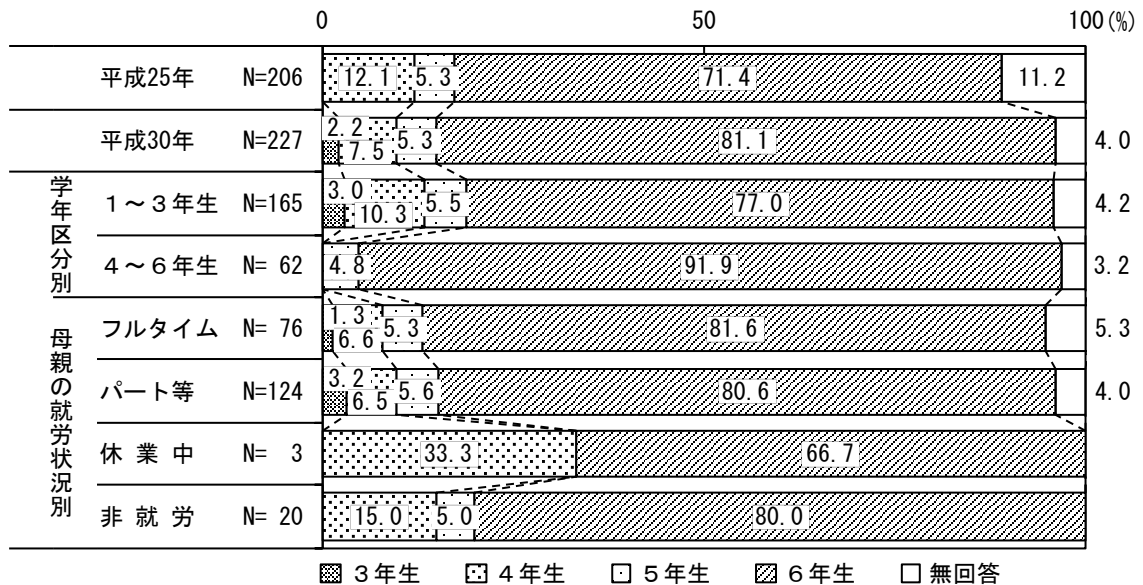
図表2-47 長期休業期間中の利用意向



⑤ 何年生まで利用したいか

放課後児童クラブを何年生まで利用したいかをたずねたところ、「6年生」が81.1%と最も高く、次いで「4年生」が7.5%、「5年生」が5.3%の順となっています。平成25年との比較では、「6年生」は9.7ポイント高くなっています。

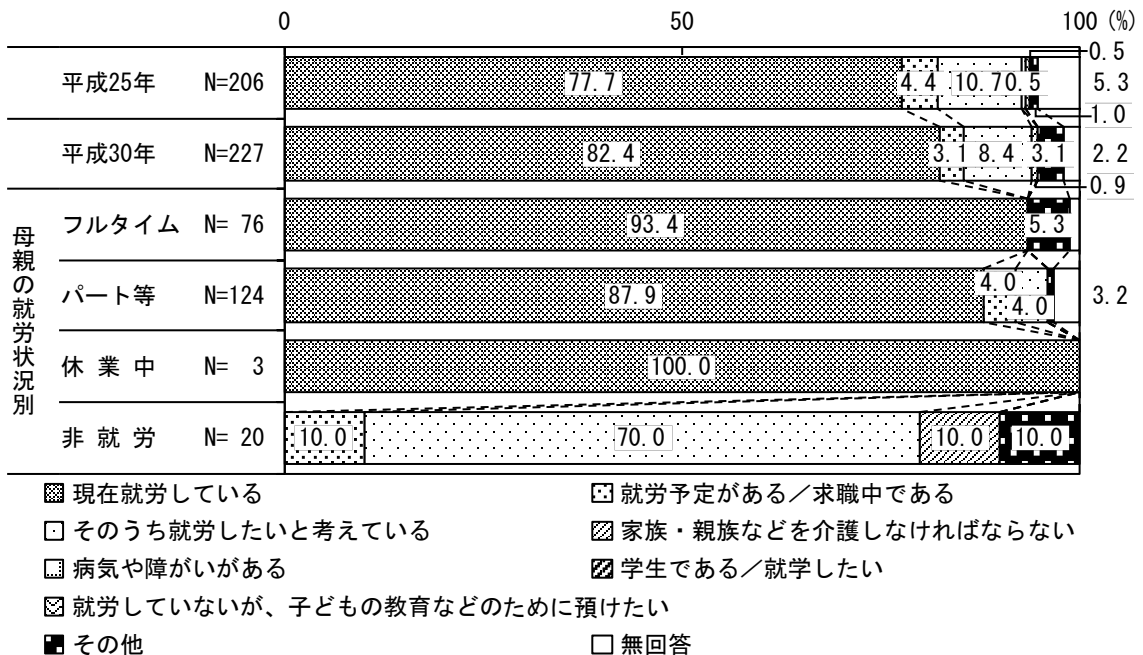
図表2-48 何年生まで利用したいか



⑥ 利用の理由

放課後児童クラブを利用する理由は、「現在就労している」が82.4%と最も高くなっています。平成25年との比較では、「現在就労している」が4.7ポイント高くなっています。

図表2-49 放課後児童クラブを利用している／利用したい理由



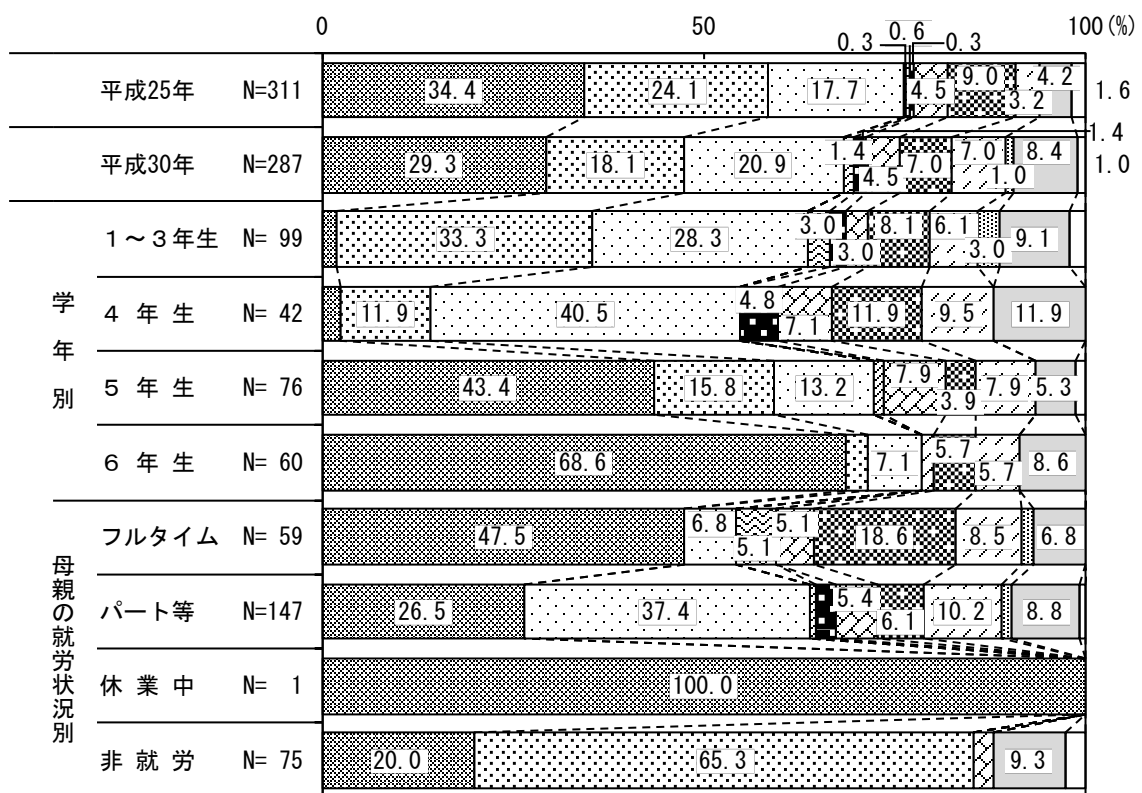
(注) 全体以外は3%未満の表記を省略、平成30年は「就労していないが、子どもの教育などのために預けたい」は選択肢になかった。

(3) 放課後児童クラブを利用しない理由

(1)で「利用していないし、今後も利用する必要はない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「子どもが5・6年生で放課後児童クラブの対象ではないから」が29.3%と最も高くなっています。平成25年との比較では、「子どもが5・6年生で放課後児童クラブの対象ではないから」および「現在就労していないから」が5ポイント以上低下しています。

学年別にみると、1～3年生は「現在就労していないから」、4年生は「就労しているが、子どもの下校時刻には家にいるから」、5・6年生は「子どもが5・6年生で放課後児童クラブの対象ではないから」が最も高くなっています。

図表2-50 放課後児童クラブを利用しない理由



- 子どもが5・6年生で放課後児童クラブの対象ではないから
- ▨ 現在就労していないから
- 就労しているが、子どもの下校時刻には家にいるから
- ▤ 就労しているが、放課後児童クラブを知らなかったから
- ▥ 就労しているが、放課後児童クラブが近くにないから
- ▧ 就労しているが、放課後児童クラブに空きがないから
- ▩ 就労しているが、放課後児童クラブの開所時間と合わないから
- 就労しているが、利用料がかかるから
- ▨ 就労しているが、子どもは放課後の習い事をしているから
- ▤ 就労しているが、祖父母等の親族が預かってくれるから
- ▥ 就労しているが、短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから
- ▧ 就労しているが、他の施設や事業所に預けているから
- その他
- 無回答

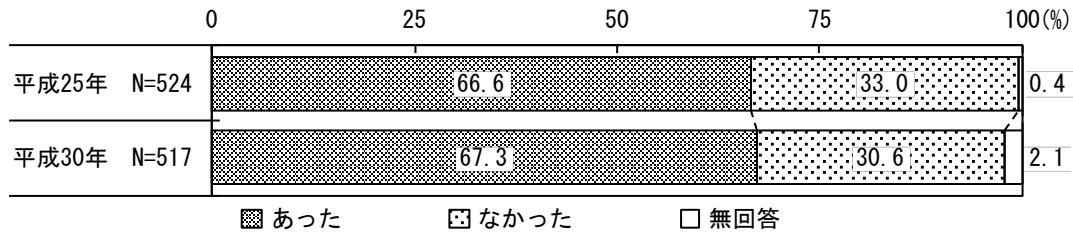
(注) 全体以外は3%未満の表記を省略

6 子どもが病気の際の対応

(1) 子どもが病気等で学校を休んだことの有無

この1年間に病気やけがで学校を休んだ子どもは、回答者の67.3%です。平成25年と大きな変化はありません。

図表2-51 子どもが病気等で学校を休んだことの有無



(2) 子どもが学校を休んだ時の対処法

子どもが病気等で学校を休んだ時の対処法としては、「母親が休んだ」が73.6%と突出して高くなっています。対処が必要だった日数の平均は4.2日です。平成25年との比較では、「母親が休んだ」が9.7ポイント上昇しています。

図表2-52 子どもが学校を休んだ時の対処法（複数回答）

単位：Nは人、他は%

区分		N	父親が休んだ	母親が休んだ	子どもをみてもらった (同居者を含む) 親族・知人に	父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	病児・病後児の保育(つくし子どもクリニック等)を利用した	ベビーシッターを利用した	ファミリー・サポート・センターを利用した	子どもだけで留守番をさせた	その他	無回答	対処日数の平均(日)
▶ 平成25年		349	8.6	63.9	29.2	22.1	0.3	-	0.3	10.3	3.2	1.1	3.9
▶ 平成30年		348	8.9	73.6	25.6	15.5	-	-	-	8.0	3.2	1.1	4.2
学年区別	1～3年生	184	7.6	74.5	26.1	16.3	-	-	-	4.3	2.2	0.5	4.2
	4～6年生	164	10.4	72.6	25.0	14.6	-	-	-	12.2	4.3	1.8	4.2
母親の就労状況別	フルタイム	87	17.2	73.6	43.7	1.1	-	-	-	10.3	5.7	-	4.4
	パート等	192	6.8	91.7	22.9	2.6	-	-	-	8.3	2.6	2.1	4.0
	休業中	2	-	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	5.5
	非就労	60	1.7	20.0	8.3	76.7	-	-	-	5.0	1.7	-	4.5

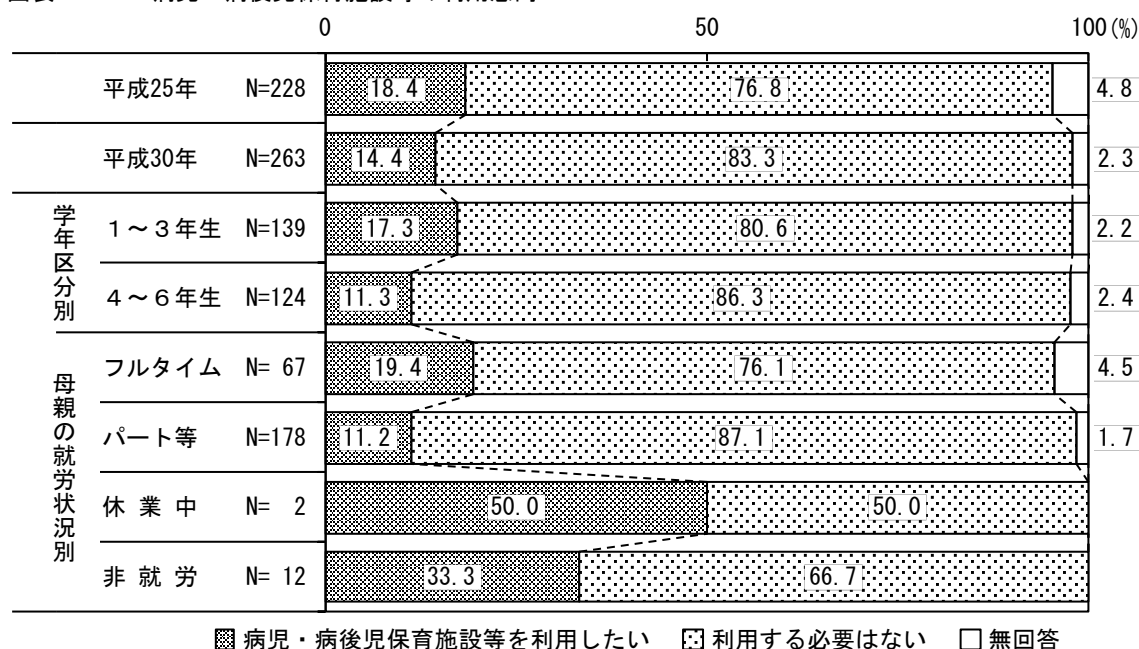
(3) 病児・病後児保育施設等の利用意向

前項で、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した人の病児・病後児保育施設等の利用意向は14.4%です。平成25年との比較では、「病児・病後児保育施設等を利用したい」は4.0ポイント低下しています。

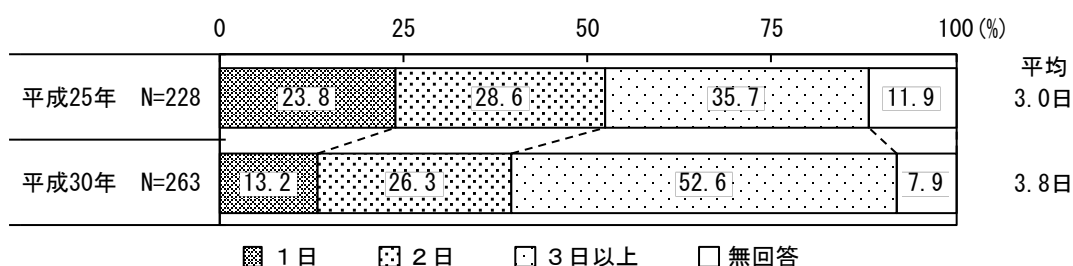
学年区分別にみると、1～3年生は4～6年生より利用意向が高くなっています。

図表2-54で病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数をみると、「3日以上」が52.6%と最も高く、無回答を除いた平均は3.8日となっています。平成25年との比較では、「3日以上」は16.9ポイント高く、利用希望日数の平均は0.8日増加しています。

図表2-53 病児・病後児保育施設等の利用意向



図表2-54 病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数



7 台風など災害時の対応

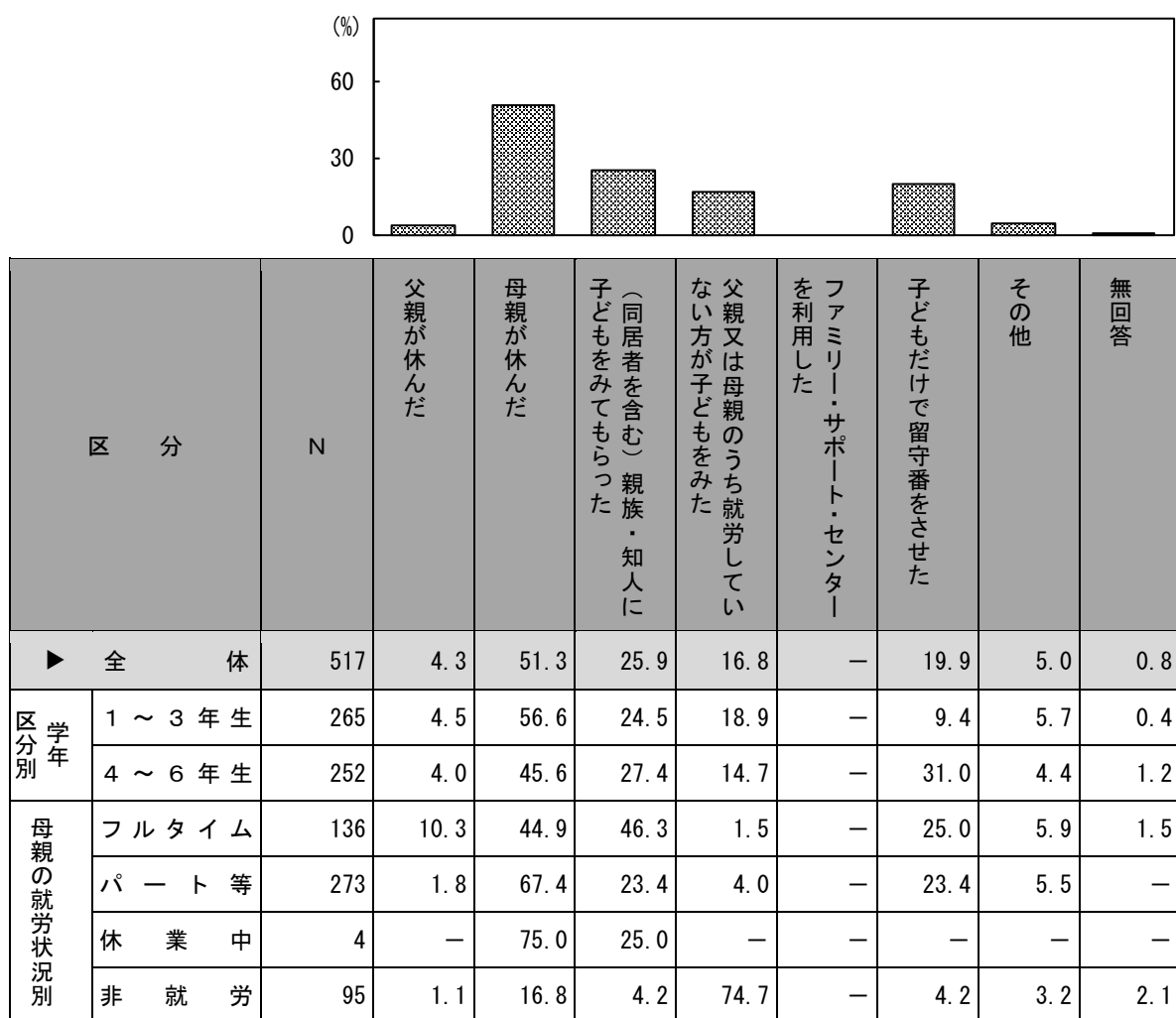
子どもが、台風接近に伴う休校などで学校を休まなければならなかった場合に行った対処方法をたずねたところ、「母親が休んだ」が51.3%と最も高く、次いで「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」が25.9%、「子どもだけで留守番をさせた」が19.9%などの順となっています。

学年区分別にみると、4～6年生は1～3年生に比べて「子どもだけで留守番をさせた」が21.6ポイント高くなっています。

「その他」として、「母親が家にいた」（2件）、「その日は休みになる」（2件）、「母親が自宅にて仕事」（2件）、「母親の勤務先も休みになった」、「高校生のきょうだいがいるので2人で留守番できる」などの記述がありました。

図表2-55 子どもが学校を休んだ時の対処法（複数回答）

単位：Nは人、他は%



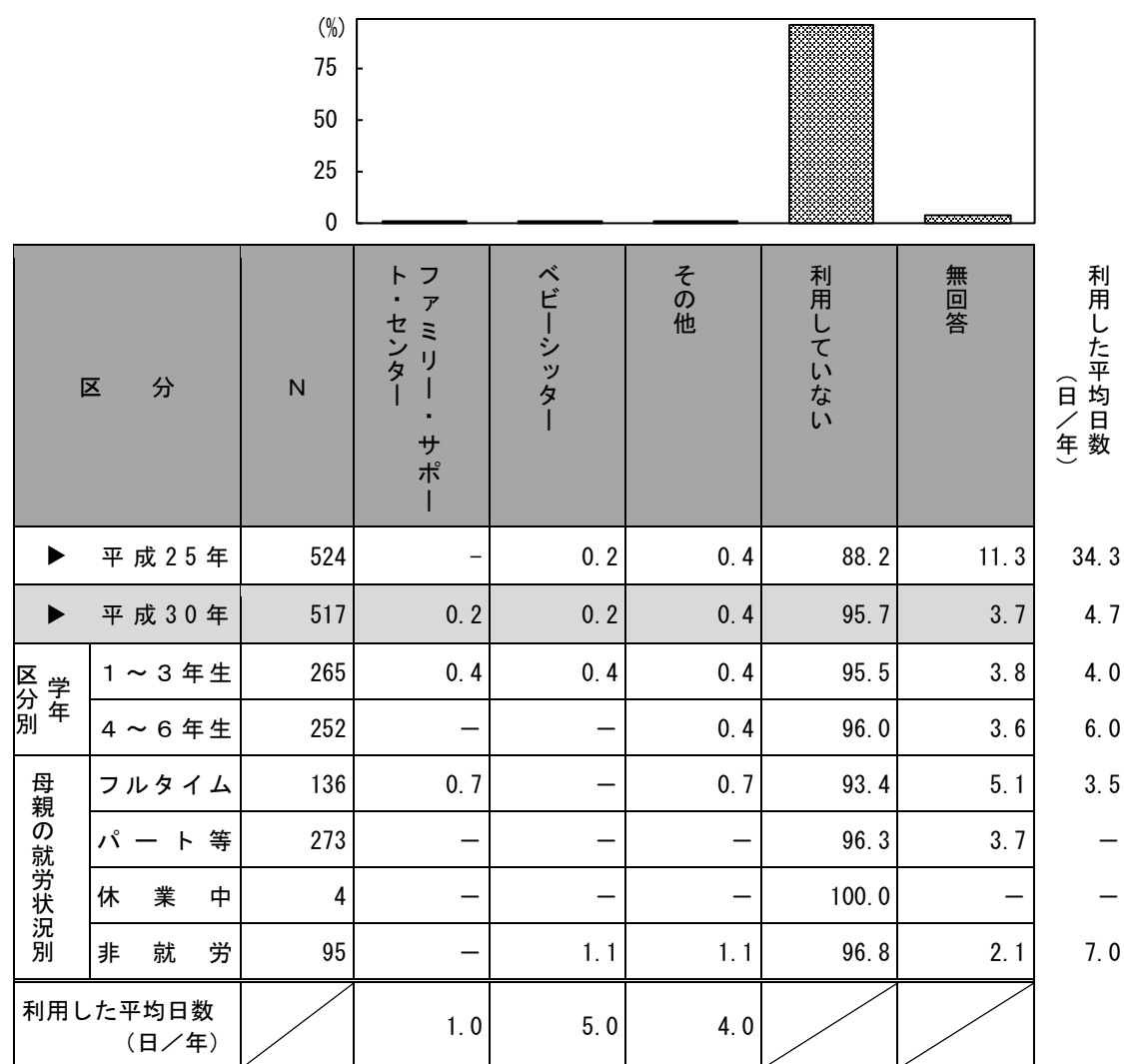
8 不定期の一時預かり等

(1) 不定期の一時預かり等の利用経験の有無

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、一時的に子どもを預けられる事業の利用経験の有無をたずねたところ、「ファミリー・サポート・センター」および「ベビーシッター」が0.2%（1人）ずつ、「その他」が0.4%（2人）にとどまっており、「利用していない」が95.7%となっています。平成25年との比較では、「ベビーシッター」および「その他」の利用経験数は変わらず、「ファミリー・サポート・センター」が1人増えています。

図表2-56 不定期の一時預かり等の利用の有無（複数回答）

単位：Nは人、他は%

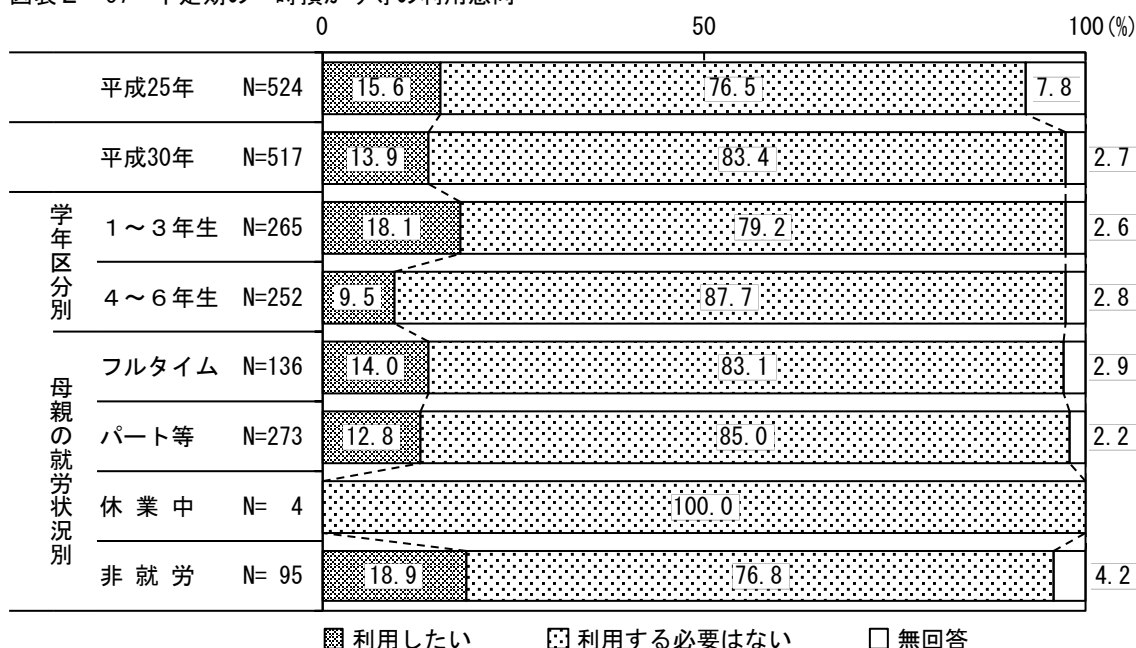


(2) 不定期の一時預かり等の利用意向

① 利用意向

不定期の一時預かり等の利用意向は13.9%です。平成25年との比較では、1.7ポイント低下しています。学年区分別の1～3年生、母親の就労状況別の非就労が高くなっています。

図表 2-57 不定期の一時預かり等の利用意向

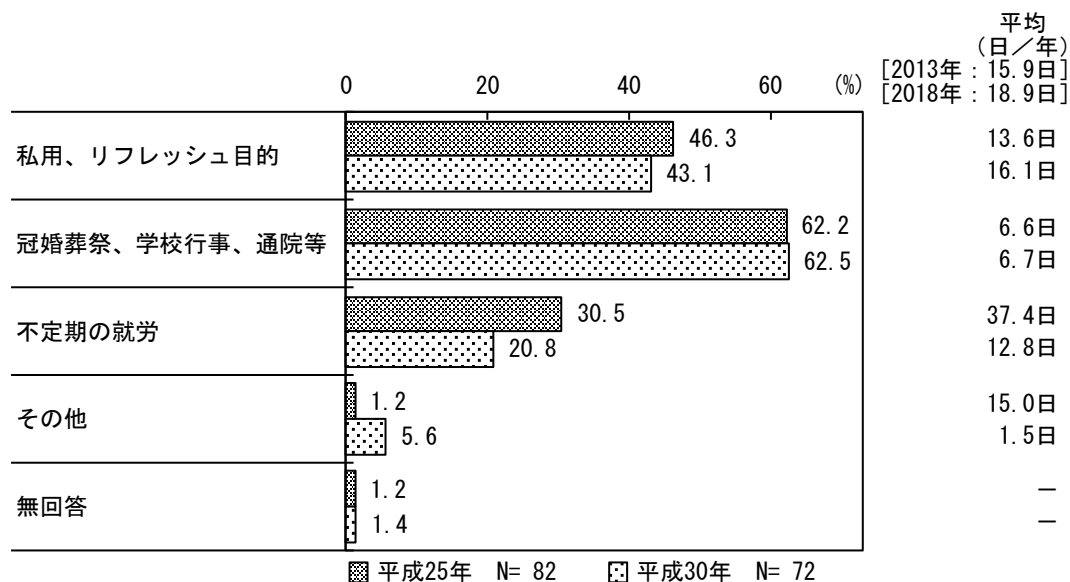


② 利用目的

不定期の一時預かり等を利用したい目的は、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が62.5%と最も高く、次いで「私用、リフレッシュ目的」が43.1%、「不定期の就労」が20.8%となっています。

「その他」として、「子ども会、PTA活動」「代休日」などの記述がありました。

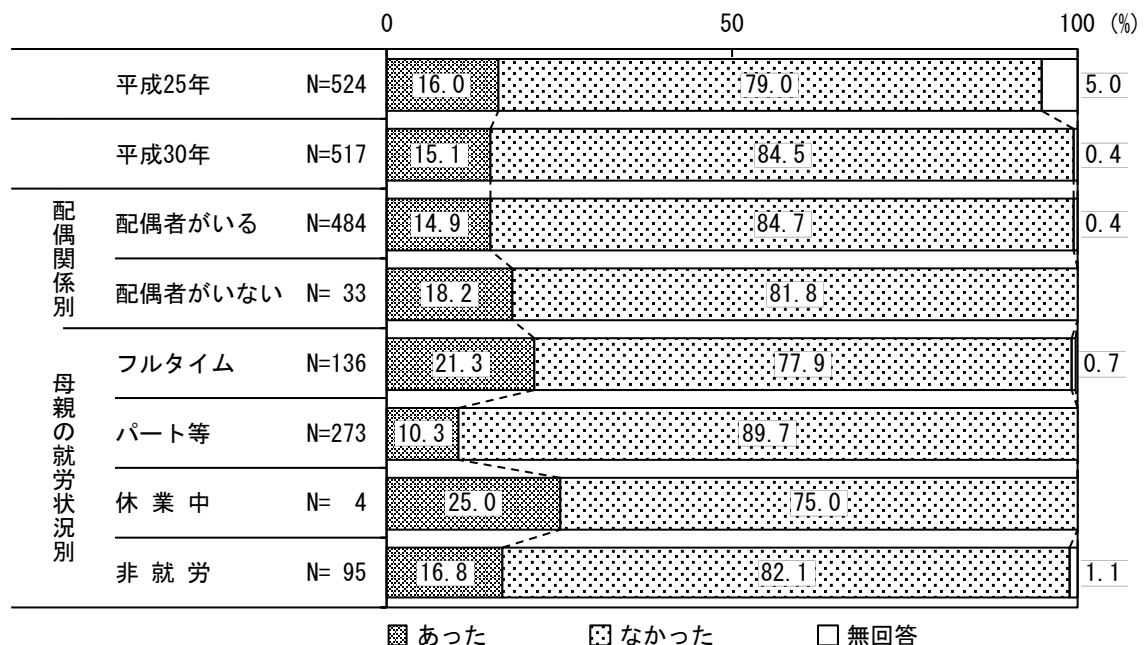
図表 2-58 不定期の一時預かり等の利用目的（複数回答）



(3) 子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無

この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外の人に預けなければならなかったこと（預け先が見つからなかった場合も含む）があったかをたずねたところ、「あった」が15.1%と、平成25年と比べて0.9ポイント低下しています。

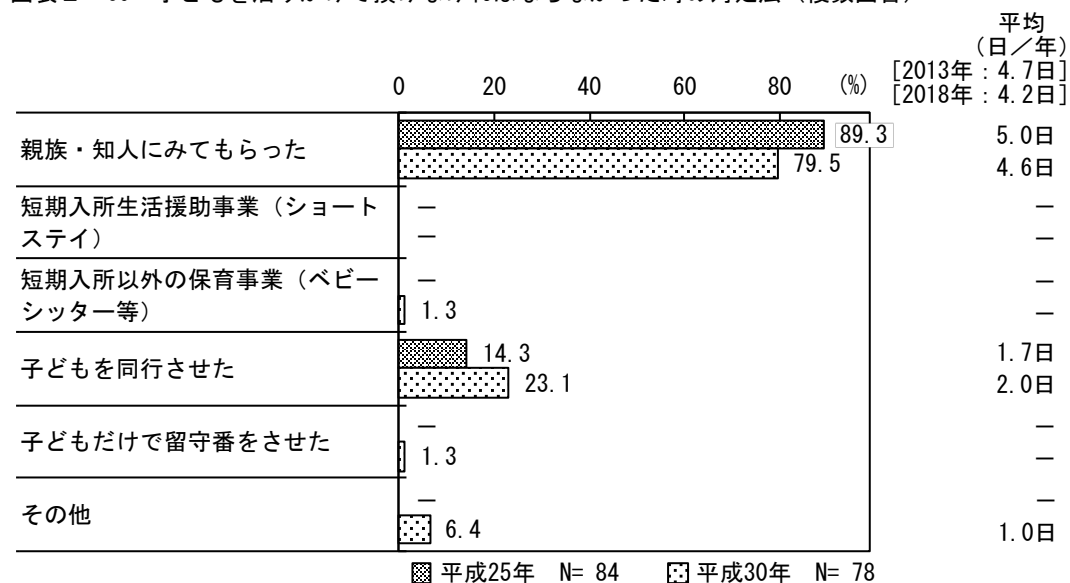
図表2-59 子どもを泊りがけで預けなければならなかったことの有無



(4) 子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法

子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法は、「親族・知人にみてもらった」が79.5%と突出して高く、次いで「子どもを同行させた」が23.1%となっています。預けた平均日数は4.2日となっています。平成25年との比較では、「子どもを同行させた」が高くなっています。

図表2-60 子どもを泊りがけで預けなければならなかった時の対処法（複数回答）

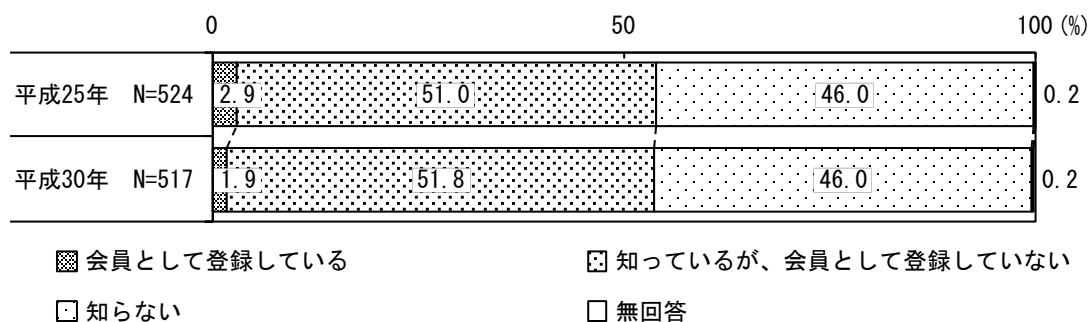


9 ファミリー・サポート・センター

(1) ファミリー・サポート・センターの認知度

ファミリー・サポート・センターについては、「知っているが、会員として登録していない」が51.8%と最も高く、「会員として登録している」（1.9%）と合計した《認知度》は53.7%です。平成25年との比較では、大きな変化はありません。

図表 2-61 ファミリー・サポート・センターの認知度

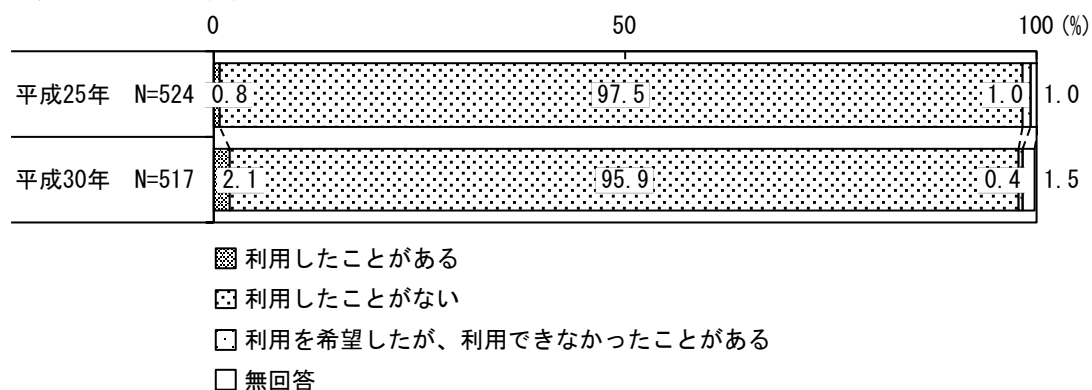


(2) ファミリー・サポート・センターの利用状況

① 利用経験

ファミリー・サポート・センターの利用経験をたずねたところ、「利用したことがある」は2.1%（11人）にとどまっており、「利用したことがない」が95.9%と非常に高くなっています。平成25年との比較では、「利用したことがある」は1.3ポイント高くなっています。

図表 2-62 利用経験

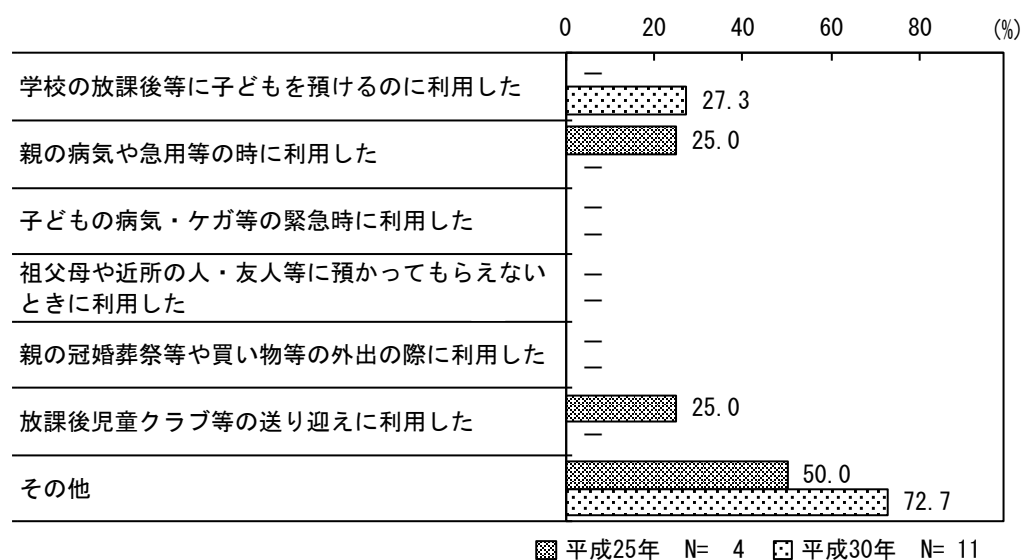


② 利用目的

①で「利用したことがある」と回答した人に利用目的をたずねた結果は図表2-63のとおりです。

「その他」として、「土日勤務の仕事なので、土日の保育に利用」の記述がありました。

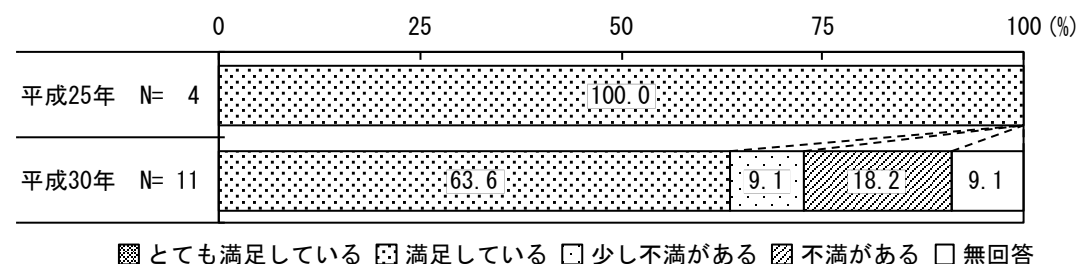
図表2-63 利用目的（複数回答）



③ 満足度

①で「利用したことがある」と回答した11人に利用について満足しているかをたずねたところ、「満足している」が63.6%（7人）、「少し不満がある」が9.1%（1人）、「不満がある」が18.2%（2人）となっています。平成25年との比較では、「少し不満がある」および「不満がある」との回答があります。

図表2-64 満足度

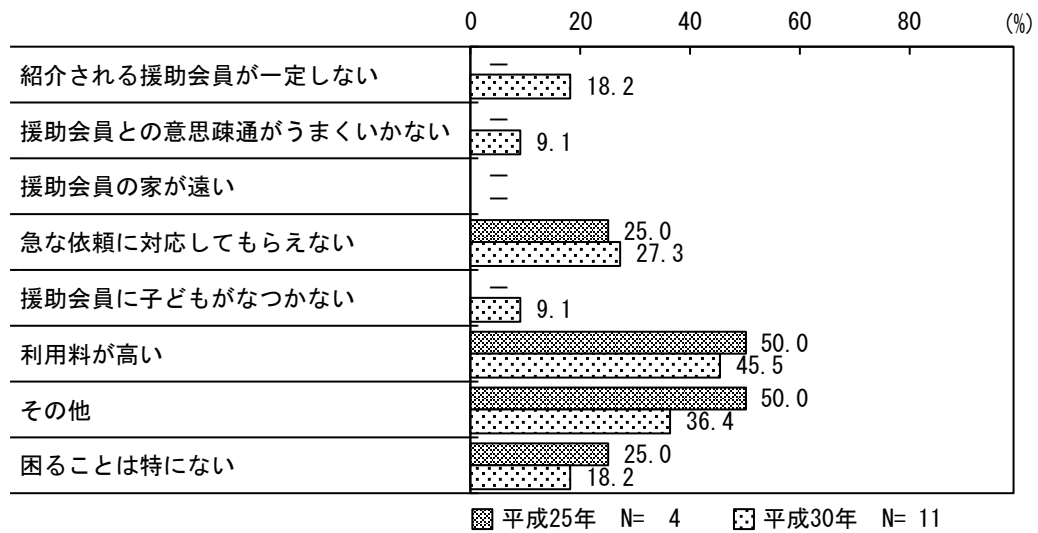


④ 利用して困ったこと

①で「利用したことがある」と回答した11人に、利用して困ったことをたずねた結果は図表2－65のとおりです。

「その他」として、「遠慮してしまって続けられなかった」「時間や手間がかかる」の記述がありました。

図表2－65 利用して困ったこと

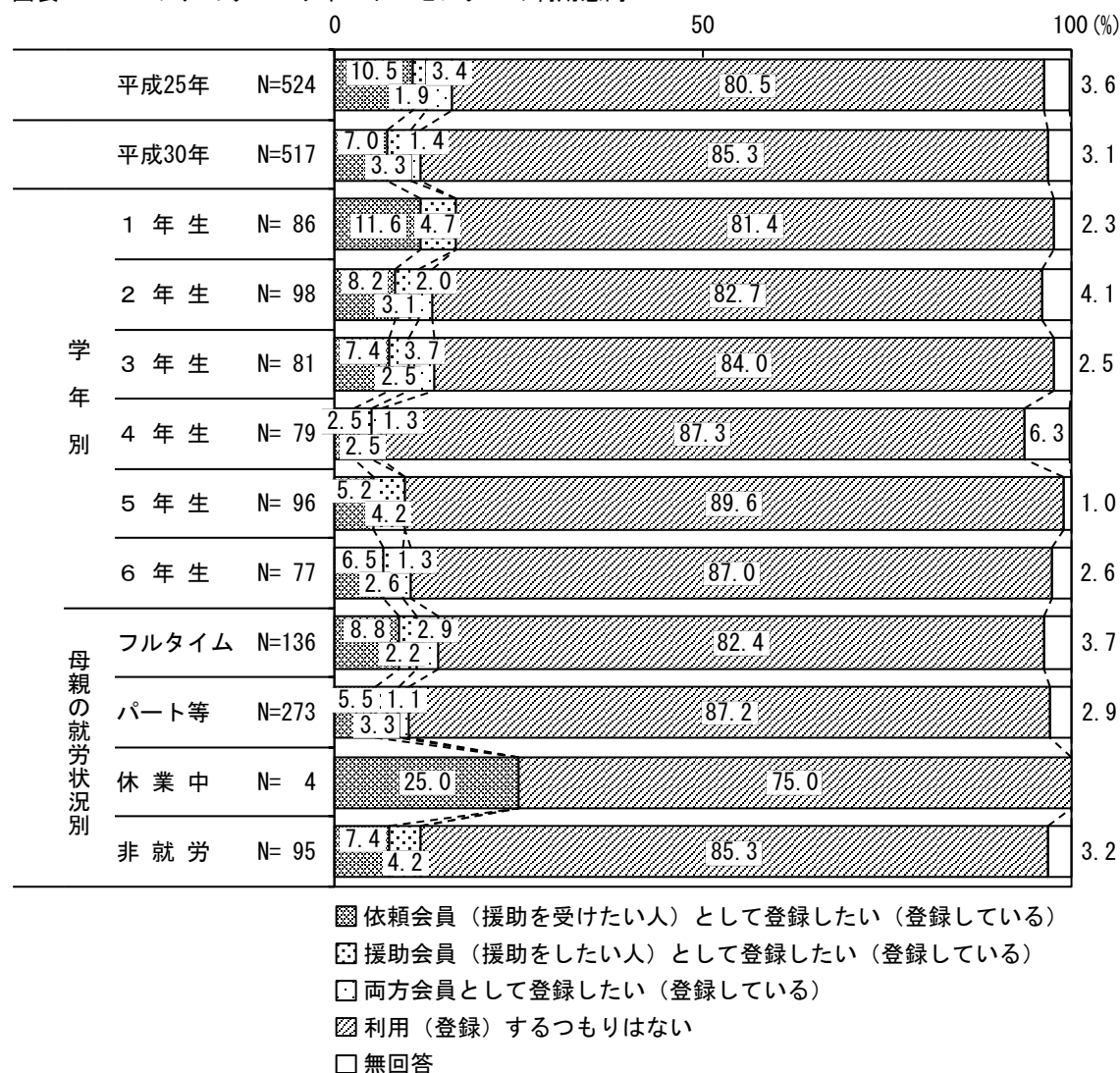


(3) ファミリー・サポート・センターの利用意向

ファミリー・サポート・センターを今後利用したいと思うかをたずねたところ、「利用（登録）するつもりはない」が85.3%を占めています。「依頼会員として登録したい（登録している）」は7.0%、「援助会員として登録したい（登録している）」は3.3%、「両方会員として登録したい（登録している）」は1.4%です。平成25年との比較では、「利用（登録）するつもりはない」および「援助会員として登録したい（登録している）」が高くなっています。

学年別にみると、「依頼会員として登録したい（登録している）」は、1年生の11.6%が最も高く、4年生の2.5%が最も低くなっています。

図表 2-66 ファミリー・サポート・センターの利用意向



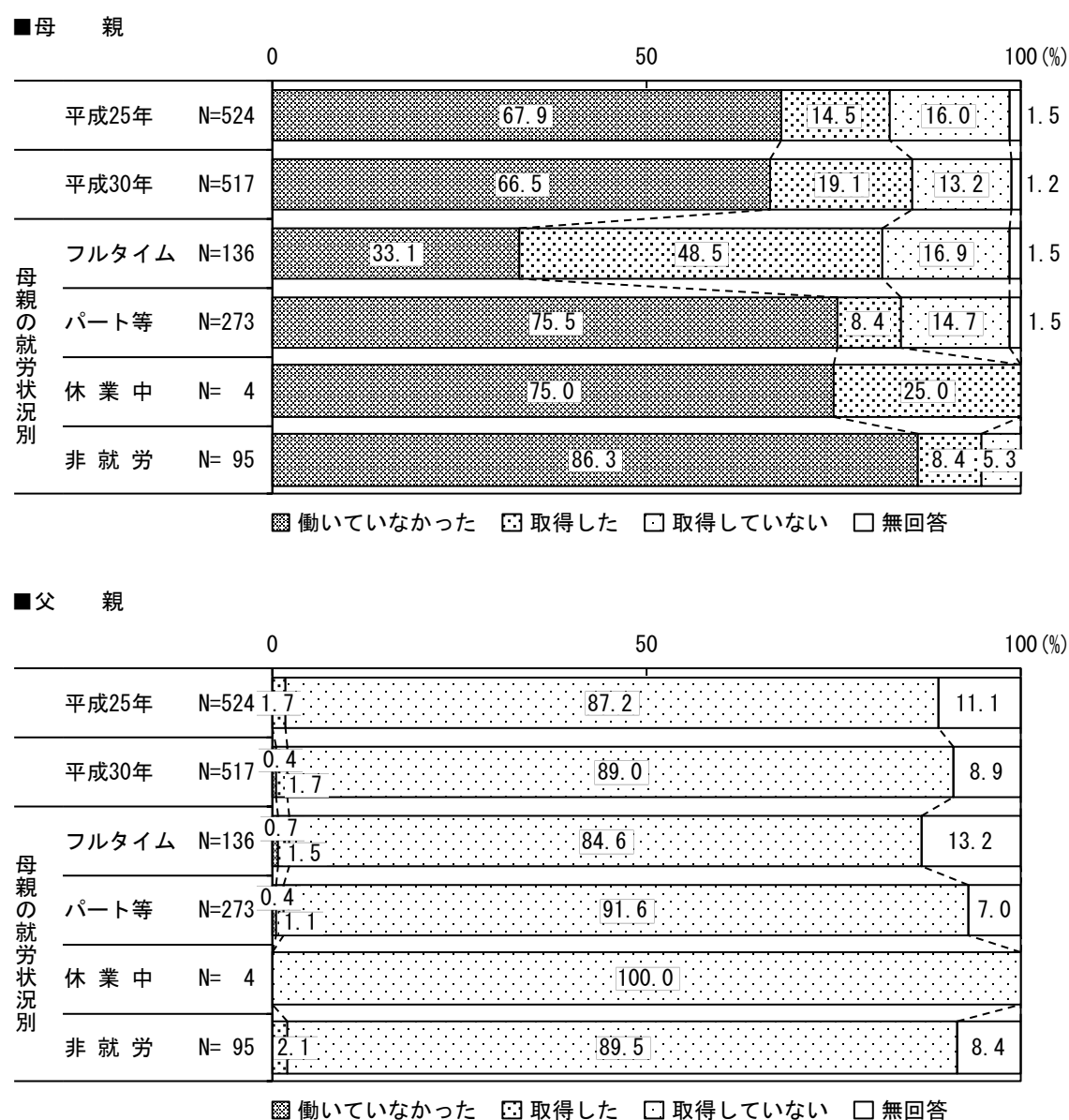
10 育児休業制度

(1) 育児休業の取得の有無

「あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか」とたずねたところ、母親は、「働いていなかった」が66.5%と最も高く、次いで「取得した」が19.1%、「取得していない」が13.2%となっています。平成25年との比較では、「取得した」は4.6ポイント高くなっています。

父親は、「取得していない」が89.0%を占めており、「取得した」はわずか1.7%（9人）です。平成25年との比較では、「取得した」は変わりません。

図表2-67 育児休業の取得の有無



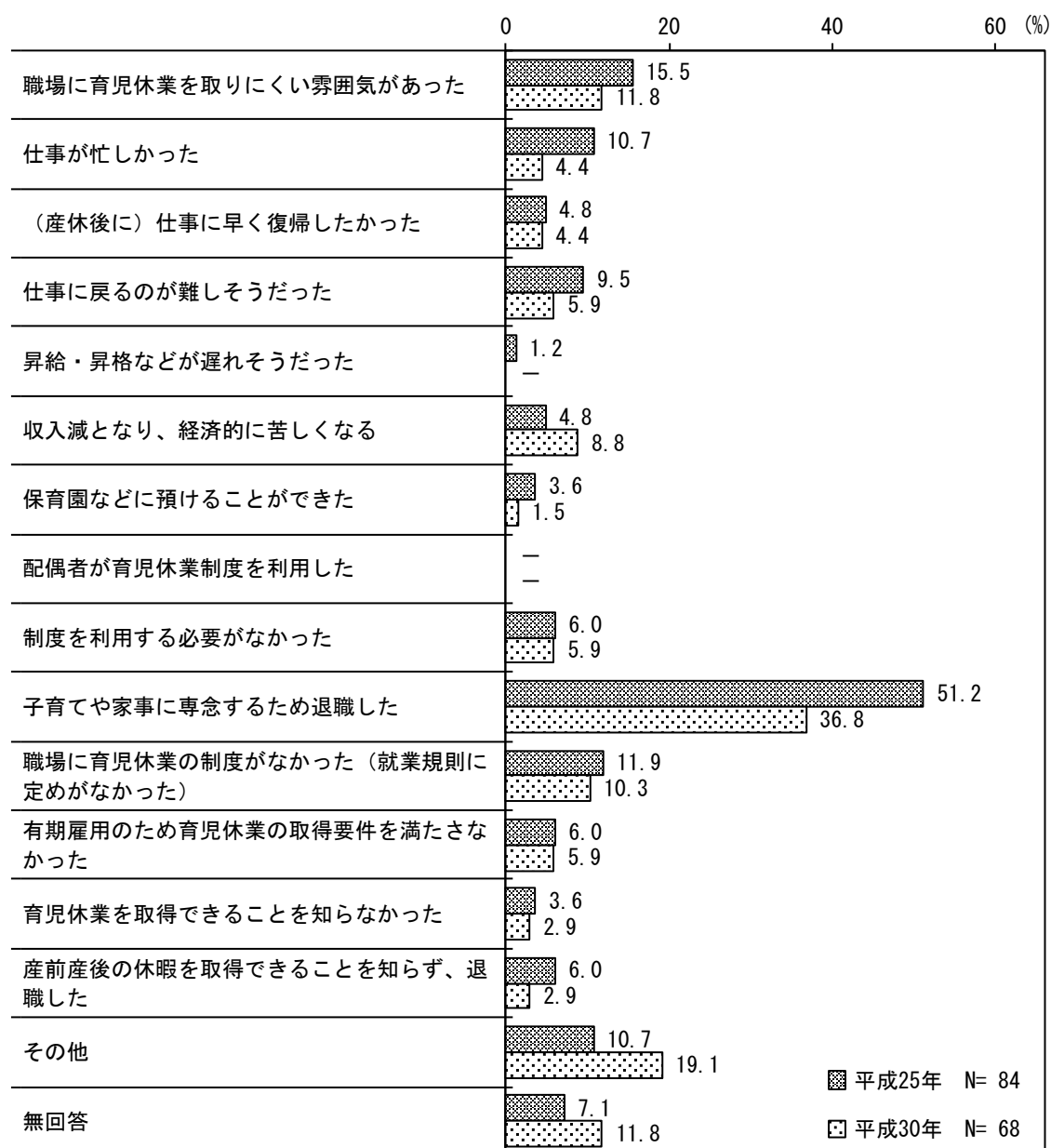
(2) 育児休業を取得していない理由

① 母 親

育児休業を「取得していない」と答えた母親にその理由をたずねたところ、「子育てや家事に専念するため退職した」が36.8%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が11.8%などの順となっています。平成25年との比較では、「子育てや家事に専念するため退職した」は14.4ポイント低下しています。

「その他」として、「自営業の為」（3件）、「職場に産休育休制度がなく退職」（2件）、「パートだったので退職した」（2件）、「身内での仕事だったため連れて行った」などの記載がありました。

図表 2-68 育児休業を取得していない理由（母親、複数回答）

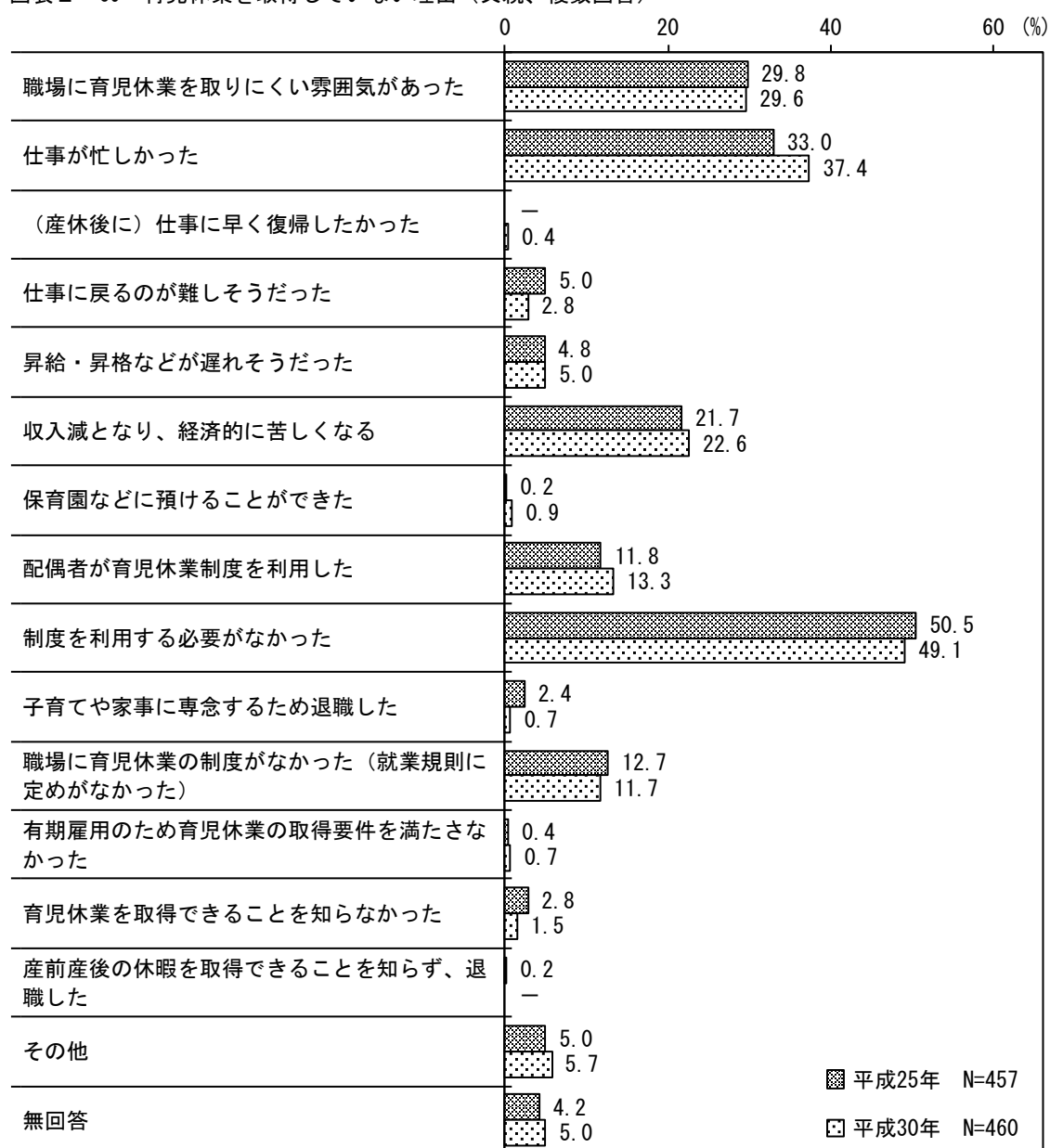


② 父 親

育児休業を「取得していない」と答えた父親にその理由をたずねたところ、「制度を利用する必要がなかった」が49.1%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が37.4%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が29.6%などの順となっています。平成25年との比較では、大きな変化はありません。

「その他」として、「事業主の為」（6件）、「専業主婦なので」（2件）、「配偶者が退職し育児に専念できたから」（2件）、「制度が無かった」（2件）、「母親がとった」、「必要に応じて有休をとった」などの記載がありました。

図表2－69 育児休業を取得していない理由（父親、複数回答）

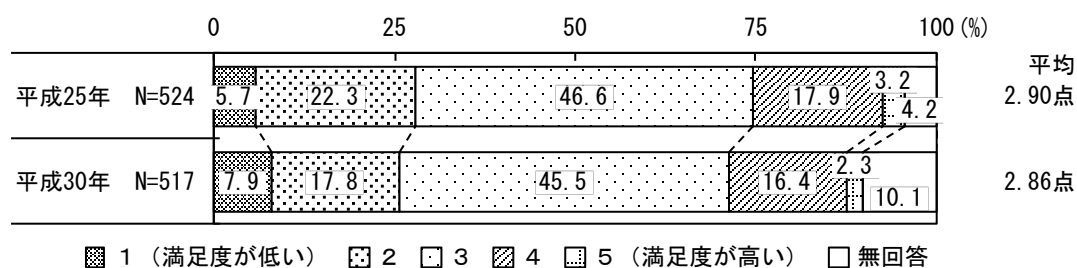


11 扶桑町の子育て支援

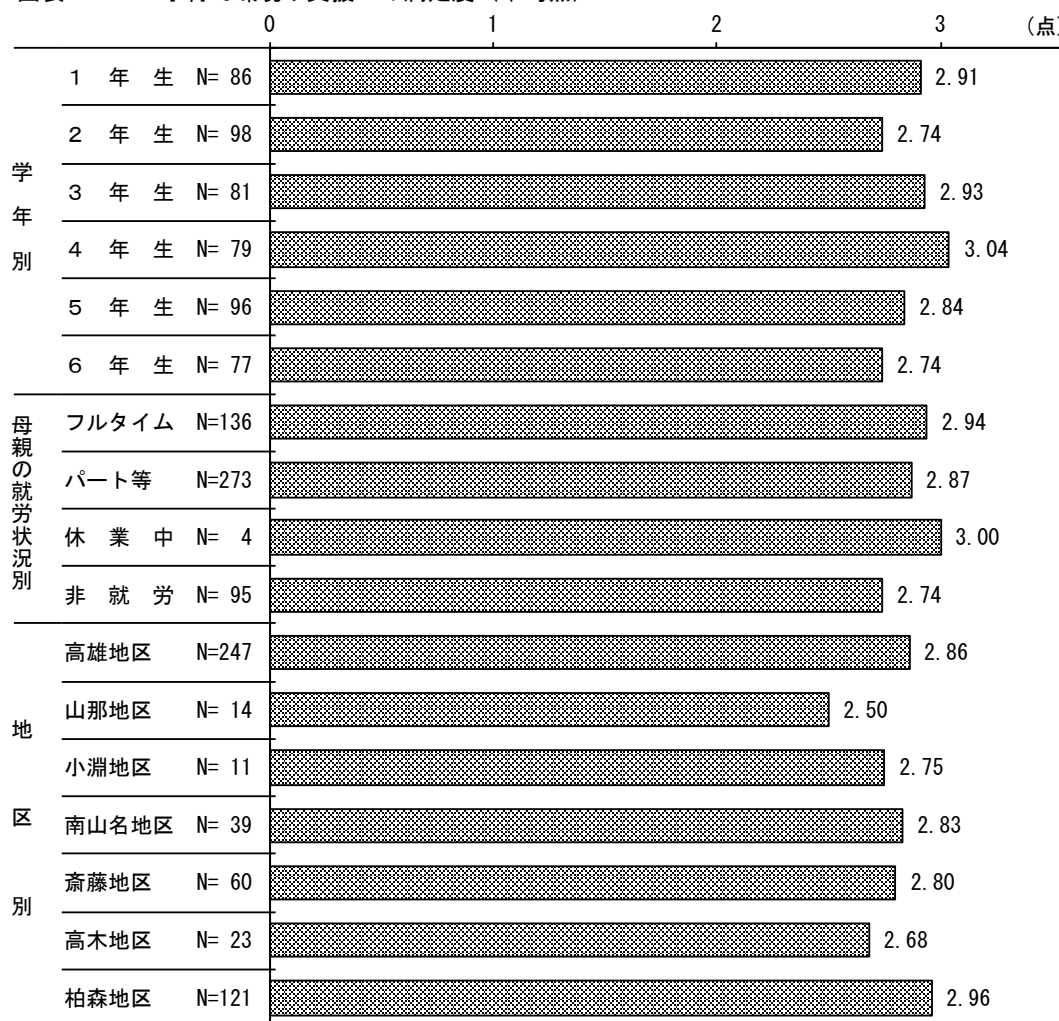
(1) 子育て環境や支援への満足度

本町における子育て環境や支援への満足度について、「満足度が高い」を5点、「満足度が低い」を1点として、何点になるかをたずねたところ、「3点」が45.5%と最も高く、平均は2.86点です。平成25年との比較では、「1点」以外は低くなっており、平均は0.04点低下しています。

図表 2-70 子育て環境や支援への満足度



図表 2-71 子育て環境や支援への満足度（平均点）



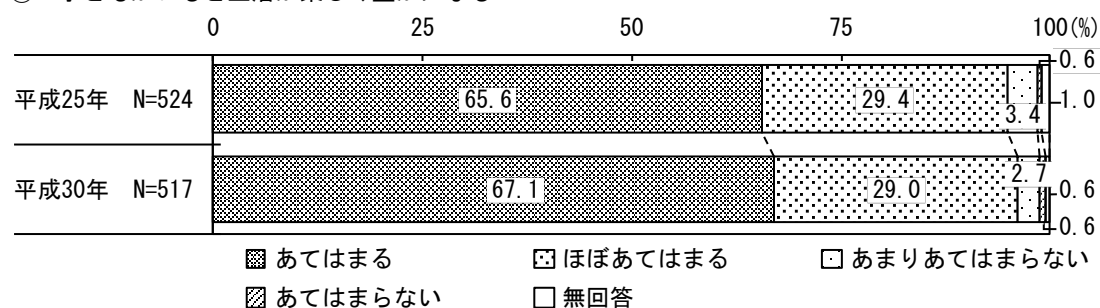
(2) 子育てに対して感じていること

子育てに関する下記の①～⑧について、「あてはまる」「ほぼあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4つから、最もあてはまるものをたずねました。

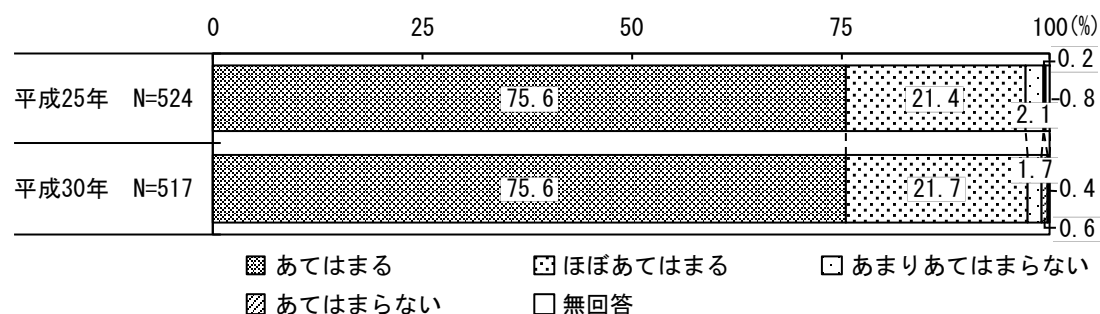
①～④の項目については「あてはまる」が最も高くなっており、子どもの存在や子育てが人生に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。平成25年と比べると、⑤では、「あまりあてはまらない」および「あてはまらない」を合計した《あてはまらない》が高くなっており、子育てに対して不安を感じている割合が低下しています。

図表2-72 子育てに対して感じていること

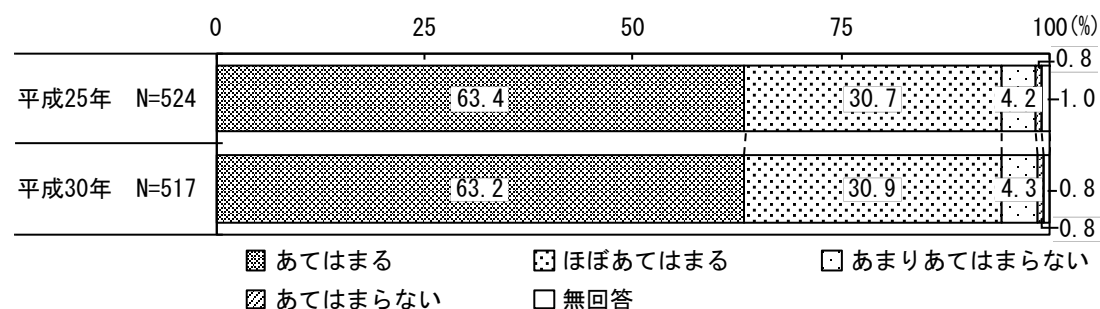
① 子どもがいると生活が楽しく豊かになる



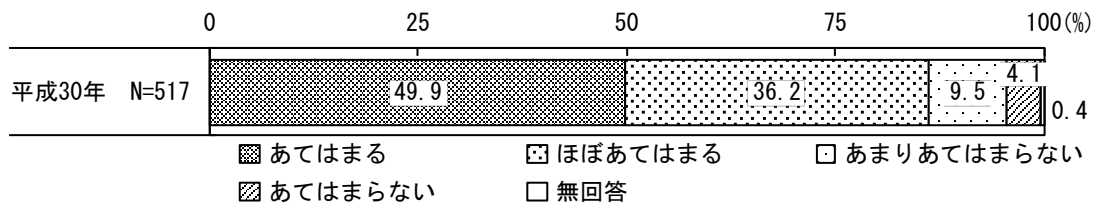
② 子育てを通じて自分も成長すると思う



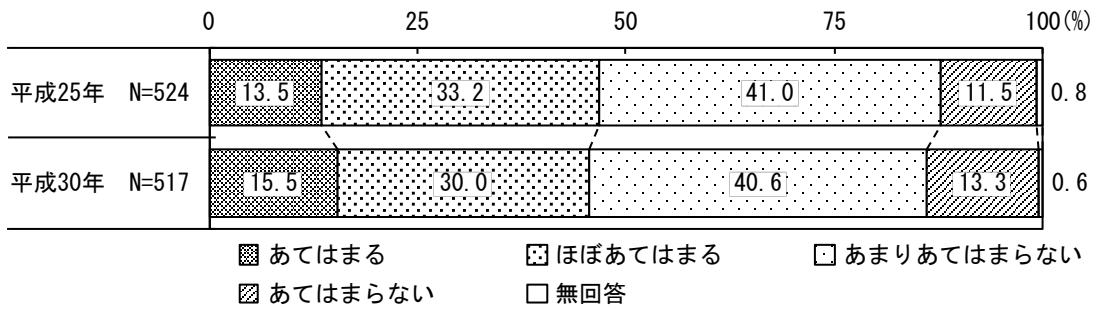
③ 子どもは心の安らぎや生きがいを与えてくれると思う



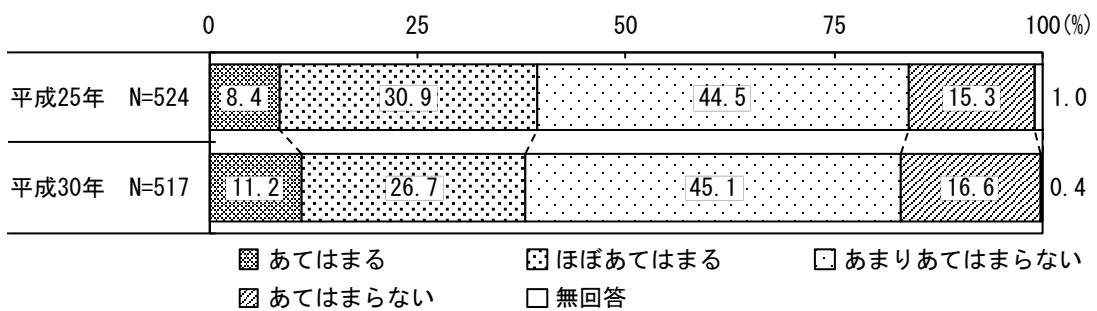
④ 同世代の友人や知人ができ、地域に溶け込むことができる



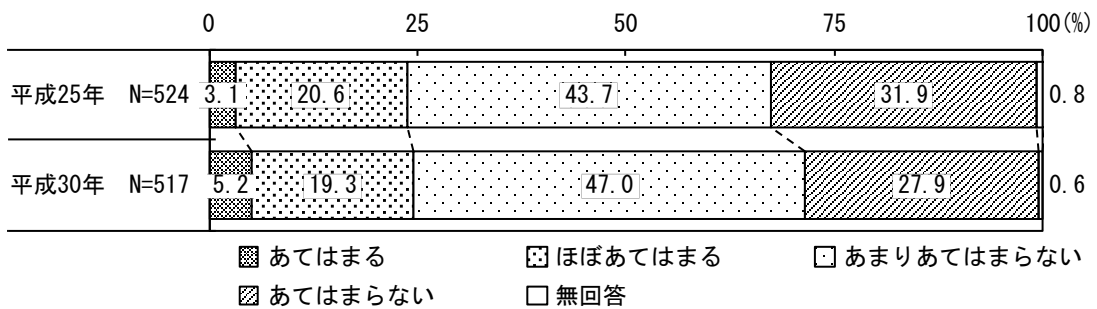
⑤ 子育てに対して不安を感じている



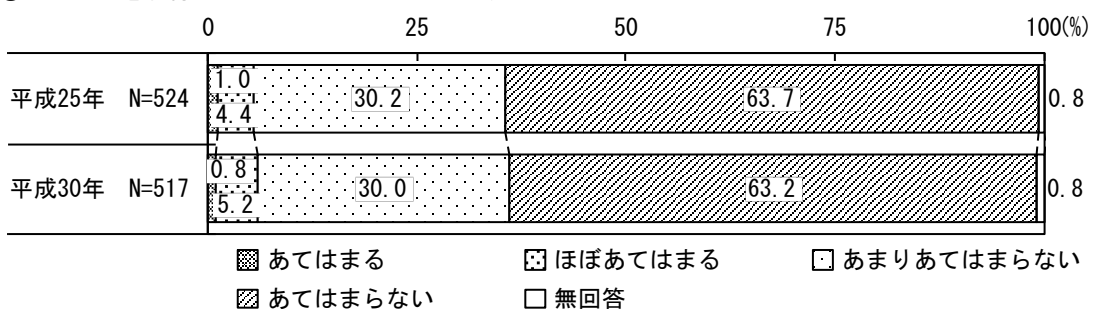
⑥ 仕事や自分のやりたいことができない



⑦ 子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



⑧ 子どもを虐待しているのではないと思う



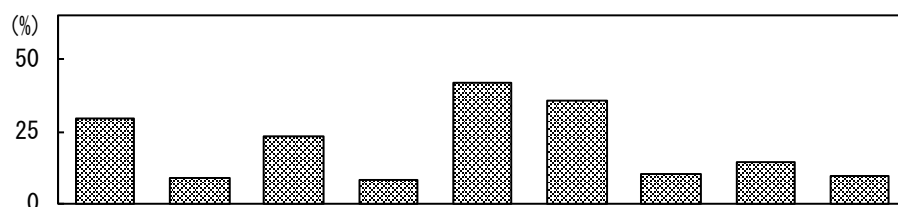
(3) 子育ての不安や悩み

子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいることとしては、「子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関すること」が41.6%と最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がする」と36.0%、「子育てにより身体に疲れを感じる」と29.2%などの順となっています。平成25年との比較では、「子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関すること」「子どもを叱りすぎているような気がする」とおよび「子育ての不安を子どもにぶつけてしまうこと」が低くなっています。

「その他」として、図表2-74の記述がありました。

図表2-73 子育ての不安や悩み（複数回答）

単位：Nは人、他は%



区 分		N	子育てにより身体に疲れを感じる	子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	病気や発育・発達に関する	育児の方法がよくわからない	子ども同士の友だちづき合い（いじめ等を含む）に関する	子どもを叱りすぎているような気がする	子育ての不安を子どもにぶつけてしまう	その他	無回答
▶ 平成25年		524	21.8	6.1	17.4	7.8	43.3	42.4	11.6	11.1	9.7
▶ 平成30年		517	29.2	8.7	23.4	8.5	41.6	36.0	9.9	14.7	9.7
学 年 別	1 年 生	86	34.9	9.3	32.6	9.3	44.2	44.2	9.3	16.3	3.5
	2 年 生	98	32.7	11.2	20.4	3.1	38.8	43.9	7.1	14.3	9.2
	3 年 生	81	33.3	8.6	19.8	16.0	48.1	40.7	14.8	9.9	14.8
	4 年 生	79	22.8	8.9	21.5	5.1	38.0	31.6	7.6	16.5	13.9
	5 年 生	96	28.1	6.3	17.7	7.3	36.5	28.1	10.4	16.7	11.5
	6 年 生	77	22.1	7.8	29.9	11.7	45.5	26.0	10.4	14.3	5.2
母親の就労状況別	フルタイム	136	27.9	8.8	17.6	5.9	39.7	35.3	7.4	15.4	11.8
	パート等	273	28.6	9.2	21.6	8.8	42.1	37.4	12.1	13.9	8.4
	休業中	4	75.0	—	25.0	—	25.0	75.0	50.0	—	—
	非就労	95	29.5	6.3	33.7	10.5	44.2	31.6	4.2	14.7	10.5

図表 2-74 子育ての不安や悩み（その他、添え書き）

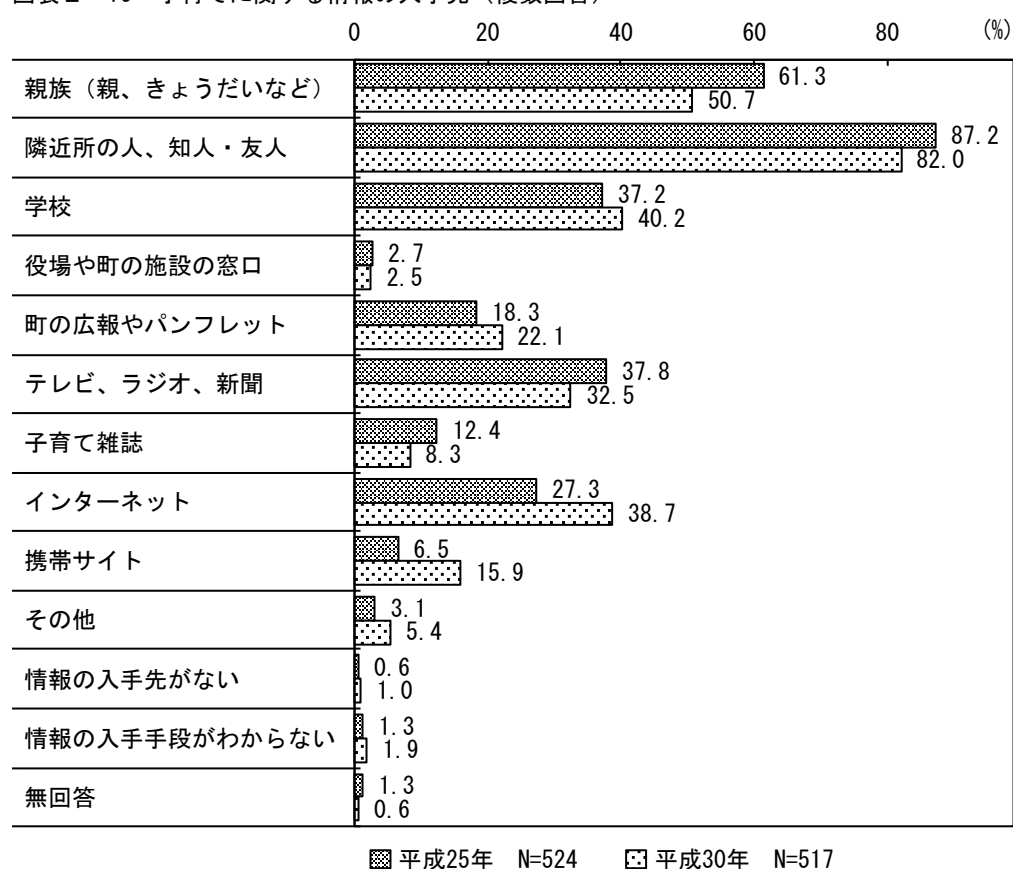
・教育費。（5件） ・金銭面。（3件） ・子ども会。（2件） ・PTA。（2件） ・親同士の付き合いの難しさ。（4件） ・自分の病気と子育ての両立。 ・悩んでも仕方ないので楽観的に考えています。 ・高齢出産、一人っ子、従兄弟も無で子どもの将来に負担が大きいのではないかと不安になる。同世代の子育てをしている友人がいないので気軽に相談ができない。地域に溶け込むことなんてできない。 ・母親の体調がすこぶる悪い時に、気軽に頼める人がいないこと。 ・環境問題。 ・生活費が足りるのかどうか。 ・子どもも発達障害や、どもり、自分も仕事と子育てに追われて鬱になり仕事に行けなくなってしまい経済的にも不安。 ・子どもの自立、不登校、進路。 ・学費、学用品など。きょうだいが多いので。 ・不安に思ってもその都度夫婦で話し合いをして思いをぶつけあっているのですぐに答えを出そうとしないのが大切。別に悩みを抱え続けるわけではない。 ・兄もいじめが原因で公立に通うのを断念。娘は不登校で中学から環境を変えたら学校に行けるかもしれないと期待。選択する道は贅沢なのではないか。	・教育について。 ・フルタイムで仕事をしている為、子どもが寂しい思いをしていないかどうか。 ・放課後の居場所問題。 ・公園で遊ばず道路で遊ぶことが多いのが嫌。 ・子ども会の役員などがかなり負担に感じます。 ・学校のクラスの雰囲気が悪すぎる。 ・仕事を持ち帰る事も多くゆとりがない。当たり前前の生活ができない。 ・仕事との両立。 ・昔と違って、勉強や宿題を親が見ないといけないこと。 ・自分がしっかりしていないから落ち込むことが多い。 ・娘の今後の事（進路や就職など）を相談する場所がありますか。 ・進路について。 ・この町でまだ子育てが続くこと。 ・母一人での子育てになってしまったこと。 ・自身が働いていることで、子どもの生活が夜型になってしまい他の家庭より睡眠時間が短いように感じてしまう。 ・育児資金。 ・子どもが学校を渋ること。 ・あまりかまってあげられていない気がする。 ・勉強。 ・子育てで何が大切なのかときどきわからなくなる。 ・特になし。（6件）
---	---

(4) 子育てに関する情報の入手先

子育てに関する情報の入手先は、「隣近所の人、知人・友人」が82.0%と最も高く、次いで「親族（親、きょうだいなど）」が50.7%、「学校」が40.2%などの順となっています。平成25年との比較では、「親族（親、きょうだいなど）」「隣近所の人、知人・友人」および「テレビ、ラジオ、新聞」が5ポイント以上低く、「インターネット」および「携帯サイト」が約10ポイント高くなっています。

「その他」として、「会社の同僚」（2件）、「職場」（2件）、「本」（2件）、「病院」などの記述がありました。

図表2-75 子育てに関する情報の入手先（複数回答）

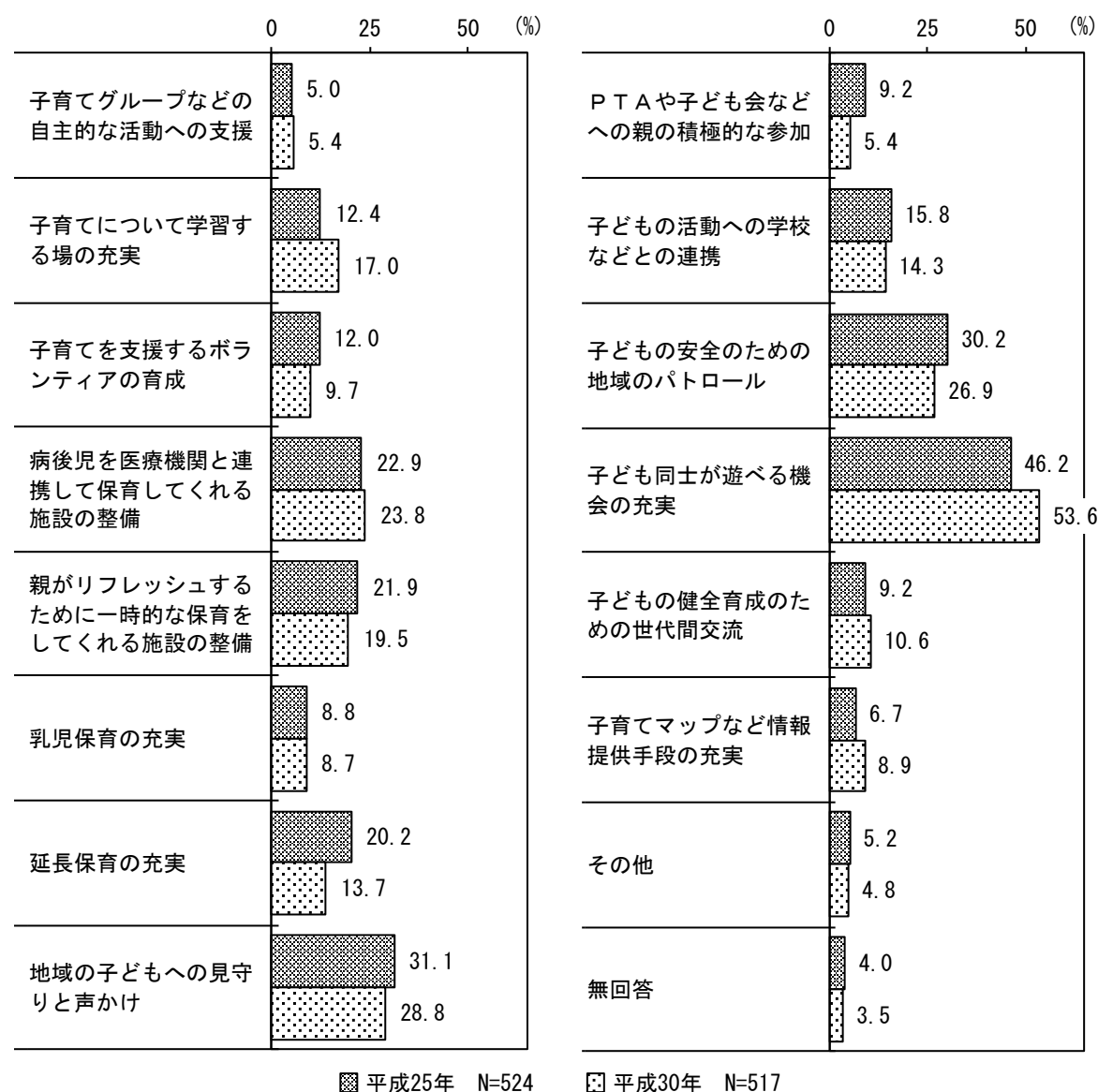


(5) 今後必要と思われる取組

子育てについて今後必要と思われる取組をたずねたところ、「子ども同士が遊べる機会の充実」が53.6%と最も高く、次いで「地域の子どもへの見守りと声かけ」が28.8%、「子どもの安全のための地域のパトロール」26.9%などの順となっています。平成25年との比較では、「子ども同士が遊べる機会の充実」は7.4ポイント高くなり、「延長保育の充実」は6.5ポイント低下しています。

「その他」として、図表2-77の記述がありました。

図表2-76 今後必要と思われる取組（複数回答：主なもの3つまで）



図表 2-77 今後必要と思われる取組（その他）

・お休みの日に安心して預けられるところ。 ・通学路の街灯を増やしてほしい。 ・産後すぐ子連れで入所できるような施設。 ・自治会は子育てで忙しい若い地区でなく、時間のある50～60代以上がやるべき。若い世代の人数が減ってきており上の世代も相応に負担すべき。 ・友達の家や習い事などに安全に行けたり公園で遊べる安全な地域作り。 ・土日の保育の場。 ・土日祝日に仕事の場合、子どもを預けられる施設が欲しい。サービス業は土日出勤がメインのため。 ・PTAや子ども会の仕事が多いので負担軽減。 ・PTA不要。 ・スポーツ大会などもっと気軽に参加できる無料イベントをやってほしい。	・発達障害の子どもに関する情報、支援。 ・結婚カウンセリング、夫婦カウンセリング。子育てをするための夫婦で協力できる心づもりが必要。 ・フィンランドの様な教育。 ・児童館利用。 ・子どもが喜ぶイベント。 ・古い教育理論の撤廃。教育先進国を参考に教育の新しい取り組みをしてほしい。 ・緊急時の一時預かり施設の整備。 ・いつも国、県、近隣の動向を見るのではなく、扶桑町が最初に考え一番乗りとして行動対応すること。 ・わからない。 ・今は思いつかない。
---	--

子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書

平成31（2019）年3月

発行◆◇扶桑町

編集◇◆扶桑町 健康福祉部 福祉児童課

〒480-0102

愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字天道330番地

TEL 0587-93-1111

FAX 0587-93-2034